

# 関 遺 跡

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書VI

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XIII)

2014.3

高 知 県 教 育 委 員 会

(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 関 遺 跡

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅵ  
(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅷ)

2014.3

高 知 県 教 育 委 員 会  
(公財) 高知県文化財団埋蔵文化財センター





## 序

公益財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターでは、平成16年度から高知県教育委員会が国土交通省四国地方整備局の業務委託を受けた一般国道55号自動車専用道路(高知東部自動車道)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しております。この事業は、高知南国道路と南国安芸道路にわかれますが、今回報告する関遺跡は前者の計画路線上に位置するものです。

関遺跡は、高知県教育委員会が実施した試掘調査により新たに発見された遺跡です。調査では古代の溝跡、近世の屋敷地、流路跡などがみつかりました。隣接します西野々遺跡でも同様の時期の遺構・遺物が多くみつかり、既に報告書が刊行されています。また、近隣には六区袈裟襷文扁平鈕式の銅鐸が出土した関町田遺跡が知られています。関遺跡はこれらの周辺遺跡とともに地域社会を構成していました。

永く土の中に眠っている埋蔵文化財は発掘調査を行うことにより先人の知恵や文化を語り出します。本報告書が多くの人々に埋蔵文化財や歴史により関心と理解をもたらし、地域の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査を実施するにあたってご配慮とご協力を頂いた地域の皆様方や関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成26年3月

公益財団法人 高知県文化財団埋蔵文化財センター  
所長 森田尚宏



## 例言

1. 本書は(財)高知県文化財団(現、公益財団法人 高知県文化財団)が高知県教育委員会の委託を受けて平成20～22年度に実施した関遺跡の発掘調査報告書(『関遺跡』)である。
2. 発掘調査は、高知東部自動車道高知南国道路建設に伴うもので、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが調査主体となり実施した。整理作業についても、高知県教育委員会の委託を受けて(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センターが実施した。
3. 関遺跡は高知県南国市大埴乙字関に所在する弥生時代から近世の遺跡である。

#### 4. 調査面積・調査期間

|        |        |                        |
|--------|--------|------------------------|
| 平成20年度 | 700㎡   | 平成20年7月1日から9月4日        |
| 平成21年度 | 8,550㎡ | 平成21年8月11日から平成22年2月19日 |
| 平成22年度 | 707㎡   | 平成22年9月28日から10月7日      |

整理作業及び報告書作成は平成25年度に実施した。

#### 5. 発掘調査・整理作業は以下の体制で行った。

〔発掘調査〕

平成20年度

総括：埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫

総務：同次長 森田尚宏, 同総務課長 恒石雅彦, 同主任 谷真理子

調査総括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調査担当：同調査第四班長 出原恵三, 同技術補助員 坂本憲彦〔08区〕

事務補助員：奥宮千恵子

平成21年度

総括：埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫

総務：同次長 森田尚宏, 同総務課長 里見敦典, 同主任 弘末節子

調査総括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調査担当：同専門調査員 安岡 猛, 同主任調査員 下村 裕, 同測量補助員 都築 愛, 秋山英洋

〔Ⅱ区, ⅢE区, Ⅳ区〕

同専門調査員 藤野明弘, 同調査員 島内洋二, 同技術補助員 坂本憲彦

〔Ⅰ区, ⅢW区, Ⅴ区〕

事務補助員：奥宮千恵子

平成22年度

総括：埋蔵文化財センター所長 小笠原孝夫

総務：同次長 森田尚宏, 同総務課長 里見敦典, 同主任 弘末節子

調査総括：同調査課長兼企画調整班長 廣田佳久

調査担当：同主任調査員 久家隆芳〔Ⅵ区〕

事務補助員：奥宮千恵子

〔整理作業〕

平成25年度

総括：埋蔵文化財センター所長 森田尚宏

総務：同次長 宮田謙輔, 同総務課長 野田美智子, 同主任 黒岩千恵

調査総括：同調査課長 廣田佳久

整理担当：同主任調査員 久家隆芳, 同調査補助員 前田早苗

事務補助員：廣内美登利

6. 本書の執筆は下村, 島内, 久家が行い, 編集は久家が行った。現場写真は出原, 下村, 島内が撮影し, 遺物写真は前田, 久家が撮影した。
7. 遺構については, SB(掘立柱建物跡), SK(土坑), SE(井戸跡), SD(溝跡), SR(自然流路跡), SX(性格不明遺構), P(ピット・柱穴)の略号を使用した。掲載している挿図の縮尺はそれぞれに記載しており, 方位Nは世界測地系による座標北である。
8. 遺物の縮尺は1/3を基本としている。一部の遺物については, 1/6(石臼等), 1/2(金属製品等), 1/1(石鏃等)に縮尺を変えており, 各挿図にはスケールを表示している。遺物番号は通し番号とした。
9. 発掘作業, 整理作業は次の方々に行って頂いた。また, (公財)高知県文化財団 埋蔵文化財センター諸氏より貴重な助言を頂いた。記して感謝する次第である。

発掘作業：現場作業員

平成20年度 菟谷和男 菟谷和子 近藤里美 坂野奉宏 坂本昌男 澤村 清  
中谷智賀子 濱口和子 山本竹利 結城繁子(50音順)

平成21年度 植田和子 植田秀夫 上田 豊 大谷美恵子 大和田延子 岡上富子  
加治正一 加治宣子 加治正敏 上屋福美 川野孝典 菟谷和男  
菟谷和子 川村正廣 久留米浩治 小松清一 小松喜美 小松 弼  
小松悠悦 近藤里美 坂野奉宏 坂本昌男 澤村 清 島村雄二  
末政則幸 高田 修 竹崎芳子 竹村君子 田所千治 田中 穰  
田村 明 田村美賛子 中谷智賀子 畠中浩子 濱口和子 古谷八郎  
溝渕進一郎 山本竹利 吉田 司(50音順)

平成22年度 島村孝男 武内順一 田中 穰 吉田 司(50音順)

整理作業：整理作業員 岩貞泰代, 内村富紀, 岡宗真紀, 川添明美, 黒岩佳子, 小林貴美,  
中西純子, 松田美香, 横山めぐみ(50音順)

10. 調査略号は平成20年度は「08-1NS」, 平成21年度は「09-2NS」, 平成22年度は「10-2NS」とし, 遺物の注記もこれによった。また, 出土遺物等の資料は高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 本文目次

|                     |     |
|---------------------|-----|
| 第Ⅰ章 関遺跡周辺の地理的・歴史的環境 |     |
| 1. 地理的環境.....       | 1   |
| 2. 歴史的環境.....       | 1   |
| 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法    |     |
| 1. 調査に至る経過.....     | 5   |
| 2. 調査方法.....        | 5   |
| 第Ⅲ章 調査成果            |     |
| 1. 平成20年度調査.....    | 7   |
| (1)調査概要.....        | 7   |
| (2)基本層序.....        | 7   |
| (3)検出遺構と出土遺物.....   | 9   |
| 2. 平成21・22年度調査..... | 13  |
| (1)調査概要.....        | 13  |
| (2)基本層序.....        | 13  |
| (3)検出遺構と出土遺物.....   | 27  |
| 第Ⅳ章 関遺跡の自然科学分析      |     |
| 1. 試料.....          | 95  |
| 2. 分析方法.....        | 95  |
| 3. 結果.....          | 96  |
| 4. 考察.....          | 101 |
| 第Ⅴ章 まとめ.....        | 113 |
| ピット計測表.....         | 115 |
| 遺物観察表.....          | 119 |

## 挿図目次

|      |                               |    |
|------|-------------------------------|----|
| 図 1  | 南国市位置図.....                   | 1  |
| 図 2  | 関遺跡周辺の遺跡 (S=1/50,000).....    | 3  |
| 図 3  | 調査区配置図 (S=1/2,500).....       | 6  |
| 図 4  | 08区遺構全体図 (S=1/500).....       | 7  |
| 図 5  | 08区南壁断面図 (S=1/40).....        | 8  |
| 図 6  | 08区SD1断面図 (S=1/50).....       | 9  |
| 図 7  | 08区SD1出土遺物実測図.....            | 10 |
| 図 8  | 08区SD2出土遺物実測図.....            | 12 |
| 図 9  | 08区遺構外出土遺物実測図.....            | 12 |
| 図 10 | I区遺構全体図 (S=1/500).....        | 14 |
| 図 11 | II区遺構全体図 (S=1/500).....       | 14 |
| 図 12 | III区遺構全体図 (S=1/300).....      | 15 |
| 図 13 | IV区遺構全体図 (S=1/500).....       | 16 |
| 図 14 | V区遺構全体図 (S=1/500).....        | 16 |
| 図 15 | VI区遺構全体図 (S=1/500).....       | 17 |
| 図 16 | I区南壁断面図1 (S=1/40).....        | 18 |
| 図 17 | I区南壁断面図2 (S=1/40).....        | 19 |
| 図 18 | II区南北バンク断面図 (S=1/40).....     | 20 |
| 図 19 | III区南壁断面図1 (S=1/40).....      | 21 |
| 図 20 | III区南壁断面図2 (S=1/40).....      | 22 |
| 図 21 | IV区南北バンク断面図1 (S=1/40).....    | 23 |
| 図 22 | V区南壁断面図 (S=1/40).....         | 24 |
| 図 23 | VI区断面図・柱状図 (S=1/40).....      | 25 |
| 図 24 | SB1平面図・エレベーション図.....          | 27 |
| 図 25 | SK2平面図・断面図.....               | 28 |
| 図 26 | SK3平面図・エレベーション図・出土遺物実測図.....  | 28 |
| 図 27 | SK4・5平面図・断面図・出土遺物実測図.....     | 29 |
| 図 28 | SK7平面図・エレベーション図・出土遺物実測図.....  | 30 |
| 図 29 | SK11平面図・エレベーション図・出土遺物実測図..... | 30 |
| 図 30 | SK16平面図・断面図.....              | 31 |
| 図 31 | SK17平面図・断面図・出土遺物実測図.....      | 32 |
| 図 32 | SK22平面図・断面図.....              | 32 |
| 図 33 | SK24平面図・断面図.....              | 33 |
| 図 34 | SK25平面図・エレベーション図・出土遺物実測図..... | 33 |
| 図 35 | SK26平面図・断面図・出土遺物実測図.....      | 34 |



|     |                          |    |
|-----|--------------------------|----|
| 図36 | SK28平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 34 |
| 図37 | SK31平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 35 |
| 図38 | SK33平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 35 |
| 図39 | SK37平面図・断面図              | 36 |
| 図40 | SK39平面図・断面図              | 37 |
| 図41 | SK39出土遺物実測図1             | 38 |
| 図42 | SK39出土遺物実測図2             | 39 |
| 図43 | SK39出土遺物実測図3             | 40 |
| 図44 | SK39出土遺物実測図4             | 41 |
| 図45 | SK39出土遺物実測図5             | 42 |
| 図46 | SK40平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 43 |
| 図47 | SK41平面図・断面図              | 44 |
| 図48 | SK41出土遺物実測図              | 45 |
| 図49 | SK42平面図・断面図              | 46 |
| 図50 | SK42出土遺物実測図1             | 47 |
| 図51 | SK42出土遺物実測図2             | 48 |
| 図52 | SK42出土遺物実測図3             | 49 |
| 図53 | SK42出土遺物実測図4             | 50 |
| 図54 | SK44平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 52 |
| 図55 | SK45平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 52 |
| 図56 | SK46平面図・断面図              | 53 |
| 図57 | SK48平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 53 |
| 図58 | SK53平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 54 |
| 図59 | SK54平面図・エレベーション図・出土遺物実測図 | 55 |
| 図60 | SK61平面図・断面図              | 56 |
| 図61 | SE1平面図・エレベーション図          | 57 |
| 図62 | SE2平面図・エレベーション図・出土遺物拓影   | 58 |
| 図63 | SD3断面図・出土遺物実測図           | 59 |
| 図64 | SD4断面図・出土遺物実測図           | 59 |
| 図65 | SD16・17断面図・出土遺物実測図       | 60 |
| 図66 | SD20断面図・出土遺物実測図          | 61 |
| 図67 | SD22断面図                  | 62 |
| 図68 | SD22出土遺物実測図1             | 63 |
| 図69 | SD22出土遺物実測図2             | 64 |
| 図70 | SD22出土遺物実測図3             | 65 |
| 図71 | SD29断面図・出土遺物実測図          | 66 |
| 図72 | SD34断面図・出土遺物実測図          | 67 |
| 図73 | SD36エレベーション図・出土遺物拓影      | 68 |

|      |   |     |
|------|---|-----|
| 図74  | SD42断面図・出土遺物実測図.....                        | 69  |
| 図75  | SD44断面図・出土遺物実測図.....                        | 70  |
| 図76  | SD2・6・27・28・32・33・39・45・47・48・50・51断面図..... | 71  |
| 図77  | SR1出土遺物実測図.....                             | 72  |
| 図78  | SR2断面図.....                                 | 74  |
| 図79  | SR2出土遺物実測図1.....                            | 76  |
| 図80  | SR2出土遺物実測図2.....                            | 77  |
| 図81  | SX1平面図・エレベーション図・出土遺物実測図.....                | 78  |
| 図82  | SX4平面図・エレベーション図.....                        | 79  |
| 図83  | ピット出土遺物実測図.....                             | 80  |
| 図84  | 遺構外出土遺物実測図1.....                            | 82  |
| 図85  | 遺構外出土遺物実測図2.....                            | 83  |
| 図86  | 遺構外出土遺物実測図3.....                            | 85  |
| 図87  | 遺構外出土遺物実測図4.....                            | 86  |
| 図88  | 遺構外出土遺物実測図5.....                            | 87  |
| 図89  | 遺構外出土遺物実測図6.....                            | 88  |
| 図90  | 遺構外出土遺物実測図7.....                            | 90  |
| 図91  | 遺構外出土遺物実測図8.....                            | 91  |
| 図92  | 遺構外出土遺物実測図9.....                            | 93  |
| 図93  | 花粉化石群集の層位分布.....                            | 99  |
| 図94  | 植物珪酸体含量.....                                | 101 |
| 図95  | 調査区に累重する堆積層の柱状模式断面図.....                    | 102 |
| 図96  | 遺跡の位置図と自然科学分析を実施した主要な周辺遺跡.....              | 105 |
| 図97  | 調査区周辺の地形分類図と自然科学分析を実施した考古遺跡の位置.....         | 106 |
| 図98  | 西野々・関遺跡の堆積層の累重状況.....                       | 107 |
| 図99  | 介良野遺跡の層序と年代.....                            | 108 |
| 図100 | 遺構全体図 (S=1/2,000).....                      | 114 |

## 表目次

|    |                    |     |
|----|--------------------|-----|
| 表1 | 関遺跡周辺の遺跡一覧.....    | 3   |
| 表2 | 放射性炭素年代測定結果.....   | 97  |
| 表3 | 暦年較正結果.....        | 97  |
| 表4 | 花粉分析結果.....        | 98  |
| 表5 | 植物珪酸体含量.....       | 100 |
| 表6 | 種実分析結果.....        | 101 |
| 表7 | 関遺跡出土近世遺物組成比率..... | 113 |

## 写真図版目次

- 図版 1 08区空中写真  
図版 2 08区調査前風景  
08区完掘状態  
図版 3 08区調査区南壁  
08区SD1遺物出土状態  
図版 4 08区SD1完掘状態  
08区SD1断面  
図版 5 I区調査前風景  
図版 6 I区調査区南壁  
I区SR1完掘状態  
図版 7 I区SR1断面  
図版 8 II区西半部完掘状態  
II区東半部完掘状態  
図版 9 II区南北バンク  
図版 10 III区東半部完掘状態  
III区調査区南壁  
図版 11 III区西半部完掘状態  
III区南北バンク  
図版 12 III区SK4・5断面  
III区SK4・5完掘状態  
図版 13 III区SK10断面  
III区SK11完掘状態  
図版 14 III区SE2断面  
III区SE2完掘状態  
図版 15 IV W区完掘状態  
IV E区完掘状態  
図版 16 IV区SK42遺物出土状態  
V区完掘状態  
図版 17 V区SD47完掘状態  
V区SD49・53完掘状態  
図版 18 VI-②区完掘状態  
VI-③区完掘状態  
図版 19 I区SR1高杯出土状態  
II区SK1断面  
II区SK2断面  
II区SK2完掘状態  
II区SD3断面  
II区SD5断面  
II区SD6断面  
II区SD6完掘状態  
図版 20 II区SR2五輪塔出土状態  
III E区SK16断面  
III E区SK31断面  
III E区SK17断面  
III E区SK18断面  
III E区SK19断面  
III E区SK21断面  
図版 21 III E区SK22断面  
III E区SK24断面  
III E区SK25陶磁器出土状態  
III E区SK25砥石出土状態  
III E区SK33断面  
III E区SK34断面  
III W区SD17弥生土器出土状態  
III E区SD19断面  
図版 22 III E区SD20遺物出土状態  
III E区SD22断面  
III E区SD22陶磁器出土状態  
III W区E29-2-17\_P4完掘状態  
III W区E29-2-19\_P1断面  
III W区E29-2-19\_P2完掘状態  
図版 23 III W区E29-2-19\_P3完掘状態  
III W区E29-2-21\_P5完掘状態  
IV W区SK39陶磁器出土状態  
IV W区SK42完掘状態  
IV W区SK42陶磁器出土状態  
IV W区SK42漆器出土状態  
図版 24 IV W区SD29陶磁器出土状態  
IV E区SD41断面  
IV E区SD42断面

- 図版24 IV E区SD43断面  
V区SD47断面  
V区SD50・51断面  
V区E30-4-17\_P1断面
- 図版25 出土遺物(1・3・8・11・16～18・22・  
24・29)
- 図版26 出土遺物(49・80・81・91・104・121)
- 図版27 出土遺物(126・132・282・304・326・  
338)
- 図版28 出土遺物(340・341・367)  
(136・199・202・361～363)  
(42・242)  
(141・391～393)
- 図版29 出土遺物(38・47・67・70・83・101・  
106・108)
- 図版30 出土遺物(110・118・119・140・144・  
163・176・177)
- 図版31 出土遺物(233・234・246・252・253・  
255・266・281)
- 図版32 出土遺物(303・311・315・318・351・  
352・359・368)
- 図版33 出土遺物(112・166・167・254～256・  
264・286・323)
- 図版34 出土遺物(43・44・99・146・159～162・  
344・346)
- 図版35 出土遺物(147・200・305～307・312・  
313・322)  
(33・179～183・303・310)
- 図版36 出土遺物(201・216・217・244・245・  
329～331)
- 図版37 出土遺物(77・78・328・333・335)  
(84・92・129・134・342・  
343・355)
- 図版38 出土遺物(45・93・94・149・396)  
図版外墨書遺物
- 図版39 出土遺物(137・138・238～240)
- 図版40 出土遺物(143・150・152・204・386～  
390)
- 図版41 花粉化石
- 図版42 植物珪酸体
- 図版43 植物珪酸体・花粉化石・種実遺体

# 第 I 章 関遺跡周辺の地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

関遺跡が所在する高知県南国市は、高知市に隣接する。面積約 125 km<sup>2</sup>、人口約 50,000 人であり、高知市につぐ人口規模である。物部川右岸沿いに南北に長く、南は太平洋に面し、北は四国山地へと続き、異なった地勢が複合的に組み合わさり、それぞれの自然環境を活かした文化を育んできている。市域の南半部は物部川により形成された高知県下最大規模の沖積扇状地である香長平野がひろがっている。この沖積扇状地は縄文時代前期には形成されていたと考えられている。当地域では温暖な気候のもと、沖積地内の名残川を灌漑等に利用した水田耕作が行われてきた。現在ではハウス園芸が増加しているが、広大な水田がひろがり高知県の穀倉地帯であることに変わりはない。一方、工場団地の造成などハイテク産業の育成にも力が注がれている。また、高知龍馬空港があり、空の玄関口の役割も果たしている。

## 2. 歴史的環境

### (1)旧石器時代

県中央部では、高間原 1 号墳(高知市)の石室からチャート製の細石刃核が発見されているのみであった。その後、岩陰遺跡である奥谷南遺跡からナイフ形石器、細石刃がまとまって出土している。

### (2)縄文時代

草創期では奥谷南遺跡、早期では飼古屋岩陰遺跡(香美市)、奥谷南遺跡、刈谷我野遺跡(香美市)、新改開キ丸遺跡(香美市)、美良布遺跡(香美市)が物部川等の河岸段丘上に認められ、旧石器時代と同様の立地を示す。中期以降では奥谷南遺跡、田村遺跡群、祈年遺跡で確認され、低位段丘、沖積平野でも遺跡がみられるようになる。中期の奥谷南遺跡では、ドングリピットが検出されている。後期の田村遺跡群では鐘崎Ⅱ式がまとまって出土しており、九州島との関連が認められる。また、栄エ田遺跡では、後期から晩期の遺物が出土し、蛇紋岩の磨製石斧が多数出土している。

### (3)弥生時代

田村遺跡群に前期初頭の集落が出現し、高知平野の弥生時代が始まる。弥生文化は田村遺跡群から周辺部へ浸透していく。その後、田村遺跡群は中期末から後期初頭にかけて大規模集落へと発展するとともに、周辺にも西野々遺跡等の中規模集落が営まれ、高知平野の弥生文化は最盛期を迎える。田村遺跡群には銅鏡、銅矛、銅鐸、銅釧など多種類の青銅器がもたらされ、その求心力の強さを示している。しかし、後期中葉にな



図1 南国市位置図

ると田村遺跡群は急激に衰退するとともに高知平野全体の遺跡数も減少する。その後、後期末から古墳時代初頭にかけて遺跡数は増加し、台地上、沖積平野に中規模から小規模な集落遺跡が営まれ、再び活況を呈する。台地上には小籠遺跡、祈年遺跡、東崎遺跡、伏原遺跡(香美市)、ひびのき遺跡(香美市)、ひびのきサウジ遺跡(香美市)が、沖積平野には介良野遺跡(高知市)、西野々遺跡、田村西遺跡が営まれる。しかし、ほとんどの集落遺跡は古墳時代前期まで継続せず廃絶され、高知平野の弥生時代は終焉を迎える。

今回報告する関遺跡(V区)の近隣には江戸時代に銅鐸が出土したといわれる関町田遺跡がある。

#### (4)古墳時代

高知平野には前期古墳は確認されていないが、中期古墳は狭間古墳と長畝2号墳の2基のみである。古墳時代後期になると香長平野を取り巻く丘陵上に多くの古墳が築かれ、高知県内でも古墳の密集地域を形成する。土佐三大古墳に数えられている明見彦山1号墳、小蓮古墳が所在し、当地域一帯を代表する地域首長の墳墓として位置づけられている。また、県下最大規模の群集墳である舟岩古墳群(TK43～TK217型式)が築造されている。一方、集落遺跡数は古墳数の増減と軌を一にした動態を示す。古墳時代前期以降、竪穴建物跡はごく僅かである。小籠遺跡、介良遺跡などで初期須恵器が出土しているものの集落跡の実態は不明である。後期になると土佐国衙跡、祈年遺跡、西野々遺跡等で竪穴建物跡が検出される等、高知平野での調査例は増加する。

#### (5)古代

南国市には土佐国衙跡、土佐国分寺、比江廃寺の中核施設が集まっている。他にも野中廃寺、式内社の植田神社、国史蹟在社の祈年神社が所在する土佐の中心地である。国衙跡は周辺に残るホノギ等から比定されているものの、31次を数える土佐国衙跡の発掘調査で政庁跡と確定できる建物跡は確認されていない。また、香長平野にはN-12°Eを基本とする香長条里が碁盤目状に残っている。田村遺跡群では、75棟の建物跡が検出され、8世紀中頃～9世紀前半、10世紀～11世紀の2時期に機能していた。826年に田村庄が神護寺の荘園となったことが史料にみえ、上記の建物群と関連付けられている。西野々遺跡でも、約100棟の掘立柱建物跡が検出されている。これらの建物群は8世紀中頃に出現し、8世紀後半～9世紀に最盛期を迎え、10世紀までは維持されていた。「コ」の字形の配置も認められ、官衙的な建物跡と推測される。下ノ坪遺跡(香南市)は、物部川左岸に位置する遺跡である。8世紀中頃～9世紀中頃まで存続する遺跡である。9世紀前半～中頃にかけて最盛期を迎える。桁行16.4m、梁行8.4mの規模を有する、県下でも最大規模の掘立柱建物跡をはじめ、多くの掘立柱建物跡が検出され整然とした配置が認められる。四仙騎獣八稜鏡片、緑釉陶器の火舎等の特筆すべき遺物が出土している。田村遺跡群と下ノ坪遺跡は、物部川を強く意識した立地であり、物資の集積・集散の機能を果たすものと位置づけられている。祈年遺跡でも、官衙関連の建物跡、道路状遺構が発見されている。関遺跡は長岡郡大埴郷に属する。

#### (6)中世

田村城館は守護代である細川氏の居館とされ、その南側には溝で囲まれた33ヵ所の家臣団屋敷が形成されている。田村城館は約200m四方以上の規模を有し、二重の堀で囲まれた構造を持ち、外堀は幅約4m、深さ約3.5m、内堀は幅約7m以上の規模を有する。内郭部は南北約130m、東西約120mの規模を持つ。特筆すべき遺物として李朝青磁が出土している。西野々遺跡では一辺35～44mの屋敷跡が検出されている。土豪クラスのものとして推定されており<sup>(1)</sup>、古代以降も当調査地点の重要性を示





図2 関遺跡周辺の遺跡(S=1/50,000)

表1 関遺跡周辺の遺跡一覧

| No. | 遺跡名      | 時代    | No. | 遺跡名       | 時代    | No. | 遺跡名    | 時代    |
|-----|----------|-------|-----|-----------|-------|-----|--------|-------|
| 1   | 西野々遺跡    | 弥生～近世 | 16  | 住吉山3・4号墳  | 古墳    | 31  | 上岡北遺跡  | 弥生・近世 |
| 2   | 関町田遺跡    | 弥生    | 17  | 吾岡山古墳     | 〃     | 32  | 上岡遺跡   | 弥生・平安 |
| 3   | 田村西遺跡    | 弥生～近世 | 18  | 吾岡山南遺跡    | 古墳～平安 | 33  | 下ノ坪遺跡  | 弥生～古代 |
| 4   | 田村遺跡群    | 縄文～近世 | 19  | カントヲリ遺跡   | 縄文～平安 | 34  | 北地遺跡   | 弥生～中世 |
| 5   | 里改田遺跡    | 弥生～中世 | 20  | 大篠遺跡      | 弥生    | 35  | 西野遺跡群  | 弥生～古代 |
| 6   | 秋葉山南平古墳  | 古墳    | 21  | 介良野遺跡     | 弥生・古墳 | 36  | 深淵遺跡   | 弥生～中世 |
| 7   | 井川山1・2号墳 | 〃     | 22  | 狸岩1～3号墳   | 古墳    | 37  | 深淵北遺跡  | 〃     |
| 8   | 馬背古墳     | 〃     | 23  | 明見彦山1～3号墳 | 〃     | 38  | 岡豊城跡   | 中世    |
| 9   | 馬背東1・2号墳 | 〃     | 24  | 竹ノ後遺跡     | 弥生・古墳 | 39  | 小蓮古墳   | 古墳    |
| 10  | 馬背西1号墳   | 〃     | 25  | 小籠遺跡      | 弥生～近世 | 40  | 国分大塚古墳 | 〃     |
| 11  | 丸山古墳     | 〃     | 26  | 越戸1・2号墳   | 古墳    | 41  | 土佐国分寺跡 | 古代    |
| 12  | 坂ノ松古墳    | 〃     | 27  | 野中廃寺跡     | 平安    | 42  | 土佐国府跡  | 〃     |
| 13  | 丸山五輪塔    | 〃     | 28  | 折年遺跡      | 縄文～近世 | 43  | 比江廃寺   | 〃     |
| 14  | 住吉山1号墳   | 〃     | 29  | 年越山1～3号墳  | 古墳    | 44  | 金地遺跡   | 弥生    |
| 15  | 住吉山2号墳   | 〃     | 30  | 東崎遺跡      | 弥生～中世 | 45  | 岩村土居城跡 | 弥生～中世 |

している。中世後期になると長宗我部氏の台頭により岡豊城跡へと拠点は移るが、田村周辺の重要性はなお継続している。

#### (7)近世・近代

田村遺跡群では、近世後期の屋敷跡、墓が検出されている。中世までとは異なった農村がひろがり、近現代の景観が形成されたと考えられる。西野々遺跡、山田三又遺跡、小籠遺跡、陣山遺跡などで近世の農村集落の状況が明らかとなりつつある。調査区の近隣には多宝坊観音堂がある。この観音堂は土佐藩四代目藩主山内豊昌公の母堂『善光院』の発願による。土佐西国三十三番霊場の第十三番となり『関の堂』と呼ばれ親しまれている。前述の関町田遺跡で出土したとされる銅鐸は、ここで保管されていたとみられる。その後、明治時代初めに廃寺となった際に銅鐸も一緒に無くなったとある<sup>(2)</sup>。

向山戦争遺跡では、塹坑、交通壕、退避壕、重機関銃の銃座、貫通坑、横穴が検出され、尾根上に築かれた観測所と防空陣地と坑道で構成された陣地跡が復元されている。カスガイ、ガイシ、葉莢等が出土している。戦争遺跡単独での発掘調査は、初めてのことであり画期的な調査である。また、高知龍馬空港周辺には7基の掩体壕遺構が残され、南国市の史跡に指定されている。

#### 註

(1)廣田佳久 2012「第V章総括 5.中世について」『西野々遺跡Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

(2)『土佐西国三十三番縁起由来記』

#### 主な参考文献

1979『南国市史』南国市

1991『東崎遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団

1996『小籠遺跡Ⅱ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1997『小籠遺跡Ⅲ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

池澤俊幸 2000「土佐における古代前期の建物群」『古代文化』52-6

1997『介良遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

荻慎一郎・森公章・市村高男・下村公彦・田村安興 2001『高知県の歴史』山川出版社

2004『田村遺跡群Ⅱ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2006『南国市における大型後期古墳の調査』高知大学人文学部考古学研究室

2007『介良野遺跡』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2008『土佐国衙跡発掘調査報告書 第13集』高知県南国市教育委員会

2008『田村城跡 平成16～18年度南国市重要遺跡確認調査』南国市教育委員会

2011『西野々遺跡Ⅱ』『西野々遺跡Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

2012『祈年遺跡Ⅳ』(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

## 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

### 1. 調査に至る経過

高知東部自動車道は、高知市を起点に安芸市までの約 36 km の高規格幹線道路である。他の自動車道、高速道路、高知龍馬空港、高知新港と連結することで広域の交通ネットワークを形成する。陸路輸送が主体を占める現在の状況では、道路が重要な要素であり、道路網の整備は人・物の交流を活発にし、観光産業を含めた地域の産業振興にも欠くことができないものである。また、災害等による緊急時には救命救急活動、救援物資の輸送を円滑に推進させることができる、「命の道」としての役割も期待される。

関遺跡は、高知東部自動車道の建設予定地内において高知県教育委員会が平成 19 年度に実施した試掘調査により新たに発見された遺跡である。その後、高知県教育委員会と国土交通省四国地方整備局土佐国道事務所が協議し、事前の発掘調査を行い記録保存することとなった。(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターは高知県教育委員会の委託を受け、平成 20 年度から平成 22 年度事業として発掘調査を実施した。発掘調査は、調査面積 9,957 m<sup>2</sup> を平成 20 年 7 月 1 日～9 月 4 日、平成 21 年 8 月 11 日～平成 22 年 2 月 19 日、平成 22 年 9 月 28 日～10 月 7 日に実施した。

### 2. 調査方法

発掘調査は平成 20 年度から平成 22 年度にかけて実施された。平成 20 年度の調査区は 08 区とし、平成 21 年度の調査区は I 区から V 区、平成 22 年度の調査区は VI 区としている。

調査前の状況は宅地、水田であった。試掘調査の結果をもとに表土は重機で掘削し、遺構検出及び遺構掘削については人力により掘削した。遺構完掘後、全景写真、遺物出土状態、断面等を適宜、撮影した。遺構平面図は 20 分の 1 の縮尺で実測した。その他、必要に応じて断面図、遺物出土状況図を適宜作成した。

グリッドの設定は世界測地系に基づく公共座標により 100m 四方の大グリッド、20m 四方の中グリッド、4m 四方の小グリッドを設定した。このグリッドは西野々遺跡からの一連のものであり、測量は世界測地系第 4 座標系(Ⅳ系)の基準点を使用し、X =62,500m、Y =11,000m(北緯 33° 33' 49"、東経 133° 37' 07"、真北方向角 -0° 03' 56")を原点とし、A0(100mグリッド:大グリッド)を組んだ。大中小グリッドの間は「-」で区切って表記している。このグリッド、座標を使用して遺構の平面図、遺物出土状態等の実測、出土遺物の取り上げを行った。

遺構名は、平成 20 年度(08 調査区)と平成 21・22 年度調査で分け、それぞれで通し番号とした。ピットについては小グリッド毎に連番を付し、「グリッド名」\_○と表記している。平成 20 年度(08 調査区)、ピット名については調査時に使用した遺構名で報告を行っているため、掘削の結果により遺構ではなかったものについて欠番が発生している。平成 21・22 年度調査分のピット以外の遺構名については報告時に新たに一連の遺構名に変更したが、一部に欠番が生じている。また、掘立柱建物跡を SB、土坑を SK、井戸跡を SE、溝跡を SD、自然流路跡を SR、性格不明遺構を SX、ピット・柱穴を P の略号としてそれぞれ使用した。以下では平成 20 年度調査、平成 21・22 年度調査の順で記述する。

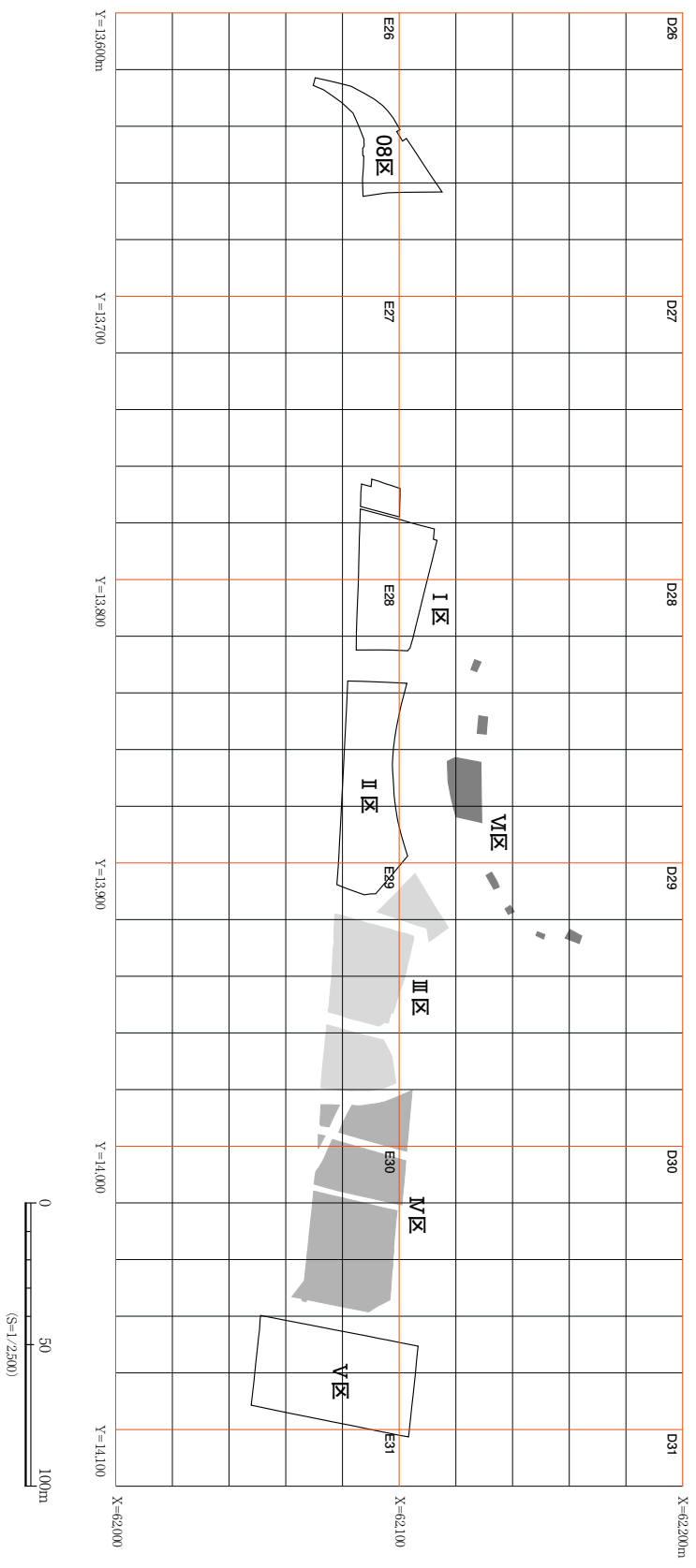


図3 調査区配置図(S=1/2,500)

### 第Ⅲ章 調査成果

#### 1. 平成 20 年度調査

##### (1)調査概要

08区(以下,平成20年度調査区は08区とする。)は関遺跡の西端部に位置する。古代,近世の溝跡をそれぞれ1条ずつ検出した。

##### (2)基本層序

調査区南壁で基本層序を確認した。①層は耕作土,②層は床土,③層は旧耕作土,④層は褐灰色シルト～粘質層,⑤層はにぶい黄橙色粘質層,⑥層はにぶい黄橙色シルト～粘質層,⑦層はにぶい黄褐色砂混じり粘土層,⑧層は灰黄褐色シルト～粗粒砂層,⑨層は灰黄褐色シルト層,⑩層はにぶい黄橙

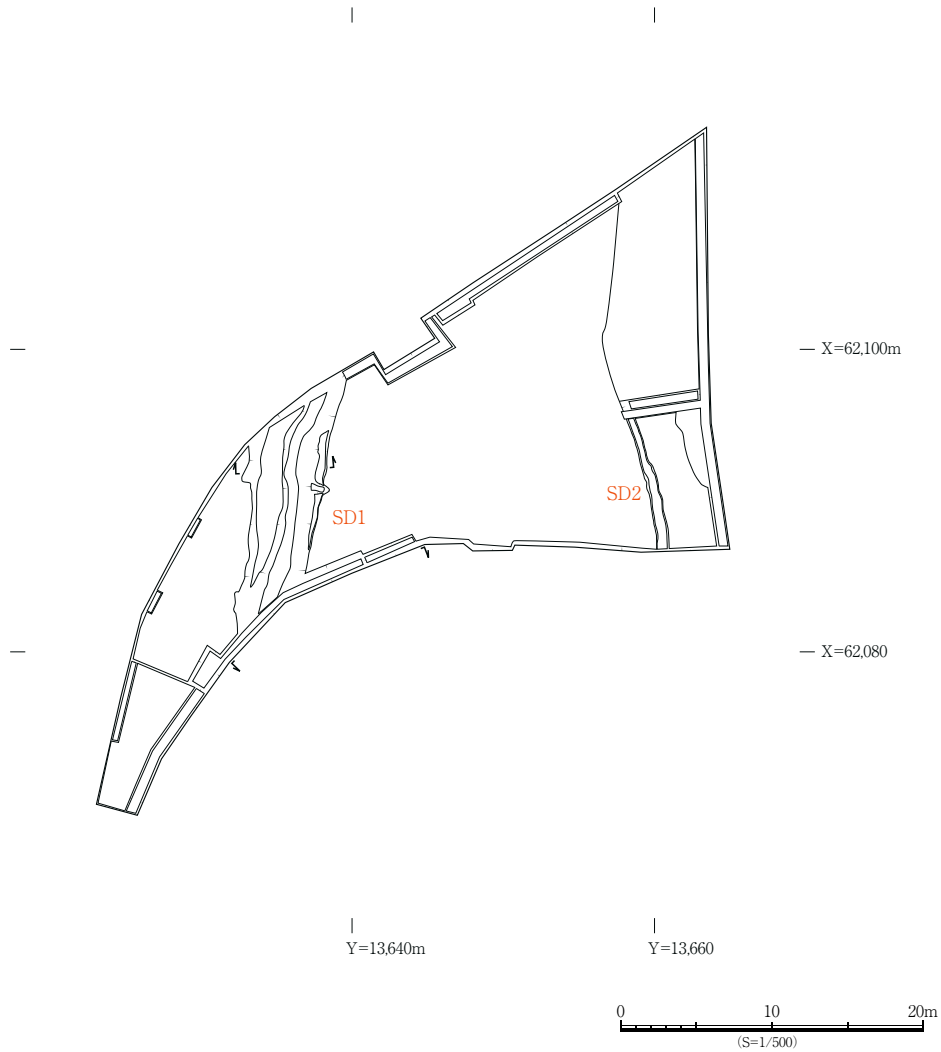
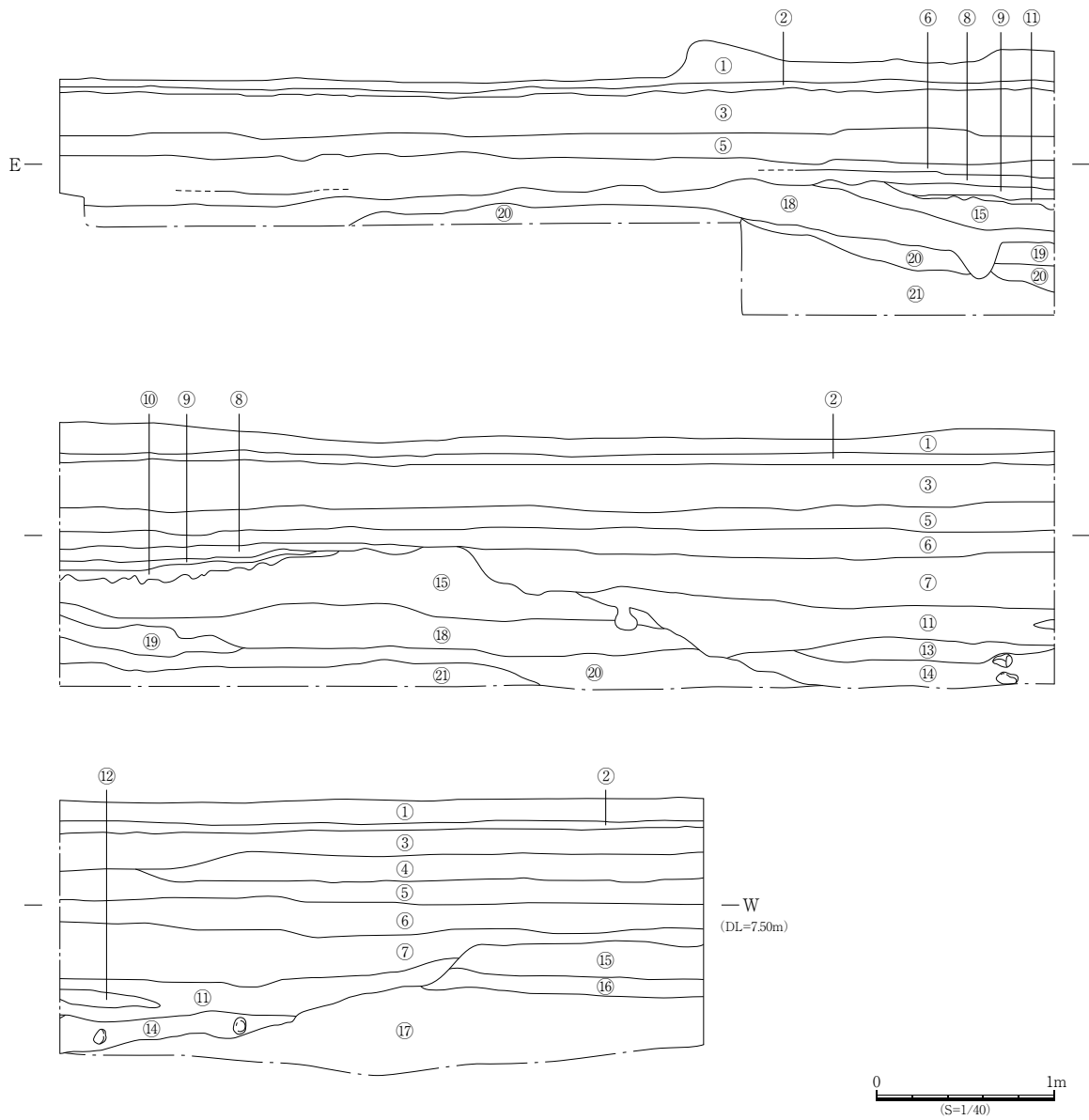


図4 08区遺構全体図(S=1/500)



層位

- |                                      |  |
|--------------------------------------|--|
| ① [耕作土]                              | ⑫ 灰黄褐色 (10YR5/2) 粗粒砂を多く含む粘質土層                |
| ② 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂~シルト層 [床土]         | ⑬ 褐灰色 (10YR5/1) 粘土層                          |
| ③ 褐灰色 (10YR6/1) 砂~シルト層 [旧耕作土]        | ⑭ 褐灰色 (10YR5/1) ~にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂層 (ラミナ有り) |
| ④ 褐灰色 (10YR5/1) シルト~粘質層              | ⑮ 褐灰色 (10YR4/1) 粘土層                          |
| ⑤ にぶい黄橙色 (10YR6/3) 粘質層               | ⑯ 黒色 (10YR2/1) 粘土層                           |
| ⑥ にぶい黄橙色 (10YR6/4) シルト~粘質層           | ⑰ 黒褐色 (10YR3/1)                              |
| ⑦ にぶい黄褐色 (10YR5/3) 砂混じり粘土層           | ⑱ 黒褐色 (10YR2/2) 細砂を含む粘土層                     |
| ⑧ 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト~粗粒砂層            | ⑳ 黒色 (10YR2/1) 腐食物を含む粘質層                     |
| ⑨ 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト層                | ㉑ 黒褐色 (10YR3/1) 粘土層                          |
| ⑩ にぶい黄橙色シルト層 (ラミナか、乱れる) [水田部]        |  |
| ⑪ 灰黄褐色 (10YR4/2) 細・粗砂を含む粘質土層 (ラミナ有り) |  |

図5 08区南壁断面図(S=1/40)



色シルト層で水田層である。⑪層は灰黄褐色細・粗砂を含む粘質土層、⑫層は灰黄褐色粗粒砂を多く含む粘質土層、⑬層は褐灰色粘土層、⑭層は褐灰色～にぶい黄褐色砂層、⑮層は褐灰色粘土層、⑯層は黒色粘土層、⑰層は黒褐色、⑱層は黒褐色細砂を含む粘土層、⑲層は黒褐色細砂を含む粘土層、⑳層は黒色腐食物を含む粘質層、㉑層は黒褐色粘土層である。

### (3) 検出遺構と出土遺物

#### ① SD

##### SD1

調査区中央やや西寄りで見出した南北方向の溝跡である。幅約5m、検出面からの深さは約70cmである。約12mを確認したが南北方向とも調査区外へのびる。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)細・粗砂を含む粘質土層、にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土、にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土ブロックが入る褐灰色(10YR5/1)砂層、にぶい黄褐色(10YR5/3)粘質土層、灰黄褐色(10YR5/2)粗粒砂が多く入る粘質土層、褐灰色(10YR5/1)～にぶい黄褐色(10YR4/3)砂層、灰黄褐色(10YR5/2)細砂層である。遺物は主に底から出土している。

溝跡の方向は条理方向と一致しており、下田川から水田に供給する灌漑用水路と考えられ、規模が大きいことから坪境溝としても機能していた可能性がある。調査区南壁では水田土壌と考えられる層準が認められており、平面的に捉えることはできなかったが周辺に古代の水田がひろがっていたと考えられる。

図示した出土遺物は須恵器、土師器である。1は須恵器の蓋である。扁平な天井部から口縁部は大きくひろがり、端部は下方へ折り曲げる。天井部には扁平な摘みが付される。約半分の焼成はやや甘い。内外面とも回転ナデ調整である。ほぼ完存である。2は須恵器の蓋である。中央付近が凹んだ天井部から口縁部が大きくひらき、端部は下方へ折り曲げる。口縁端部の屈曲部はシャープな稜が巡る。天井部には扁平な摘みを付す。外面、天井部付近はヘラケズリ調整、口縁部は回転ナデ調整を施す。天井部内面にはヘラケズリ調整が認められる。3は須恵器の蓋である。中央付近が凹んだ天井部から口縁部が大きくひらき、端部を下方へ折り曲げる。内外面とも回転ナデ調整であり、内面にはヘラケズリ調整が認められる。天井部には扁平な摘みが付される。完存である。外面には自然釉が付着

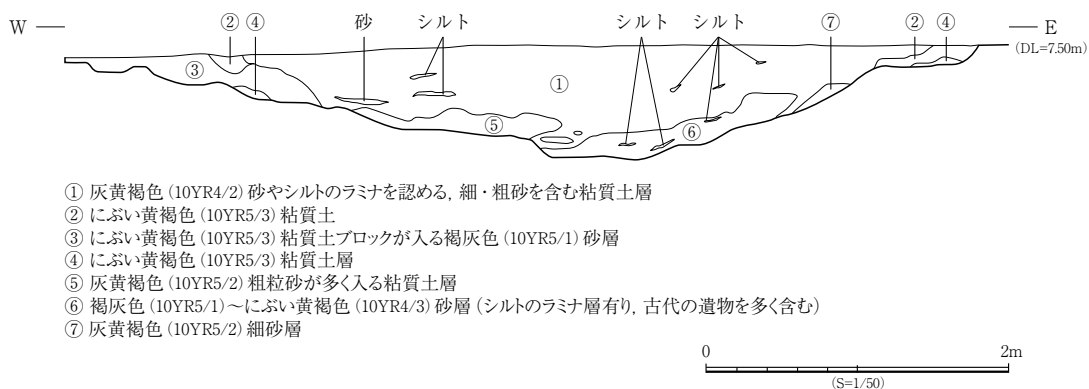


図6 08区SD1断面図(S=1/50)

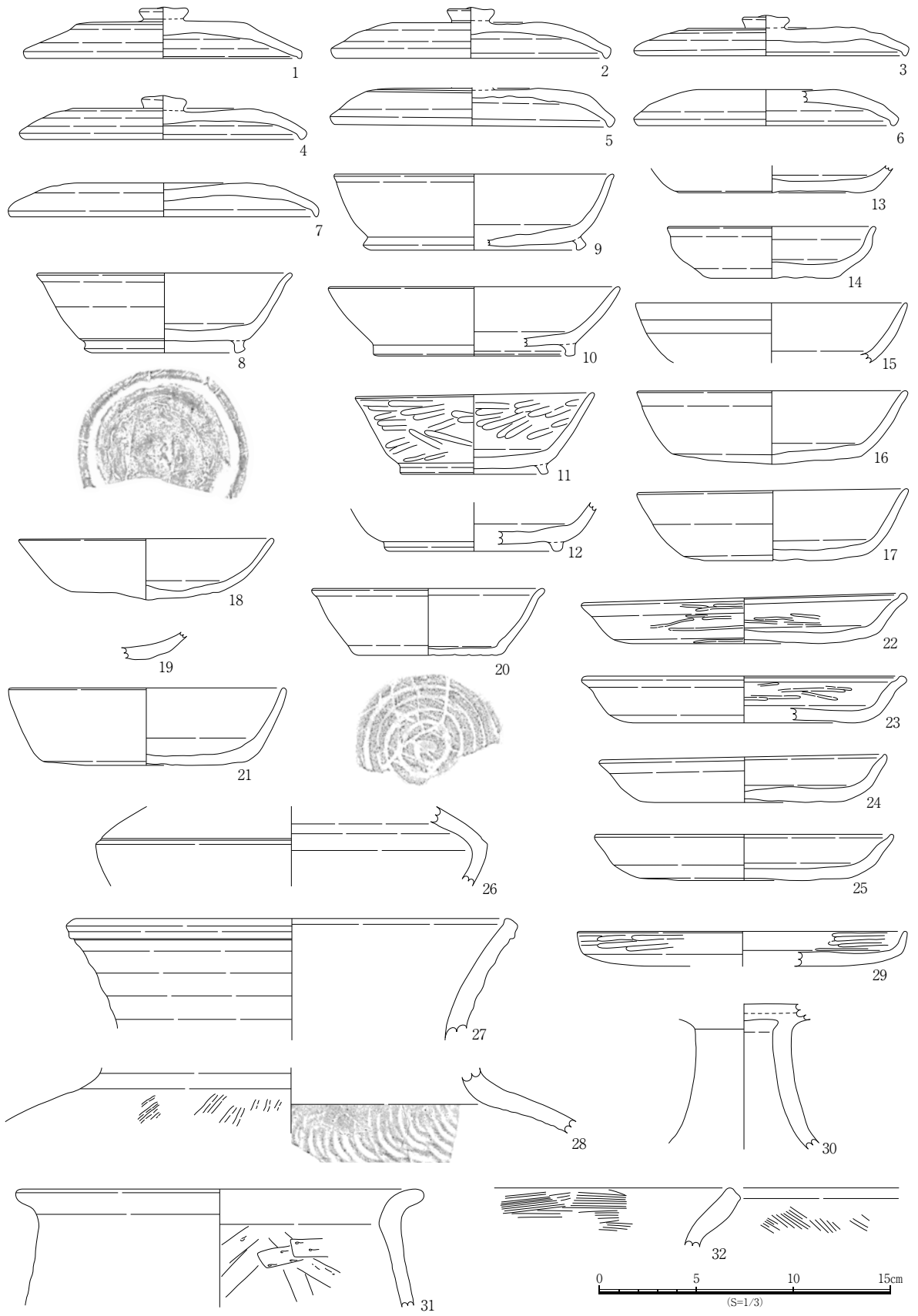


图7 08区SD1出土遺物実測図

し、一部は荒れている。4は須恵器の蓋である。中央付近が凹んだ天井部から口縁部が丸みを持ってひらき、端部は下方へ折り曲げる。内外面とも回転ナデ調整である。天井部内面には仕上げナデ調整を施す。天井部に扁平な摘みが付される。5は須恵器の蓋である。天井部には欠損しているが摘みの痕跡が認められる。天井部外面は回転ヘラケズリ調整、口縁部及び内面は回転ナデ調整である。天井部内面には回転ナデ調整による凹凸が明瞭である。焼成不良である。7は土師器の蓋である。天井部から口縁部にかけて丸みを持ち、口縁端部は尖らせ気味である。摩滅しており調整の観察は困難である。8は須恵器の杯である。底面には断面方形の高台が付く。内外面とも回転ナデ調整であり、口縁端部のヨコナデは強く、わずかに外反する。外底面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。また、爪状圧痕が認められる。9は須恵器の杯である。底面には断面方形の高台が「ハ」の字状に付く。内外面とも回転ナデ調整であり、内底面には仕上げナデ調整を施す。外底面はヘラ切り後、ナデ調整を施す。やや歪む。11は土師器の杯である。底部から口縁部は外上方へのびる。底端部に断面方形の高台が付く。内外面ともミガキ調整である。ほぼ完存である。14は須恵器の杯である。外底面は回転ヘラ切り後、ケズリ調整等を施す。体部は外上方へのび、口縁部は直立し、端部を外反させる。体部は回転ナデ調整である。16は須恵器の杯である。体部は丸みを持って外上方へのびる。焼成不良で、摩滅しているが残存率は良好である。17は須恵器の杯である。焼成不良で、にぶい黄橙色～にぶい橙色を呈している。また、摩滅している。調整は回転ナデ調整と推測される。外底面にはヘラ切り痕跡が認められる。ほぼ完存している。18は土師器の杯である。摩滅している。外底面には回転ヘラ切り痕跡が認められる。内底面は回転ナデ調整による凹凸が明瞭である。全体的にやや歪んでいる。20は土師器の杯である。器壁の薄い平らな底部から体部は外上方へのび、口縁端部は外反する。内外面とも回転ナデ調整である。外底面にはヘラ切り痕跡が深く明瞭に残存している。21は須恵器の杯である。扁平な底部から体部は丸みを持って立ち上がり、口縁端部は丸くおさめる。焼成不良で灰白色を呈する。摩滅しており調整等の観察が困難であるが、体部は回転ナデ調整、内底面は仕上げナデ調整と推測される。22は土師器の皿である。折り曲げ口縁である。内面にはミガキ調整が認められる。外面は回転ナデ調整であり、底面にはヘラ切り痕跡が認められる。全体的ににぶい黄橙色を呈している。23は土師器の皿である。折り曲げ口縁である。外面は摩滅しているが、内面にはミガキ調整が認められる。残存率は良好である。24は土師器の皿である。折り曲げ口縁である。摩滅しており調整等の観察は困難である。橙色を呈する。残存率は良好である。25は土師器の皿である。折り曲げ口縁である。摩滅しており調整等の観察は困難である。外底面に回転ヘラ切り痕跡をわずかに認める。明赤褐色を呈する。24と非常によく似ている。26は須恵器の壺である。外面は回転ケズリ調整、内面はヨコナデ調整である。肩部に一条の凹線が巡る。27は須恵器の甕である。外面は回転ナデ調整による凹凸が明瞭であり、装飾的である。口唇部を摘み上げる。28は須恵器の甕である。焼成不良で摩滅している。外面には叩き痕跡、内面には当て具痕跡が認められる。29は土師器の盤である。杯底部は平らで口縁部は短く直立する。内面はミガキ調整であり、外面底部はヘラケズリ調整、体部はミガキ調整である。赤彩が施され、橙色を呈する。31は土師器の甕である。口縁部を短く外反させ、端部は丸くおさめる。口縁部はヨコナデ調整を施し、部分的にハケメ状にみえる。胴部内面はヘラケズリ調整、外面は縦方向のナデ調整である。32は土師器の甕である。口縁部はわずかに丸みを持ち、口唇部は強いヨコナデ調整により凹面状を呈し端部を摘み上げる。内面にはヨコハケ調整、外面には斜め方向の粗いハケメ調整を施す。胎土に火山ガラス、角閃石を多く含む。煤ける。

他に図示していないが、須恵器の杯蓋・高台付き杯身・甕, 土師器の杯蓋・杯身・甕, 製塩土器, 赤彩の土師器片, 古墳時代の須恵器片等が出土している。

## SD2

調査区東端部で検出した溝跡である。溝跡の東肩は調査区外である。約 24.5m 検出したが, 南北方向とも調査区外へと伸びる。検出面からの深さは約 45 cm である。埋土は灰茶色の砂礫層である。近世に掘削され近代まで使用されていた。

図示した出土遺物は陶器皿, 陶器台付灯明皿である。33は陶器の皿である。高台は断面逆台形である。内面は銅緑釉で, 見込みは蛇ノ目釉剥ぎを施し, 中心部の釉調は褐色を呈する。外面の釉調は浅黄色で, 高台以下は露胎である。腰部に砂が付着している。34は台付灯明皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施し, 底面は露胎である。他に図示していないが, 磁器の碗・皿, 陶器の皿・甕, 瓦, 土師質土器の杯, 須恵器の杯, 土師器の杯等が出土している。

## ②遺構外出土遺物

35は須恵器の甕である。外面には凹線, ヘラ状工具による刻み目文を施す。36は備前焼の甕である。外面は強いナデ調整による砂粒の移動痕跡が認められる。内面はハケメ調整である。外面は褐灰色, 内面は灰褐色を呈する。

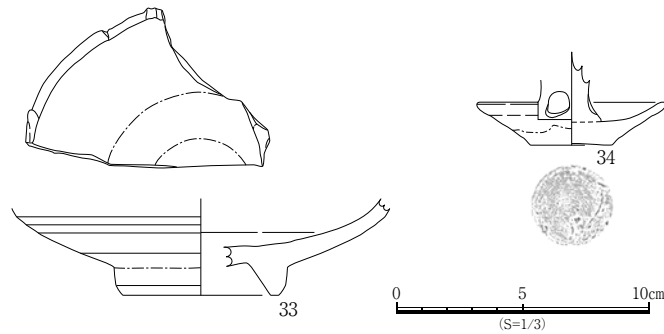


図8 08区SD2出土遺物実測図

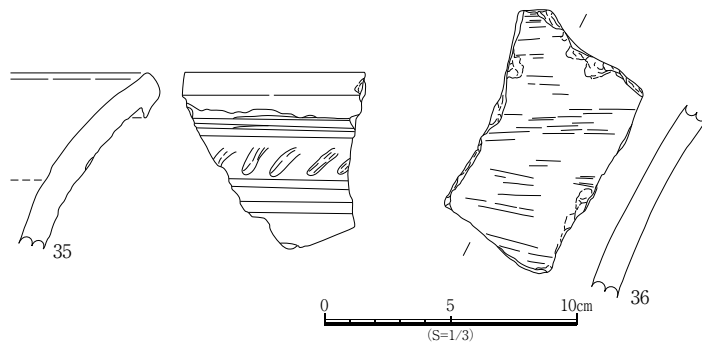


図9 08区遺構外出土遺物実測図

## 2. 平成 21・22 年度調査

### (1) 調査概要

I 区は、平成 20 年度の調査地点から約 100m 東に位置する。当調査区では、古代末～中世の自然流路跡を 2 条検出した。I・II 区の両調査区にまたがる自然流路跡(SR1)は、下田川に並行する形で検出した。ほとんど人為的に手を加えた様子は窺えず、積極的な利用はされていなかったようである。平安時代頃には存在していたと考えられ、中世頃には完全に埋没している様子が窺えた。また、耕作土壌とみられる黒褐色粘土層を調査区西部の一部で確認したのみである。この黒褐色粘土層は、SR1 が埋没後に形成されている。

II 区は I 区と同様、調査区の北側に現下田川に並行する SR1 が確認されており、調査区南側では中近世の土坑や溝跡などが検出されている。当該期における集落の中心は調査区の南側に存在する現在の集落域に重なると考えられる。なお、調査区東側で検出された近世の溝跡は比較的規模が大きいもので、当該期の用排水用水路とみられる。

III 区は宅地跡であったため、遺構の残存状態は良くないが、弥生時代、中世～近代の遺構を検出した。本調査区で中心となる時代は近世・近代とみられ、土坑・溝跡・柱穴が確認されていることから、当該期の屋敷が存在していたと考えられる。また、調査区中央部を横断する現用水路に沿って近世と考えられる溝跡が検出されており、当該期から用水路の位置は変わっていないと考えられる。このことから、この溝跡を挟んで当該期の屋敷地が存在していたとみられる。

IV 区は弥生時代と近世とみられる遺構・遺物を検出した。弥生時代と考えられる溝跡は 5 条検出されているが、本調査区内では柱穴など集落に伴う遺構は確認されておらず、この 5 条の溝跡は水田耕作等に伴う用排水路として機能していたとみられる。また、近世では調査区西側で屋敷を区画していたとみられる溝跡(SD28)を検出しており、当該期の屋敷が存在していたことが推定される。東にいくにつれ遺構密度が薄くなっており、調査区は III 区を中心とした近世の集落の東端にあたると考えられる。

V 区は、市道の東側に位置する。扁平鈕式銅鐸が出土したとされる関町田遺跡に隣接する調査区である。表土を除去すると遺構検出面となり、遺物包含層は認められない。当調査区の旧地形が周辺部より標高が高く削平されていたため残存状態は良くなかったが、弥生時代中期とみられる溝跡やピットを検出した。

VI 区は下田川の北肩に沿った不整形の調査区である。幅が狭く、トレンチを設定して調査を行った。出土遺物が皆無なため時期比定は困難であるが、掘立柱建物跡を 1 棟、土坑、性格不明遺構を検出した。

### (2) 基本層序

I 区は調査区南壁で基本層序を確認した。①層は耕作土、②層は暗褐色粘土質シルト層、③層は黒褐色シルト層、④層は褐色シルト粒を僅かに含む灰黄褐色粘土質シルト層、⑤層は褐色シルト粒を多く含む黒褐色粘土質シルト層、⑥層は 2～15 cm 大の円礫が僅かに混じる黒色シルト質粘土層、⑦層は褐色の大粒状のブロックや極小粒を多く含む灰黄褐色シルト層、⑧層は褐色シルト粒を僅かに含む暗オリーブ褐色粘土質シルト層、⑨層は炭化物や褐色シルト粒、黒褐色シルトの中粒～大粒状のブロックを極僅かに含む暗灰黄色シルト層、⑩層は黒褐色粘土質シルト層、⑪・⑫層は旧耕作土、

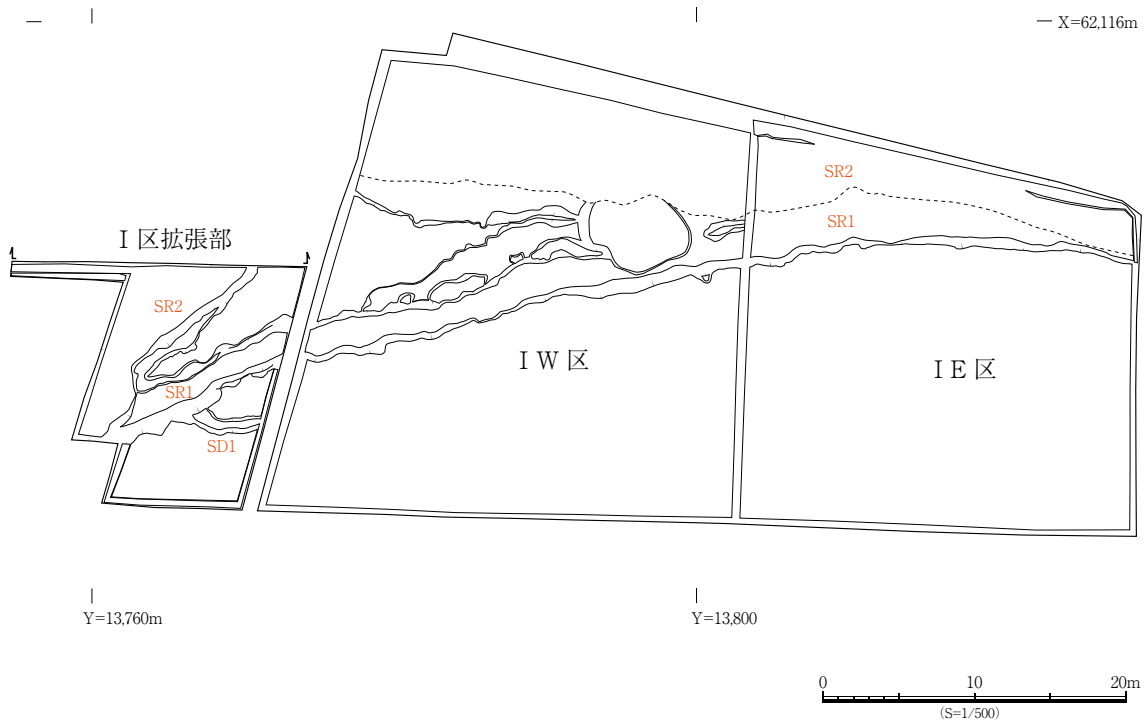


図10 I区遺構全体図(S=1/500)



図11 II区遺構全体図(S=1/500)





図12 III区遺構全体図(S=1/300)

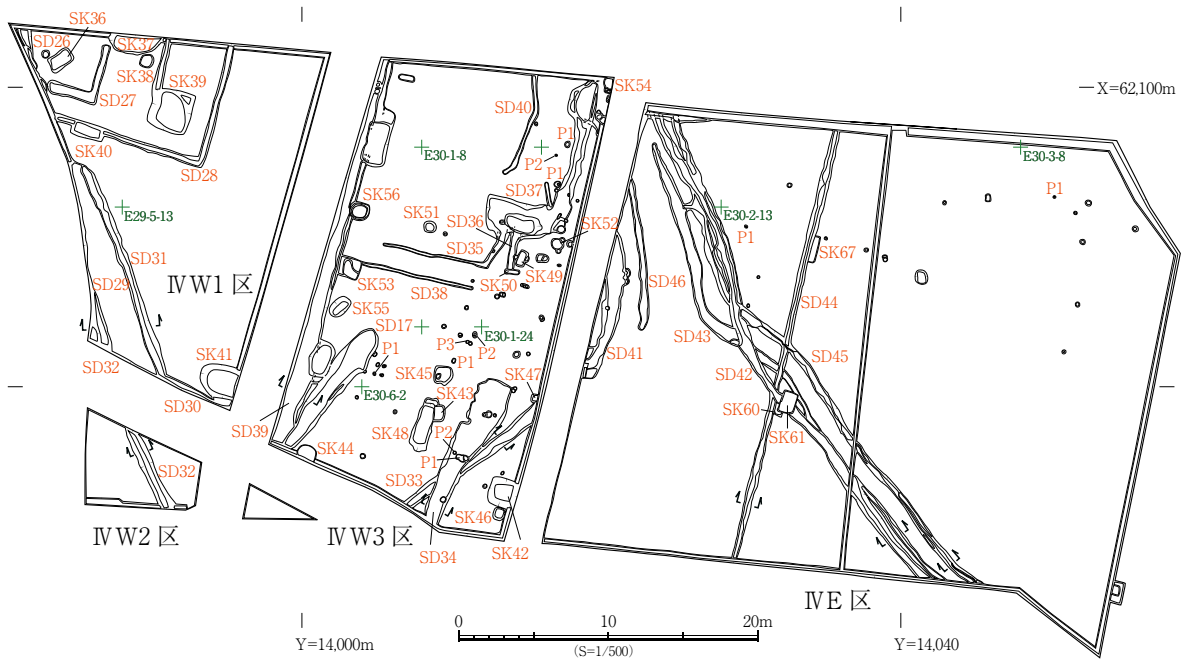


图13 IV区遺構全体図(S=1/500)

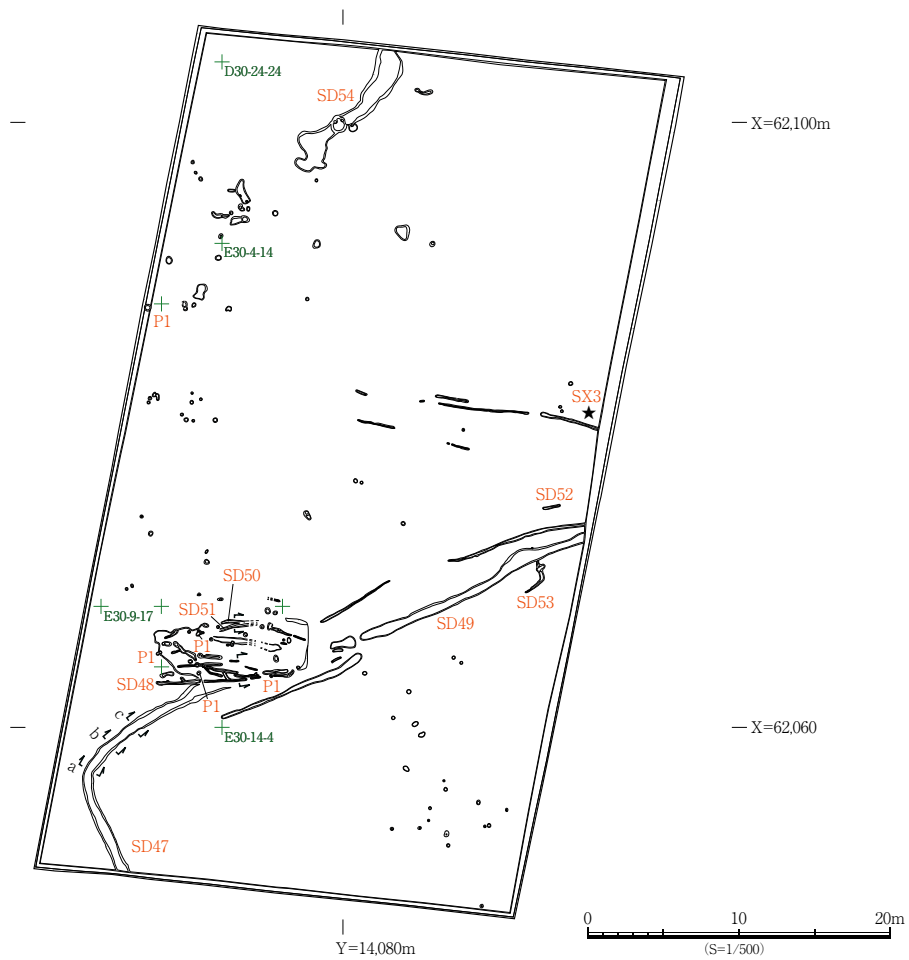


图14 V区遺構全体図(S=1/500)

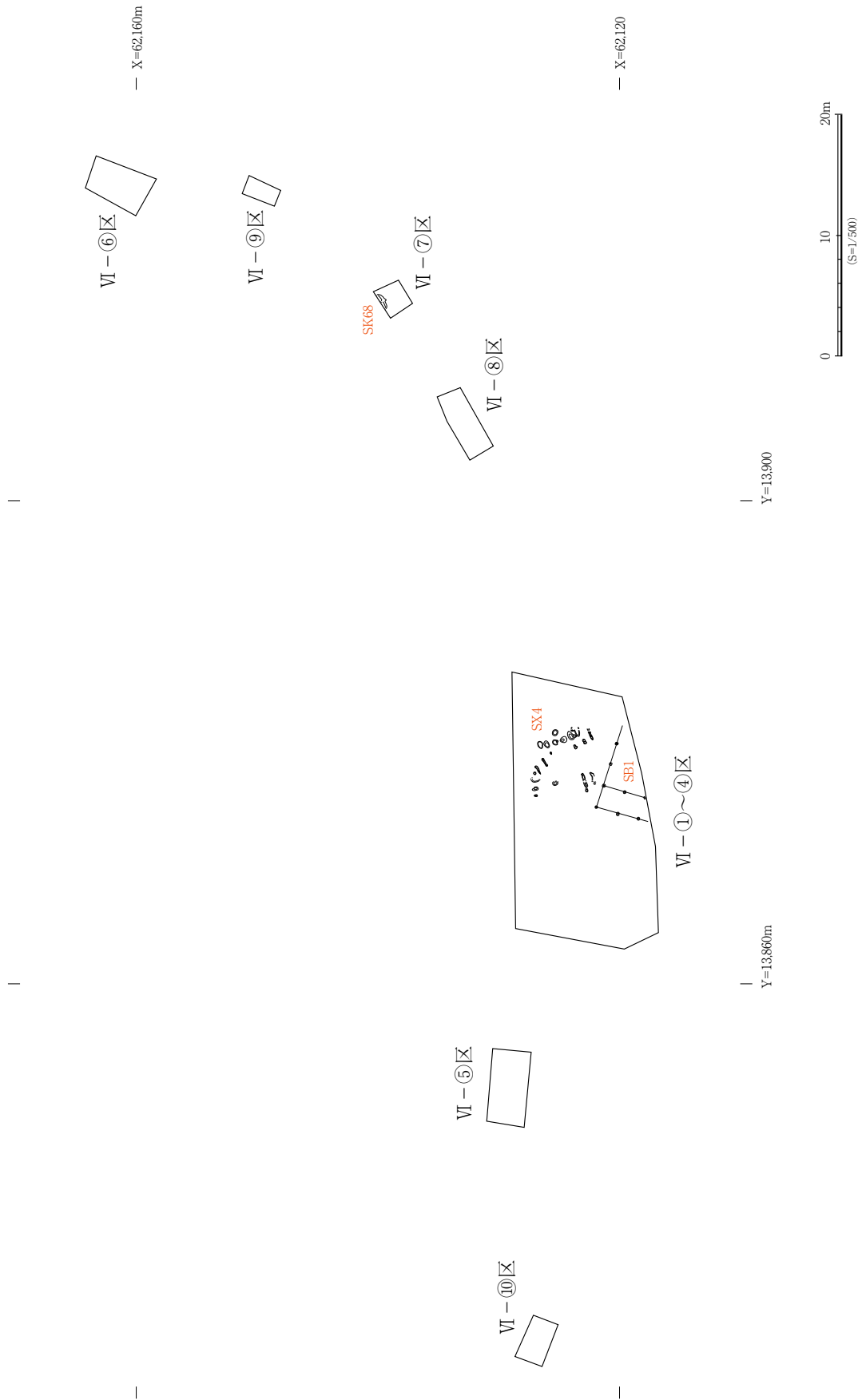


图15 VI区遺構全体図(S=1/500)

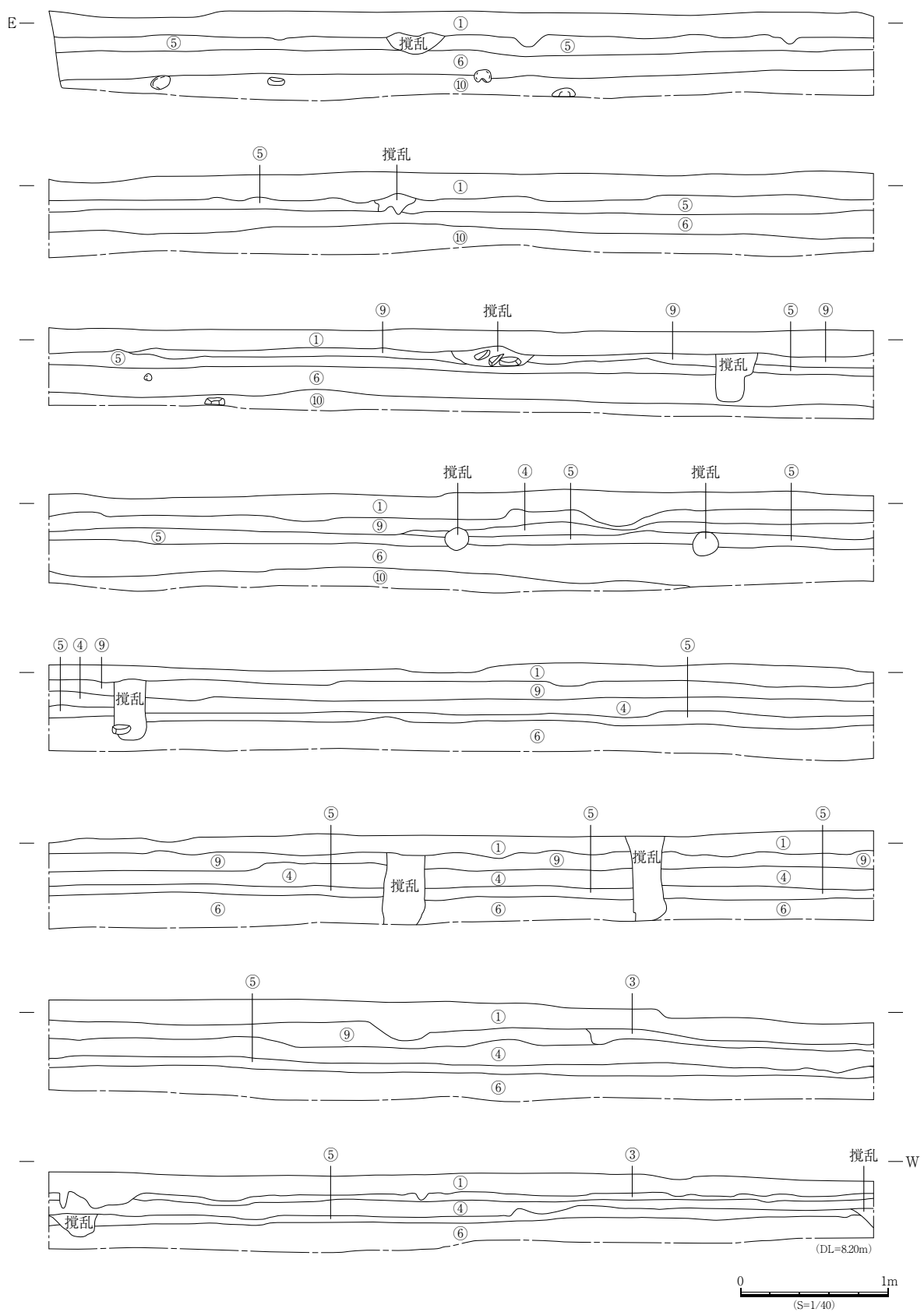
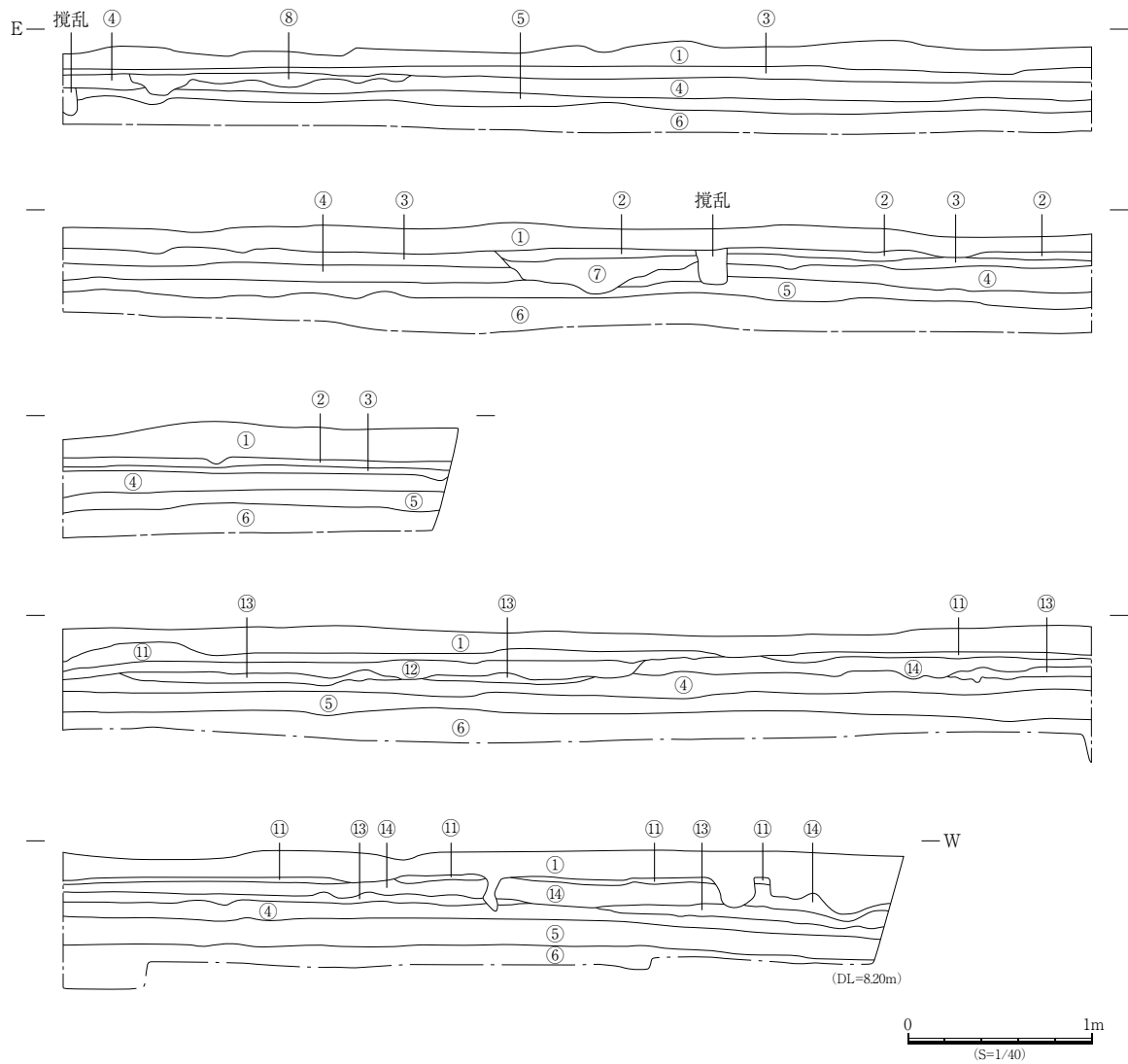


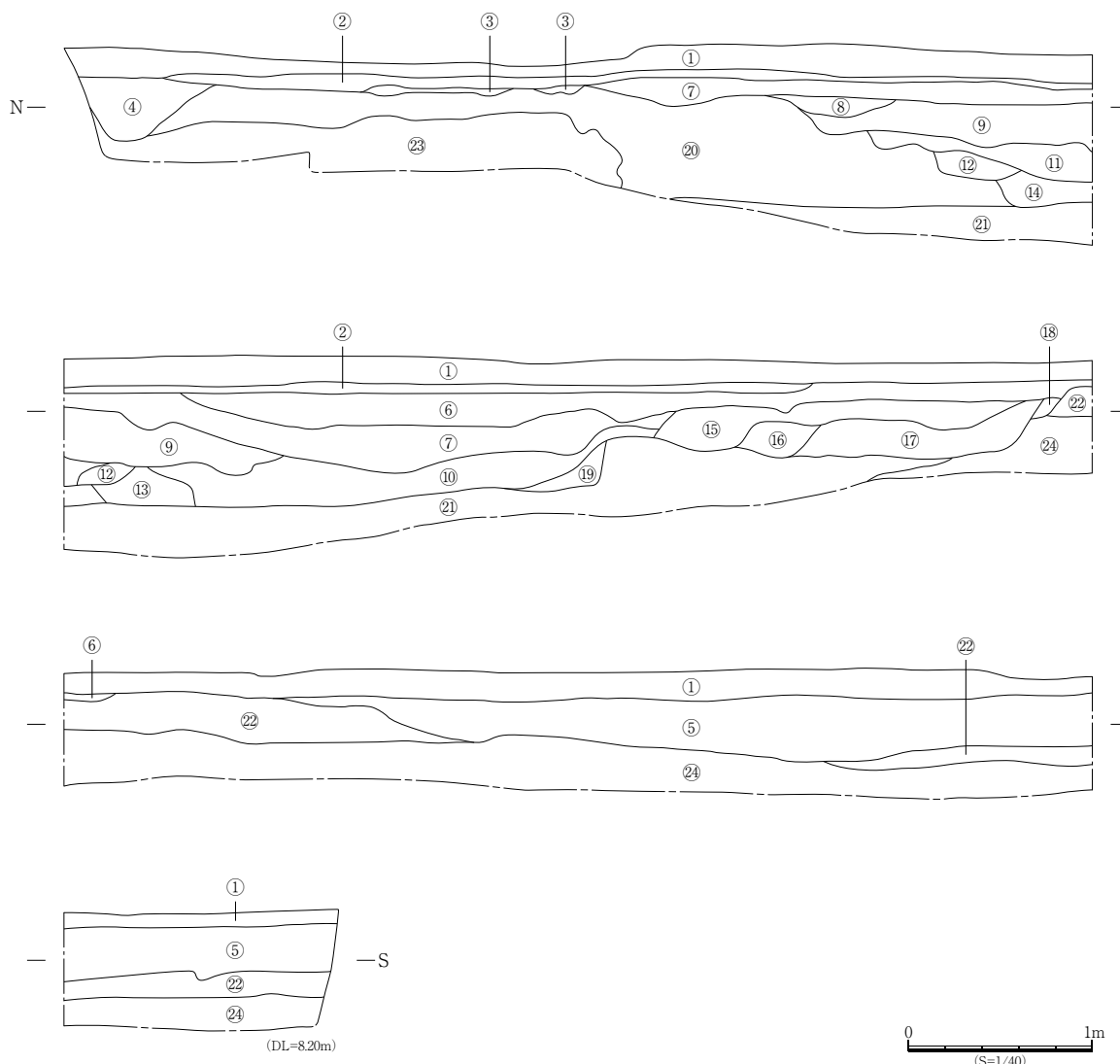
图16 I区南壁断面图1 (S=1/40)



層位

- ① 鉄分や炭化物, 1~3cmの円礫, 褐色シルト粒を極僅かに含む黒褐色 (10YR3/2) シルト層 [耕作土]
- ② 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト層
- ③ 植物の根を僅かに含む黒褐色 (10YR3/2) シルト層
- ④ 褐色シルト粒を僅かに含む灰黄褐色 (10YR4/2) 粘土質シルト層
- ⑤ 褐色シルト粒を多く含む黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト層
- ⑥ 2~15cm大の円礫が僅かに混じる黒色 (7.5YR2/1) シルト質粘土層
- ⑦ 褐色の大粒状のブロックや極小粒を多く含む灰黄褐色 (10YR4/2) シルト層
- ⑧ 褐色シルト粒を僅かに含む暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 粘土質シルト層
- ⑨ 炭化物や褐色シルト粒, 黒褐色シルトの中粒~大粒状のブロックを極僅かに含む暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト層
- ⑩ 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト層
- ⑪ 灰黄褐色 (10YR5/2) 砂質シルト層 [旧耕作土]
- ⑫ 黄褐色 (10YR5/6) 砂質シルト層 [旧耕作土]
- ⑬ 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト層 [床土]
- ⑭ 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト層

図17 I区南壁断面図2 (S=1/40)



層位

- |   |   |
|---|---|
| <p>① 黄灰色 (2.5Y4/1) 小礫を含むシルト質細粒砂層 [表土]</p> <p>② 黄褐色 (2.5Y5/3) 小礫を含むシルト質中粒砂層 [床土]</p> <p>③ 小礫を含む灰色 (5Y5/1) シルト質極細粒～中粒砂層</p> <p>④ 灰色 (5Y6/1) 中粒～粗粒砂質小～中礫層</p> <p>⑤ 小礫を含む灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質中粒～粗粒砂層</p> <p>⑥ 小～中礫を含む黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質中粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑦ 小～大礫を含む灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質細粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑧ 黄灰色 (2.5Y6/1) 細粒～粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑨ 黄灰色をブロック状に含む, 灰色 (5Y5/1) 小～中礫混じりの中粒～粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑩ 灰黄褐色 (10YR5/2) 小～大礫を含むシルト質粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑪ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 小礫質中粒～粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑫ 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質中粒砂層 [SR2埋土]</p> | <p>⑬ 黄灰色をブロック状に含む, 灰色 (5Y5/1) 小～中礫混じりの中粒～粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑭ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質細粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑮ 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト質細粒～粗粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑯ 黄灰色 (2.5Y5/1) 小～中礫を含むシルト質中粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑰ 灰色 (5Y5/1) 中粒～粗粒砂質小～中礫層 [SR2埋土]</p> <p>⑱ 褐灰色 (10YR4/1) シルト質中粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑲ 灰色 (5Y5/1) 細粒～中粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>⑳ 小礫を多量に含む暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質中粒砂層 [SR2埋土]</p> <p>㉑ 灰色 (5Y5/1) 中粒～極粗粒砂質小～大礫層 [SR2埋土]</p> <p>㉒ 黒褐色 (10YR3/1) シルト質極細粒～中粒砂層</p> <p>㉓ 黄灰色 (2.5Y5/1) シルト質極細粒～粗粒砂層</p> <p>㉔ 褐灰色 (10YR4/1) シルト質中粒砂層</p> |
|---|---|

図18 II区南北バンク断面図 (S=1/40)

⑬層は床土、⑭層は暗褐色粘土質シルト層である。

Ⅱ区は調査区内に設定した土層観察用のアゼで基本層序を確認した。耕作土、床土、灰黄褐色シルト質中粒砂～粗粒砂層、黒褐色シルト質極細粒砂～中粒砂層、褐灰色中粒砂層である。①層は表土、②層は床土、③層は小礫を含む灰色シルト質極細粒～中粒砂層、④層は灰色砂礫層、⑤層は小礫を含む灰黄褐色シルト質中粒～粗粒砂層、⑥層は小～中礫を含む黄灰色シルト質中粒砂層[SR2埋土]、⑦層は小～大礫を含む灰黄褐色シルト質細粒砂層[SR2埋土]、⑧層は黄灰色細粒～粗粒砂層[SR2埋土]、⑨層は灰色小～中礫混じりの中粒～粗粒砂層[SR2埋土]、⑩層は灰黄褐色小～大礫を含むシルト質粗粒砂層[SR2埋土]、⑪層は暗灰黄色小礫質中粒～粗粒砂層[SR2埋土]、⑫層は灰黄褐色シルト質中粒砂層[SR2埋土]、⑬層は灰色小～中礫混じりの中粒～粗粒砂層[SR2埋土]、⑭層は暗灰黄色シルト質細粒砂層[SR2埋土]、⑮層は灰黄褐色シルト質細粒～粗粒砂層[SR2埋土]、⑯層は黄灰色小～中礫を含むシルト質中粒砂層[SR2埋土]、⑰層は灰色中粒～粗粒砂質小～中礫層[SR2埋土]、⑱層は褐灰色シルト質中粒砂層[SR2埋土]、⑲層は灰色細粒～中粒砂層[SR2埋土]、⑳層は小礫を多量に含む暗灰黄色シルト質中粒砂層[SR2埋土]、㉑層は灰色砂礫層[SR2埋土]、㉒層は黒褐色シルト質極細粒～中粒砂層、㉓層は黄灰色シルト質極細粒～粗粒砂層、㉔層は褐灰色シルト質中粒砂層である。

ⅢE区は南壁で基本層序を確認した。①層は小礫を含む褐灰色シルト質中粒砂層、②層は小～中礫を含む黄灰色シルト質細粒～中粒砂層、③層は小礫を含む褐灰色シルト質中粒砂層、④層は灰色小～大礫を含むシルト質粗粒砂層[SK29埋土]、⑤層は褐灰色小～中礫質中粒～粗粒砂層[SK29埋土]である。

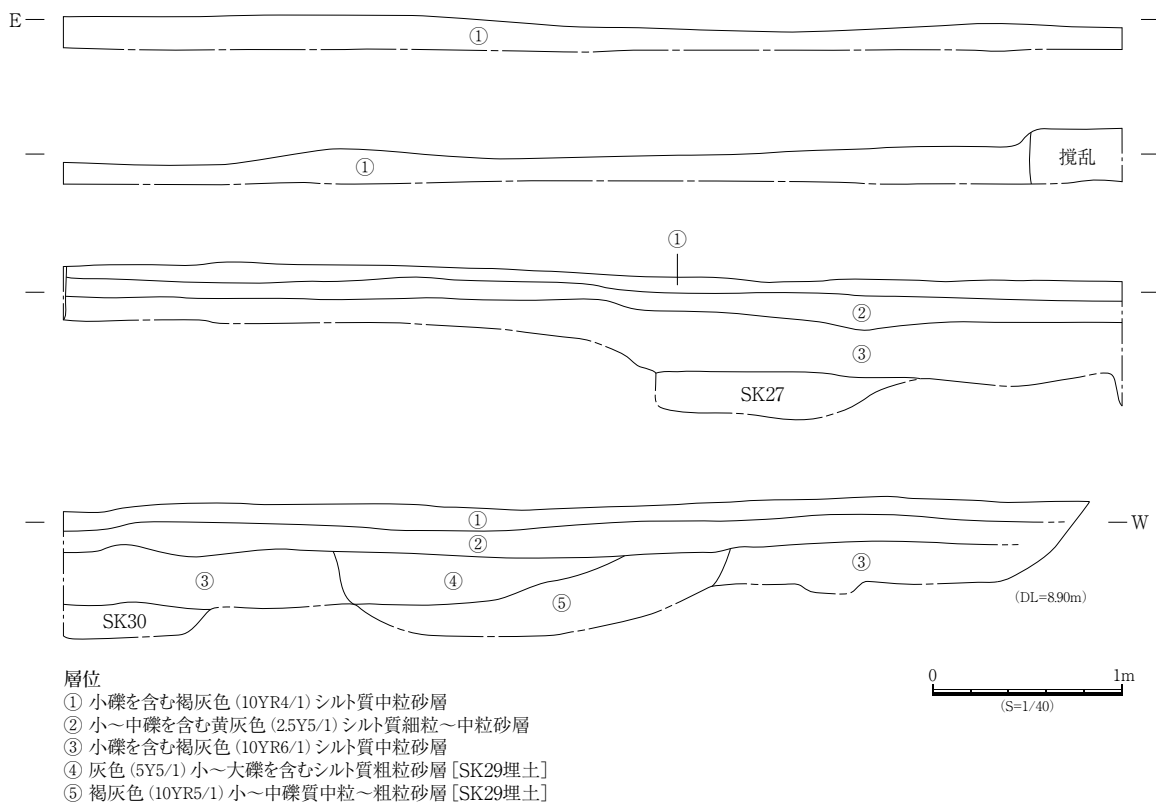
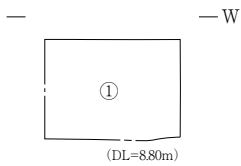
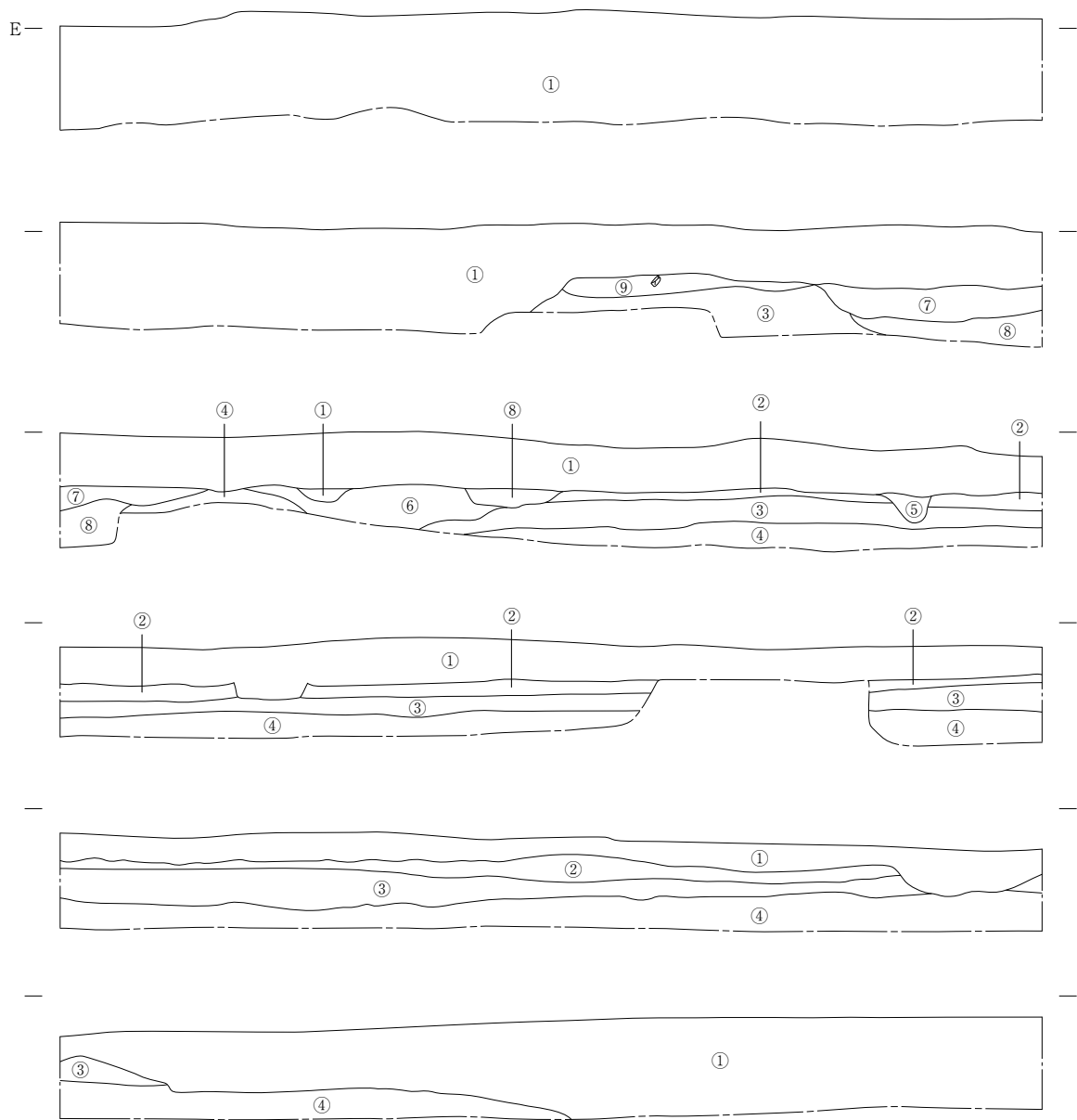


図19 Ⅲ区南壁断面図1 (S=1/40)



層位

- ① 攪乱
- ② オリーブ褐色 (2.5Y4/6) 中粒砂層
- ③ オリーブ褐色 (7.5Y4/4) シルト質砂層, 鉄分沈着
- ④ 灰オリーブ色 (5Y4/2) 砂質シルト層
- ⑤ 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂層, 鉄分沈着 [ピット埋土か]
- ⑥ 暗褐色 (10YR3/3) 細粒砂層 [SD16埋土]
- ⑦ 極粗粒中礫を含む褐灰色 (10YR4/1) 細粒砂層 [SD17埋土]
- ⑧ 粗粒中礫を含む灰色 (7.5Y4/1) 中粒砂層
- ⑨ 黒褐色 (2.5Y3/2) 中粒砂層

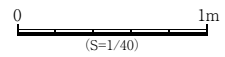
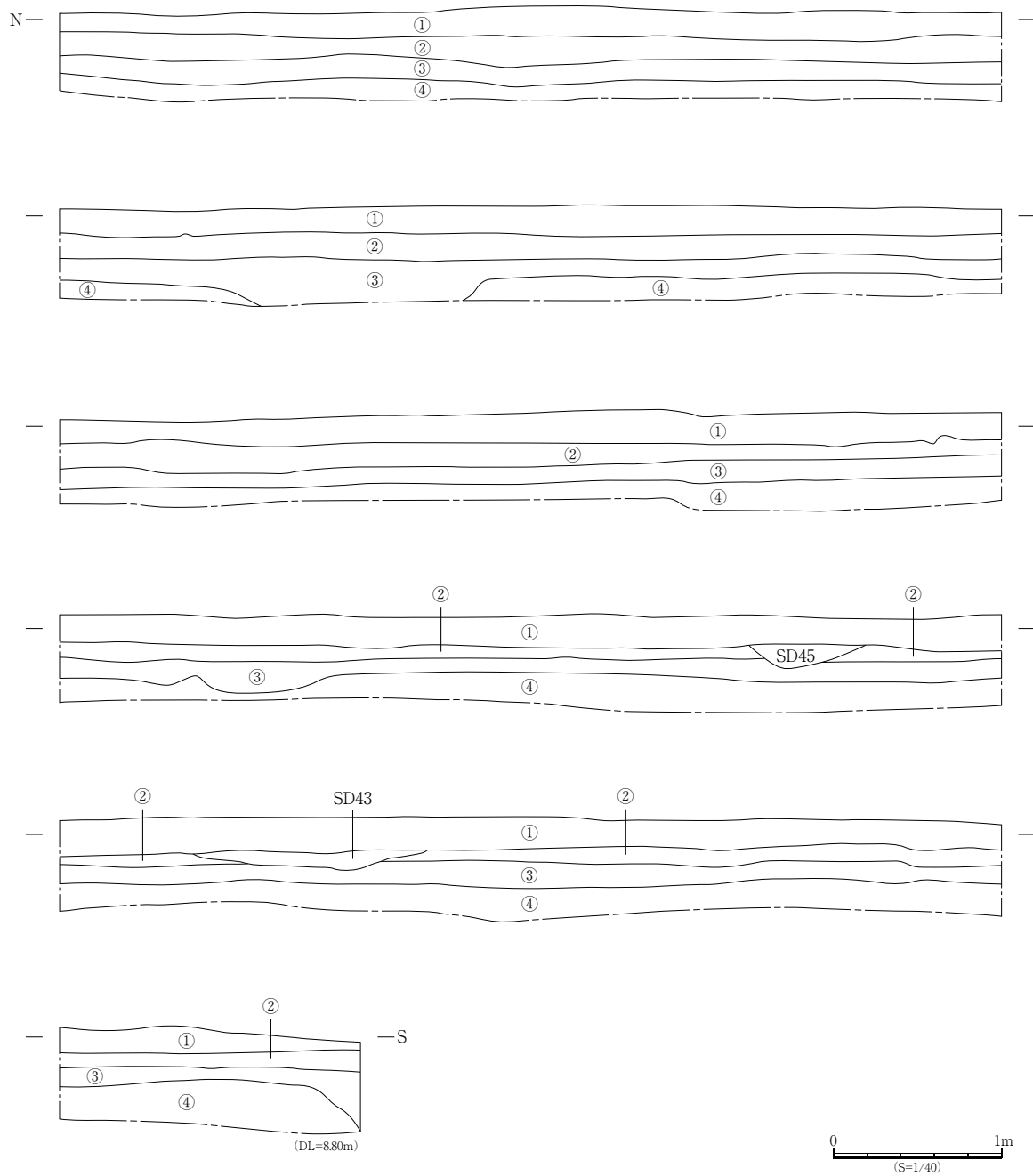


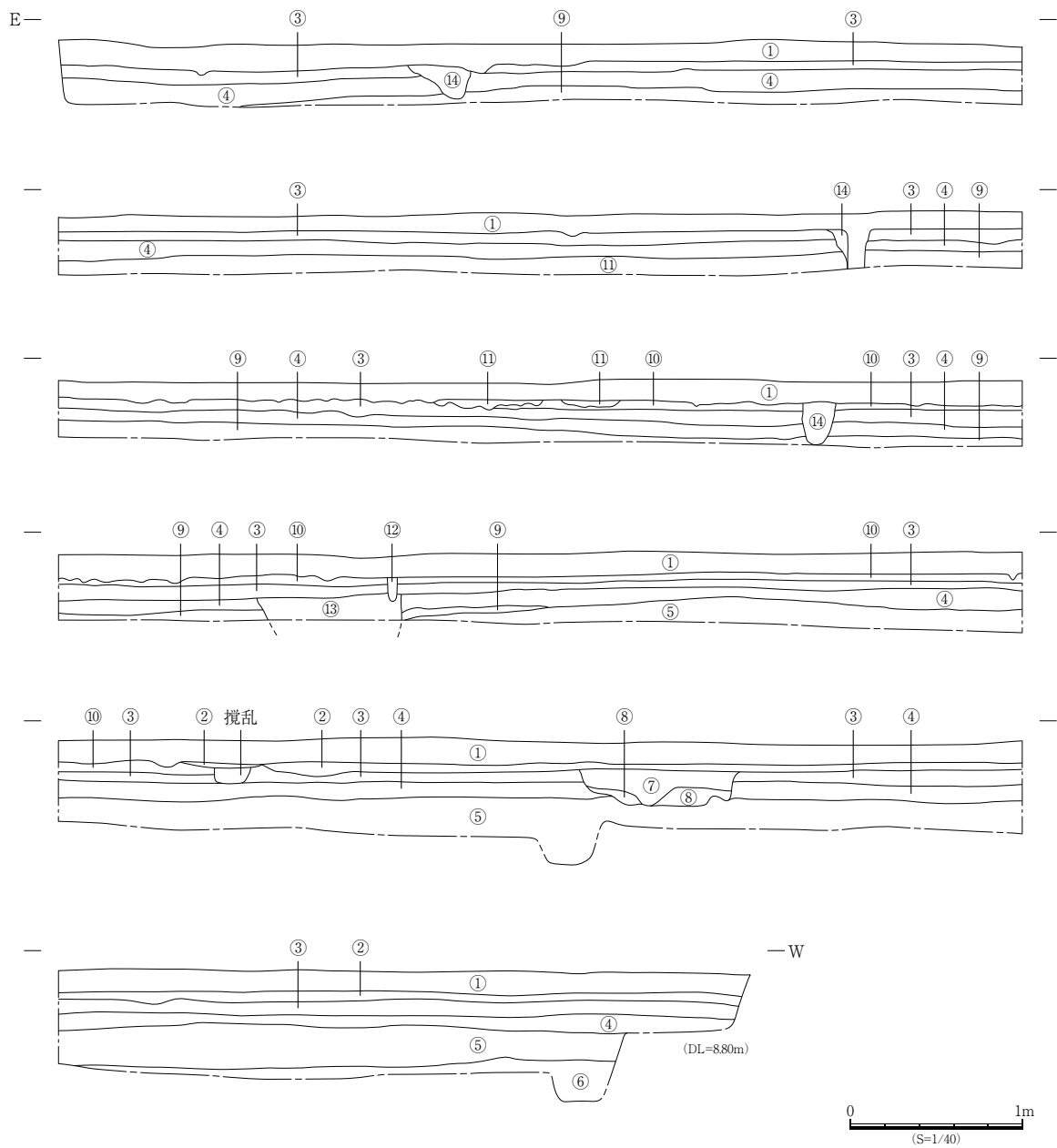
図20 III区南壁断面図2 (S=1/40)





- 層位
- ① 小礫を含む暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質中粒砂層
  - ② 褐灰色 (10YR4/1) シルト質細粒～中粒砂層
  - ③ 黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質中粒砂層
  - ④ 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質粗粒砂層

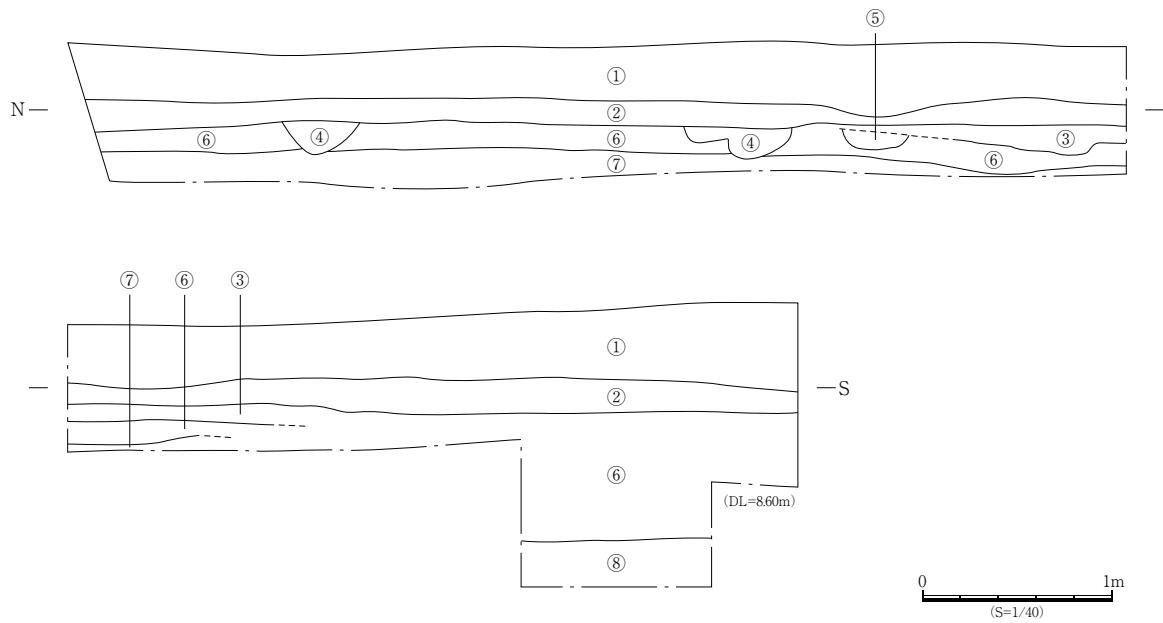
図21 IV区南北バンク断面図1 (S=1/40)



層位

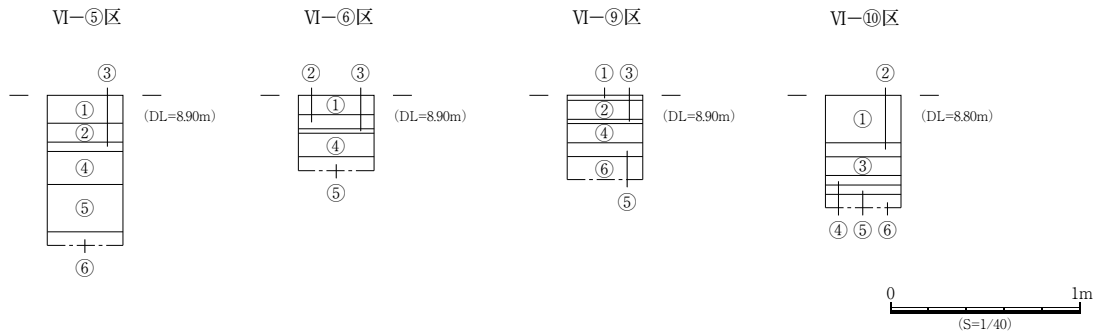
- |                                  |                                   |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ① オリーブ黒色 (5Y3/2) 粘土質シルト層 [表土]    | ⑧ 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト層 [SD47埋土]   |
| ② 小礫含む, 褐色 (10YR4/4) シルト質砂層      | ⑨ 暗オリーブ褐色 (2.5Y3/3) 砂質シルト層        |
| ③ 黒褐色 (10YR3/2) 砂質シルト層 [遺構検出面]   | ⑩ 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト質粘土層           |
| ④ 暗褐色 (10YR3/3) シルト層             | ⑪ 暗灰黄色 (2.5Y4/2) 砂質シルト層           |
| ⑤ 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト層             | ⑫ オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト層 [遺構埋土] |
| ⑥ オリーブ褐色 (2.5Y4/4) シルト質粘土層, 鉄分沈着 | ⑬ 黒褐色 (7.5YR3/2) シルト層 [溝か]        |
| ⑦ 暗褐色 (10YR3/3) シルト質粘土層 [SD47埋土] | ⑭ 暗褐色 (10YR3/2) 砂質シルト層 [遺構埋土]     |

図22 V区南壁断面図(S=1/40)



VI-①区

- ① 耕作土〔表土〕
- ② 明黄褐色 (2.5Y7/6) 細砂混じりシルト層
- ③ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト層
- ④ 褐灰色 (10YR4/1) 細砂混じりシルト層〔遺構埋土〕
- ⑤  $\phi$ 1cm以下の小石混じり黄灰色 (2.5Y5/1) 砂層〔遺構埋土〕
- ⑥ 黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂～微細砂層
- ⑦ 灰黄褐色 (10YR5/2) 微細粒砂層
- ⑧ にぶい黄褐色 (10YR4/3) 砂礫層



VI-⑤区

- ① 耕作土〔表土〕
- ② 黄色がかる細砂混じり灰黄色 (2.5Y6/2) シルト層
- ③ 部分的に橙色がかる黄灰色 (2.5Y6/1) 砂層
- ④ 明黄褐色 (10YR7/6)～灰黄色 (2.5Y7/2) シルト～ $\phi$ 1mm砂層
- ⑤ 黒色 (N 2/0) 粘土層
- ⑥ 砂礫層

VI-⑥区

- ① 耕作土
- ② 黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂混じりシルト層
- ③ 黄褐色 (2.5Y5/3) 細砂混じりシルト層
- ④  $\phi$ 2cm以下の小礫をやや多く含む黒褐色 (10YR3/1) 粘土層
- ⑤ 褐灰色 (10YR4/1)～灰黄褐色 (10YR4/2) 砂礫層

VI-⑨区

- ① 褐灰色 (10YR6/1) 細砂混じりシルト層〔耕作土〕
- ② 灰色に少し黄色がかる細砂混じり褐灰色 (10YR6/1) シルト層〔耕作土〕
- ③ 黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂混じりシルト層
- ④ 黒色 (7.5YR2/1) 粘土に近いシルト層
- ⑤ 黒褐色 (10YR3/1) 細砂混じりシルト層
- ⑥  $\phi$ 1mm～2mm大の砂が多い砂礫層

VI-⑩区

- ① 盛土
- ② 黄灰色 (2.5Y6/1) 細砂混じりシルト層
- ③ にぶい黄色 (2.5Y6/3) 細砂混じりシルト層
- ④ 灰黄色 (2.5Y6/2) 細砂混じりシルト層
- ⑤ 黒褐色 (10YR3/1) シルト層
- ⑥ 人頭大以下の礫を含む砂礫層

図23 VI区断面図・柱状図(S=1/40)

Ⅲ W区は南壁で基本層序を確認した。①層は攪乱, ②層はオリーブ褐色中粒砂層, ③層はオリーブ褐色シルト質砂層, ④層は灰オリーブ色砂質シルト層, ⑤層は暗褐色細粒砂層[ピット埋土か], ⑥層は暗褐色細粒砂層[SD16埋土], ⑦層は極粗粒中礫を含む褐灰色細粒砂層[SD17埋土], ⑧層は粗粒中礫を含む灰色中粒砂層, ⑨層は黒褐色中粒砂層である。

Ⅳ区はⅣ E区内に設定した土層観察用のアゼで観察した。①層は小礫を含む暗灰黄色シルト質中粒砂層, ②層は褐灰色シルト質細粒～中粒砂層, ③層は黄灰色シルト質中粒砂層, ④層は暗灰黄色シルト質粗粒砂層である。

V区は調査区南壁で基本層序を確認した。①層は表土, ②層は小礫含む褐色シルト質砂層, ③層は黒褐色砂質シルト層, ④層は暗褐色シルト層, ⑤層は黄褐色シルト層, ⑥層はオリーブ褐色シルト質粘土層, ⑦層は暗褐色シルト質粘土層[SD47埋土], ⑧層は黒褐色砂質シルト層[SD47埋土], ⑨層は暗オリーブ褐色砂質シルト層, ⑩層は黒褐色シルト質粘土層, ⑪層は暗灰黄色砂質シルト層, ⑫層はオリーブ褐色粘土質シルト層[遺構埋土], ⑬層は黒褐色シルト層[溝か], ⑭層は暗褐色砂質シルト層[遺構埋土]である。

Ⅵ区はⅥ-①区の東壁, Ⅵ-⑤区, Ⅵ-⑥区, Ⅵ-⑨区, Ⅵ-⑩区で基本層序を確認した。Ⅵ-①区の①層は表土, ②層は明黄褐色細砂混じりシルト層, ③・④層は褐灰色細砂混じりシルト層, ⑤層は砂礫層である。③・⑥層上面で遺構を検出した。この層は小石が集中する箇所が所々にみられた。⑥層は約60cmの層厚があり, その下は砂礫層である。Ⅵ-⑤区の①層は表土, ②層は灰黄色細砂混じりシルト層, ③層は黄灰色極細粒砂層, ④層は明黄褐色～灰黄色を呈するシルト～極細粒砂層, ⑤層は黒色粘土層, ⑥層は砂礫層である。Ⅵ-⑥区の①層は耕作土, ②層は黄灰色細砂混じりシルト層, ③層は黄褐色細砂混じりシルト層, ④層は直径2cm以下の小礫をやや多く含む黒褐色粘土層, ⑤層は褐灰色～灰黄褐色を呈した砂礫層である。Ⅵ-⑨区の①層・②層は耕作土, ③層は黄灰色細砂混じりシルト層, ④層は黒色粘土に近い～シルト層, ⑤層は黒褐色細砂混じりシルト層, ⑥層は砂礫層である。Ⅵ-⑩区の①層は盛土, ②層は黄灰色細砂混じりシルト層, ③層はにぶい黄色細砂混じりシルト層, ④層は灰黄色細砂混じりシルト層, ⑤層は黒褐色シルト層, ⑥層は砂礫層である。

(3)検出遺構と出土遺物

① SB

SB1

Ⅵ-①区で検出した掘立柱建物跡である。東西3間, 南北2間を検出したが, 調査区外へひろがり全体像は不明である。柱穴の直径は約20~30cmであり, 柱穴間の距離は1.78~1.92mである。南北軸はN-15°-E, 東西軸はN-106°-Eであり, 香長条理の方向と近似している。柱穴からの出土遺物が皆無であり, 時期は不明である。

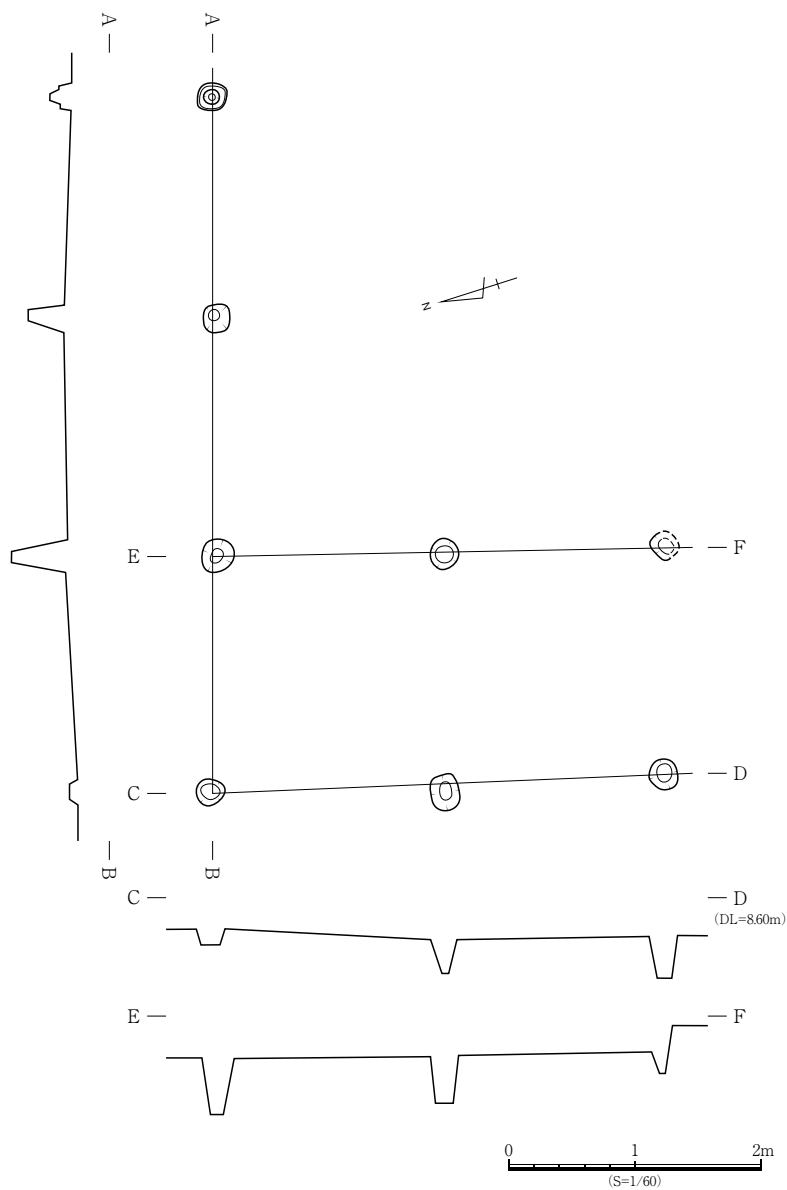


図24 SB1平面図・エレベーション図

② SK

SK1

II区西部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約1.8m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約13cmである。埋土は褐灰色(10YR5/1)シルト質砂である。

図示していないが、土師質土器の破片が出土している。

SK2

II区南部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約2.2m、短軸約1.4m、検出面からの深さ約25cmである。埋土は1層が褐灰色(10YR4/1)シルト質砂、2層が黒褐色(10YR3/1)シルト質砂である。

図示していないが、土師質土器の破片が出土している。

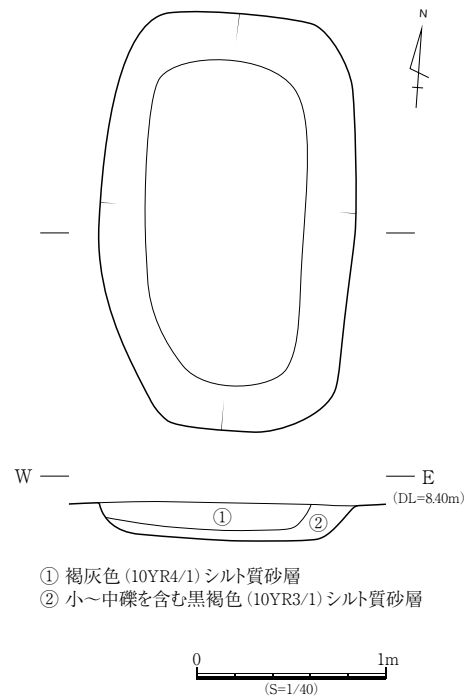


図25 SK2平面図・断面図

SK3

III W区東部で検出した楕円形の土坑で、長軸約1.4m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約19cmである。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の皿、台付灯明皿である。37は蛇ノ目凹形高台の輪花皿である。外底面に砂が付着している。酸化コバルトにより内外面に文様を施す。見込みは松竹梅文である。38は台付灯明皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施し、外底面は露胎である。ほぼ完存である。他に図示していないが、土師質土器の破片が出土している。

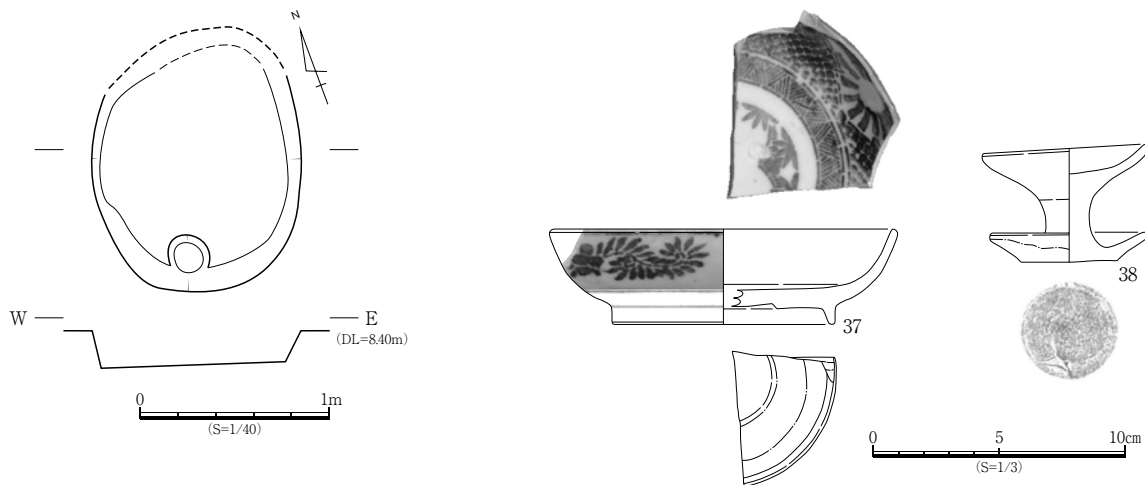


図26 SK3平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

SK4

Ⅲ W区南部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約2.5m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約5cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)中粒砂層である。

図示していないが、須恵器、土師質土器の破片が出土している。

SK5

Ⅲ W区南部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約1.9m、短軸約1.3m、検出面からの深さ約5cmである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂である。

出土遺物は弥生土器1点、土師質土器1点である。図示した遺物は弥生土器である。39は弥生土器の底部である。摩滅しており調整等の観察は困難である。他に弥生土器とみられる破片が出土している。

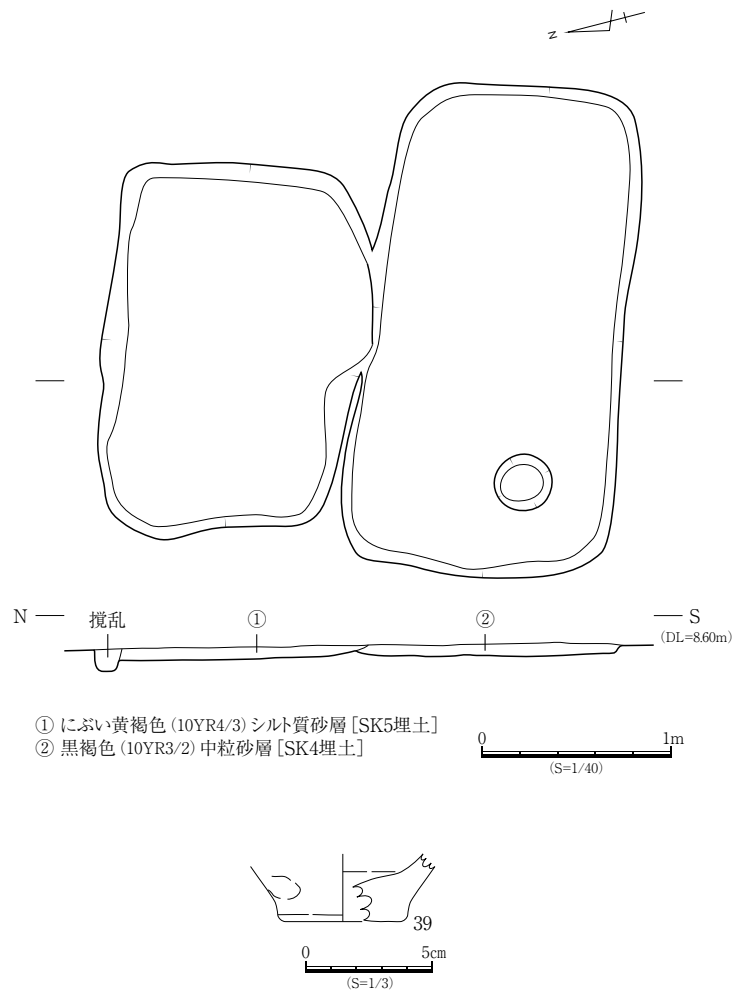


図27 SK4・5平面図・断面図・出土遺物実測図

### SK7

Ⅲ W区南部で検出した隅丸長方形の土坑で、攪乱に切られている。長軸約 1.2m、残存辺約 0.6m、検出面からの深さ約 11 cm である。埋土はにぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂である。

出土遺物は弥生土器 1 点、須恵器 2 点、土師質土器 5 点、白磁 1 点である。図示した遺物は土師質土器の小皿である。40 は土師質土器の小皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。他に図示していないが、磁器の皿、須恵器、土師質土器の破片が出土している。

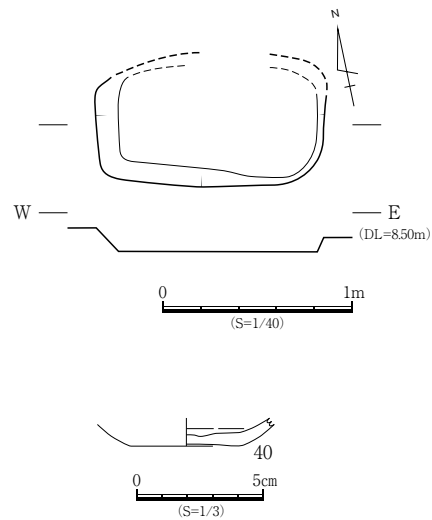
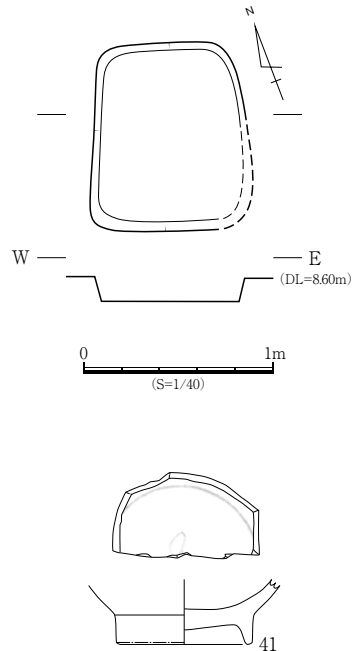


図28 SK7平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

### SK8

Ⅲ W区南部で検出した円形の土坑で、直径約 0.7m、検出面からの深さ約 33 cm である。埋土は褐色 (10YR4/4) シルト質砂である。



### SK9

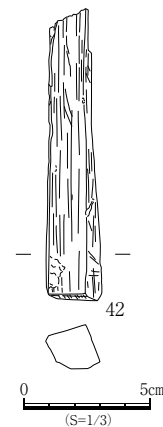
Ⅲ W区中央部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約 3.2m、短軸約 1.8m、検出面からの深さ約 35 cm である。埋土は褐色 (10YR4/4) シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗が出土している。

### SK10

Ⅲ W区中央部で検出した方形の土坑で、長軸約 1.1m、短軸約 0.7m、検出面からの深さ約 14 cm である。埋土は黒褐色 (10YR3/2) である。

図示していないが、陶器の破片が出土している。



### SK11

Ⅲ W区中央部で検出した方形のハンダ

図29 SK11平面図・エレベーション図・出土遺物実測図



土坑で、長軸約1.0m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約13cmである。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質砂である。

出土遺物は近世磁器2点、石製品1点である。図示した遺物は磁器の碗、砥石である。41は磁器の広東形碗である。高台は直立し、畳付けには釉剥ぎを施す。見込みには圈線文と文様を描く。外面にも文様の一部がごくわずか残存している。42は凝灰岩製の砥石である。側面には鋸引き痕跡が認められる。明瞭な使用痕跡は1面のみである。他に図示していないが、磁器の碗が出土している。

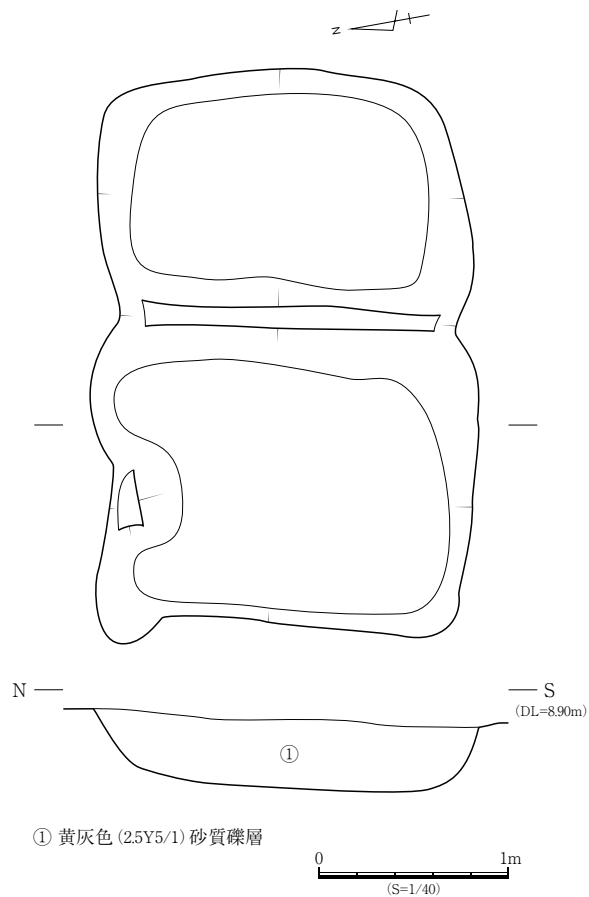


図30 SK16平面図・断面図

### SK12

Ⅲ W区北部で検出した方形の土坑で、長軸約1.1m以上、短軸約0.9m、検出面からの深さ約21cmである。SK13に切られる。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示していないが、須恵器の破片が出土している。

### SK13

Ⅲ W区北部で検出した溝状の土坑で、長軸約2.3m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約17cmである。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質砂である。

### SK14

Ⅲ W区北西部で検出した長楕円形の土坑で、長軸約1.1m、短軸約0.7m、検出面からの深さ約33cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

### SK15

Ⅲ W区北西部で検出した円形の土坑で、直径約0.6m、検出面からの深さ約5cmである。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質砂である。

### SK16

Ⅲ E区南西部で検出した隅丸長方形の土坑で、SK33を切る。長軸約1.9m、短軸約1.6m、検出面からの深さ約39cmである。埋土は黄灰色(2.5Y5/1)砂質礫である。

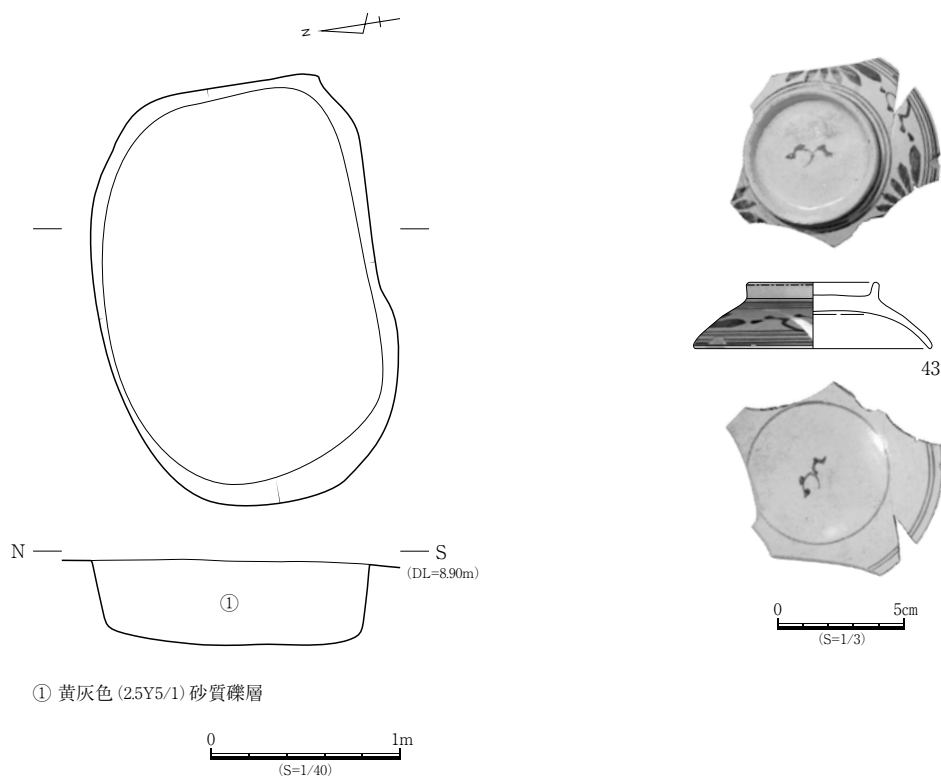


図31 SK17平面図・断面図・出土遺物実測図

### SK17

Ⅲ E区南西部で検出した楕円形の土坑で、長軸約2.2m、短軸約1.5m、検出面からの深さ約44cmである。埋土は黄灰色(2.5Y5/1)砂質礫である。

図示した遺物は陶器の蓋である。43は陶器の蓋である。摘み端部に釉剥ぎを施す。外面、多重圏線文を上下に配置し、間に唐草文を描く。内面は二重圏線文と圏線文、見込みには摘み内と同じ唐草文を描く。

### SK18

Ⅲ E区中央部で検出した隅丸長方形の土坑で、SK19を切る。長軸約1.7m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約22cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

### SK19

Ⅲ E区中央部で検出した楕円形の土坑で、SK18に切られる。長軸約1.2m以上、短軸約1.1m、

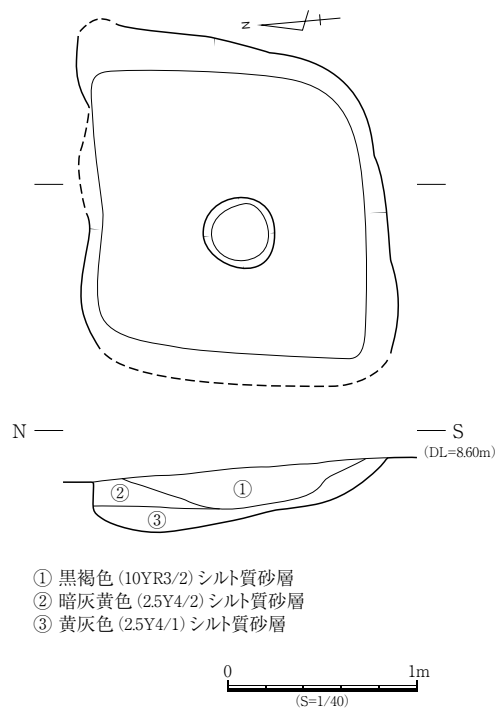


図32 SK22平面図・断面図

検出面からの深さ約19cmである。埋土は黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルトである。

図示していないが、磁器の皿、陶器の碗が出土している。

SK20

ⅢE区中央部で検出した隅丸方形の土坑で、長軸約0.6m、短軸約0.5m、検出面からの深さ約7cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

遺物は出土していない。

SK21

ⅢE区南西部で検出した溝状の土坑で、長軸約1.2m、短軸約0.5m、検出面からの深さ約30cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示していないが、陶器の受付灯明皿が出土している。

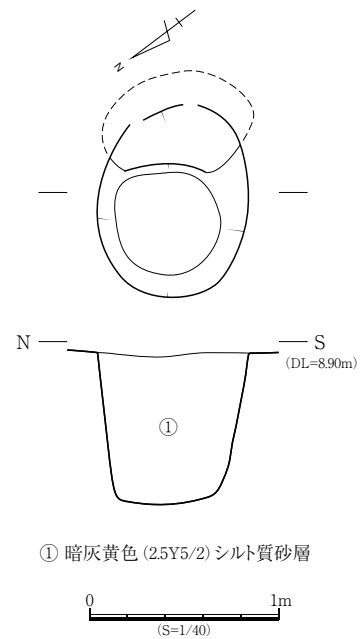


図33 SK24平面図・断面図

SK22

ⅢE区南西部で検出した隅丸長方形の土坑で、SK26に切られる。長軸約1.8m、短軸約1.6m、検出面からの深さ約31cmである。埋土は1層が黒褐色(10YR3/2)シルト質砂、2層が暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂、3層が黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂である。

図示していないが、陶器の碗・甕、土師質土器の小皿、軒平瓦等が出土している。

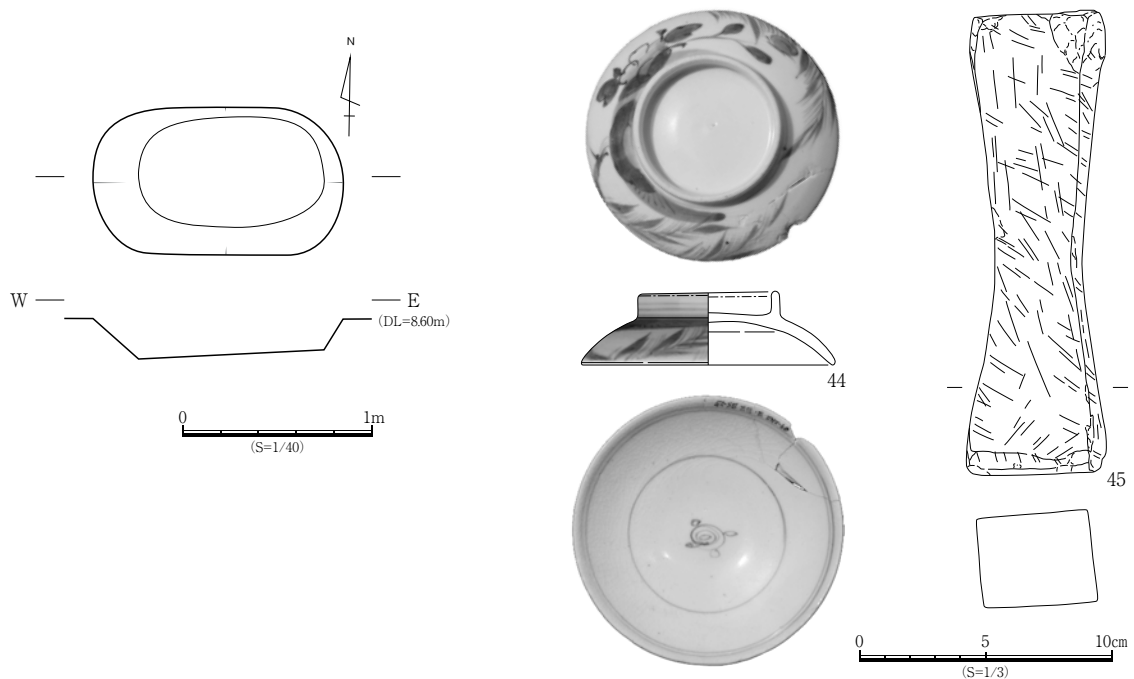


図34 SK25平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

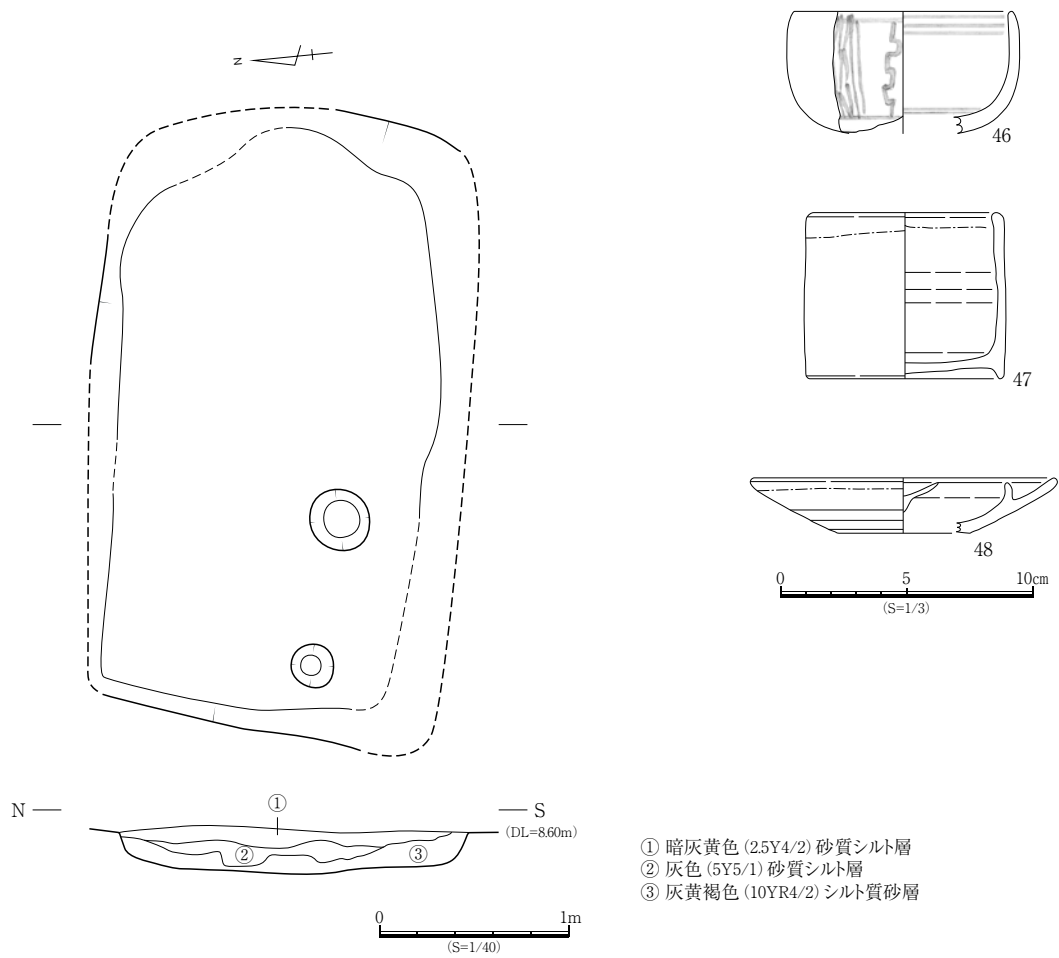


図35 SK26平面図・断面図・出土遺物実測図

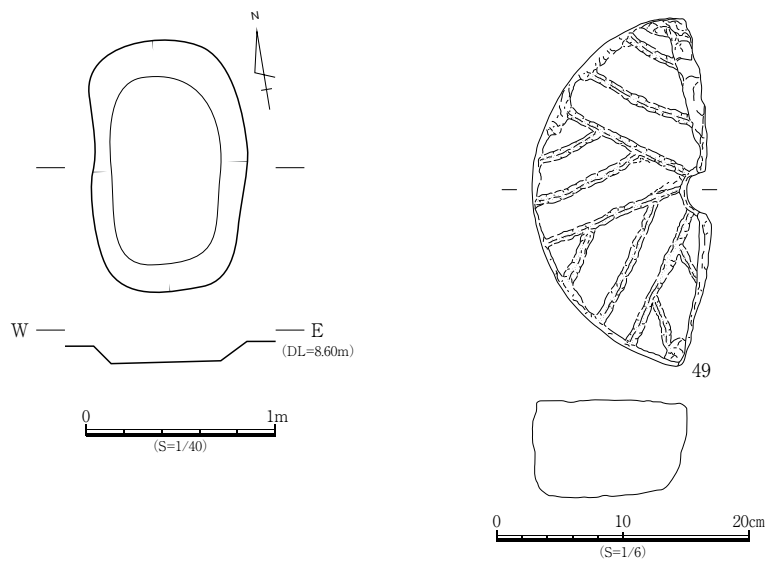


図36 SK28平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

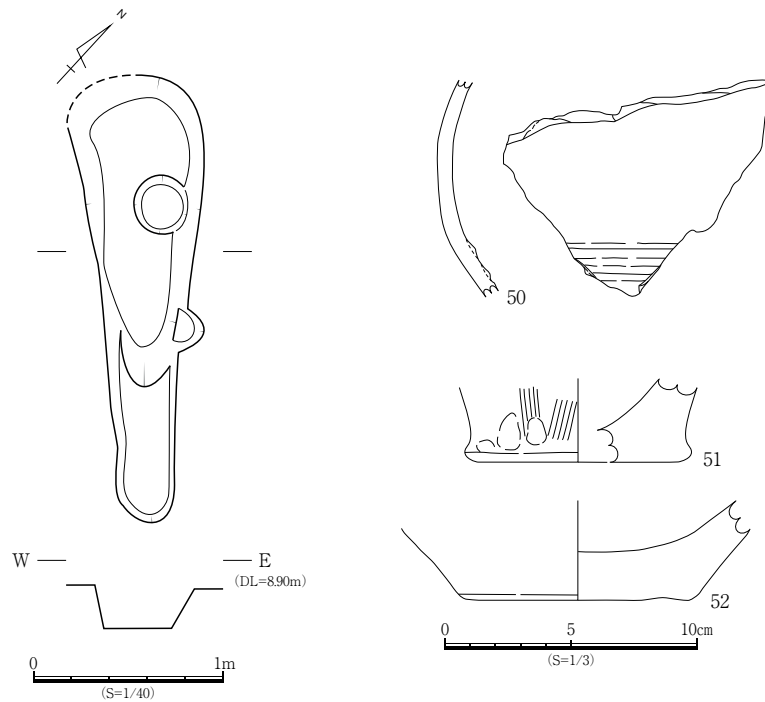
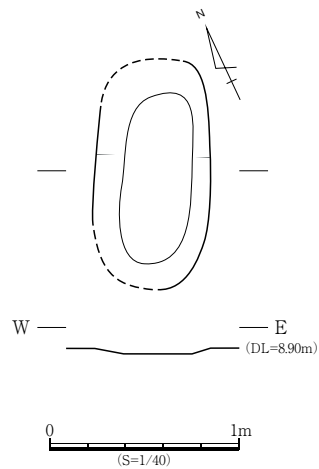


図37 SK31平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

SK23

ⅢE区中央部で検出した隅丸方形の土坑で、一辺約1.0m、検出面からの深さ約7cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質シルトである。

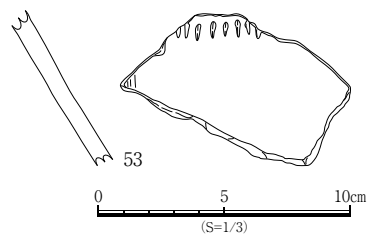
図示していないが、磁器の碗、陶器の台付灯明皿等が出土している。



SK24

ⅢE区中央部で検出した楕円形を呈する土坑で、長軸約1.0m、短軸約0.8m、検出面からの深さ約83cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗、陶器の碗等が出土している。



SK25

ⅢE区北西部で検出した隅丸長方形を呈する土坑で、長軸約1.2m、短軸約

図38 SK33平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

0.8m, 検出面からの深さ約23cmである。埋土は黄灰色(2.5Y5/1)砂質礫である。

図示した遺物は磁器の蓋, 砥石である。44は磁器の蓋である。外面には圏線文, 草花文, 内面に染付けを施す。ほぼ完存である。45は砥石である。4面がよく使い込まれている。両小口面は平滑となっている部分もあるがほとんど使用されていない。石材は流紋岩と考えられる。他に図示していないが, 磁器の碗, 陶器の碗, 土師質土器の小皿等が出土している。

### SK26

ⅢE区南西部で検出した隅丸長方形の土坑で, SK22・29・30・34を切る。長軸約3.2m, 短軸約1.5m, 検出面からの深さ約22cmである。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y4/2)砂質シルト, 2層が灰色(5Y5/1)砂質シルト, 3層が灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の碗, 陶器の香炉, 受付灯明皿である。46は磁器の碗である。外面は口縁部と腰部の圏線文間に楓文を描く。内面は口縁部に三重圏線文, 見込みに二重圏線文を施す。47は陶器の香炉である。腰輪高台である。口縁部をやや内傾させる。内面, 外底面は露胎である。外面は灰白色の釉薬を施釉し, 口縁部はさらに暗オリーブ色の釉薬を施す。48は受付灯明皿である。内面の釉調はやや黄色がかった灰白色である。外面は露胎である。外面の一部及び破断面にもタールが付着する。他に図示していないが, 陶器の碗・瓶等が出土している。

### SK27

ⅢE区南西部で検出した土坑で, 南側は調査区外へ続く。検出長約1.4m, 検出面からの深さ約19cmである。埋土は黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂である。

図示していないが, 陶器の鉢, 土師質土器の小皿等が出土している。

### SK28

ⅢE区北西部で検出した楕円形の土坑で, 長軸約1.3m, 短軸約0.8m, 検出面からの深さ約8cmである。埋土は黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルトである。

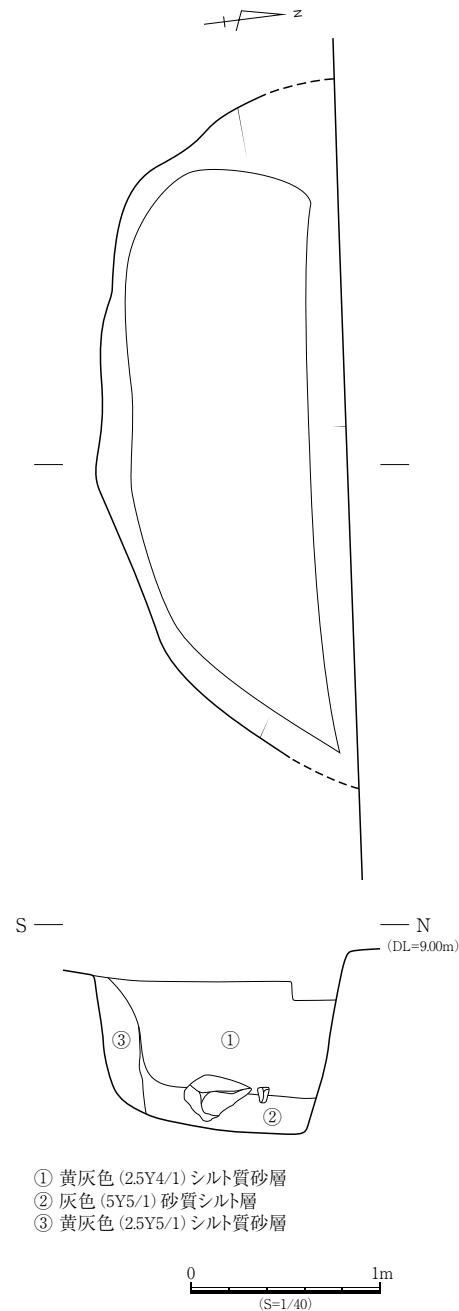


図39 SK37平面図・断面図

図示した遺物は石臼である。49は花崗岩製の下臼である。ほぼ中央に芯棒孔が穿たれる。厚みは一定ではない。両面に溝が掘られている。使用により一面の溝は摩耗し、面も平滑となっている。他に図示していないが、陶器の皿が出土している。

SK29

Ⅲ E区南西部で検出した土坑で、SK26に切られる。南側は調査区外へ続く。検出長約1.0m, 検出面からの深さ約13cmであり、埋土は黄灰色(2.5Y5/1)砂質礫である。

遺物は出土していない。

SK30

Ⅲ E区南西部で検出した土坑で、SK26に切られる。南側は調査区外へ続く。検出長約1.2m, 検出面からの深さ約13cmであり、埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質シルトである。

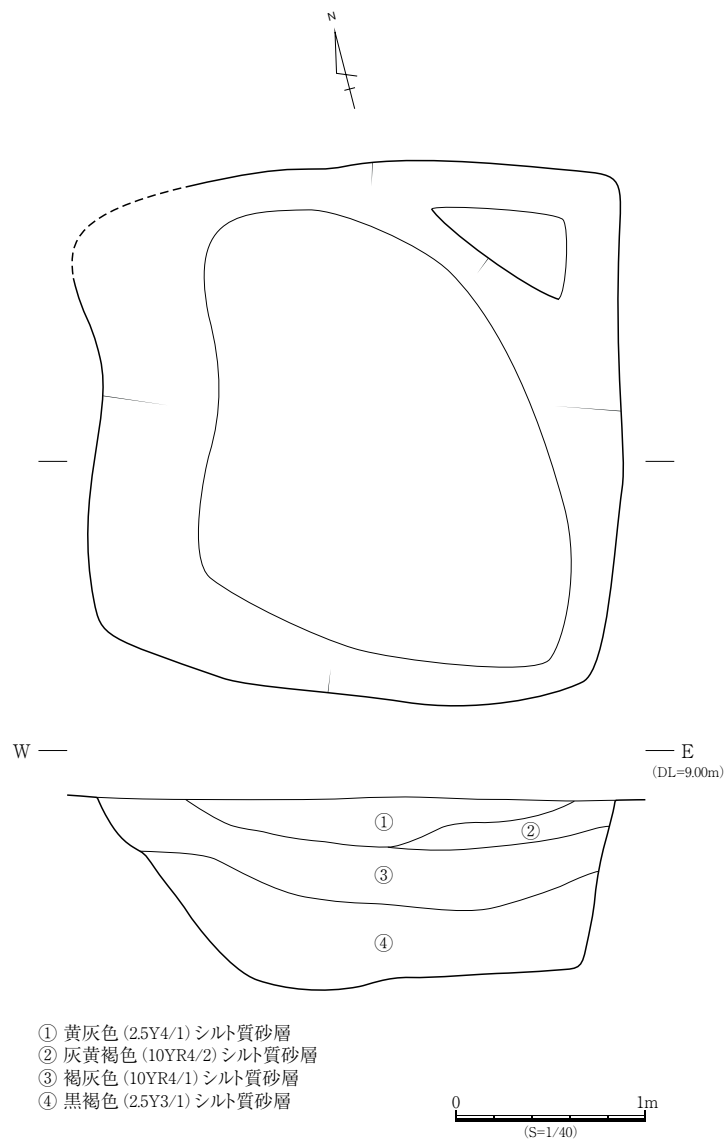


図40 SK39平面図・断面図

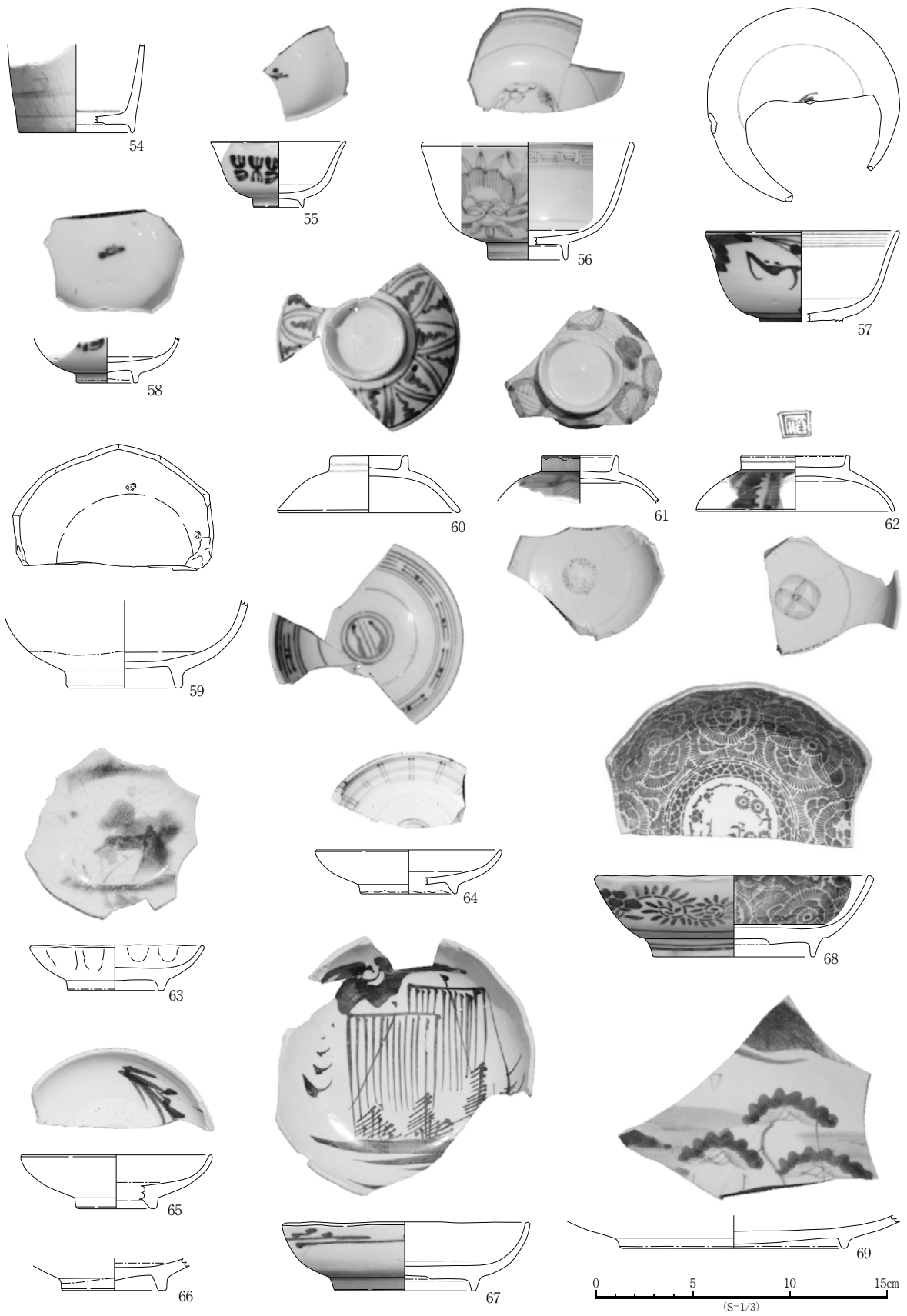


图41 SK39出土遺物実測図1



図示していないが、磁器の碗が出土している。

SK31

ⅢE区西部で検出した溝状の土坑で、長軸約2.3m、短軸約0.5m、検出面からの深さ約13cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)砂質シルトである。

図示した遺物は弥生土器の甕・底部である。50は弥生土器の甕である。長い頸部を持ち、肩部には微隆起突帯が巡る。内面はミガキ調整を施したように平滑となる部分がある。51・52は弥生土器の底部である。52は壺の底部であり、外面にはミガキ調整を施す。他に図示していないが、弥生土器の壺・甕等が出土している。

SK32

ⅢE区南西部で検出した楕円形の土坑で、長軸約0.9m、短軸約0.5m、検出面からの深さ約16cmである。埋土は灰黄褐色(2.5Y7/2)砂質シルトである。

図示していないが、陶器、弥生土器の破片が出土している。

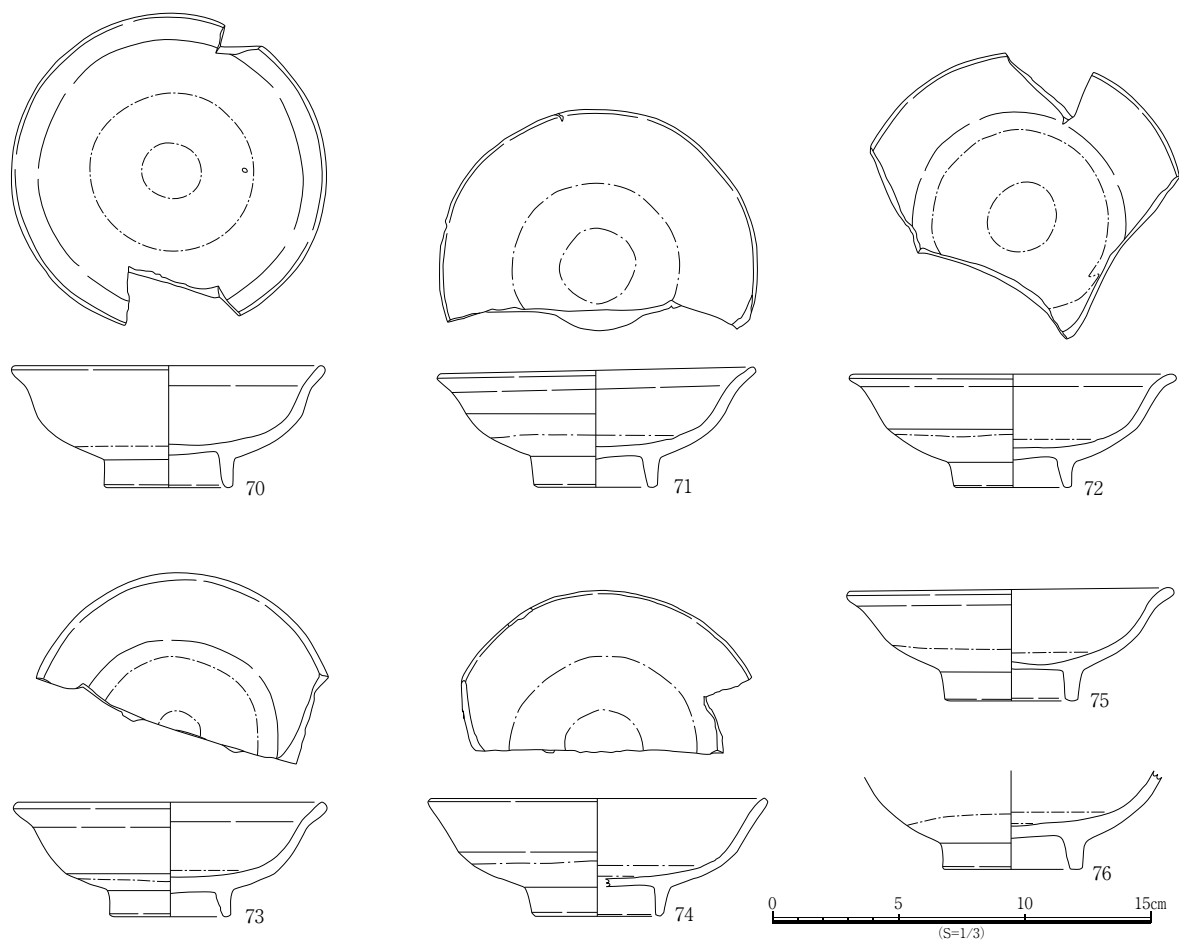


図42 SK39出土遺物実測図2

SK33

Ⅲ E区南西部で検出した楕円形の土坑で、SK16に切られる。長軸約1.2m，短軸約0.6m，検出面からの深さ約3cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)砂質シルトである。

図示した遺物は弥生土器の壺である。53の外面はミガキ調整，内面はナデ調整である。肩部に刻み目文を施す。

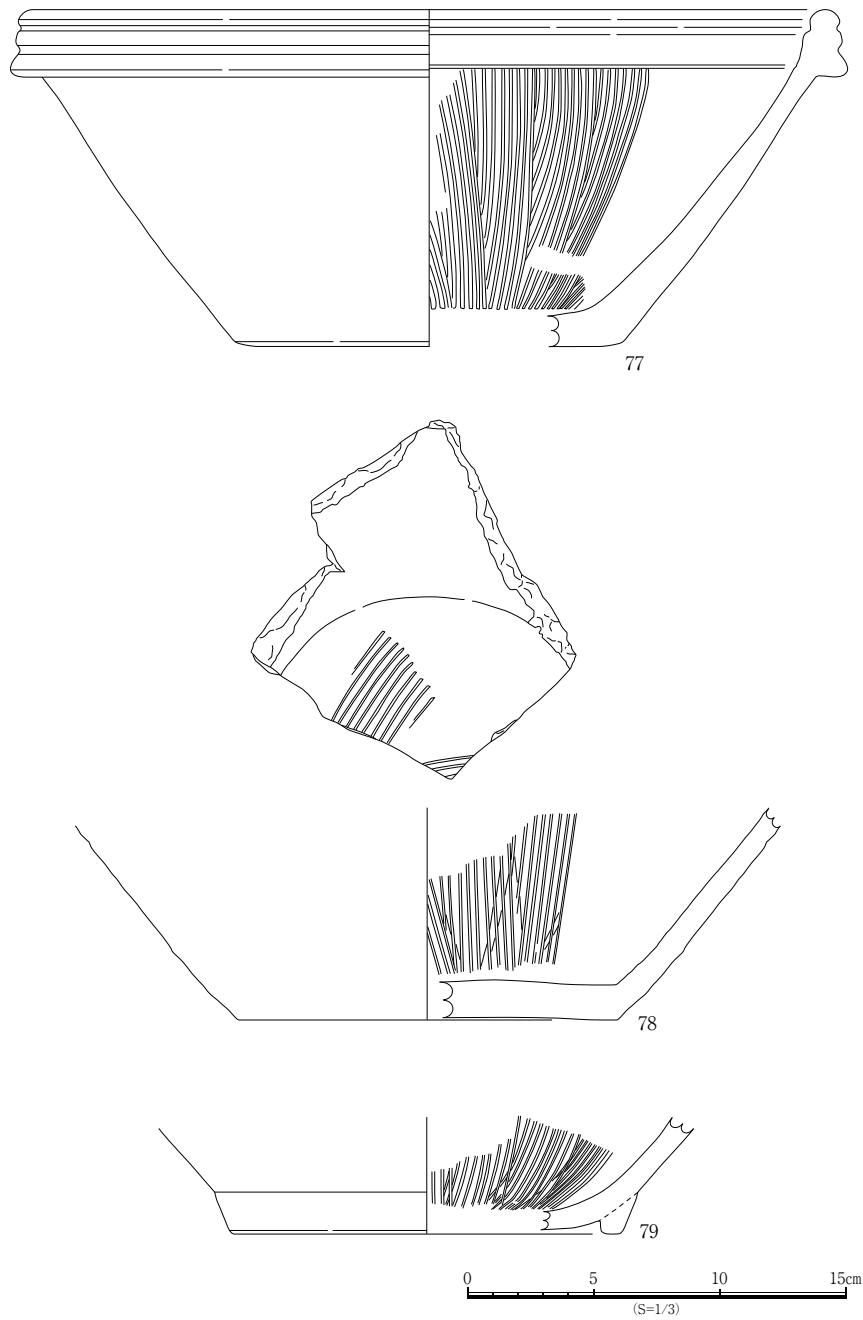


図43 SK39出土遺物実測図3

SK34

ⅢE区南西部で検出した隅丸長方形とみられる土坑で、南側はSK26に切られ長軸は不明である。短軸約1.1m，検出面からの深さ約5cmであり，埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質シルトである。

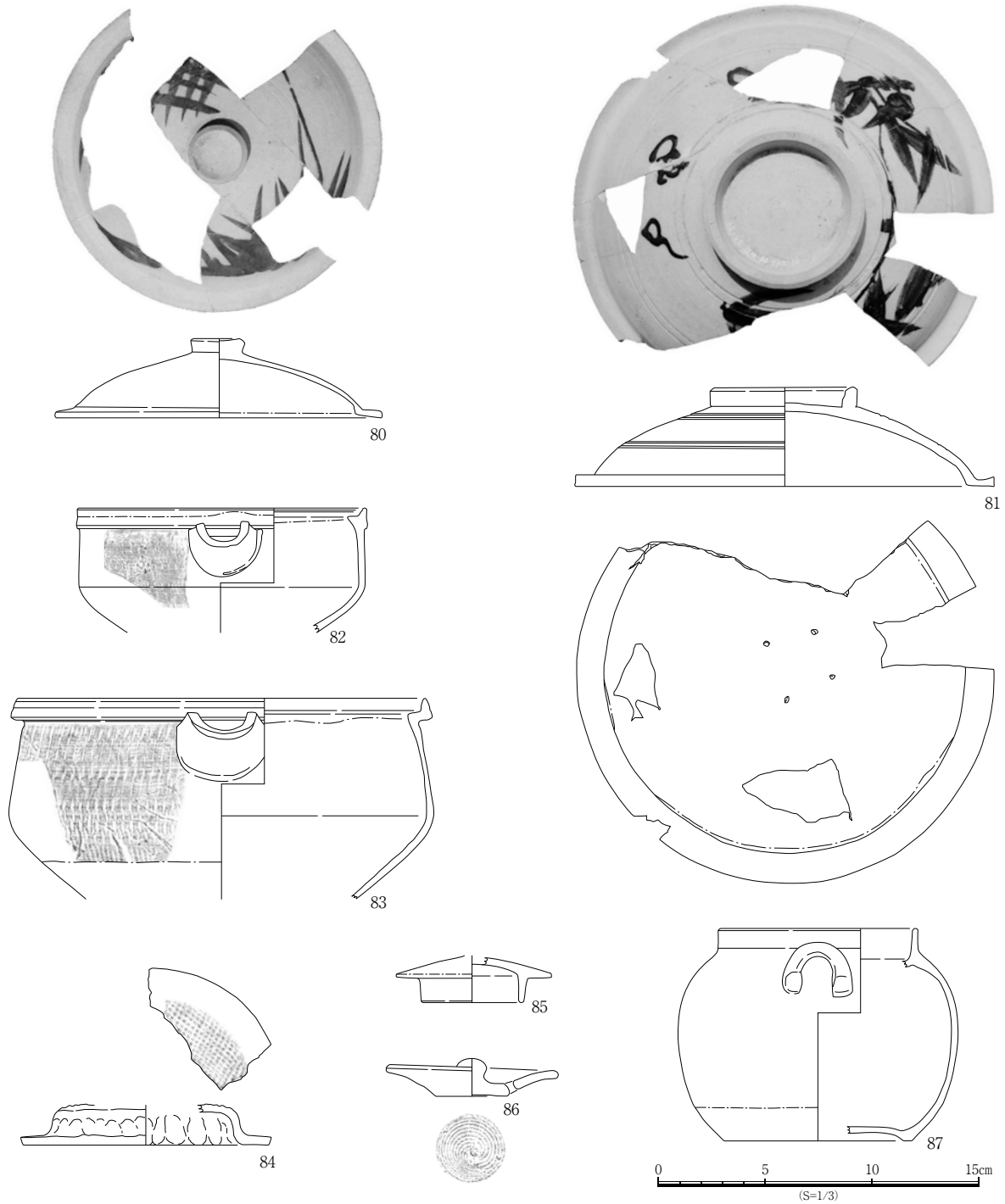


図44 SK39出土遺物実測図4

SK35

Ⅲ E区中央部で検出した楕円形の土坑で、長軸約0.8m、短軸約0.6m、検出面からの深さ約6cmである。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

SK36

Ⅳ区北西部で検出した隅丸長方形の土坑で、長軸約1.6m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約19cmである。埋土は褐灰色(10YR4/1)砂質シルトである。

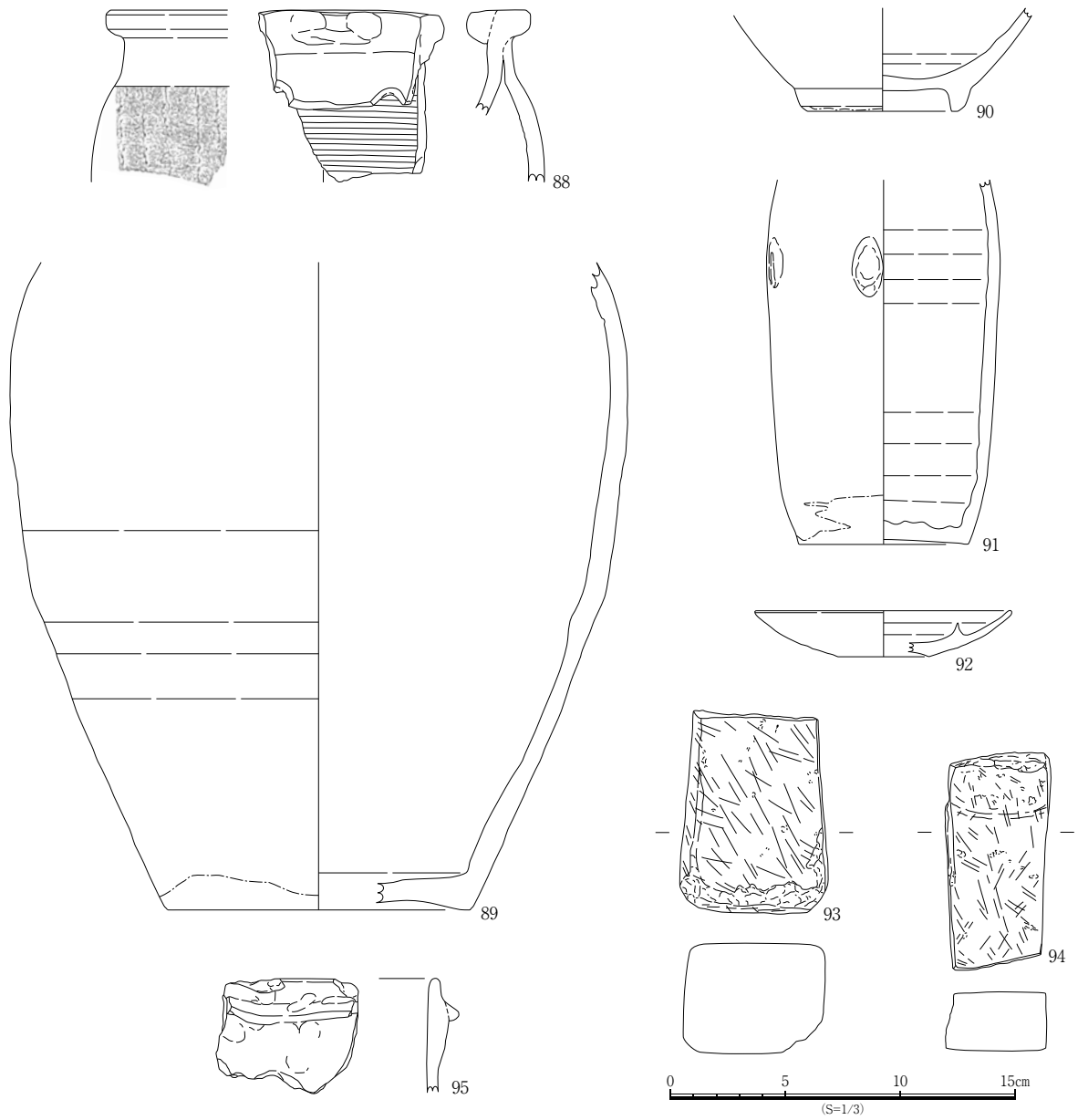


図45 SK39出土遺物実測図5

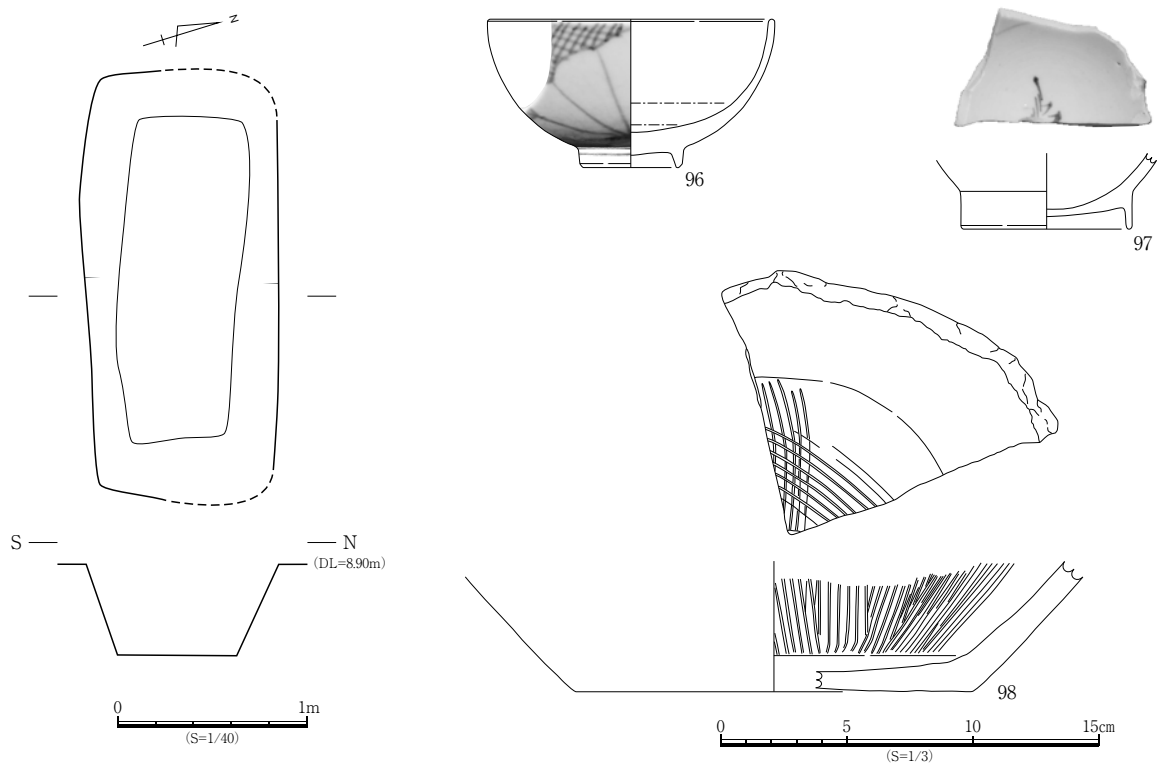


図46 SK40平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

### SK37

Ⅳ区北西部で検出した楕円形の土坑で、北側は調査区外へ続き短軸は不明である。長軸約 3.5m , 検出面からの深さ約 75 cm であり、埋土は 1 層が黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質砂, 2 層が灰色 (5Y5/1) 砂質シルト, 3 層が黄灰色 (2.5Y5/1) シルト質砂である。

出土遺物は図示していないが、磁器の碗・瓶・香炉・紅皿, 陶器の甕, 土師質土器の焙烙等が出土している。

### SK38

Ⅳ区北西部で検出した隅丸方形の土坑で、一辺約 0.8m , 検出面からの深さ約 12 cm である。埋土は褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂である。

### SK39

Ⅳ区北西部で検出した隅丸方形の土坑で、SD8 を切る。一辺約 2.8m , 検出面からの深さ約 105 cm である。埋土は 1 層が黄灰色 (2.5Y4/1) シルト質砂, 2 層が灰黄褐色 (10YR4/2) シルト質砂, 3 層が褐灰色 (10YR4/1) シルト質砂, 4 層が黒褐色 (2.5Y3/1) シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の蕎麦猪口, 磁器の碗, 陶器の碗, 磁器の蓋, 磁器の皿, 陶器の皿, 陶器の播鉢, 陶器の蓋, 陶器の片口鉢, 陶器の急須の蓋, 陶器の急須, 陶器の火鉢, 陶器の甕, 陶器の徳利, 陶器の受付灯明皿, 流紋岩製の砥石, 土師質土器の羽釜である。54 は磁器の蕎麦猪口である。蛇ノ目凹形高台である。外面には帆掛け舟, 圏線文を描く。見込みには圏線文を描く。55 は磁器の碗である。量付

けは釉剥ぎする。外面には隸字体文、見込みには染付けを施す。口鏝装飾を施す。56は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面には草花文、内面には雷文帯、圏線文、見込みには松竹梅文を描く。57は磁器の端反り碗である。酸化コバルトにより外面には草花文、内面には多重圏線文、見込みには染付けを施す。58は磁器の碗である。畳付けには釉剥ぎを施す。外面、見込みに文様が有る。59は陶器の碗である。釉調はにぶい黄色を呈する。外面下半は露胎である。内面にはハマ跡が認められる。60は磁器の蓋である。摘み端部には釉剥ぎを施す。内外面に文様を描く。内面は雷文帯、見込みには染付けを施す。61は陶器の蓋である。摘み端部には釉剥ぎを施す。内外面に文様を描く。内面は四方禪文、圏線文、見込みには松竹梅文を施す。62は磁器の蓋である。内外面に文様を描く。摘み内には二重角枠内に文字が書かれている。63は磁器の輪花皿である。畳付けは釉剥ぎする。口鏝装飾を施し、内面には文様を描く。64は磁器の皿である。畳付けは釉剥ぎする。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施す。内面には二重格子文を描く。65は磁器の皿である。畳付けは釉剥ぎする。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施し、アルミナ砂を塗布する。内面には酸化コバルトで文様を描く。66は陶器の皿である。鉄釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施し、外面高台以下は露胎である。67は陶器の輪花皿である。蛇ノ目凹形高台である。内外面に酸化コバルトで文様を施す。内面には帆掛け舟を大きく描く。68は磁器の輪花皿である。蛇ノ目凹形高台である。内外面とも酸化コバルトによる銅板転写である。69は陶器の皿である。畳付けには釉剥ぎを施す。内面には風景文を描く。70～73・75・76は陶器の皿である。鉄釉を施す。外面下半は露胎である。

見込みは蛇ノ目釉剥ぎ後、アルミナ砂を塗布する。74は陶器の皿である。鉄釉を施す。外面下半は露胎である。見込みは蛇ノ目釉剥ぎを施す。また、重ね焼きの痕跡が認められる。77は陶器の播鉢である。口縁帯外面には2条の凹線、内面には1条の凹線が巡る。内面には10条1単位のスリメを3回に分けて密に施す。内底面にもスリメを施す。78は陶器の播鉢である。内面には10条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメを施す。外底面には砂が多く付着する。堺産である。79は陶器の播鉢である。外底面に高台が付く。内面には9条1単位のスリメを密に施す。80は陶器の蓋である。天井部にはやや凹んだ扁平な摘みが付される。口縁部は水平に拡張される。外面には鉄絵が施される。内面には鉄

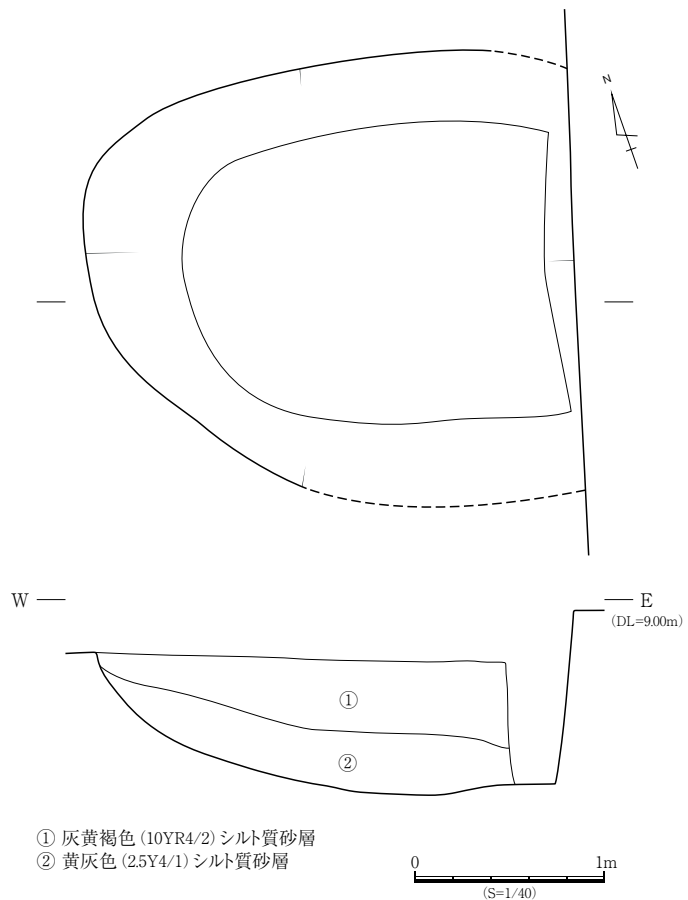


図47 SK41平面図・断面図

泥が塗布される。81は陶器の蓋である。天井部には輪状の摘みが付される。口縁部は水平に拡張される。外面には2条1単位の沈線文がみられ、鉄絵が施される。内面には灰釉を施す。また、4ヶ所のハマ跡が認められる。82・83は陶器の行平鍋である。外面上半には鉄釉、飛鉋が施される。下半は露胎で煤が付着する。内面は受け部の露胎以外は鉄釉を施す。接点はないが把手が出土している。84は焼締め陶器の蓋である。口縁部は屈曲させる。外面には指頭圧痕、内面には布目が認められる。天井部外面は格子目状を呈する。85は陶器の急須の蓋である。天井部中央に摘みが剥離した痕跡が認められる。外面はやや緑色がかった灰白色の釉薬が施される。内面は露胎である。86は急須の蓋である。

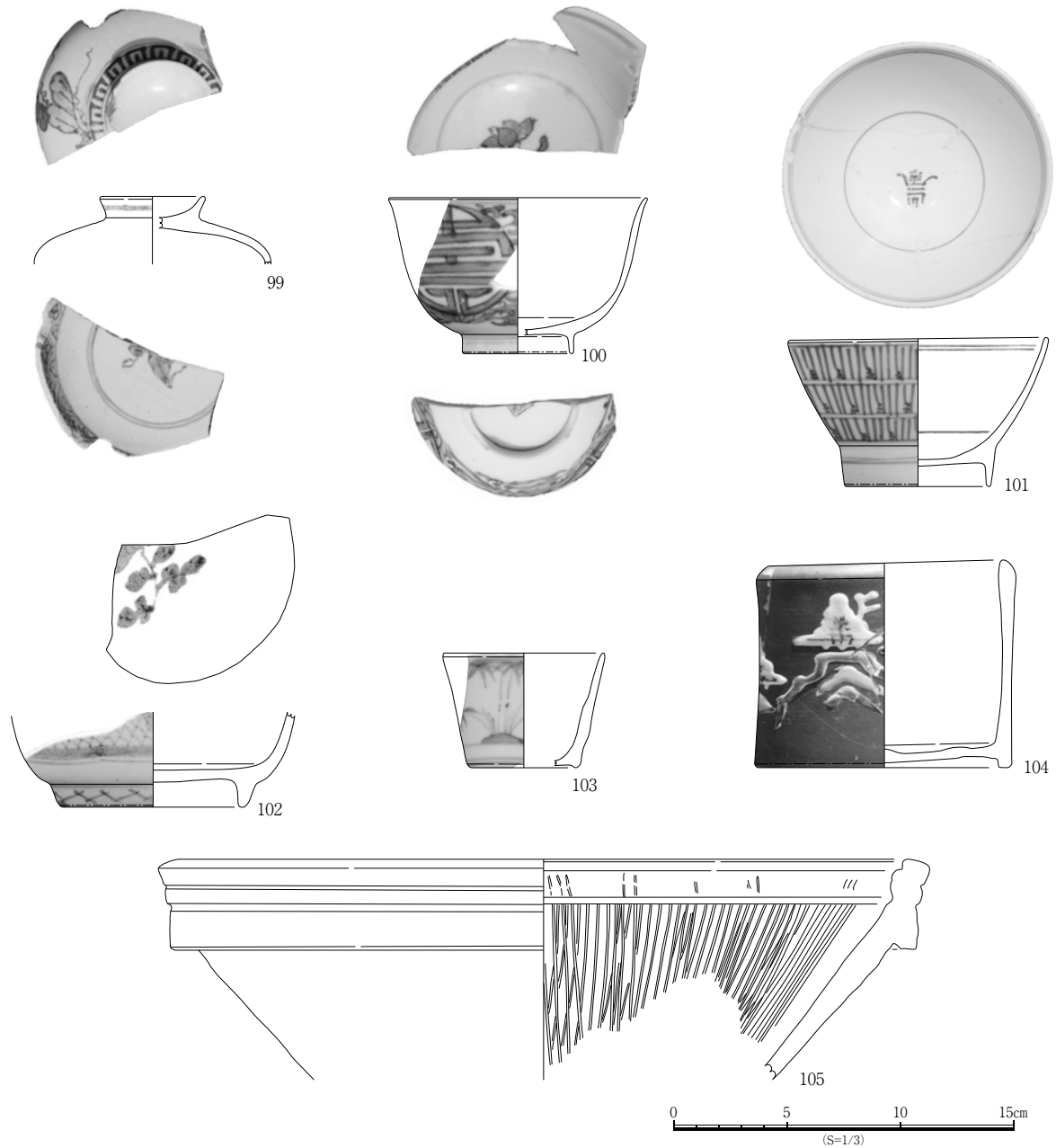


図48 SK41出土遺物実測図

中央部は凹み、摘みが付される。空気孔が穿たれている。内底面には回転糸切り痕跡が認められる。外面は緑色の釉薬が施され、内面は露胎である。また、口鏝装飾が施される。87の蓋と考えられる。87は急須である。上げ底である。肩部に環状の把手が付される。外面は緑色の釉薬が施され、底部付近は露胎である。内面も露胎である。底部には煤が付着している。88は火鉢である。口縁端部は平坦面をなし外側に拡張され、上面に合わせて内面突起が付される。胴部とは別に内湾するパーツがあり、穿孔が認められる。外面は白化粧土が塗布され、体部には装飾を施す。内面は粗いヨコハケ調整である。胎土に雲母片を含む。89は陶器の甕である。底部はわずかに上げ底である。内外面に鉄釉を施し、外底面は露胎である。91は陶器の瓶である。内底面にはロクロ目が顕著に残存している。内外面に灰釉を施すが、外面底部付近は露胎である。体部外面に溶着痕跡が認められる。92は陶器の受付灯明皿である。内面には灰釉を施釉し、外面は露胎である。口縁部外面の一部にタールが付着する。93は流紋岩製の砥石である。欠損している。小口面以外の4面を使用している。小口面は未使用と推測され、未使用の法量を把握することができる。94は流紋岩製の砥石である。欠損している。小口面以外の4面をかなり使用している。使用頻度は面によって大きく異なる。小口面は未使用と推測され、未使用の法量を把握することができる。95は土師質土器の羽釜である。口縁部からやや下がった位置に鏝が巡る。口縁部から鏝上面に指頭圧痕が認められる。

他に図示していないが、磁器の碗・皿・瓶・蓋・紅皿、陶器の皿・片口鉢・播鉢・甕・鍋・急須・香炉、焼締め陶器、土師質土器の焙烙・焜炉・さな、瓦質土器、瓦、砥石等が出土している。

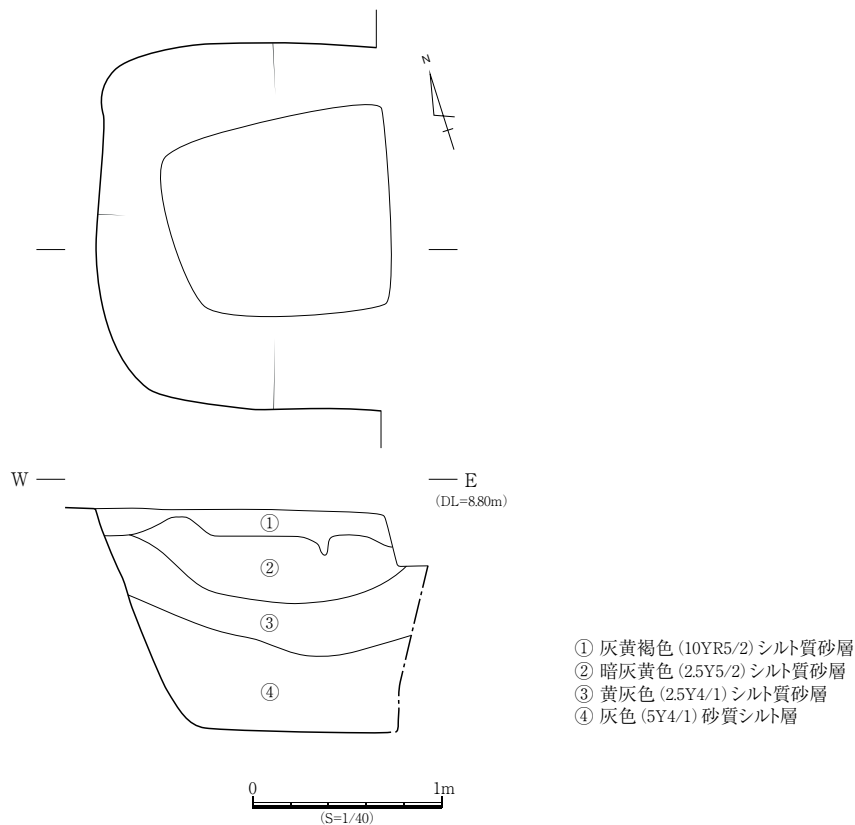


図49 SK42平面図・断面図



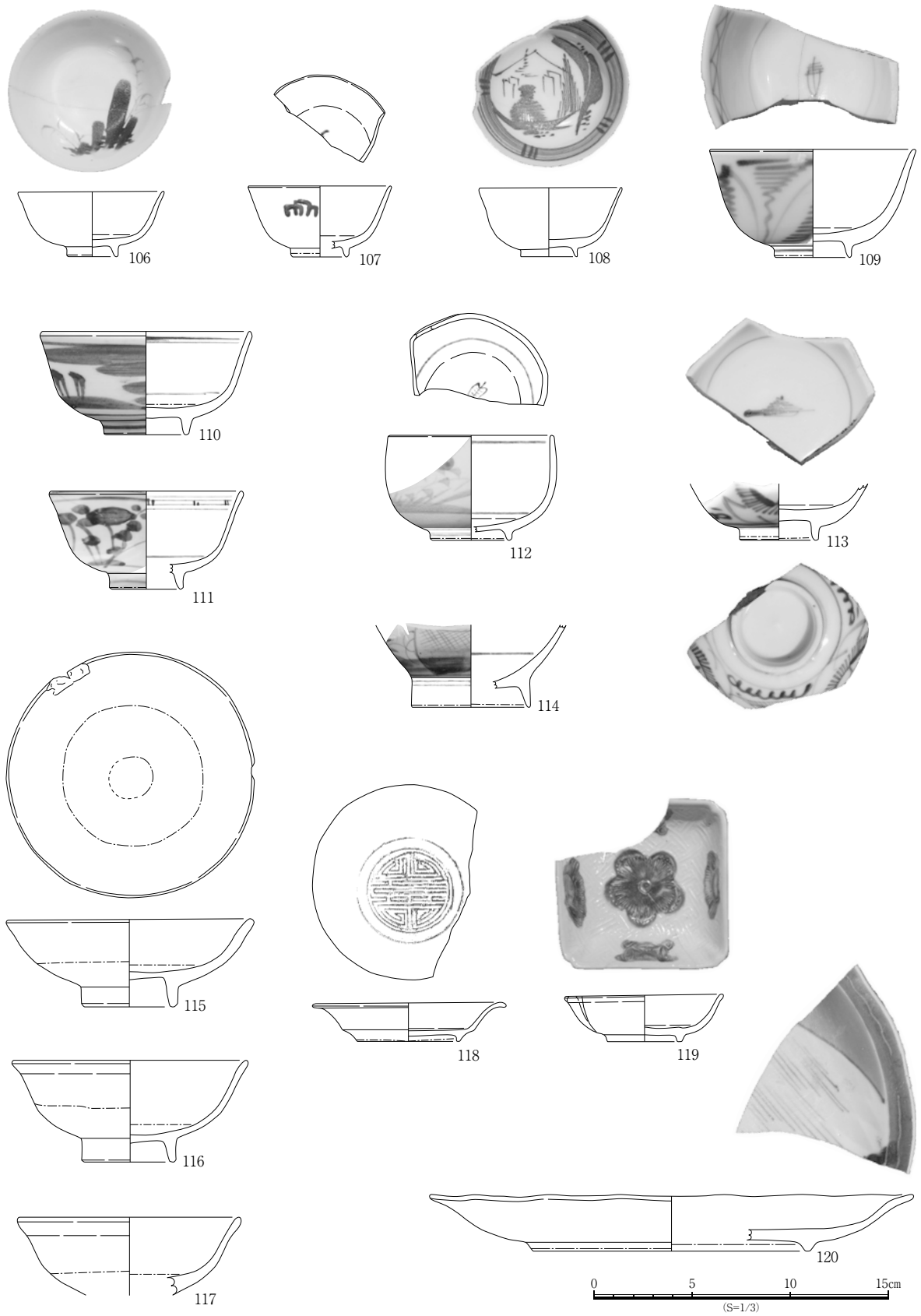
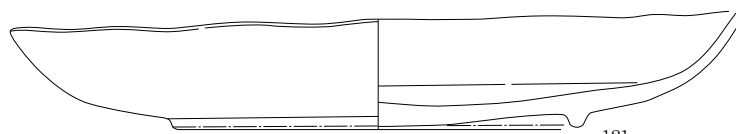


图50 SK42出土遺物実測図1



121

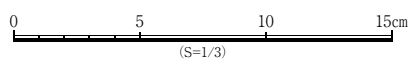
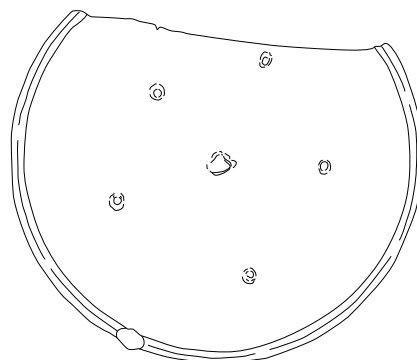


图51 SK42出土遺物実測図2

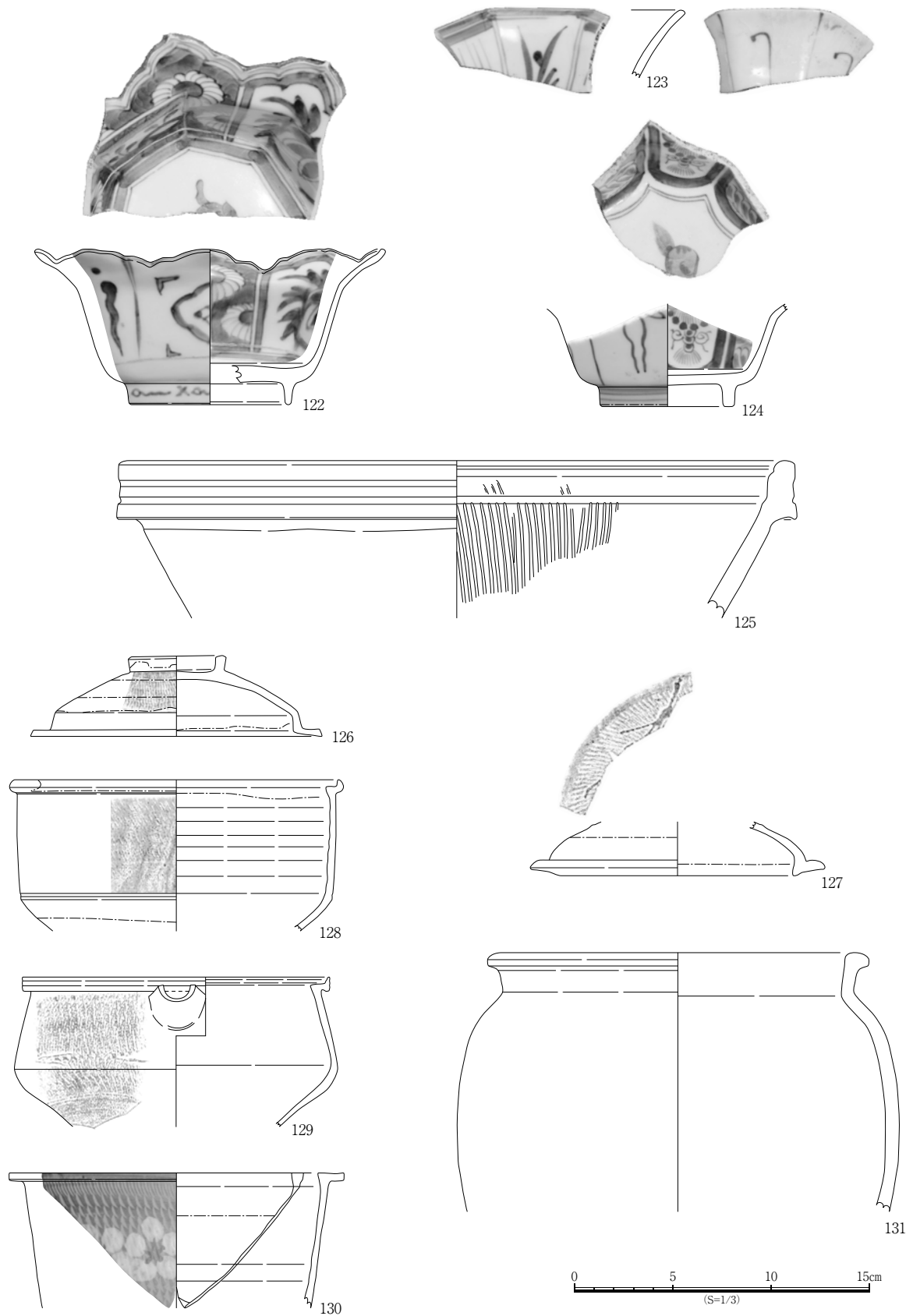


图52 SK42出土遺物実測図3

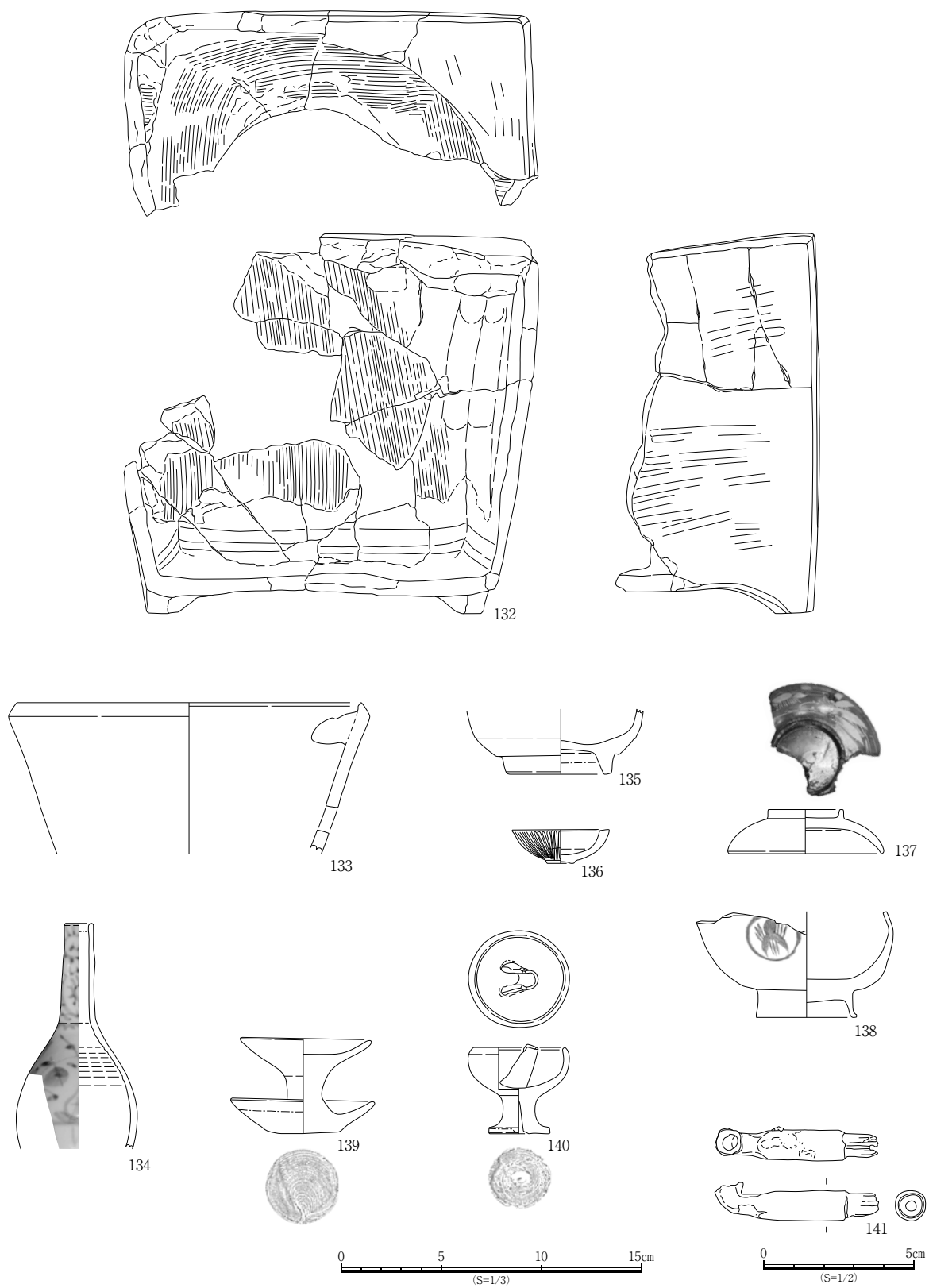


图53 SK42出土遗物实测图4

## SK40

Ⅳ区北西部で検出した長方形の土坑で、SD28に切られる。長軸約2.3m、短軸約1.0m、深さ約50cmであり、埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

96は磁器の丸形碗である。畳付けは釉剥ぎする。高台内面に砂が付着している。見込みは蛇ノ目釉剥ぎする。外面には菊花散らし文、高台には二重圏線文を描く。97は広東形碗である。畳付けは釉剥ぎする。外面、見込みに文様を描く。98は陶器の播鉢である。内面に9条1単位のスリメを密に施す。スリメは深い。内底面にもスリメを施す。内底面のスリメは使用頻度によるものか、体部に比較して浅い。他に図示していないが、磁器の碗・香炉、陶器の碗・播鉢・火入れ、土師質土器の焜炉等が出土している。

## SK41

ⅣW区南部で検出した楕円形とみられる土坑で、東側は調査区外へ続き、長軸は不明である。短軸約2.3m、検出面からの深さ約69cmであり、埋土は1層が灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂、2層が黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂である。

図示した遺物は陶器の蓋、磁器の碗、磁器の鉢、磁器の蕎麦猪口、陶器の火鉢、陶器の播鉢である。99は陶器の蓋である。摘みは逆「ハ」の字状を呈する。摘み端部には釉剥ぎを施す。内外面に文様を描く。内面は四方嚮文、二重圏線文、見込みに草花文を描く。100は磁器の端反り碗である。外面には寿文、草花文、高台内には二重角枠内に銘を書く。内面は口縁部に二重圏線文、見込みに二重圏線文、花を描く。101は磁器の広東形碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面には染付け、内面には二重圏線文、見込みには圏線文、寿を描く。ほぼ完存である。102は磁器の角鉢である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面、見込みに文様を描く。103は磁器の蕎麦猪口である。腰輪高台で畳付けに釉剥ぎを施す。外面には竹を描く。104は陶器の火鉢である。腰輪高台である。外面には鉄釉を施し、風景を描く。外底面、内面は露胎である。105は陶器の播鉢である。口縁部の幅はひろく、内外面には2条の凹線を巡らせる。口唇部はやや丸みを持つ。内面には9条1単位のスリメ間がややひろいスリメを施す。堺産である。図示していないが、磁器の碗・皿・瓶・紅皿、陶器の碗・甕、土師質土器の小皿、瓦質土器の火鉢が出土している。

## SK42

ⅣW区南東部で検出した隅丸長方形とみられる土坑で、東側は調査区外へ続き、長軸は不明である。短軸約1.9m、検出面からの深さ約120cmであり、埋土は1層が灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂、2層が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂、3層が黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂、4層が灰色(5Y4/1)砂質シルトである。

図示した遺物は磁器の碗、陶器の皿、白磁の皿、磁器の鉢、陶器の播鉢、陶器の鍋、蓋、陶器の甕、土師質土器の火鉢、磁器の瓶、陶器の瓶、白磁の紅皿、陶器の灯明皿、陶器の乗燭、漆器椀、蓋、煙管の雁首である。106は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。内面には酸化コバルトで文様を描く。ほぼ完形である。107は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面には源氏香文を描く。見込みに文様が有る。口鏝装飾を施す。108は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。内面には酸化コバルトにより多重圏線文、風景を描く。109は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面には染付

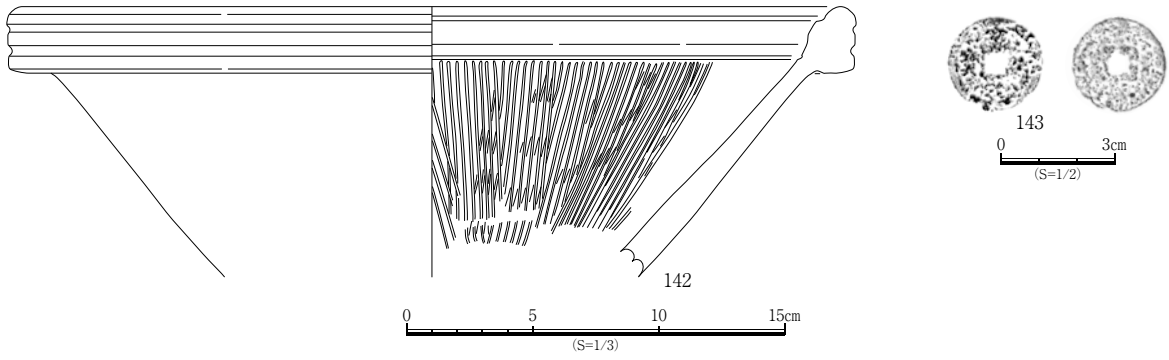
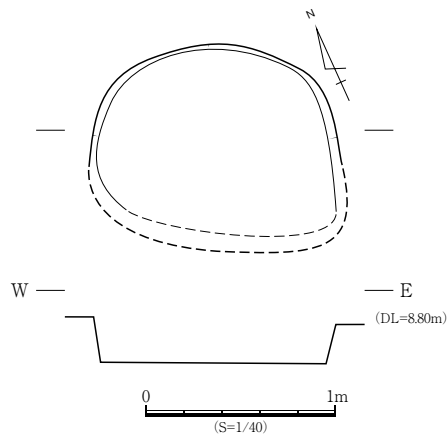


図54 SK44平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

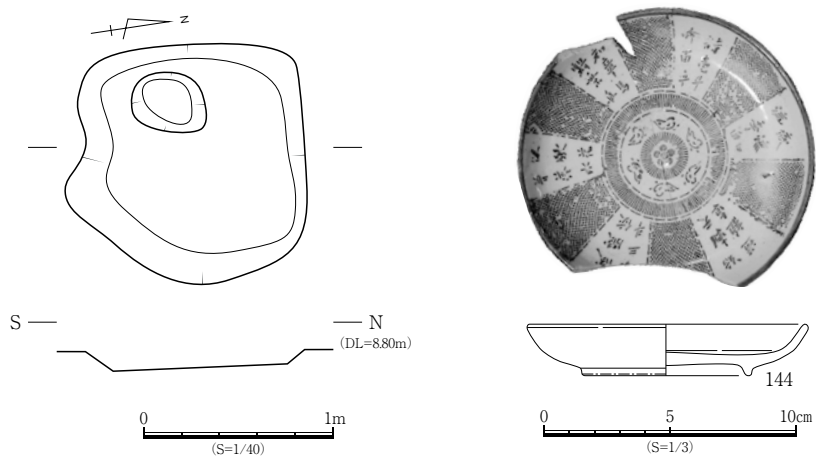


図55 SK45平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

けを施し、見込みには圏線文、寿文を描く。110は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。高台に砂が付着する。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施す。酸化コバルトにより外面に文様を描く。内面には圏線文を巡らせる。111は磁器の端反り碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。酸化コバルトにより外面に文様を描く。内面には圏線文を巡らせる。112は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面には草花文、圏線文を描く。内面には圏線文、見込みには亀を描く。113は磁器の碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。見込みには染付けを施す。114は磁器の広東形碗である。畳付けは釉剥ぎを施す。外面に草花文、圏線文、内面に圏線文を施す。115は陶器の皿である。鉄釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎをし、外面下半は露胎である。116は陶

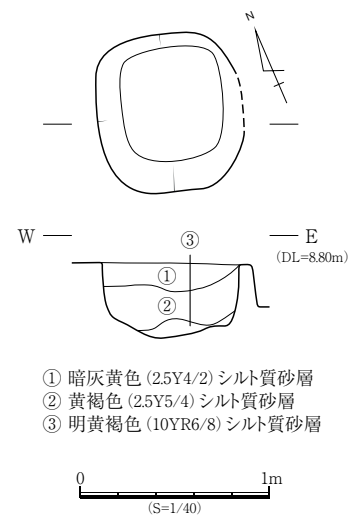


図56 SK46平面図・断面図

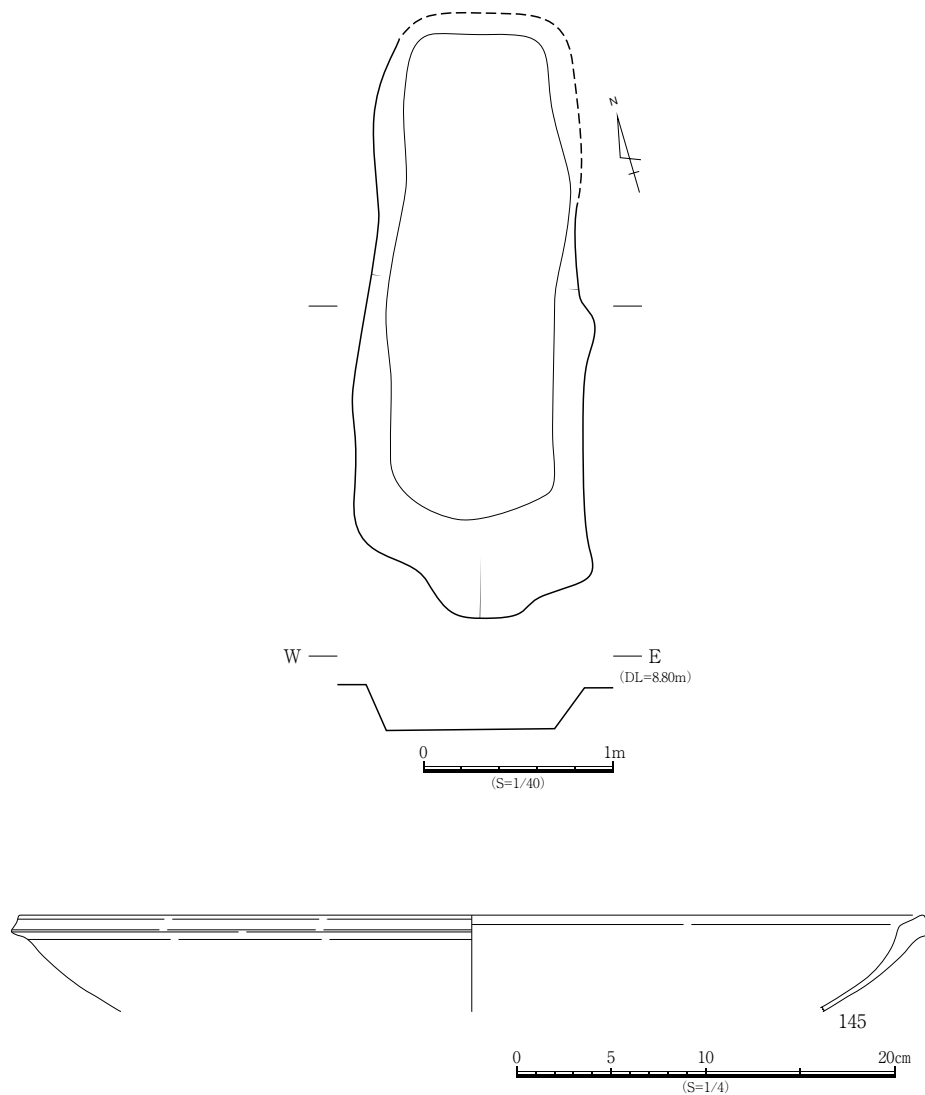


図57 SK48平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

器の皿である。灰釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎをし、アルミナ砂を塗布する。外面下半は露胎である。118は白磁の皿である。畳付けは釉剥ぎを施す。見込みに陰刻による文字文を施す。119は磁器の隅入角皿である。畳付けは釉剥ぎする。内面には陽刻の幾何学文、花文を施す。120は磁器の口縁部を屈曲させた輪花皿である。畳付けは釉剥ぎする。内面に文様を描く。121は磁器の輪花皿である。畳付けは釉剥ぎする。外底面に5カ所のハマ跡が認められる。内面にも認められる。内面には山水文を描く。122は磁器の角鉢である。蛇ノ目凹形高台である。内外面に文様を描く。焼き継ぎ痕跡が認められる。123・124は磁器の角鉢である。125は陶器の播鉢である。口縁帯の内外面に2条の凹

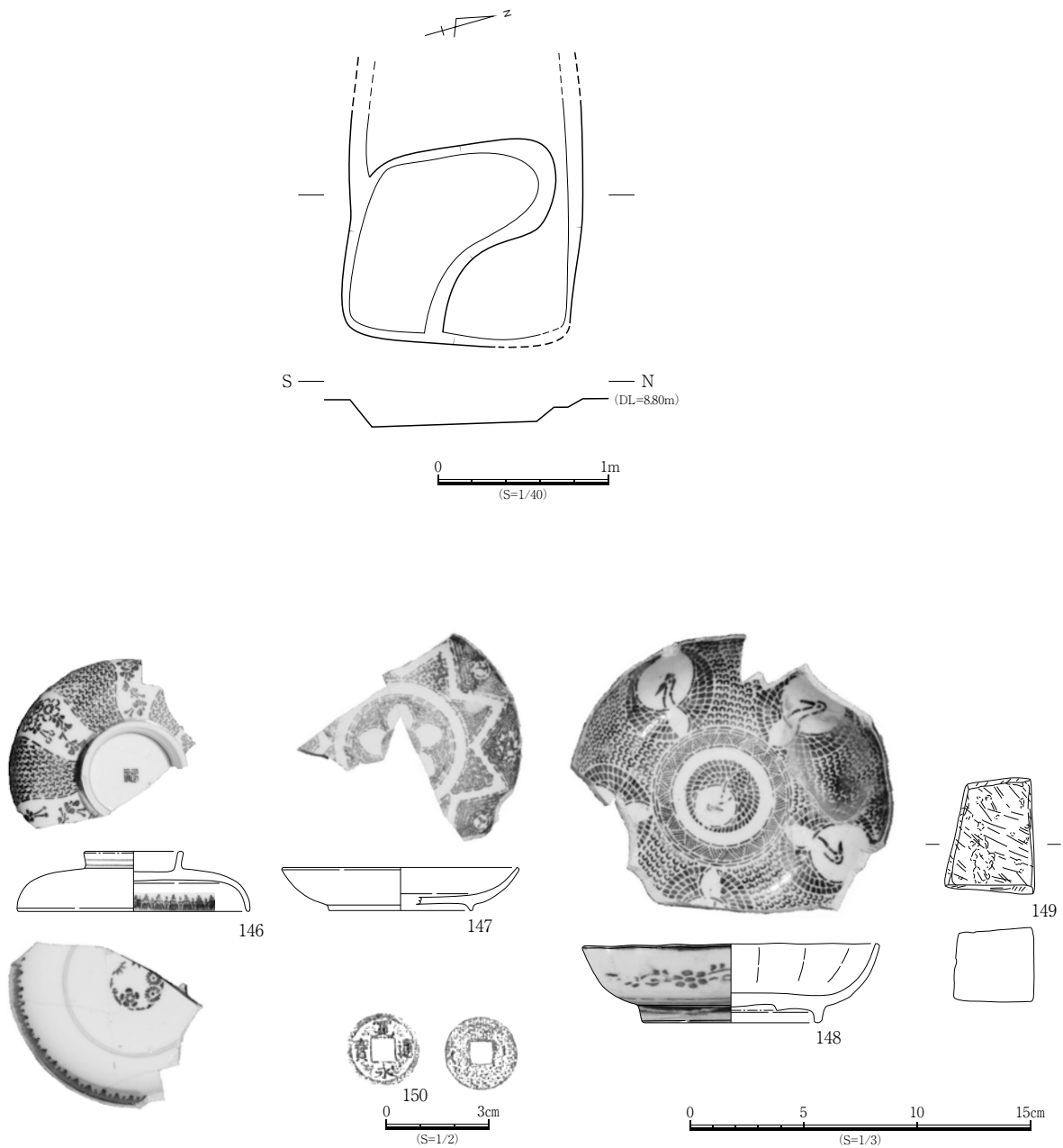


図58 SK53平面図・エレベーション図・出土遺物実測図



線を巡らせる。内面には8条1単位のスリメを密に施す。126は陶器の鍋の蓋である。口縁端部を水平に拡張する。天井部には輪状の摘みが付される。外面は帯状に2段に鉄釉を施し、内面にも鉄釉を施す。外面には飛鉋を施す。127は陶器の鍋の蓋である。口縁部を内外に拡張させる。内面と外面の一部に鉄釉を施す。外面には飛鉋を施し、イッチン掛けで文様を描く。128は陶器の行平鍋である。内外面に鉄釉を施す。受部、外面腰部以下は露胎である。外面上半には飛鉋を施す。外面腰部には煤が付着している。129は陶器の行平鍋である。注口を付す。内外面に鉄釉を施す。受部、外面腰部以下は露胎である。外面腰部までに飛鉋を施す。外面腰部には煤が付着している。130は陶器の鉢である。口縁部を外方へ水平に拡張させる。外面、内面口縁下に鉄釉を施す。外面には飛鉋を施し、梅の花を描く。131は陶器の甕である。頸部は短くひらき、口縁部は外方に拡張する。内外面とも鉄釉を施し、外面には黒色釉を施す。132は土師質土器の火鉢である。箱形で、上面は円形の孔が開く。底面の四隅に短い脚が付くと考えられる。底面は円形のパーツで塞ぐ。外面はミガキ調整、内面は粗いハケメ調整である。133は土師質土器の火鉢である。上方へ直線的にひろがる筒形である。口縁部は外傾させ尖らせる。内面の口縁部に突起を付す。口縁から下がった位置に円孔を穿つ。口縁部内面に煤が付着する。134は磁器の瓶である。頸部には蛸唐草文、体部には草花文を描く。内面は露胎である。135は陶器の瓶である。鉄釉を施す。豊付けは釉剥ぎし、外底面、内面は露胎である。豊付けには重ね焼きの痕跡が認められる。136は紅皿である。型押し成形である。完形である。137は漆器椀の蓋である。外面に文様を描く。138は漆器椀である。体部に家紋を描く。139は陶器の台付灯明皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施し、外面下半は露胎である。口縁端部にタールが付着する。140は陶器の乗燭である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施し、外底面は露胎である。杯部内面にはタールが付着する。ほぼ完形である。141は煙管の雁首である。火皿の一部が欠損している。羅字の一部が装着した状態で残存している。他に図示していないが、磁器の碗・皿・鉢・瓶、陶器の鉢・甕・播鉢・鍋・急須・蓋・受付灯明皿、瓦質土器の火鉢、土師質土器の焙烙、砥石等が出土している。

SK43

IV W区南東部で検出した隅丸長方形の土坑で、SK48を切る。長軸約1.7m、短軸約1.1m、検出面

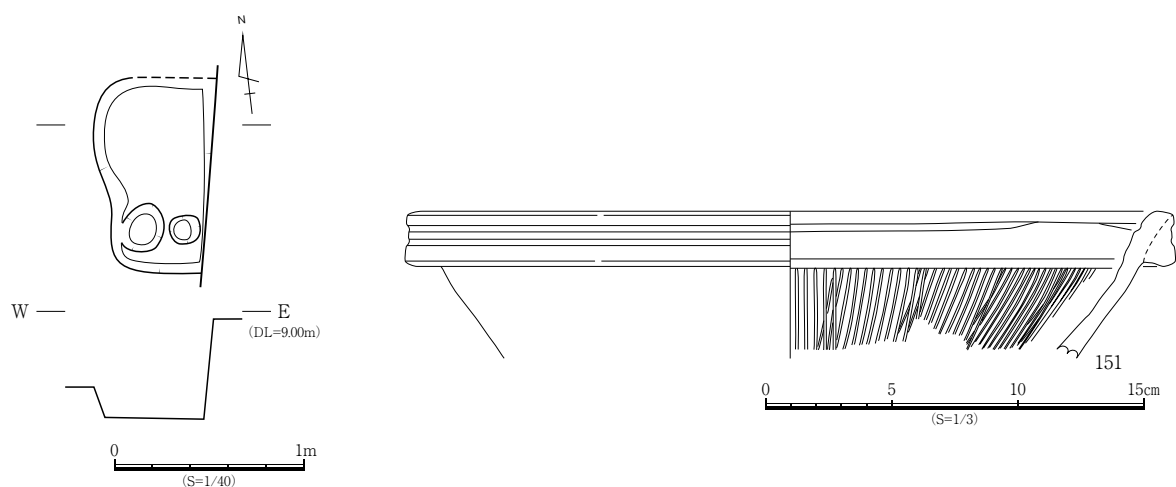


図59 SK54平面図・エレベーション図・出土遺物実測図

からの深さ約16cmであり、埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗・皿・瓶、陶器の鉢・蓋等が出土している。

#### SK44

IV W区南部で検出した楕円形とみられる土坑で、南側は調査区外へ続き、短軸は不明である。長軸約1.3m、検出面からの深さ約25cmであり、埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示した遺物は陶器の播鉢、古銭である。142は陶器の播鉢である。口縁帯の外面に2条、内面に1条の凹線を巡らせる。内面には9条1単位のスリメを分割して密に施す。143は銅銭である。腐食が激しく銭種の判別は困難である。

#### SK45

IV W区南東部で検出した隅丸方形の土坑で、一辺約1.2m、検出面からの深さ約16cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

144は磁器の皿である。畳付けには釉剥ぎを施し、高台に砂が付着する。内面は酸化コバルトによる文様が有る。口鏤装飾を施す。他に図示していないが、磁器の碗・皿・瓶・蓋、陶器の皿等が出土している。

#### SK46

IV W区南東部で検出した隅丸方形の土坑で、一辺約0.8m、検出面からの深さ約33cmである。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂、2層が黄褐色(2.5Y5/4)シルト質砂、3層が明黄褐色(10YR6/8)シルト質砂である。

図示していないが、磁器、陶器、土師質土器の破片が出土している。

#### SK47

IV W区東部で検出した土坑で、東側は調査区外へ続く。検出長約0.6m、検出面からの深さ約12cmであり、埋土は灰黄褐色(2.5Y5/1)シルト質砂である。

図示していないが、磁器、土師質土器の破片が出土している。

#### SK48

IV W区南東部で検出した隅丸長方形の土坑である。長軸約3.4m、短軸約1.1m、検出面からの深さ約28cmである。埋土は灰黄褐色(2.5Y5/1)シルト質砂である。

145は土師質土器の御厩系の焙烙である。体部の器壁は薄い。口唇部は強いナデ調整により

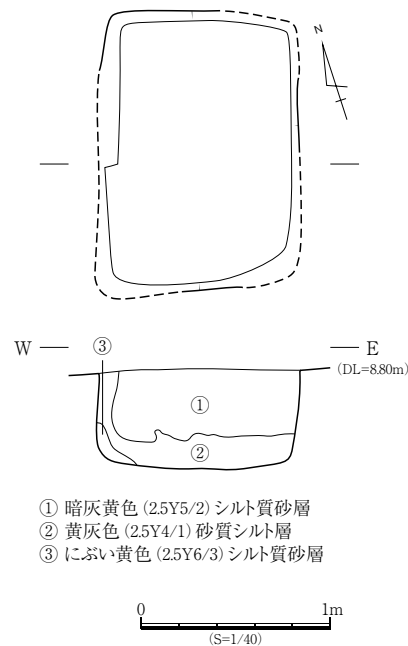


図60 SK61平面図・断面図

凹面状を呈する。外面には煤が付着する。他に図示していないが、磁器の碗・皿・瓶・蓋, 陶器の鉢・鍋・急須・蓋, 土師質土器の焙烙, ガラス瓶等が出土している。

SK49

IV W区東部で検出した隅丸長方形の土坑で, 長軸約 1.1m, 短軸約 0.6m, 検出面からの深さ約 16 cmである。埋土は暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト質砂である。

図示していないが, 陶器の皿等が出土している。

SK50

IV W区東部で検出した長楕円形の土坑である。長軸約 1.0m, 短軸約 0.3m, 検出面からの深さ約 7 cmであり, 埋土は暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト質砂である。

SK51

IV W区東部で検出した円形の土坑で, 直径約 0.8m, 検出面からの深さ約 22 cmである。埋土は1層

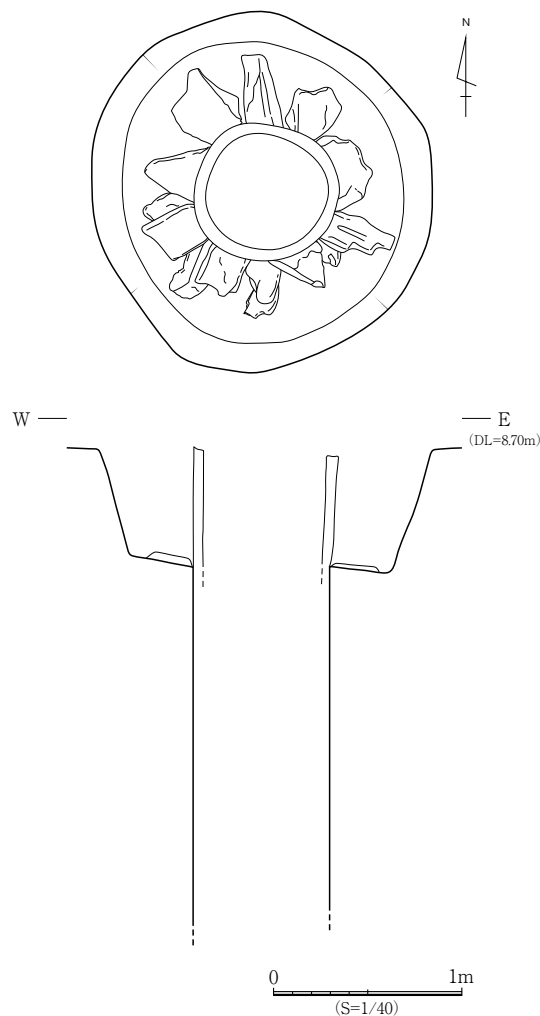


図61 SE1平面図・エレベーション図

が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂, 2層が灰色(5Y5/1)砂質シルトである。

図示していないが, 土師質土器の小皿が出土している。

#### SK52

IV W区東部で検出した楕円形の土坑で, 長軸約0.9m, 短軸約0.7m, 検出面からの深さ約13cmである。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂, 2層が褐灰色(10YR4/1)シルト質砂である。

#### SK53

IV W区中央部で検出した隅丸長方形とみられる土坑で, SD38を切る。西側はSD39に切られ, 長軸は不明である。短軸約1.4m, 検出面からの深さ約16cmであり, 埋土は黄褐色(2.5Y5/3)シルト質砂である。

図示した出土遺物の146は磁器の蓋である。内外面に酸化コバルトの文様を施す。内外面には染付け, 見込みには松竹梅文である。147は磁器の皿である。畳付けには釉剥ぎを施す。内面は酸化コバルトによる文様を施す。148は磁器の輪花皿である。蛇ノ目凹形高台である。酸化コバルトの文様である。外面には花唐草文, 圏線文, 内面には鶴の文様を施す。口鏽装飾を施す。149は流紋岩製とみられる砥石である。6面ともに使用痕跡が認められ, 欠損後も使用している。150は寛永通宝である。他に図示していないが, 磁器の碗・皿・瓶, 陶器の瓶・蓋・蕎麦猪口, ガラス瓶等が出土している。

#### SK54

IV W区北東部で検出した土坑で, 北側と東側が調査区外へ続くため, 形状と規模は不明である。検出面からの深さ約20cmであり, 埋土は黒褐色(10YR3/1)シルト質砂である。

図示した出土遺物は151は陶器の挿鉢である。口縁帯の内外面に2条の凹線が巡る。内面に11条1単位のスリメを密に施す。明石産である。

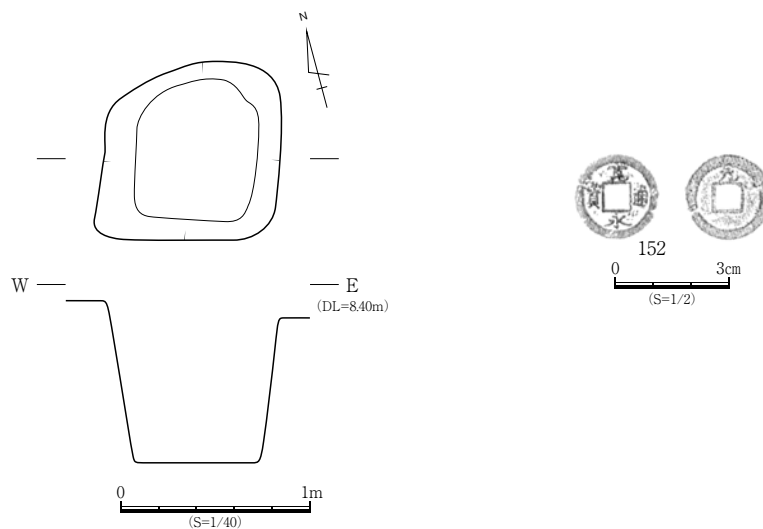


図62 SE2平面図・エレベーション図・出土遺物拓影

SK55

IV W区中央部で検出した楕円形の土坑で、長軸約1.5m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約26cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

SK56

IV W区中央部で検出した円形の土坑で、西側はSD39に切られる。直径約1.4m、検出面からの深さ約48cmであり、埋土は黄灰色(2.5Y6/1)シルト質砂である。

SK60

IV E区中央部で検出した土坑で、SD42を切る。SK61、SD44に切られるため、平面形と規模は不明である。検出面からの深さ約4cmであり、埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

SK61

IV E区中央部で検出した隅丸長方形の土坑で、SK60とSD42・43を切る。長軸約1.5m、短軸約1.0m、検出面からの深さ約54cmである。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂、2層が黄灰色(2.5Y4/1)砂質シルト、3層がにぶい黄色(2.5Y6/3)シルト質砂である。

図示していないが、陶器、土師器、弥生土器の破片が出土している。

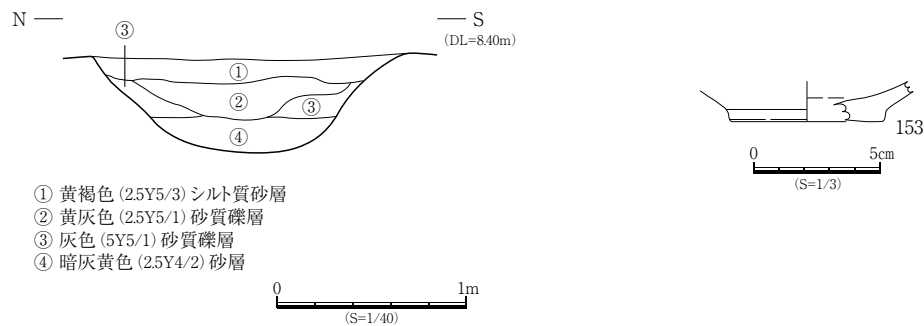


図63 SD3断面図・出土遺物実測図

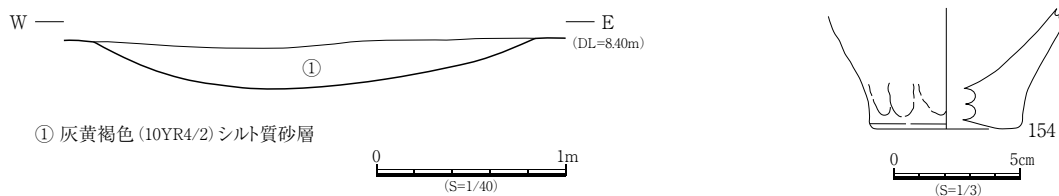


図64 SD4断面図・出土遺物実測図

### SK67

Ⅳ E 区中央部で検出した隅丸長方形とみられる土坑で、西側はSD44に切られ、短軸は不明である。長軸約1.8m，検出面からの深さ約4cmであり、埋土は黄灰色(2.5Y5/1)シルト質砂である。

### SK68

Ⅵ-⑦区で検出した土坑である。北側は調査区外へひろがり、全体の形態・規模は不明である。東西方向は約1.4m，検出面からの深さは約34cmである。埋土は1層が明黄褐色細砂混じりシルトを含む褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルト，2層が褐灰色(10YR5/1)細砂混じりシルトである。

図示していないが、土師質土器の破片が出土している。

### ③ SE

#### SE1

Ⅲ W 区北西部で検出した石組の井戸である。平面形は三角形の花崗岩を円形に並べている。直径約0.6m，検出面からの深さ約320cm(推定)である。石積みの状況，底の確認を行うために断ち割り調査を実施したが崩落した。加工成形時に付いたとみられる丸い矢穴が残存しており，明治～昭和頃の遺構とみられる。最近まで使用されていたようで，塩化ビニル管が据え付けられていた。

#### SE2

Ⅲ W 区中央部で検出した方形の素掘りの溜井戸である。長軸約94cm，短軸約87cm，検出面からの深さ約83cmである。

図示した遺物は古銭である。152は寛永通宝である。他に図示していないが，磁器の碗，土師質土器の焙烙が出土している。

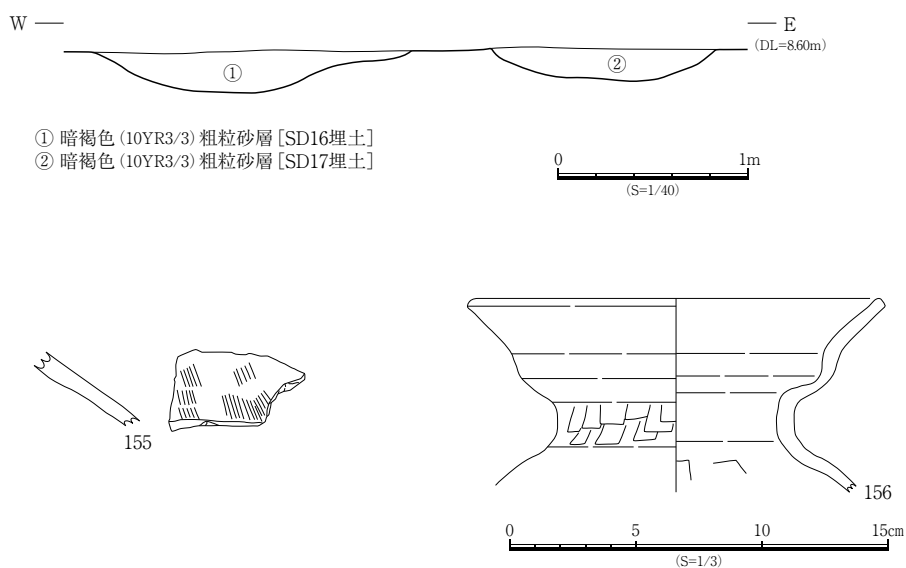


図65 SD16・17断面図・出土遺物実測図

④ SD

SD1

I区拡張部で確認できた東西方向溝跡で、幅約1m、確認長約4.2m、検出面からの深さ約15cmである。

SD2

II区西部で検出した南北方向の溝跡で、SR2に繋がる。幅約1.2m、検出面からの深さ約36cmであり、約14.8mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

図示していないが、須恵器、陶器、土師質土器、瓦質土器の破片が出土している。

SD3

II区南部で検出した溝跡で、SR2に繋がる。SD4を切る。幅約2.5m、検出面からの深さ約51cmである。約16.9mを検出した。埋土は1層が黄褐色(2.5Y5/3)シルト質砂、2層が黄灰色(2.5Y5/1)砂質礫、3層が灰色(5Y5/1)砂質礫、4層が暗灰黄色(2.5Y4/2)砂である。

図示した遺物は土師質土器である。153は土師質土器の杯の底部である。円盤状高台を呈する。摩滅のため調整は不明である。他に図示していないが、須恵器の蓋、甕、短い立ち上がりを持つ杯身、弥生土器等が出土している。

SD4

II区南部で検出した南北方向の溝跡で、SD3に切られる。幅約2.0m、検出面からの深さ約34cmである。約8.5mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

図示した遺物は弥生土器である。154は弥生土器の底部である。摩滅のため調整は不明である。他に図示していないが、弥生土器の破片が出土している。

SD5

II区東部で検出した南北方向の溝跡で、SR2に繋がる。幅約0.4m、検出面からの深さ約18cmである。約11.7mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

図示していないが、弥生土器の破片が出土している。

SD6

II区東部で検出した南北方向の溝跡で、幅約3.5m、検出面からの深さ約75cmである。約14.6mを検出した。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂、2層が黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂、3層が暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト

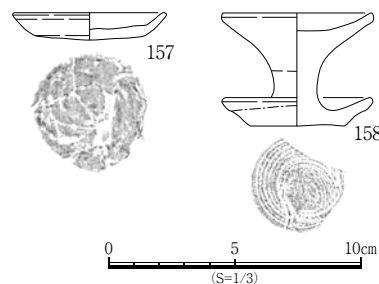
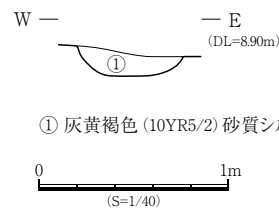


図66 SD20断面図・出土遺物実測図

質砂, 4層が灰色(5Y6/1)砂質シルトである。

図示していないが, 土師質土器, 須恵器, 瓦質土器の破片が出土している。

#### SD7

Ⅲ W区東部で検出した溝跡で, 南側は攪乱に切られる。幅約0.4m, 検出長約4.3m, 検出面からの深さ約11cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示していないが, 磁器の碗, 陶器の受付灯明皿, 土師質土器の破片が出土している。

#### SD8

Ⅲ W区東部で検出した溝跡で, 北側は攪乱に切られる。幅約0.3m, 検出長約3.0m, 検出面からの深さ約11cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

#### SD10

Ⅲ W区東部で検出した南北方向の溝跡で, 南側は攪乱に切られる。幅約0.4m, 検出長約4.8m, 検出面からの深さ約21cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

図示していないが, 土師質土器の破片が出土している。

#### SD12

Ⅲ W区中央部で検出した南北方向の溝跡で, 幅約0.4m, 長さ約3.7m, 検出面からの深さ約3cmである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂である。

図示していないが, 土師質土器の破片が出土している。

#### SD13

Ⅲ W区南部で検出した東西方向の溝跡で, SD16に切られる。幅約0.5m, 長さ約3.1m, 検出面からの深さ約9cmの溝である。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

図示していないが, 弥生土器の破片が出土している。

#### SD14

Ⅲ W区南部で検出した南北方向の溝跡で, 南側は調査区外へ続く。幅約0.4m, 長さ約4.9m, 検出面からの深さ約7cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

#### SD15

Ⅲ W区北東部で検出した南北方向の溝跡で, 北側は調査区外へ続き, 南側は攪乱に切られる。幅約1.2m, 検出長約3.2m, 検出面からの深さ約22cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

図示していないが, 弥生土器の破片が出土している。

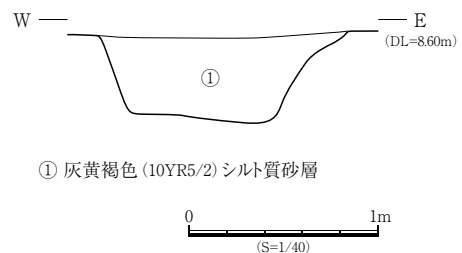


図67 SD22断面図



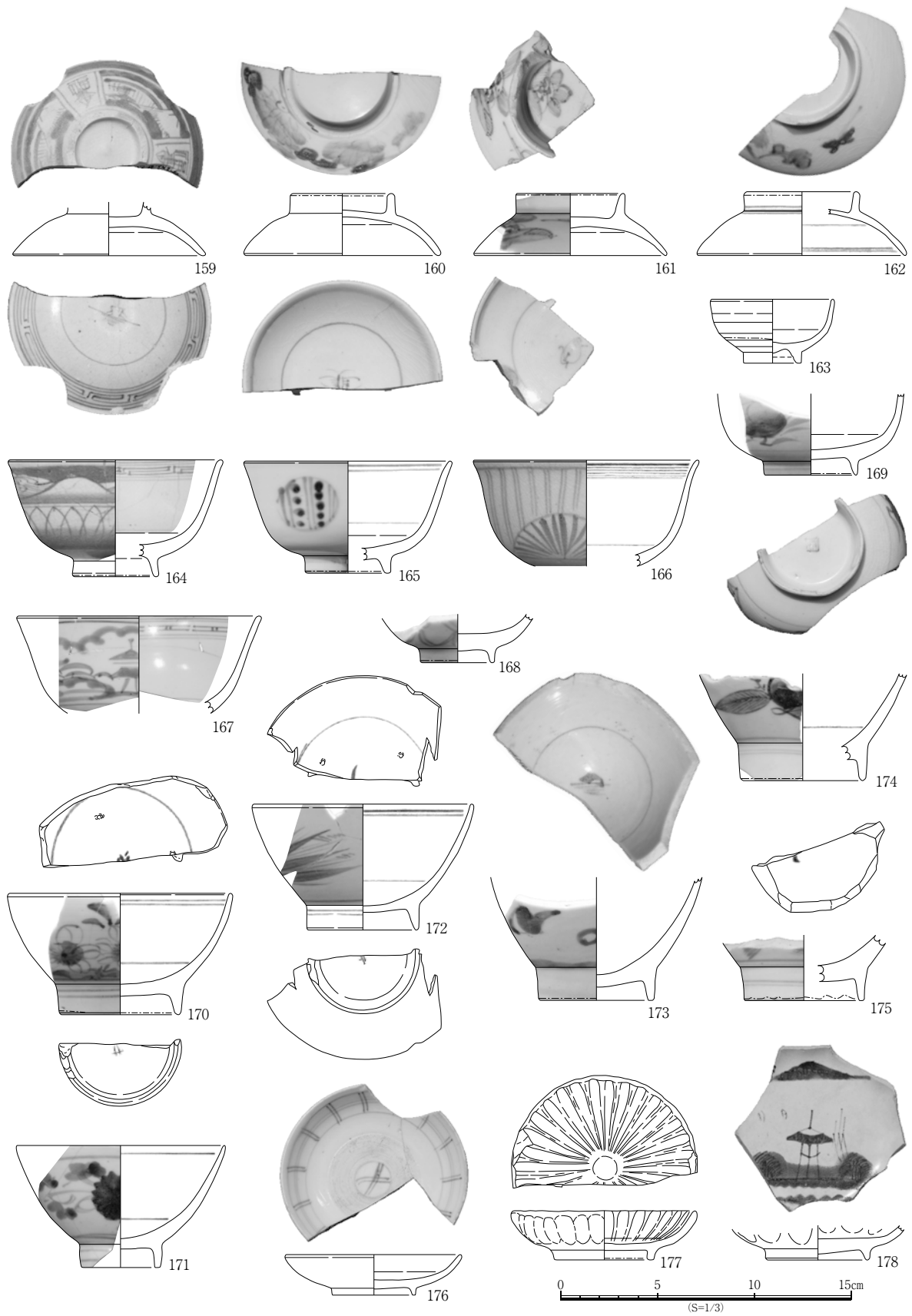


图68 SD22出土遺物実測図1

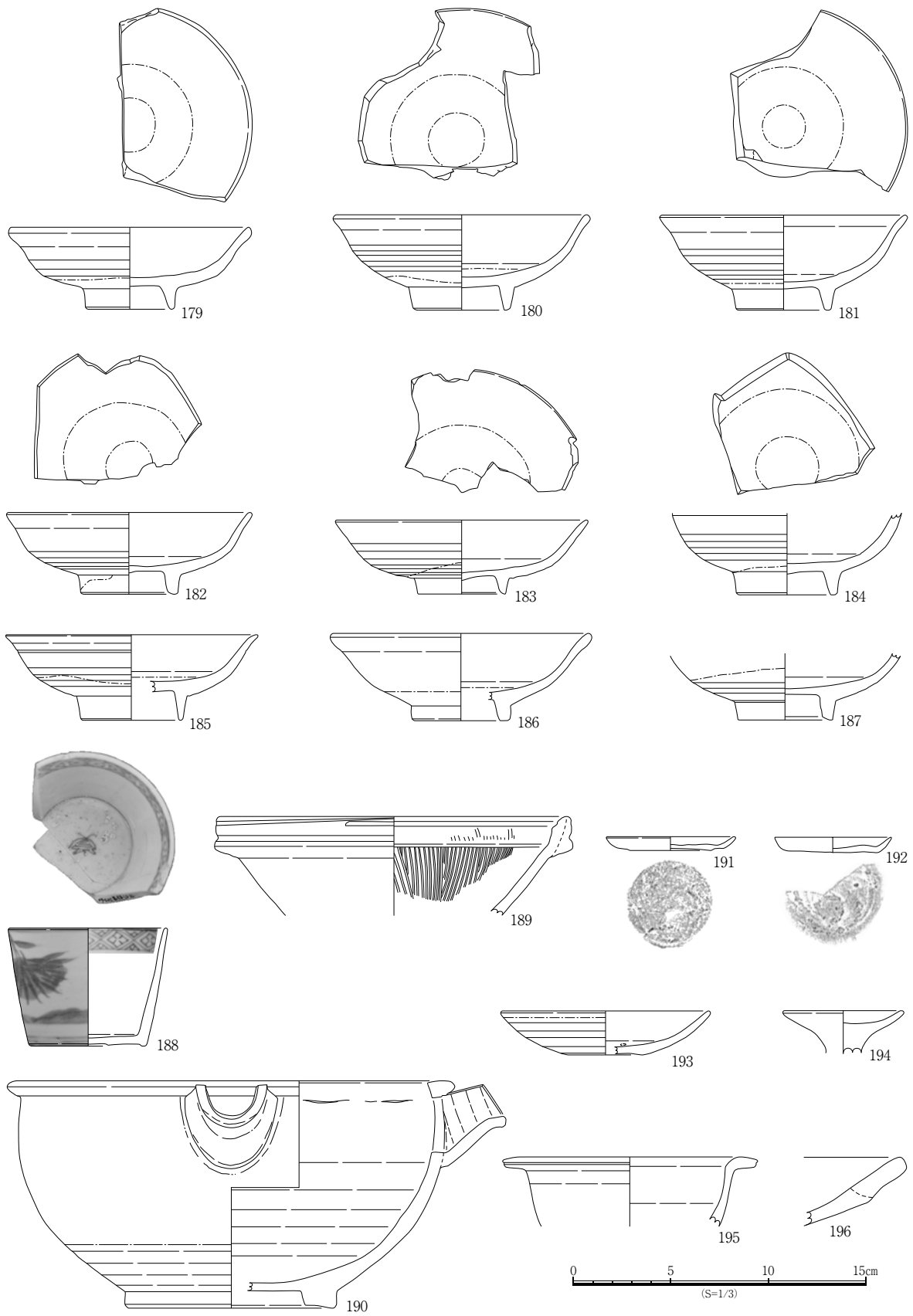


图69 SD22出土遗物实测图2

SD16

Ⅲ W区南部で検出した南北方向の溝跡で、南側は調査区外へ続き、北側は攪乱に切られる。幅約1.7m、検出長約10m、検出面からの深さ約24cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

出土遺物には弥生土器165点、石製品1点がある。弥生時代と考えられる。155は弥生土器の体部である。外面はタテ方向のハケメ調整、内面はナデ調整である。他に図示していないが、弥生土器の破片が出土している。

SD17

Ⅲ W区南部で検出した南北方向の溝跡で、南側は調査区外へ続き、北側は攪乱に切られる。幅約1.5m、検出長約8.2m、検出面からの深さ約17cmである。埋土は暗褐色(10YR3/3)粗粒砂である。

出土遺物は弥生土器530点である。図示した遺物は弥生土器である。156は二重口縁壺である。短い頸部から屈曲し大きくひらく。内外面ともナデ調整である。他に図示していないが、弥生土器の支脚、讃岐地域からの搬入土器等が出土している。

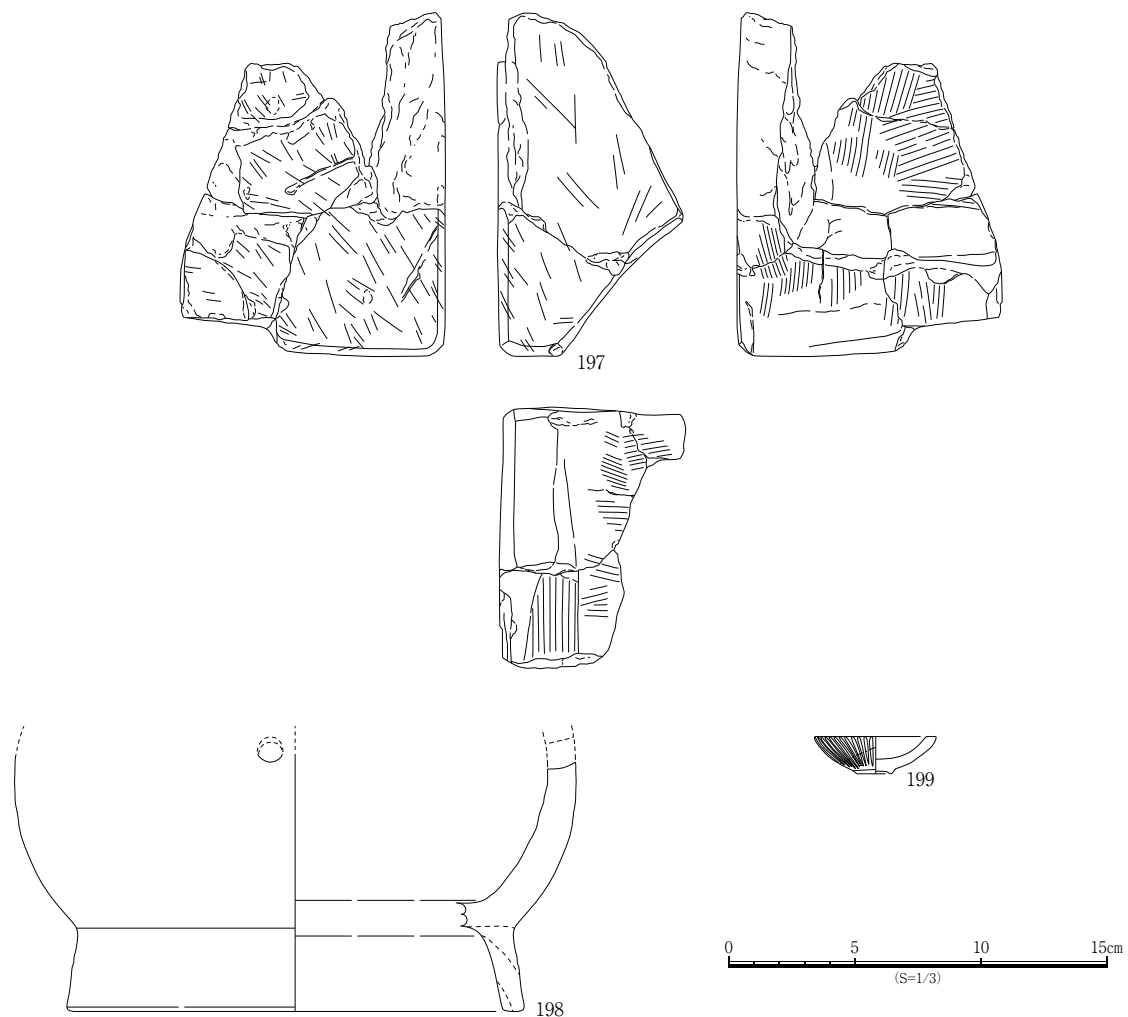


図70 SD22出土遺物実測図3

### SD18

Ⅲ W区北東部で検出した南北方向の溝跡で、北側は調査区外へ続く。幅約 0.3m，検出長約 1.4m，検出面からの深さ約 7cm の溝である。埋土は暗褐色 (10YR3/3) 粗粒砂である。

図示していないが弥生土器の破片が出土している。

### SD19

Ⅲ E区北東部で検出した東西方向の溝跡で、西側は攪乱に切られ東側は調査区外へ続く。幅約 0.5m，検出面からの深さ約 31 cm である。約 4.3m を検出した。埋土は暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗・瓶等が出土している。

### SD20

Ⅲ E区東部で検出した南北方向の溝跡で、南側は調査区外へ続く。幅約 0.5m，検出面からの深さ

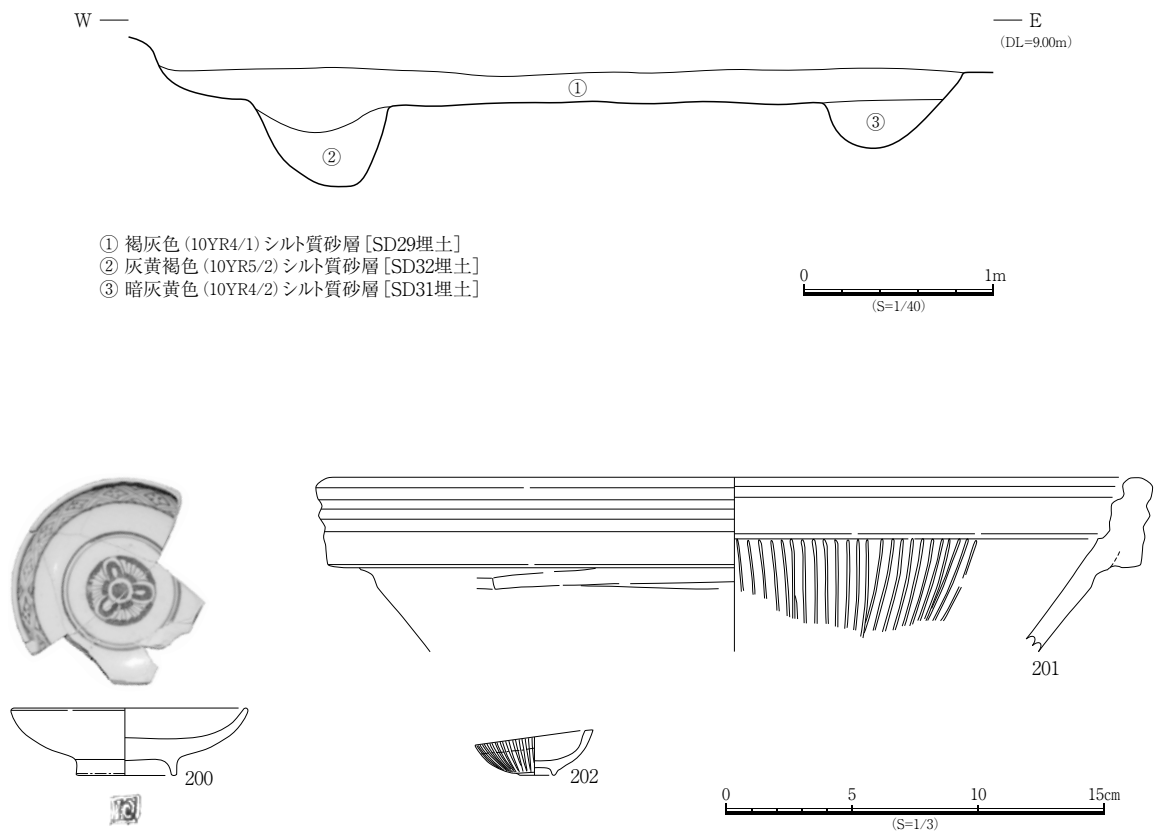


図71 SD29断面図・出土遺物実測図

約24cmである。途中2ヵ所を攪乱に切られているが約21.5mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)砂質シルトである。

図示した遺物は土師質土器の小皿, 陶器の台付灯明皿である。157は土師質土器の小皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。158は陶器の台付灯明皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施し, 外底面は露胎である。他に図示していないが, 磁器の碗, 陶器の碗・鉢・甕等が出土している。

### SD21

ⅢE区西部で検出した南北方向の溝跡で, 西側は調査区外へ続き幅は不明である。確認された深さは約44cmで, 約17.6mを検出した。埋土は黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂である。

図示していないが, 磁器の紅皿, 陶器の碗等が出土している。

### SD22

ⅢE区西部で検出した南北方向の溝跡で, 幅約1.2m, 検出面からの深さ約38cmである。約10.8mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の蓋, 磁器の碗, 磁器の皿, 陶器の皿, 磁器の蕎麦猪口, 陶器の播鉢, 陶器の片口鉢, 土師質土器の小皿, 陶器の灯明皿, 陶器の台付灯明皿, 土師質土器の鍋, 土師質土器の焙烙, 土師質土器の焜炉, 白磁の紅皿である。159～162は磁器の蓋である。159の外面には「福寿」と風景, 内面には雷文帯, 圏線文, 見込みに水に舟を描く。160の外面には花, 内面には圏線文, 見込みに蝶を描く。161の摘み内を含めた外面には花, 内面には圏線文, 見込みに鷺を描く。162の外面には花, 蝶, 圏線文, 内面には圏線文を描く。163は碗である。釉調はオリーブ色を呈し, 外面下半は露胎である。164～175は磁器の碗である。164～167は端反り形である。164の外面には波, 内面には雷文帯, 圏線文を描く。165には外面に丸文, 圏線文, 内面には圏線文を描く。内面の呉須の発色は悪い。166の外面には丸文, 二重の縞文, 内面には多重圏線文, 圏線文を描く。釉調は灰黄色を呈する。167の外面には山水文, 圏線文, 内面には雷文帯, 圏線文を描く。呉須の発色は鮮やかである。168は外面に二重網目文を施す。169の外面に文様, 圏線文を描く。また, 高台内には角枠内に「茶」の銘がみられる。能茶山産である。170～175は広東形である。外面に文様を描く。内面は圏線文(170～174), 見込みに岩波文(173)を描くものもある。170・172の高台内に「サ」の銘がみられる。176は磁器の皿である。見込みを釉剥ぎし, アルミナ砂を塗布する。内面には二重格子文を描く。177は白磁の菊

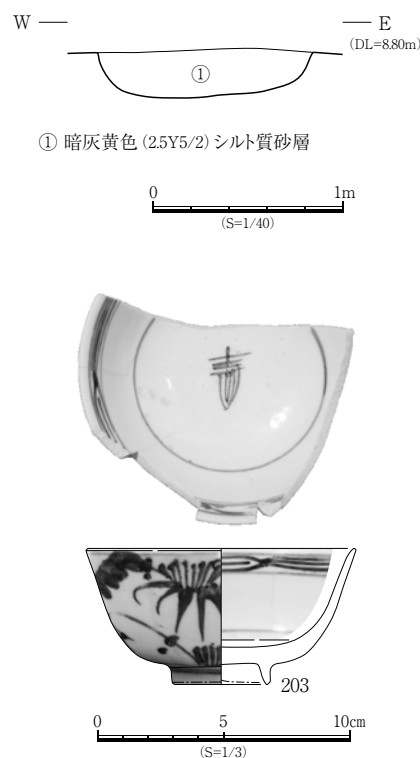


図72 SD34断面図・出土遺物実測図

皿である。178は内面に山水文を描く。179～187は陶器の皿である。179・183・187は鉄釉，181・182，184・185は灰釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施し，アルミナ砂を塗布する。外面は187は下半が露胎，179～181，183～186は腰部以下が露胎，182は高台が露胎である。188は磁器の蕎麦猪口である。蛇ノ目凹形高台である。外面に文様，圏線文を施す。内面には四方襷文，見込みには昆虫文，圏線文を施す。189は陶器の播鉢である。口縁帯外面には2条の凹線，内面には1条の凹線が巡る。内面には9条1単位のスリメを密に施す。190は陶器の片口鉢である。口唇部は水平に拡張させる。一部を「U」字状に挟り，注口を付す。外面は黒色釉，内面に鉄釉を施す。外面下半，口縁部上面は露胎である。191・192は土師質土器小皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。191の口縁端部にタールが付着する。193は陶器の灯明皿である。内面には灰釉を施し，外面は露胎である。内面には目跡が認められる。194は陶器の台付灯明皿である。195は土師質土器の鍋である。口縁部は水平まで外反する。内外面に煤が付着し，特に内面は激しく煤ける。196は土師質土器の焙烙である。口縁部は強いヨコナデを施す。外面は激しく煤が付着する。197は土師質土器の焜炉である。箱形であり，上面から側面の破片である。外面は丁寧に磨かれているが，内面はハケメ調整である。内面天井部はハケメ調整，側面はナデ調整であり指ナデの痕跡が明瞭に残る。198は土師質土器の丸形焜炉である。内面，高台内に煤が付着する。体部に円孔が穿たれる。199は白磁の紅皿である。型押し成形である。外面のほとんどは露胎である。他に図示していないが，磁器の碗・皿・瓶・香炉，陶器の皿・鉢・瓶・甕・鍋・蓋・播鉢・受付灯明皿，土師質土器の小皿・焙烙・火鉢・さな，瓦質土器の火鉢，土人形等が出土している。

### SD23

ⅢE区南西部で検出した南北方向の溝跡で，南側は攪乱に切られる。幅約0.2m，検出面からの深さ約29cmである。約2.5mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

### SD24

ⅢE区北西部で検出した東西方向の溝跡で，西側はSD21に繋がる。幅約0.2m，検出面からの深さ約5cmである。約1.1mを検出した。埋土は黄灰色(2.5Y5/1)砂質シルトである。

### SD25

ⅢE区南西部で検出した南北方向の溝跡で，北側は攪乱に切られ南側は調査区外へ続く。幅約0.3m，検出面からの深さ約6cmである。約1.2mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

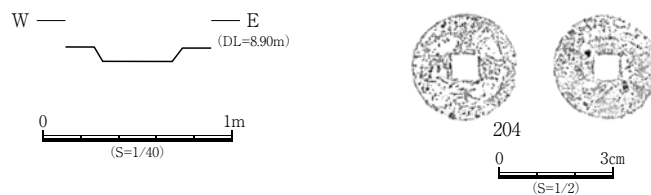


図73 SD36エレベーション図・出土遺物拓影

SD26

IV W区北西部で検出した南北方向の溝跡で、南北とも調査区外へ続く。幅約0.8m、検出面からの深さ約18cmである。約2.7mを検出した。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルト質砂である。

SD27

IV W区北西部で検出した逆「L」字状の溝跡で、幅約0.8m、検出面からの深さ約26cmである。約6.7mを検出した。埋土は1層が灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂、2層が褐灰色(10YR4/1)砂質シルトである。

SD28

IV W区北西部で検出した逆「L」字状の溝跡である。区画溝と考えられ、北側と西側は調査区外へ続く。幅約0.5m、検出面からの深さ約36cmである。約18.4mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

SD29

IV W区西部で検出した南北方向の溝跡で、SD30～32を切る。幅約3.6m、検出面からの深さ約34cmである。約14.0mを検出した。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の皿、陶器の播鉢、白磁の紅皿である。200は磁器の皿である。外面は青磁釉であり、畳付けには釉剥ぎを施す。内面には四方襷文、見込みには二重圏線文、花を描く。高台内には二重角枠内に渦「福」の銘が認められる。201は陶器の播鉢である。口縁帯外面には2条の凹線とさらに弱い凹線が巡る。内面には1条の凹線、スリメ上端は強いヨコナデにより凹線状となる。内面には8条1単位のスリメを密に施す。スリメ1条1条の間隔はややひろい。202は白磁の紅皿である。型押し成形で、外面はほぼ露胎である。釉薬はややオリーブ色を呈する。他に図示していないが、磁器の碗・鉢・紅皿・瓶・香炉、陶器の碗・皿・瓶・甕・鍋・蓋・播鉢・受付灯明皿、土師質土器の焙烙・小皿、瓦質土器の火鉢、軒丸瓦、土人形等が出土している。

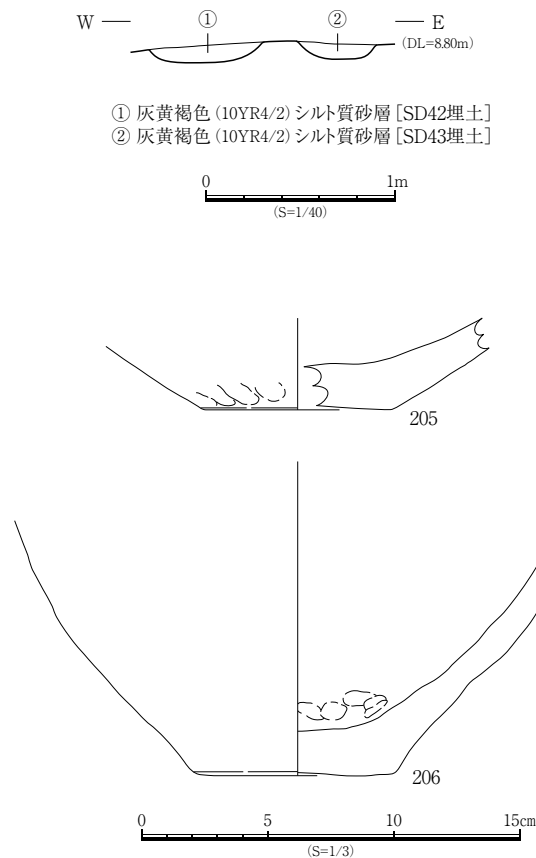


図74 SD42断面図・出土遺物実測図

### SD30

IV W区南部で検出した東西方向の溝跡で、SD29に切られる。南側は調査区外へ続き、幅は不明である。検出面からの深さ約30cmである。約3.7mを検出した。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルト質砂である。

### SD31

IV W区西部で検出した南北方向の溝跡で、SD29に切られ南側は調査区外へ続く。幅約0.9m、検出面からの深さ約45cmである。約15.2mを検出した。埋土は暗灰黄色(10YR4/2)シルト質砂である。

### SD32

IV W区西部で検出した南北方向の溝跡で、SD29に切られ南北とも調査区外へ続く。幅約0.9m、検出面からの深さ約51cmである。約15.5mを検出した。埋土は1層が褐灰色(10YR5/1)シルト質砂、2層が灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

図示していないが、土師質土器とみられる破片が出土している。

### SD33

IV W区南東部で検出した南北方向の溝跡で、SD34に切られ、南北とも調査区外へ続く。幅約0.8m、検出面からの深さ約22cmである。約10mを検出した。埋土は黄褐色(2.5Y5/3)シルト質砂である。

図示していないが、土師質土器とみられる破片が出土している。

### SD34

IV W区南東部で検出した南北溝跡で、SD33を切り南側は調査区外へ続く。幅約1.2m、検出面からの深さ約18cmである。約10.4mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の碗である。203は酸化コバルトで文様を施す。見込みには寿文を施す。他に図示していないが、磁器の碗・紅皿、陶器の碗・皿・甕・播鉢・蓋等が出土している。

### SD35

IV W区東部で検出した逆「L」字状の溝跡で、北側は攪乱に切られる。幅約0.3m、検出面からの深さ約21cmである。約9.2mを検出した。埋土は1層が暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂、2層がにぶい黄

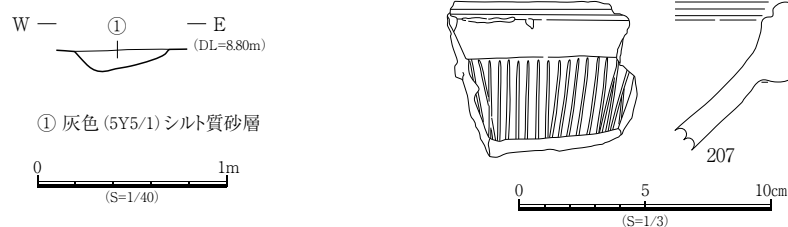


図75 SD44断面図・出土遺物実測図



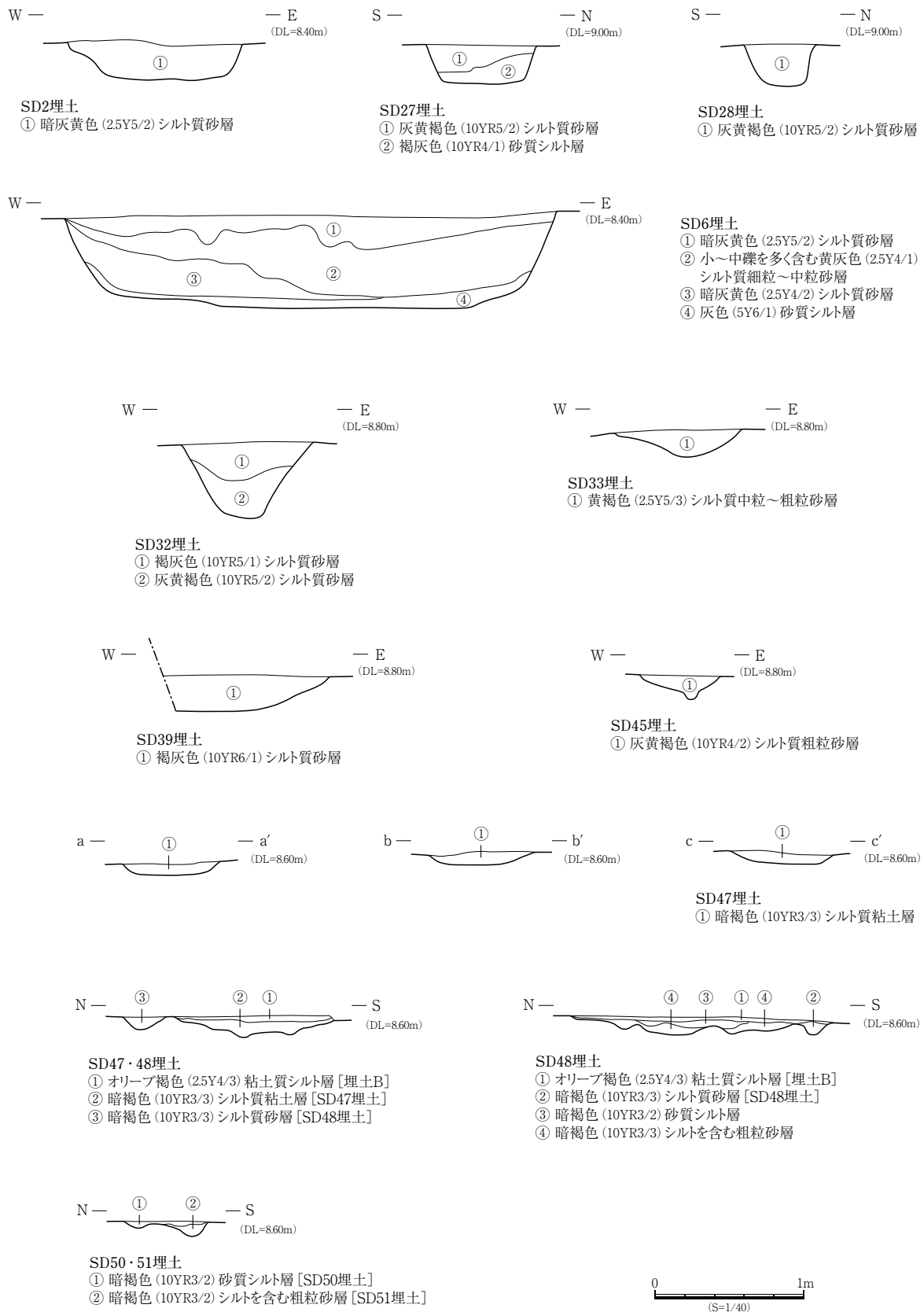


図76 SD2・6・27・28・32・33・39・45・47・48・50・51断面図

褐色(2.5Y6/3)シルト質砂である。

図示していないが、陶器の瓶、土瓶等が出土している。

### SD36

IV W区東部で検出した南北溝跡で、南側はSK50、北側は攪乱に切られる。幅約0.4m、検出面からの深さ約21cmである。約2.4mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示した遺物は寛永通宝(204)である。他に図示していないが、磁器・陶器の瓶等が出土している。

### SD37

IV W区東部で検出した南北方向の溝跡で、南側は攪乱に切られる。幅約0.3m、検出面からの深さ約6cmである。約1.6mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。

図示していないが、陶器の破片が出土している。

### SD38

IV W区中央部で検出した東西方向の溝跡で、西側はSK53に切られる。幅約0.2m、検出面からの深さ約8cmである。約7.6mを検出した。埋土は褐灰色(10YR4/1)シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗、陶器の播鉢等が出土している。

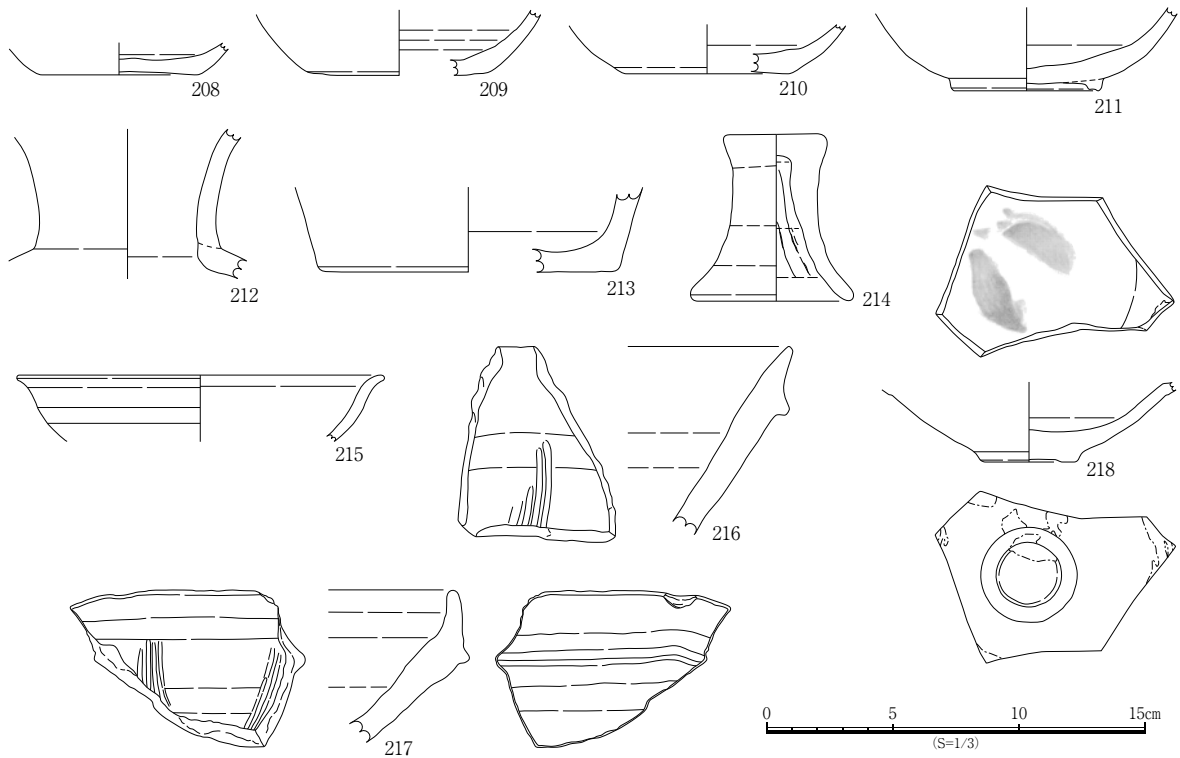


図77 SR1出土遺物実測図

SD39

IVW区中央部で検出した南北方向の溝跡である。西側は調査区外へ続き、幅は不明である。途中2カ所攪乱に切られ、検出面からの深さ約24cmである。約25mを検出した。埋土は褐灰色(10YR6/1)シルト質砂である。

図示していないが、磁器の碗・「大化年製」の銘が入った皿、陶器の碗・皿・瓶・灯明皿、土師質土器の小皿等が出土している。

SD40

IVW区北東部で検出した溝跡で、北側は調査区外へ続く。幅約0.4m、検出面からの深さ約16cmである。約7.2mを検出した。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)シルト質砂である。

図示していないが、弥生土器とみられる破片が出土している。

SD41

IVE区西部で検出した溝跡である。緩やかな弧を描き、両端は調査区外へのびる。幅約1.0m、検出面からの深さ約14cmである。約8.5mを検出した。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質細粒～中粒砂である。

図示していないが、磁器、弥生土器の破片が出土している。

SD42

IVE区中央部で検出した溝跡で、SD43・45を切り、SK60・61とSD44に切られる。南北とも調査区外へ続き、幅約0.7m、検出面からの深さ約18cmである。約36.7mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

図示した遺物は205・206は弥生土器の底部である。

SD43

IVE区中央部で検出した溝跡で、SK61とSD42・44に切られる。南北とも調査区外へ続き、幅約0.9m、検出面からの深さ約8cmである。約28.8mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質砂である。

図示していないが、弥生土器の破片が出土している。

SD44

IVE区中央部で検出した南北方向の溝跡で、SK60・67とSD42・43・45を切る。南北とも調査区外へ続き、幅約0.7m、検出面からの深さ約17cmである。約29.3mを検出した。埋土は灰色(5Y5/1)シルト質砂である。

図示した遺物は陶器の播鉢である。207の口縁帯外面には2条の凹線、内面には1条の凹線を巡らせる。スリメ上端にはヨコナデ調整を施す。内面には8条1単位のスリメを密に施す。スリメ1条1条の間隔はややひろい。他に図示していないが、磁器の碗・鉢・火入れか、陶器の碗・鉢・甕等が出土している。

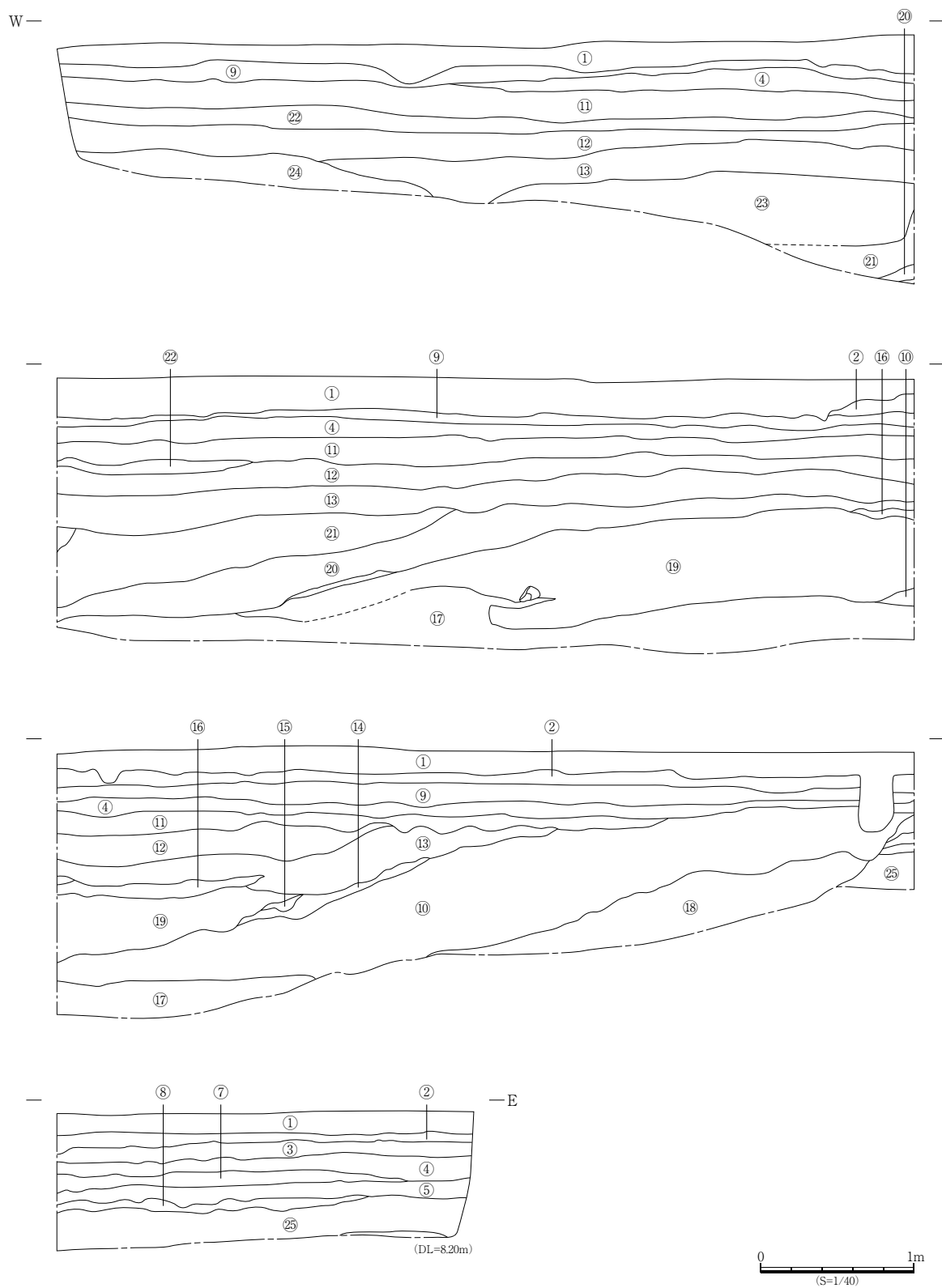


图78 SR2断面图

SR2断面図層位

- |                            |                                   |
|----------------------------|-----------------------------------|
| ①黒褐色(10YR3/2)シルト層[耕作土]     | ⑭褐色(10YR4/4)ラミナ有り, 微粒砂層           |
| ②暗褐色(10YR3/3)粘土質シルト層[床土]   | ⑮暗褐色(10YR3/4)微粒砂層                 |
| ③黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト層[旧耕作土] | ⑯褐色(10YR4/4)シルトを含む微粒砂層            |
| ④灰黄褐色(10YR4/2)微粒砂を多く含むシルト層 | ⑰灰黄褐色(10YR4/2)シルト・中礫を多く含む極粗砂層     |
| ⑤黒褐色(10YR3/2)粘土質シルト層       | ⑱灰褐色(7.5YR4/2)ラミナ有り, シルトを多く含む細粒砂層 |
| ⑥灰黄褐色(10YR4/2)砂質シルト層       | ⑲黒褐色(10YR3/2)ラミナ有り, シルトを含む微粒砂層    |
| ⑦黄褐色(10YR5/6)微粒砂層          | ⑳灰色(N4/0)砂質シルト層                   |
| ⑧黄褐色(10YR5/6)微粒砂層          | ㉑黄灰色(2.5Y4/1)シルト質砂層               |
| ⑨褐色(7.5YR4/4)シルト質砂層        | ㉒暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂層              |
| ⑩褐色(10YR4/6)微粒砂層           | ㉓暗灰黄色(2.5Y4/2)大礫層                 |
| ⑪褐色(10YR4/4)シルト層           | ㉔暗灰黄色(2.5Y/2)極粗砂を含む中礫層            |
| ⑫暗褐色(10YR3/4)シルト層          | ㉕褐色(10YR4/4)シルト層                  |
| ⑬褐色(7.5YR4/6)粘土質シルト層       |                                   |

SD45

IV E区中央部で検出した溝跡で, SD42・44に切られる。南北とも調査区外へ続き, 幅約0.6m, 検出面からの深さ約21cmである。約30.1mを検出した。埋土は灰黄褐色(10YR4/2)シルト質粗粒砂である。

図示していないが, 弥生土器の破片が出土している。

SD46

IV E区西部で検出した南北方向の溝跡で, 北側は調査区外へ続く。幅約0.5m, 検出面からの深さ約5cmである。約9.6mを検出した。埋土は褐色(10YR4/4)シルト質砂である。

図示していないが, 弥生土器の破片が出土している。

SD47

V区南部で検出した「L」字状の溝跡で, 南側は調査区外へ続く。幅約0.6m, 検出面からの深さ約11cmである。検出長約17mである。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質粘土である。

図示していないが, 弥生時代中期の土器片が出土している。

SD48

V区南部で検出した東西方向の溝跡である。幅約0.2m, 検出面からの深さ約10cmである。検出長約3mである。SD47の北側で並行する。埋土は暗褐色(10YR3/3)シルト質砂である。

図示していないが, 陶器の鍋等が出土している。

SD49

V区中央部で検出した溝跡で, 東側は調査区外へ続く。幅約0.7m, 検出面からの深さ約8cmである。検出長約16.3mである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂である。

図示していないが, 土師質土器とみられる破片が出土している。

SD50

V区中央部で検出した東西方向の溝跡で、幅約0.2m、検出面からの深さ約5cmである。検出長約1.6mである。埋土は暗褐色(10YR3/2)砂質シルトである。SD51に切られている。

図示していないが、弥生土器の破片が出土している。

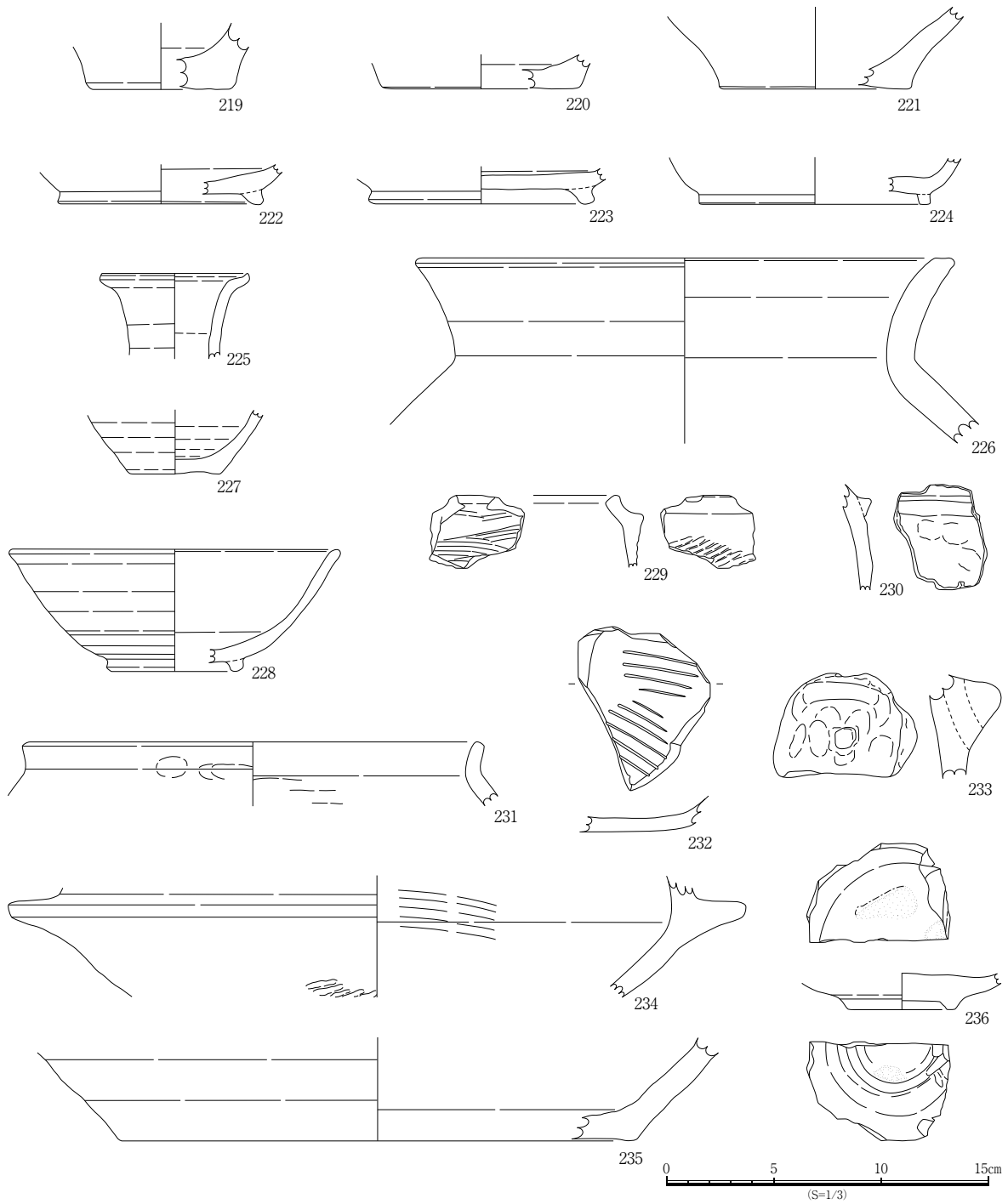


図79 SR2出土遺物実測図1

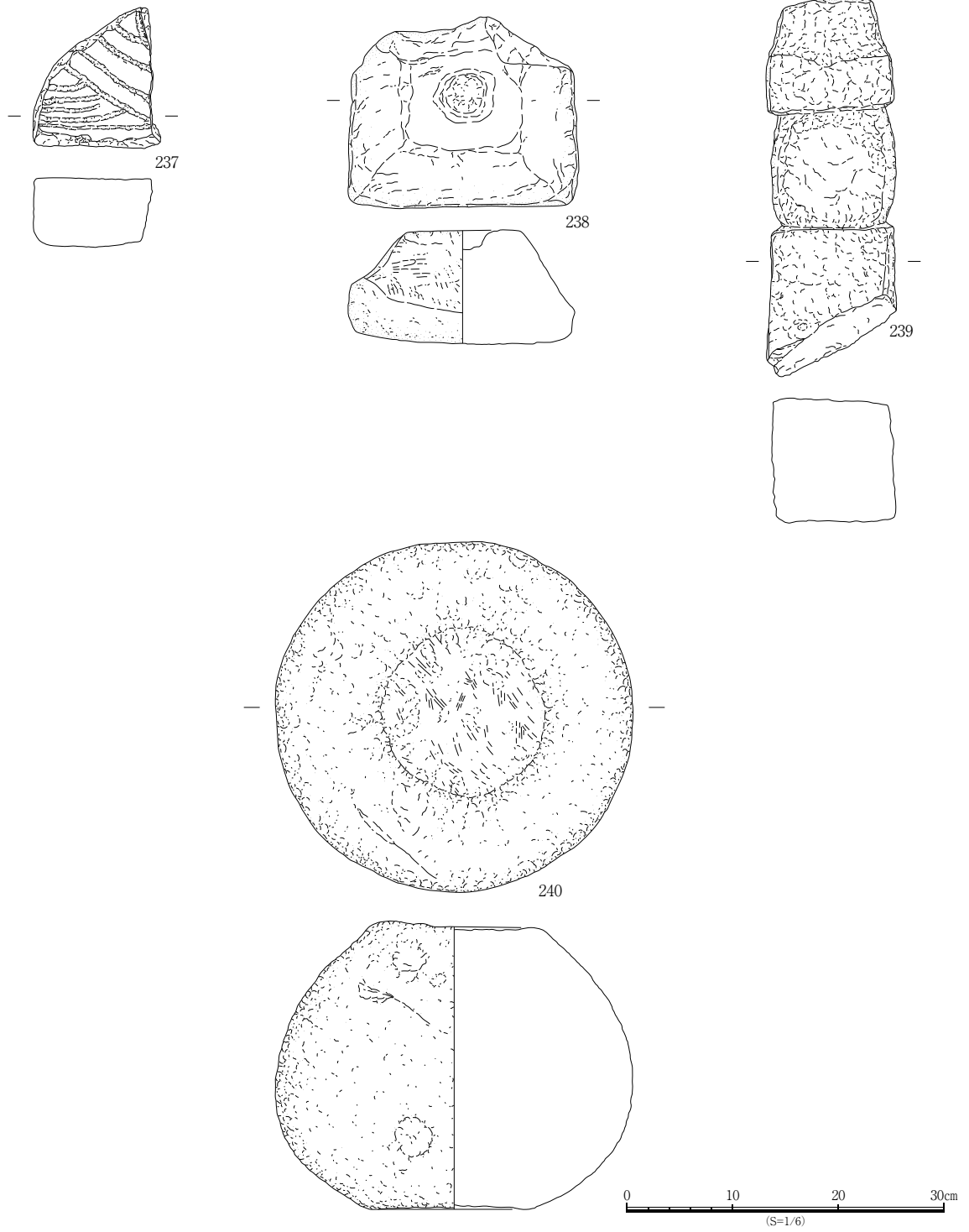


图80 SR2出土遺物実測図2

### SD51

V区中央部で検出した東西方向の溝跡で、幅約0.2m、検出面からの深さ約8cmである。検出長約2mである。埋土は暗褐色(10YR3/2)シルトを含む粗粒砂である。

### SD52

V区東部で検出した溝跡で、幅約0.1m、検出面からの深さ約4cmである。検出長約1mである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂である。

図示していないが、弥生土器、磁器の破片が出土している。

### SD53

V区東部で検出した逆「L」字状の溝跡で、北側はSD49に切られる。幅約0.2m、検出面からの深さ約10cmである。検出長約2.5mである。埋土はSD49と同じ黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂である。

### SD54

V区北部で検出した不定形な溝跡である。幅約1.0m、検出面からの深さ約12cmである。検出長約10mである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルト質極細粒砂である。

## ⑤ SR

### SR1

I・II区北部で検出した幅約3m、検出長約66m、検出面からの深さ約100cmの自然流路跡である。東西方向にのびている。両端とも調査区外にのびる。

出土遺物には、弥生土器65点、土師器11点、須恵器33点、土師質土器421点、瓦器4点、瓦質土器3点、中世陶器4点、備前焼1点、白磁2点、青磁2点、近世陶器3点である。中世と考えられる。図示した遺物は土師質土器の杯、須恵器の壺、土師器の高杯、青磁の碗、陶器の播鉢、陶器の碗である。208～210は土師質土器の杯である。211は土師質土器の碗である。底面に輪高台が付

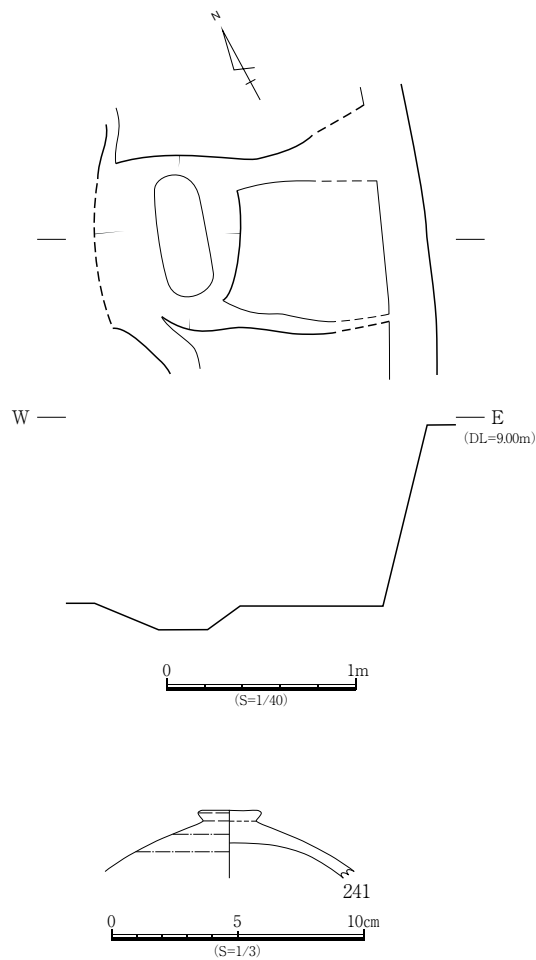


図81 SX1平面図・エレベーション図・出土遺物実測図



される。摩滅している。212は須恵器の壺の頸部である。焼成不良のためか、にぶい褐色を呈している。213は須恵器の壺の底部である。212, 213, 216は激しくローリングを受けている。214は須恵器の高杯の脚部である。中空の脚部から裾部へひろがる。裾部はやや短く不安定なことやローリングを受けている遺物が他にも多数あることから、この脚もローリングを受けている可能性がある。215は青磁の端反り碗である。216は陶器の播鉢である。口縁部は突帯状を呈する。内面にはスリメが疎らに施される。備前焼である。217は陶器の播鉢である。口縁部は「く」の字状を呈する。口縁部の一部を注口とする。内面には4条1単位のスリメを疎らに施す。備前焼である。内面はにぶい橙色、外面はにぶい黄橙色を呈する。218は唐津焼の皿である。低平な高台から体部は内湾しながら立ち上がり口縁部を外反させる。灰白色の釉薬を施すが、外面はほとんどが露胎である。見込みには目跡が認められる。他に図示していないが、土師器の杯身、須恵器の杯蓋、青磁の碗、土師質土器の鍋等が出土している。

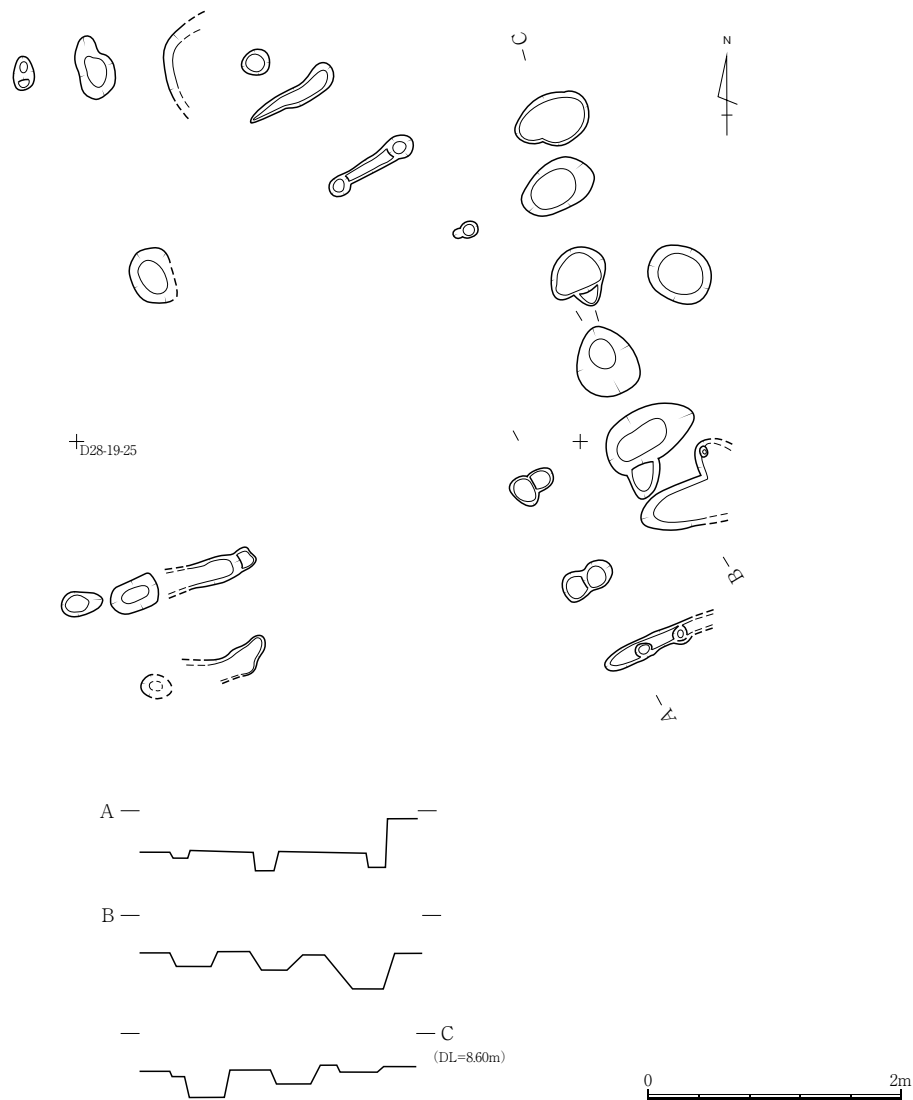


図82 SX4平面図・エレベーション図

SR2

I・II区で検出した自然流路跡である。検出長約64m，検出面からの深さ約137cmである。幅は不明である。出土遺物には、弥生土器158点，土師器2点，須恵器13点，土師質土器41点，中世陶器1点，石製品1点である。上層には人為的な埋め戻しの状況が認められた。

図示した遺物は弥生土器の底部，須恵器の杯，須恵器の壺，須恵器の甕，土師質土器の椀，土師質土器の羽釜，瓦質土器の羽釜，瓦質土器の鍋，瓦質土器の播鉢，土師質土器の茶釜，陶器の播鉢，陶器の碗，石臼，火輪，水輪，一石五輪塔である。219～221は弥生土器の底部である。222～224は須恵器の杯である。底面に高台を付す。222はローリングを受けている。223の外底面にはヘラ切り痕跡が認められる。やや摩滅する。224はわずかに摩滅する。225は須恵器の壺である。ローリングを受けている。226は須恵器の甕である。口唇部は凹面状を呈する。内外面とも回転ナデ調整である。227は土師質土器の杯の底部である。ローリングを受けている。228は土師質土器の椀である。口縁部はわずかに外反させる。外底面に輪高台を付す。内面はミガキ調整か。にぶい橙色～浅黄橙色を呈する。229は土師質土器の羽釜である。口縁部のやや下がった位置に鏝が付く。外面は叩き成形，内面はハケメ調整である。外面の鏝以下に煤が付着する。230は瓦質土器の羽釜である。口縁部のやや下がった位置に鏝が付く。外面の鏝以下に煤が付着する。231は瓦質土器の鍋である。232は瓦質土器の播鉢である。内面には6条1単位のスリメを疎らに施す。233・234は土師質土器の茶釜である。234の腰部に

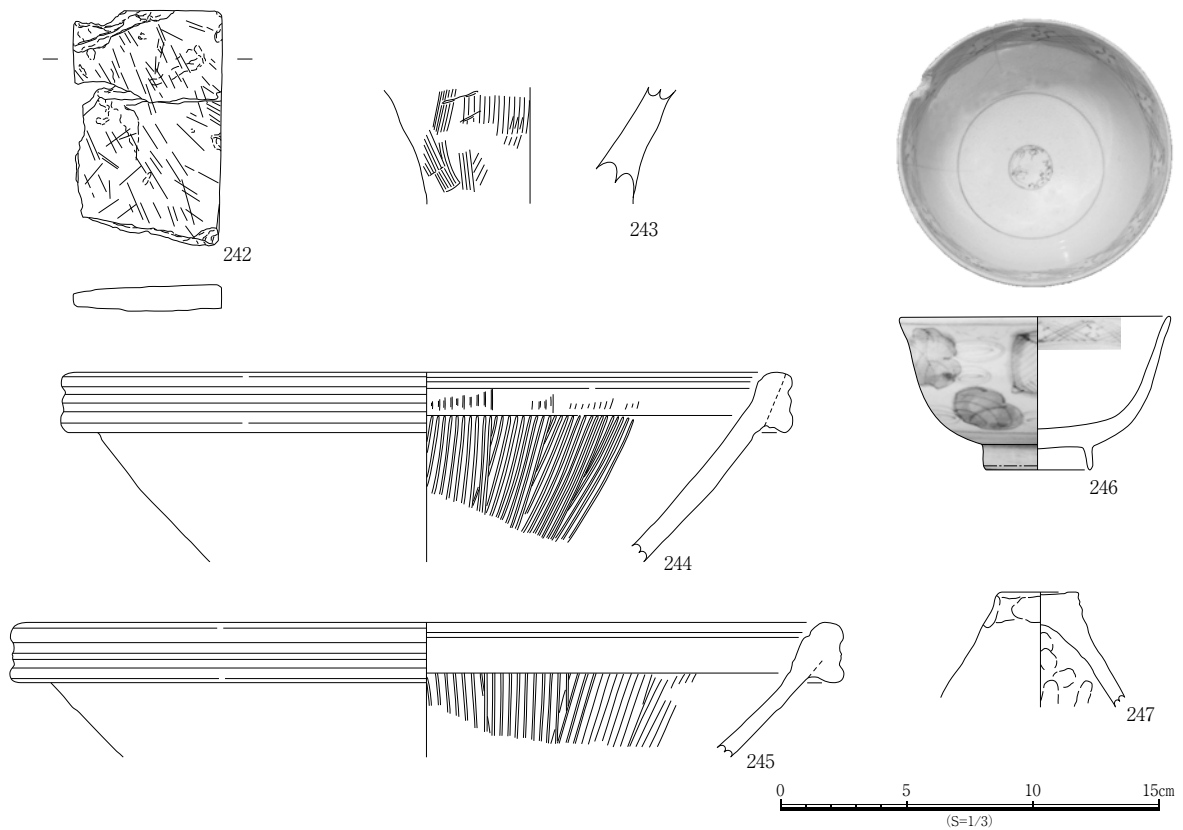


図83 ピット出土遺物実測図

は叩き目が認められる。また、鏝以下の内外面に煤が付着する。外面のほうが多く付着する。235は陶器の甕と考えられる。備前焼である。236は陶器の皿である。高台は低く、底部の器壁は厚い。灰釉を施す。畳付けには釉剥ぎを施す。見込みには砂目が認められる。唐津焼である。237は砂岩製の下臼である。約四分の一の破片である。破断面が平滑となっており、破損後に何かに転用された可能性がある。両面に溝が掘られている。使用により一面の溝はほとんどなく、面も平滑となっている。副溝3～4条である。238は砂岩製の火輪である。一部が欠損する。頂部に風輪を受ける孔が穿たれている。全体にノミの痕跡が認められる。239は砂岩製の一石五輪塔である。空輪、風輪は欠損し、地輪の一部が欠損する。水輪の側面形は縦長の楕円形、地輪は縦長の長方形を呈する。全体にノミの痕跡が認められる。煤が付着している。240は花崗岩製の水輪である。側面形は下膨れを呈し、高さ33.2cm、最大幅33.7cm、重量42.8kgの大型品である。上面はわずかに凹み、下面は摩滅している。他に図示していないが、陶器の碗・皿・甕・播鉢、土師質土器の羽釜、瓦質土器の鍋、東播系須恵器の鉢、須恵器の杯蓋・甕・壺、土師器の杯身、弥生土器、土製支脚、スラグ等が出土している。

## ⑥ SX

### SX1

Ⅲ W区東部で検出した方形の遺構である。長軸約1.0m、短軸約0.9m、検出面からの深さ約41cmである。出土遺物には近世陶器2点、近世磁器2点がある。

図示した遺物は陶器の鍋蓋である。241の天井部に扁平な摘みが付される。鉄釉を施す。外面は施釉部分と露胎部分を同心円状に交互に配置する。

### SX3

V区東部で検出した土器集中である。直径約1mの範囲に弥生土器の破片が約170点集中して出土した。

### SX4

Ⅵ-①区で検出した性格不明遺構である。いわゆる波板状凹凸面の一種と考えられる。楕円形土坑が連続する一群と内部にピットが掘削された溝状土坑が連続する一群で構成される。両者とも北西方向から南東方向に緩やかな弧を描くようにのびる。楕円形土坑は長軸約0.6～0.8m、短軸約0.4m、検出面からの深さは3～19cmとバラツキがある。溝状土坑は幅約0.2m、長さ約0.8m、内部のピットは直径約0.2m、検出面からの深さ約5cmである。出土遺物はほとんどない。田村西遺跡等でも、同様の遺構が検出されている。

## ⑦ P

### E29-2-8\_P4

Ⅲ W区西部で検出したピットである。直径約25cmの円形で、検出面からの深さ約13cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)粘土質シルトである。底部から礎石とみられる石を検出した。弥生時代と考えられる。

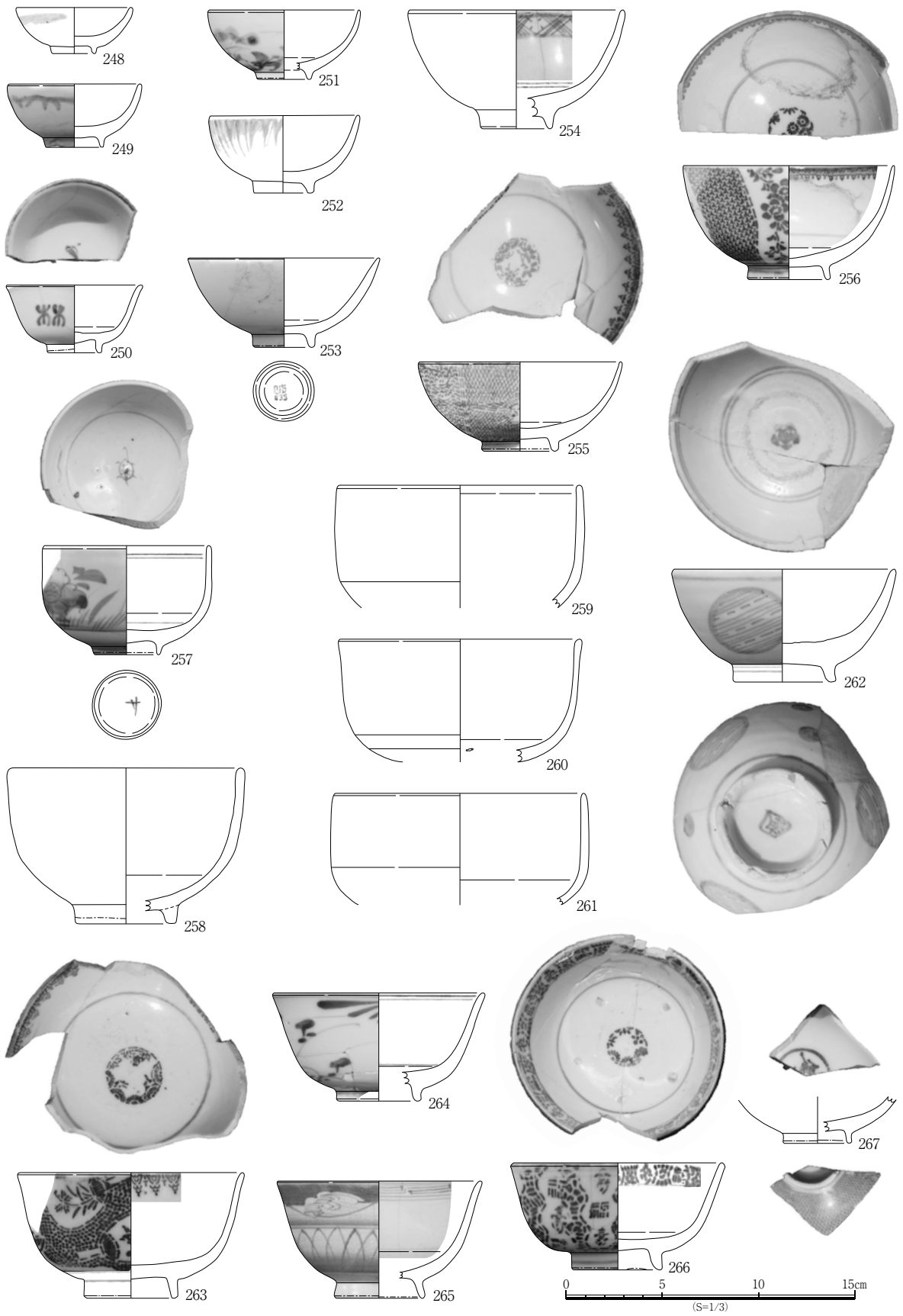


图84 遺構外出土遺物実測図1

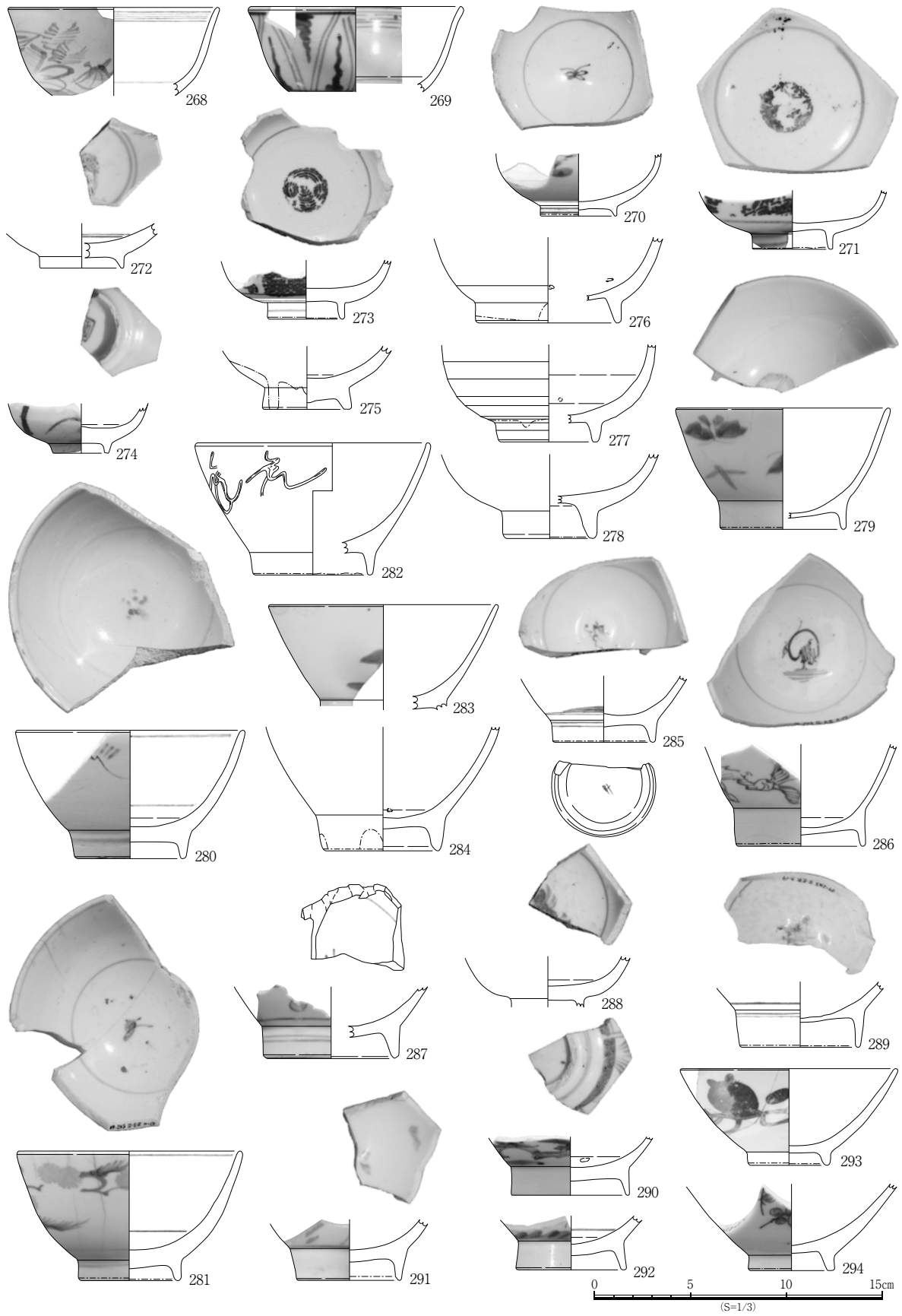


図85 遺構外出土遺物実測図2

#### E29-2-18\_P6

Ⅲ W区中央部で検出したピットである。長軸約31cm, 短軸約26cmの楕円形で, 検出面からの深さ約12cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)シルトである。底部から礎石とみられる石を検出した。

図示していないが, 土師質土器の破片が出土している。

#### E29-2-19\_P2

Ⅲ W区中央部で検出したピットである。直径約30cmの円形で, 検出面からの深さ約30cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト質砂である。底部から円礫が固まって出土した。

図示した遺物は砥石である。242は粘板岩製とみられる砥石である。平面形は欠損しているが長方形を呈している。四周は擦痕が認められるが, 研いだ痕跡よりも平面形も考慮に入れると鋸引き痕跡と考えられ, 平面的な法量は未使用時の幅を保持している可能性がある。

#### E29-2-21\_P5

Ⅲ W区南西部で検出したピットである。直径約50cmの円形で, 検出面からの深さ約20cmである。埋土は暗灰黄色(2.5YR4/2)シルト質砂である。底から礎石とみられる大型礫が出土している。

#### E29-2-24\_P5

Ⅲ W区南部で検出したピットである。直径約24cmの円形で, 検出面からの深さ約18cmである。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト質砂である。出土遺物には弥生土器5点がある。

図示した遺物は弥生土器である。243の外面にはハケメ調整が認められる。他に図示していないが, 弥生土器の破片が出土している。

#### E29-9-2\_P1

Ⅲ E区南西部で検出したピットで, SK22・33を切る。長軸約53cm, 短軸約51cmの楕円形で, 検出面からの深さ約46cmである。埋土は暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質シルトである。

#### E30-1-10\_P1

Ⅳ W区北東部で検出したピットである。長軸約45cm, 短軸約43cmの楕円形で, 検出面からの深さ約15cmである。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

図示した遺物は陶器の播鉢である。244は口縁帯外面に2条の凹線, 内面に1条の凹線が巡る。スリメ上端にヨコナデ調整を加えスリメをナデ消すが, わずかにスリメが残存している。内面に10条1単位のスリメを密に施す。245は口縁帯外面に2条の凹線, 内面に1条の凹線が巡る。内面に12条1単位のスリメを密に施す。堺産である。

#### E30-1-10\_P2

Ⅳ W区北東部で検出したピットである。長軸約18cm, 短軸約15cmの楕円形で, 検出面からの深さ約13cmである。埋土は灰黄褐色(10YR5/2)シルト質砂である。

図示した遺物は磁器の碗である。246は端反り碗である。畳付けに釉剥ぎを施す。外面には植物,

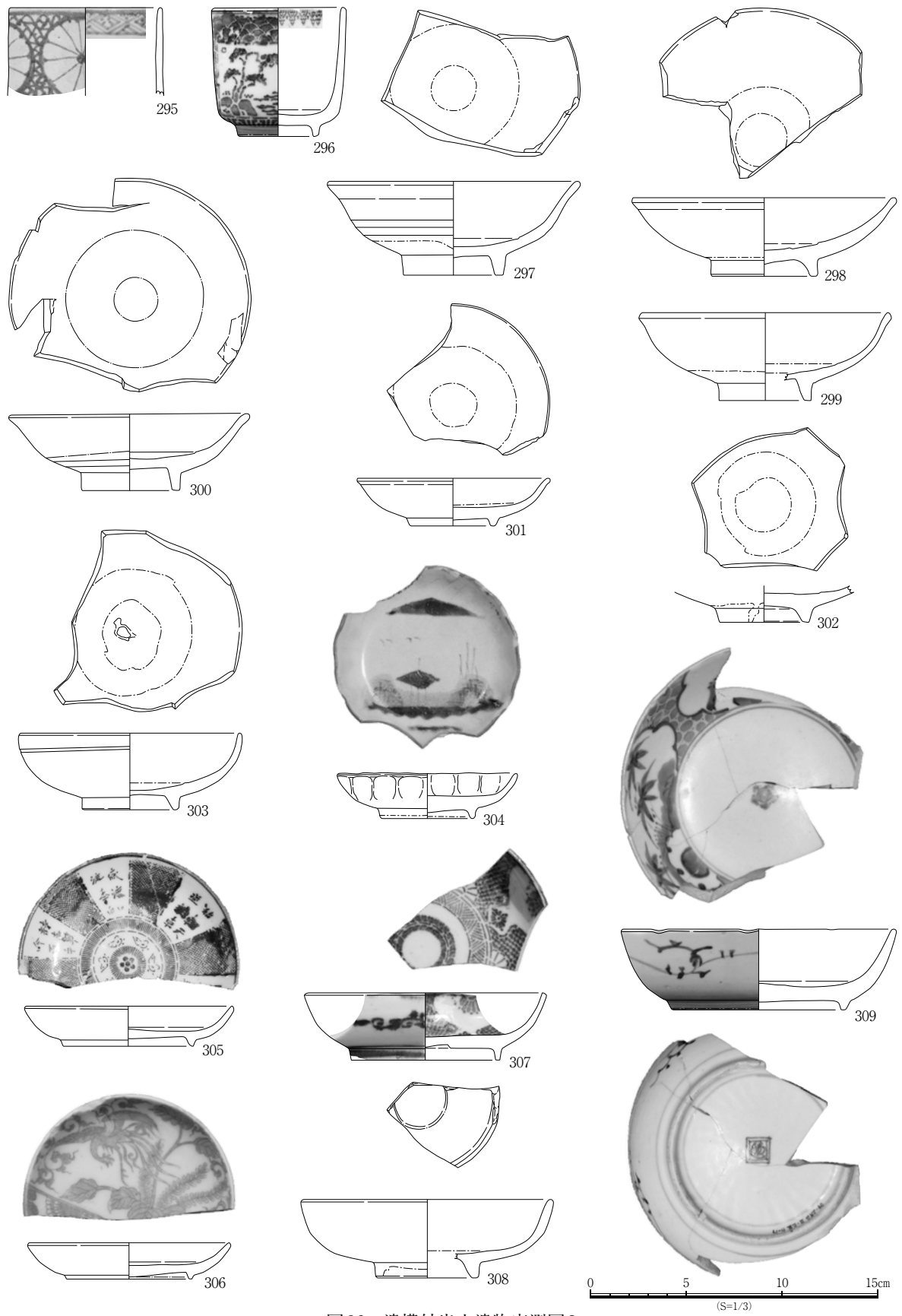


图86 遺構外出土遺物実測図3

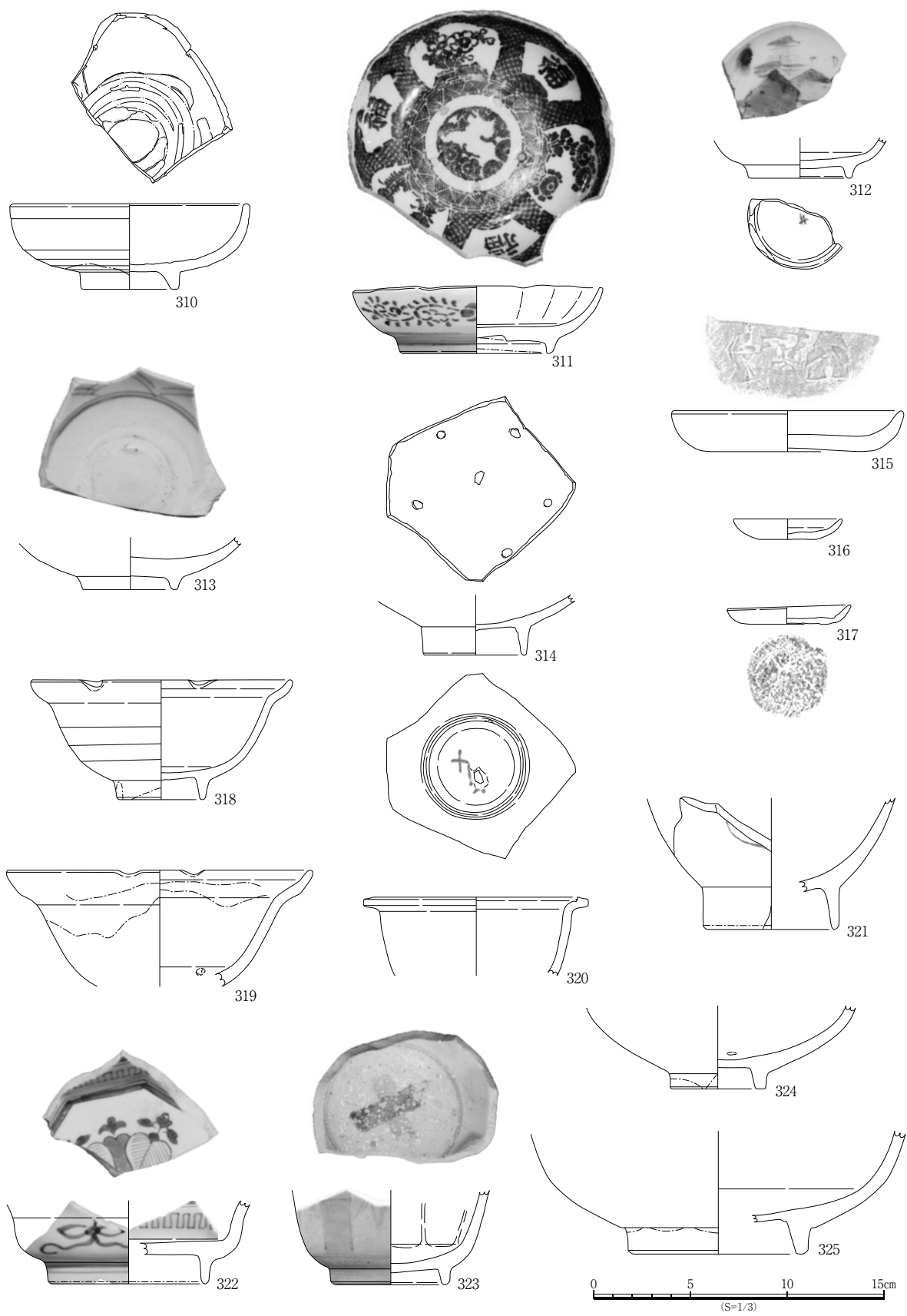


图87 遺構外出土遺物実測図4



圏線文を描く。内面には四方櫛文、見込みには圏線文、松竹梅文を描く。

E30-9-23\_P1

V区南西部で検出したピットである。直径約26cmの円形で、検出面からの深さ約21cmである。埋土は黒褐色(10YR3/2)である。

図示した遺物は弥生土器の高杯(247)であり、他にも弥生土器が39点出土している。

⑧遺構外出土遺物

248～251は磁器の小碗である。248は器高の低いタイプである。外面に文様を描く。249は外面に篋を描く。外面の釉薬は二次被熱により、ただれる。250は端反り形であり、口鏝装飾を施す。外面には隸字体文を描く。見込みにも染付けを施す。251は口径に比較して高台径は小さい。外面に大きく草花文を描く。252は磁器の碗である。釉薬が溶解している部分がある。外面口縁部には雨降り文を描くが、くすんでいる。見込みには3ヵ所の目跡が認められる。残存率は良好である。253は統制陶器の碗である。外面は紅色で猫、鞠を描く。高台内には「岐435」の銘が有る。ほぼ完存である。254は磁器の碗である。外面は青磁釉を施す。口縁部内面は四方櫛文を描く。255・256は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。257は磁器の碗である。腰の張るタイプである。外面に草花文を描く。見込みには亀を描く。高台内に「サ」の銘が有る。能茶山産である。258～261は陶器の碗である。258の高台は露胎である。262は磁器の碗である。見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施す。外面には丸文、高台内に銘が有る。内面は口縁部と見込みに二重圏線文、見込みにはコンニャク印判による五弁花を施す。263は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。264は磁器の碗である。高台は「ハ」の字状を呈する。外面に草花文を描く。内面口縁部に二重圏線文、見込みに圏線文を巡らせる。265は磁器の碗である。外面には波、内面口縁部には雷文帯を描く。見込みにも文様が有る。266は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。見込みには5ヵ

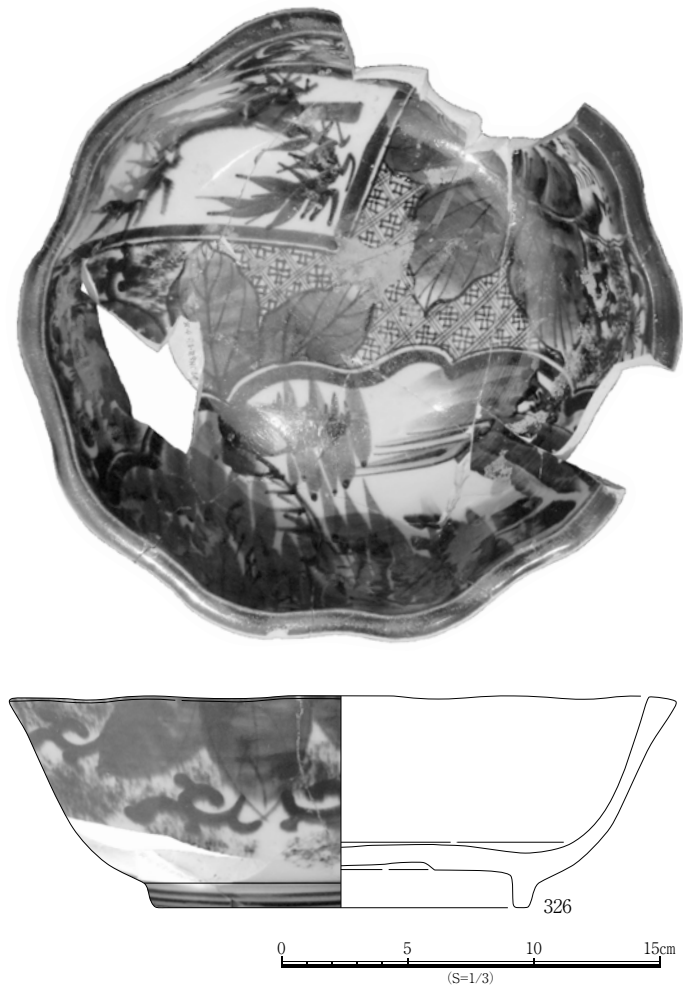


図88 遺構外出土遺物実測図5

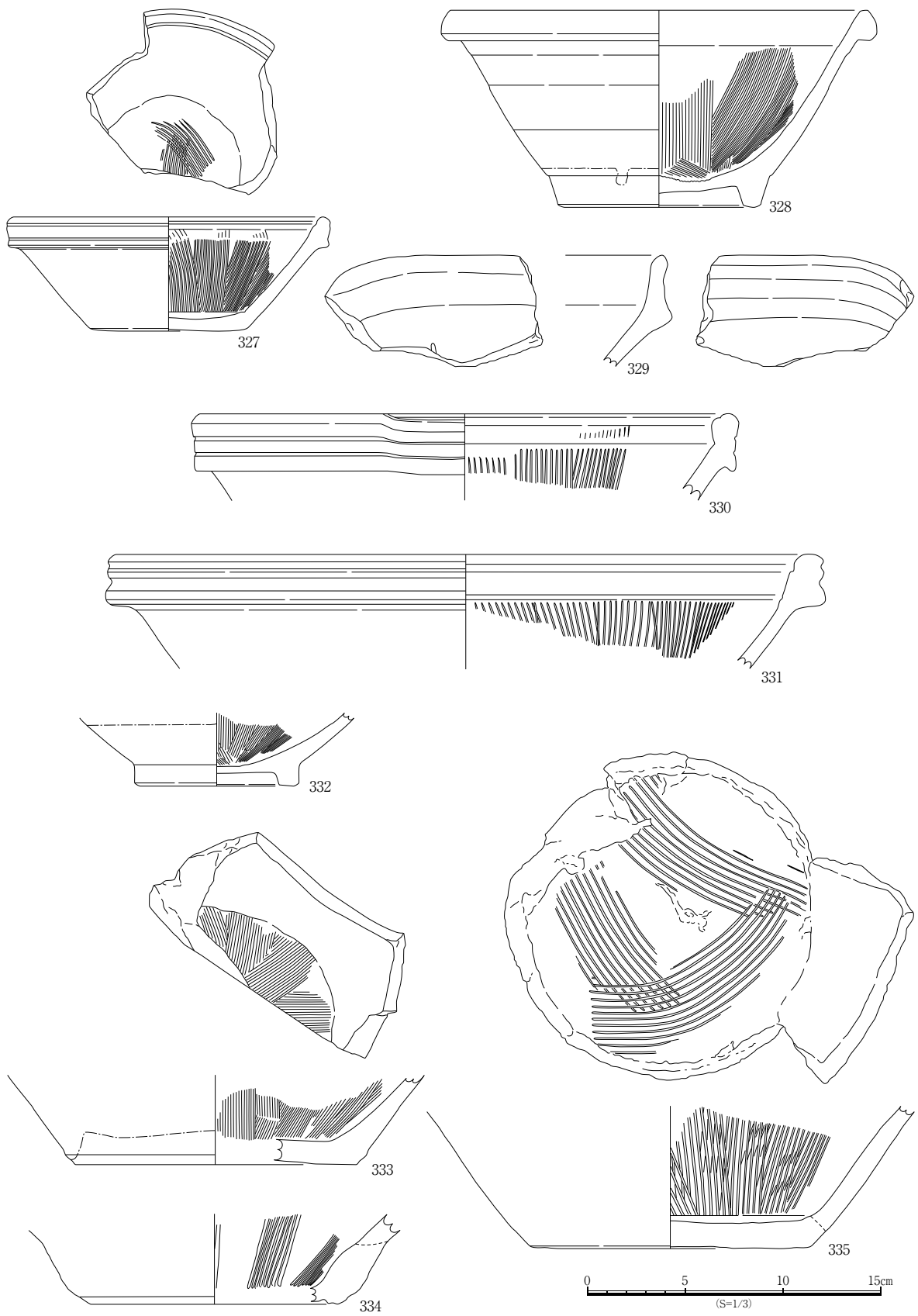


图89 遺構外出土遺物実測図6

所の目跡が認められる。残存率は良好である。267は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。268は磁器の碗である。外面に文様を描く。内面口縁部には多重圏線文を施す。269は端反り形の磁器碗である。外面に文様を施す。内面口縁部には雷文帯を描く。270は磁器の碗である。見込みには圏線文、蝶を描く。外面にも文様を施す。271は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。272は磁器の碗である。外面に青磁釉を施す。高台内に銘が有る。見込みには二重圏線文、手描きによる五弁花文を施す。273は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。274は磁器の碗である。外面に草花文を描く。275は陶器の碗である。内面は灰釉、外面にはオリーブ灰色の釉薬を施す。高台は露胎である。276は陶器の碗である。高台内面は露胎である。見込みに目跡が認められる。277は陶器の碗である。高台内面は露胎である。見込みに目跡が認められる。煤が付着し、破断面にも煤の付着が認められる。278は陶器の碗である。内外面に黄褐色の釉薬を施す。畳付けには釉剥ぎを施す。279は広東形の磁器碗である。外面に蝶・笹を描く。見込みに文様を施す。280は広東形の磁器碗である。外面に文様を施す。見込みには五弁花文を描く。281は広東形の磁器碗である。外面に松を描く。見込みに文様を施す。282は陶器の碗である。白色の釉薬を施し、畳付けは釉剥ぎする。外面にはイッチン掛けによる文様を描く。283は広東形の磁器碗である。外面に文様を描く。284は陶器の碗である。高台は露胎である。見込みに目跡が認められる。285は広東形の磁器碗である。高台内に「サ」の銘が有る。能茶山産である。見込みに文様を施す。286は広東形の磁器碗である。外面に文様を施す。見込みに鷲を描く。287は広東形の磁器碗である。外面、見込みに文様を施す。288は磁器の碗である。外面、見込みに文様を施す。289は磁器の碗である。見込みに文様を施す。290・291は広東形の磁器碗である。外面に文様を施す。見込みに目跡が認められる。292は広東形の磁器碗である。外面に文様を描く。293は磁器の碗である。緑色顔料のプリントを施す。294は磁器の碗である。外面に文様が有る。295は磁器の筒形碗である。外面に氷裂文、菊花散らし文、内面口縁部に四方擲文を施す。296は磁器の碗である。酸化コバルトによる型紙摺りである。残存率は良好である。297～300は陶器の皿である。297・298は灰釉、299・300は鉄釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施す。297・299にはアルミナ砂を塗布する。外面下半は露胎である。301は磁器の皿である。端反り形である。畳付けは釉剥ぎする。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施す。302は陶器の皿である。外面腰部以下は露胎である。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施す。303は陶器の皿である。鉄釉を施す。高台は露胎である。見込みは蛇ノ目釉剥ぎを施す。重ね焼きの痕跡が認められる。また、見込みに外面から穿孔する。304は陶器の輪花皿である。口鏝装飾を施し、内面には山水文を描く。残存率は良好である。305は磁器の皿である。内面には酸化コバルトによる型紙摺りを施す。306は磁器の皿である。内面には鳳凰がプリントされている。呉須の発色は淡い。307は磁器の皿である。蛇ノ目凹形高台である。酸化コバルトによる型紙摺りである。308は陶器の皿である。高台は露胎である。見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施す。309は磁器の輪花皿である。内面には笹などを描き、見込みに圏線文、五弁花文を施す。外面には唐草文、圏線文、高台内には二重角枠内に渦「福」の銘が有る。310は陶器の皿である。鉄釉を施す。見込みには蛇ノ目釉剥ぎを施し、アルミナ砂を塗布する。重ね焼きの痕跡が認められる。高台は露胎である。311は磁器の輪花皿である。高台は蛇ノ目凹形高台である。酸化コバルトによる型紙摺りである。見込みに目跡が認められる。残存率は良好である。312は磁器の皿である。内面には山水文を描く。高台内に「サ」の銘が有り、能茶山産である。313は磁器の皿である。畳付けは釉剥ぎする。高台に砂が付着する。見込みに蛇ノ目釉剥ぎを施す。内面に文様を描く。314

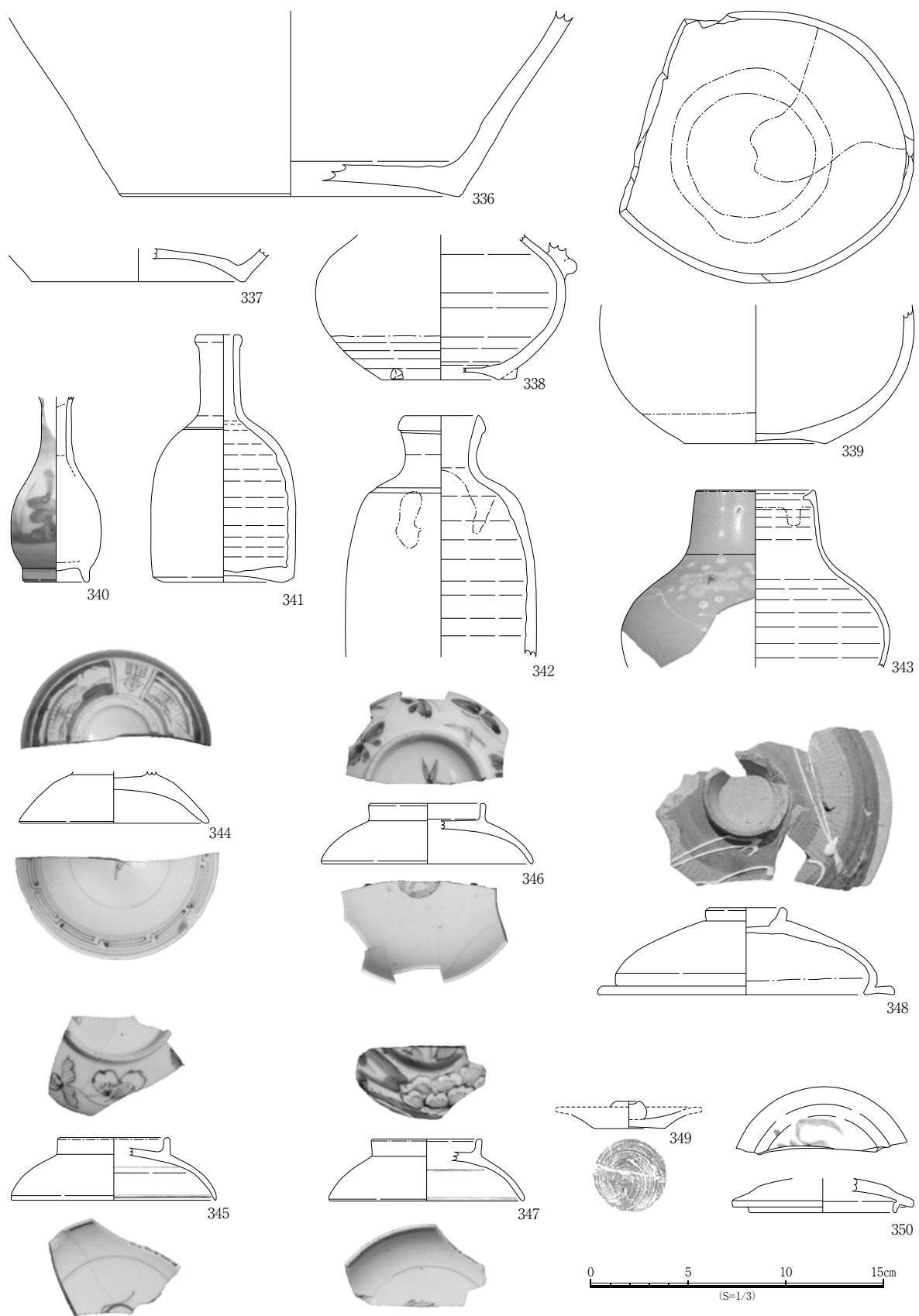


图90 遺構外出土遺物実測図7

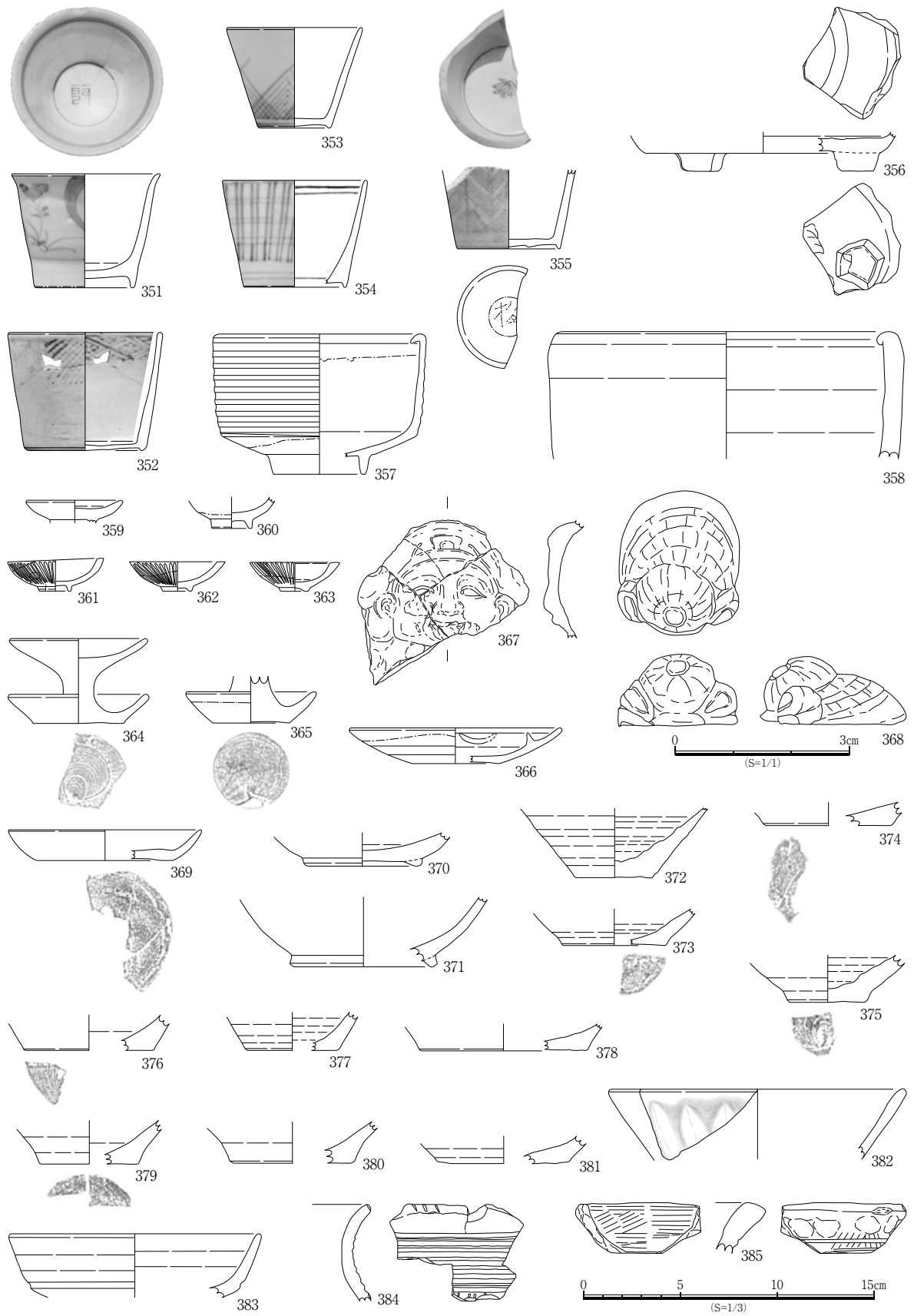


图91 遺構外出土遺物実測図8

は陶器の皿である。外面下半は露胎である。見込みに目跡が認められる。また、見込みには内面からの穿孔が認められる。高台内には墨書が認められ、穿孔により文字の一部が読めない。315は土師質土器の皿である。ロクロ成形である。外底面も丁寧なナデ調整が施されている。内面に陽刻の高砂文を施す。煤がわずかに付着する。316・317は土師質土器の小皿である。ロクロ成形である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。318は陶器の口縁部を屈曲させた鉢である。鉄釉を施す。高台は露胎である。見込みには目跡が認められる。残存率は良好である。319は陶器の口縁部を屈曲させた鉢である。体部には灰釉を施し、口縁部には銅緑釉を施す。見込みには目跡が認められる。320は陶器の鉢である。内面は露胎である。321は陶器の碗か。畳付けは釉剥ぎする。見込みには目跡が認められる。外面には鉄絵を施す。322は磁器の角鉢である。内外面に文様を施す。323は磁器の角鉢である。見込みにはクロスさせたローソクを描き、外面は竹を描く。器面は荒れる。324は陶器の鉢である。灰釉を施し、高台は露胎である。見込みには目跡が認められる。325は陶器の鉢である。鉄釉を施し、高台は露胎である。見込みには目跡が認められる。326は磁器の輪花形の鉢である。高台は蛇ノ目凹形高台である。酸化コバルトによる型紙摺りである。327は陶器の小型の播鉢である。口縁帯外面には2条の凹線、内面には1条の凹線が巡る。内面に11条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメを施す。外底面に離れ砂が付着する。328は陶器の播鉢である。底部には削り出しの高台が作出される。鉄釉を施し、外面腰部以下は露胎である。口縁端部は外側に肥厚させる。内面、内底面に35条1単位のスリメを隙間無く密に施す。329は備前焼の播鉢である。口唇部は尖らせ気味にし、口縁帯外面には弱い凹線を2条巡らせる。注口が作出される。外面口縁部下に重ね焼きの痕跡が認められる。330は陶器の播鉢である。口縁帯外面には2条の沈線、内面には1条の沈線を巡らせる。弱い注口を作出し注口の両端には指頭圧痕が認められる。内面に12条1単位のスリメを密に施す。331は陶器の播鉢である。口縁帯外面には2条の凹線、内面には1条の凹線が巡る。口唇部は軽くヨコナデ調整を施し、やや平坦面となり部分的に凹線状になる。内面に10条1単位のスリメを密に施す。332は陶器の播鉢である。外底面には削り出しの高台が作出される。外面上半には鉄釉が施されたと考えられる。内面には9条1単位の細かいスリメを密に施す。内底面にも密に施す。333は陶器の播鉢である。外面体部には鉄釉を施す。内面には19条1単位のスリメを密に施す。内底面にも密に施す。外底面には離れ砂が付着する。334は陶器の播鉢である。内面には8条1単位のスリメをやや疎らに施す。内面は使用により器面が平滑となっている。335は陶器の播鉢である。内面には11条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメを施す。336は陶器の甕である。内外面に鉄釉を施す。外底面は露胎である。また、外底面には離れ砂が付着する。内底面には等間隔に打ち欠いたような痕跡が認められる。337は陶器の鍋である。上げ底であり、外底面に煤が付着している。338は陶器の土瓶である。外面上半部に施釉し、外面下半及び内面は露胎である。肩部には判然としないが文様が有る。外面下半は煤ける。339は陶器の瓶である。わずかに上げ底である。外面腰部以下及び内面は露胎である。340は磁器の瓶である。畳付けには釉剥ぎを施す。高台には砂が付着する。外面には文様を描く。341は陶器の瓶である。外底面には5カ所の目跡が認められる。342は陶器の徳利である。肩部に溶着痕跡が認められる。343は陶器の後手雲助形の土瓶である。外面には花を描く。344～347は磁器の蓋である。348は陶器の鍋の蓋である。外面は飛皷、白土イッチン掛けにより文様を施す。内面は施釉する。349は陶器の急須の蓋である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。摘み中央部を凹ませる。外面のみ施釉する。350は土瓶の蓋である。外面は施釉し、鉄絵を施す。351～355は磁器の蕎麦猪口である。351は端

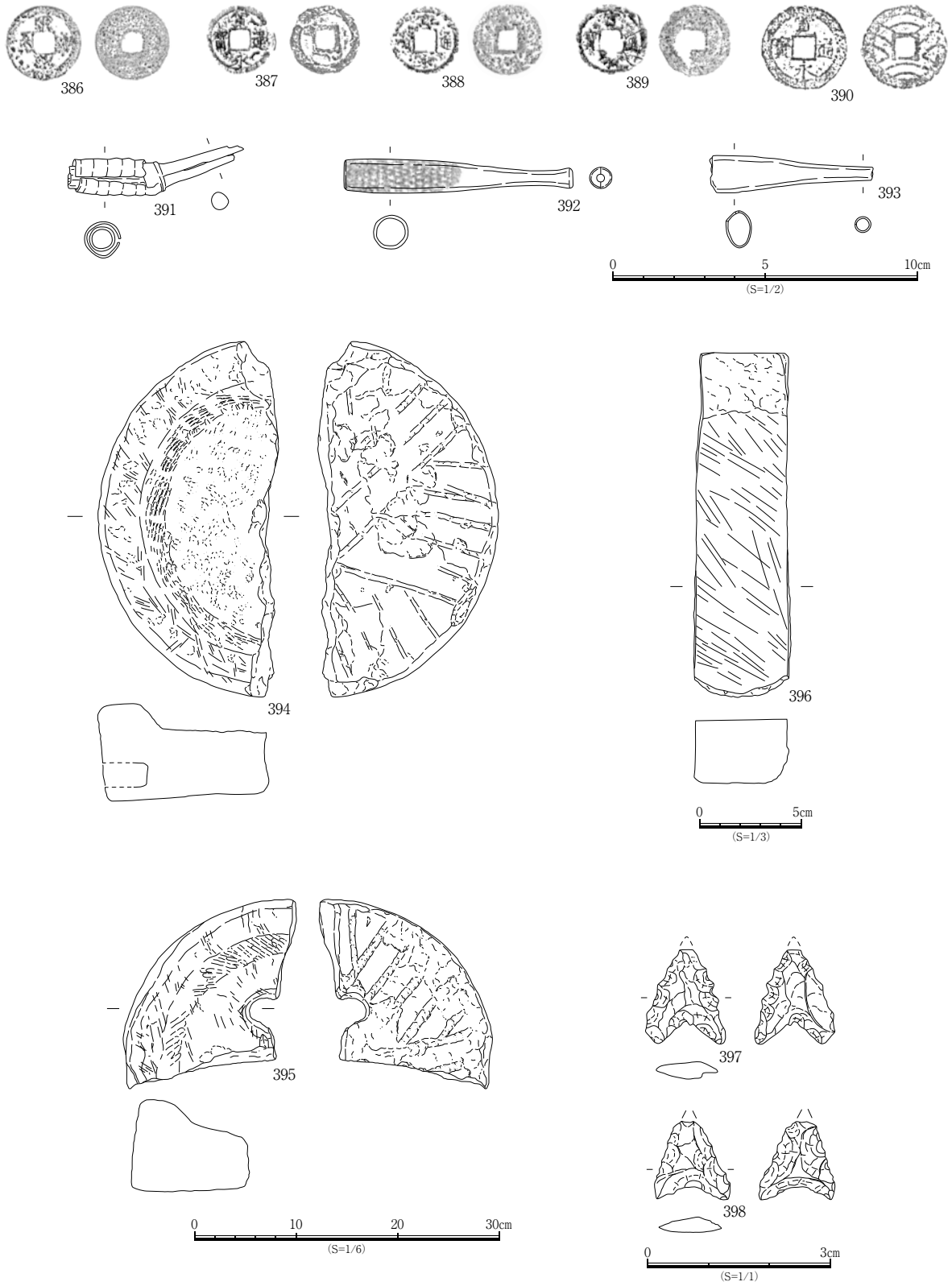


图92 遺構外出土遺物実測図9

反り形である。352は底径と口径の差があまり無い。352, 355は蛇ノ目凹形高台である。356は陶器の焔炉と考えられる。外底面に五角形の低い脚が付く。357は陶器の香炉である。口縁端部を鋭角に折り曲げる。外面には明瞭な凹凸が認められる。外面には鉄釉を施す。外底面, 内面は露胎である。358は瓦質土器の火鉢である。口縁部は内湾気味であり, 端部をわずかに折り曲げる。359は小型の白磁皿とみられ, ほぼ完存である。360は陶器の碗である。灰釉を施し, 外面腰部以下は露胎である。361～363は白磁の紅皿である。364・365は陶器の台付灯明皿である。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。鉄釉を施す。366は陶器の受付灯明皿である。外面は露胎である。口縁部外面にタールが付着した部分がある。367は恵比寿様の土人形である。型作りで, 内面には指頭圧痕, ナデの痕跡が残存している。368は兜形の土製品である。型作りである。完存している。369は土師質土器の小皿である。ロクロ成形で外底面には回転糸切り痕跡が認められる。370・371は土師質土器の碗である。外底面に輪高台が付される。ローリングを受けており, 調整等の観察は困難である。372～381は土師質土器の杯である。372・373・375・377の内面にはロクロ目が明瞭に残存している。外底面には回転糸切り痕跡が認められる。382は青磁の碗である。外面には鎬蓮弁文を施す。383は須恵器の高杯である。384・385は弥生土器の壺である。386～390は古銭である。391～393は煙管の吸口である。391は多条沈線, 392は文様を施す。394は上臼である。約半分が欠損する。供給口の一部の可能性ある部分が認められる。副溝2～5条である。溝は使用により浅くなる。側面に把手をはめるソケットを穿つ。395は砂岩製の臼である。約四分の一の破片である。厚さは一定ではない。供給口が残存している。副溝4条である。396は流紋岩製の砥石である。側面に鋸引き痕跡が残存しており, 上下面とも使用頻度は少ないと考えられることから幅・高さは使用前の大きさを反映しているものと推測される。また, 長さについても使用前の長さである可能性が高い。397・398はサヌカイト製の凹基式の打製石鏃である。



## 第IV章 関遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

辻 康男・田中義文・馬場健司・松元美由紀

### はじめに

本報告では、調査区の遺跡形成過程および古代～近世の古植生復元と土地利用の検討を目的に実施した自然科学分析結果について述べる。実施した自然科学分析項目は、放射性炭素年代測定、花粉分析、植物珪酸体分析、種実分析である。

### 1. 試料

分析試料は、08-1NS区と09-2NS区で採取した。試料採取地点は、両調査年次において、1～8地点までの通し番号を付けた。後のページに掲載する図95に、分析試料の採取地点および層準について示している。以下に、調査年次ごとに試料採取状況を記載する。

#### ・08-1NS区

植物珪酸体用試料は、7地点で実施する。分析層準は、調査区南壁に累重する8世紀代のⅦ層の上部(a)、中部(b)、下部(c)である。花粉分析は、8地点の古代の溝SD01埋土底部(試料番号1,以下の記述で試料番号を略す)で実施する。種実分析は、2地点のⅦ層(a～c一括)と、8地点のSD01埋土底部(1)で実施する。放射性炭素年代測定は、5地点の遺構検出面基盤層中に挟在する土壤腐植(C14-3)の1点を実施する。

#### ・09-2NS区

植物珪酸体分析は、1地点で実施する。分析層準は、中世以降のⅪ層(1)、中世のⅩⅢ・ⅩⅣ層およびⅩⅥ層(2・3, 4・5)、古代の可能性のあるⅩⅦ層(6・7)、古代以前で遺構検出面をなす古土壌のⅥ層(8・9・10)である。花粉分析は、1地点と3地点で実施する。このうち3地点は、深掘で検出された放棄流路状の凹地を埋積する泥～泥質砂層である。1地点では、ⅩⅢ・ⅩⅣ層(2)、ⅩⅥ層(4)、ⅩⅦ層(6)、Ⅵ層(9)、3地点では、層位的に連続して6点の分析を行う。放射性炭素年代測定は、2地点のSR01埋土中に挟在する炭化材(C14-1)、3地点で採取された炭化材片(C14-2)の2点を実施する。

### 2. 分析方法

#### (1)放射性炭素年代測定

分析は、AMS法で実施する。土壌に現在の根等が含まれている場合は、ピンセット等を用いて除去する。土壌に塩酸を加えて放置した後、蒸留水で洗浄し不純物を取り除く。

試料中の炭素からCO<sub>2</sub>を精製する。その後CO<sub>2</sub>からグラファイトを生成する。処理後の試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした<sup>14</sup>C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-II)とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も行うため、この値を用いてδ<sup>13</sup>Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を用い、誤差として標準偏差(One Sigma)を用いる。

## (2)花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛、比重 2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸 9 : 濃硫酸 1 の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

## (3)植物珪酸体分析

各試料について過酸化水素水・塩酸処理、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重 2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これをカバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリユラックスで封入してプレパラートを作成する。400 倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物 1g あたりの植物珪酸体含量(同定した数を堆積物 1g あたりの個数に換算)を求める。結果は、植物珪酸体含量の一覧表で示すとともに、植物珪酸体含量の層位的変化を図示する。

## (4)種実分析

試料 200cc を水に浸し、粒径 0.5 mm の篩を通して水洗する。篩内の残渣を粒径別にシャーレに集めて双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実や木材、炭化材などを抽出する。抽出した種実を双眼実体顕微鏡下で観察する。現生標本および石川(1994)、中山ほか(2000)等の図鑑との対照から、種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。炭化材は、48 時間 70℃ 乾燥後の重量(付着する土の重量を含む)を表示する。分析後は、種実等を種類毎に瓶に入れ、70% エタノール溶液で液浸し返却する。

## 3. 結果

### (1)放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果(表 2)では、2 地点の C14-1 が  $1,320 \pm 20$  yrs BP、3 地点の C14-2 が  $710 \pm 30$  yrs BP、5 地点の C14-3 が  $3,480 \pm 30$  yrs BP を示す。

次に暦年較正值を示す。暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、及び半減期の違い(現在  $^{14}\text{C}$  の半減期は  $5,730 \pm 40$  年とされるが、過去の年代測定結果との整合性を図るため、測定には 5,568 年を用いている)を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すの

表2 放射性炭素年代測定結果

| 地点  | 試料名   | 試料の質 | 補正年代<br>BP | $\delta^{13}\text{C}$<br>(‰) | 測定年代<br>BP | 測定機関番号     |
|-----|-------|------|------------|------------------------------|------------|------------|
| 2地点 | C14-1 | 炭化材片 | 1,320±20   | -20.32±0.67                  | 1,250±20   | IAAA-92641 |
| 3地点 | C14-2 | 炭化材片 | 710±30     | -23.75±0.64                  | 690±20     | IAAA-92642 |
| 5地点 | C14-3 | 土壌腐植 | 3,480±30   | -20.51±0.38                  | 3,480±30   | IAAA-80841 |

- 1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
- 2) BP年代値は、1,950年を基点として何年前であることを示す。
- 3) 付記した誤差は、測定誤差 $\sigma$ (測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。

表3 暦年較正結果

| 試料名   | 補正年代<br>(BP) | 暦年較正年代(cal) |     |    |       |     |     |    |       | 相対比 | 測定機関番号 |       |   |       |            |       |
|-------|--------------|-------------|-----|----|-------|-----|-----|----|-------|-----|--------|-------|---|-------|------------|-------|
|       |              | $\sigma$    | cal | AD |       | cal | AD  |    | cal   |     |        | BP    |   |       |            |       |
| C14-1 | 1,323±24     | $\sigma$    | cal | AD | 658   | -   | cal | AD | 689   | cal | BP     | 1,292 | - | 1,261 | IAAA-92641 |       |
|       |              |             | cal | AD | 753   | -   | cal | AD | 760   | cal | BP     | 1,197 | - | 1,190 |            | 0.110 |
|       |              | $2\sigma$   | cal | AD | 653   | -   | cal | AD | 716   | cal | BP     | 1,297 | - | 1,234 |            | 0.812 |
|       |              |             | cal | AD | 743   | -   | cal | AD | 768   | cal | BP     | 1,207 | - | 1,182 |            | 0.188 |
| C14-2 | 713±23       | $\sigma$    | cal | AD | 1,273 | -   | cal | AD | 1,288 | cal | BP     | 677   | - | 662   | IAAA-92642 |       |
|       |              |             | cal | AD | 1,262 | -   | cal | AD | 1,298 | cal | BP     | 688   | - | 652   |            | 0.982 |
|       |              | $2\sigma$   | cal | AD | 1,372 | -   | cal | AD | 1,378 | cal | BP     | 578   | - | 572   |            | 0.018 |
|       |              |             | cal | AD | 1,372 | -   | cal | AD | 1,378 | cal | BP     | 578   | - | 572   |            | 0.018 |
| C14-3 | 3,479±29     | $\sigma$    | cal | BC | 1,877 | -   | cal | BC | 1,841 | cal | BP     | 3,826 | - | 3,790 | IAAA-80841 |       |
|       |              |             | cal | BC | 1,823 | -   | cal | BC | 1,796 | cal | BP     | 3,772 | - | 3,745 |            | 0.279 |
|       |              | $2\sigma$   | cal | BC | 1,782 | -   | cal | BC | 1,750 | cal | BP     | 3,731 | - | 3,699 |            | 0.340 |
|       |              |             | cal | BC | 1,886 | -   | cal | BC | 1,738 | cal | BP     | 3,835 | - | 3,687 |            | 0.978 |
|       |              |             | cal | BC | 1,708 | -   | cal | BC | 1,697 | cal | BP     | 3,657 | - | 3,646 | 0.022      |       |

- 1) 計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer)を使用。
- 2) 計算には表に示した丸める前の値を使用している。
- 3) 1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
- 4) 統計的に真の値が入る確率は $\sigma$ は68%、 $2\sigma$ は95%である。
- 5) 相対比は、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

が通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1年単位で表した。暦年較正は、測定誤差 $\sigma$ 、 $2\sigma$ 双方の値を計算する。 $\sigma$ は統計的に真の値が68%の確率で存在する範囲、 $2\sigma$ は真の値が95%の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 $\sigma$ 、 $2\sigma$ の範囲をそれぞれ1とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

$2\sigma$ の暦年較正結果(表3)では、2地点のC14-1がcal AD 653-768、3地点のC14-2がcal AD 1,262-1,378、5地点のC14-3がcal BC 1,886-1,697となる。

## (2)花粉分析

結果を表4、図93に示す。

1地点の4点(2, 4, 6, 9)は、花粉化石が検出されず、シダ類胞子が若干認められる程度である。

3地点の6点のうち、4～6はシダ類胞子で占められ、花粉化石は殆どみられない。検出された花粉化石は保存状態が悪い個体が大多数であり、種類構成はマツ属、イネ科、サナエタデ節-ウナギツカミ節など1～3で多産し、かつ形態が特徴的で風化が進んでいても同定可能な種類のみがみられる。また、上位につれて、保存状態が改善する傾向にあり、花粉化石数も若干増加する。1～3については、

表4 花粉分析結果

| 種 類             | 分析地点・試料番号 |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
|-----------------|-----------|---|---|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|                 | 1地点       |   |   |   | 3地点 |     |     |     |     |     | 8地点 |
|                 | 2         | 4 | 6 | 9 | 1   | 2   | 3   | 4   | 5   | 6   | 1   |
| 木本花粉            |           |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
| モミ属             | -         | - | - | - | 1   | 4   | 10  | 1   | -   | -   | -   |
| ツガ属             | -         | - | - | - | 15  | 13  | 14  | 6   | -   | 3   | -   |
| マツ属複雑管束亜属       | -         | - | - | - | 76  | 104 | 86  | 1   | -   | -   | -   |
| マツ属(不明)         | -         | - | - | - | 49  | 66  | 40  | -   | -   | 3   | 1   |
| コウヤマキ属          | -         | - | - | - | 2   | 6   | 12  | 2   | -   | -   | -   |
| スギ属             | -         | - | - | - | 6   | 7   | 6   | -   | -   | -   | -   |
| イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科 | -         | - | - | - | 1   | 4   | 5   | 1   | -   | -   | -   |
| ヤマモモ属           | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| クルミ属            | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| クマシデ属-アサダ属      | -         | - | - | - | -   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| ハシバミ属           | -         | - | - | - | -   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| カバノキ属           | -         | - | - | - | 2   | 1   | 7   | 2   | -   | -   | -   |
| ハンノキ属           | -         | - | - | - | 1   | -   | 1   | 1   | -   | -   | -   |
| ブナ属             | -         | - | - | - | 1   | 3   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| コナラ属コナラ亜属       | -         | - | - | - | 6   | 3   | 13  | -   | -   | -   | -   |
| コナラ属アカガシ亜属      | -         | - | - | - | 11  | 12  | 23  | -   | -   | -   | 2   |
| シイ属             | -         | - | - | - | 3   | 1   | 4   | -   | -   | -   | -   |
| ニレ属-ケヤキ属        | -         | - | - | - | 1   | 1   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| エノキ属-ムクノキ属      | -         | - | - | - | -   | -   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| カツラ属            | -         | - | - | - | -   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| シラキ属            | -         | - | - | - | 3   | 1   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| ニシキギ属           | -         | - | - | - | 1   | -   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| トチノキ属           | -         | - | - | - | -   | -   | 1   | -   | 1   | -   | -   |
| ブドウ属            | -         | - | - | - | 2   | 1   | *17 | -   | -   | -   | -   |
| ツバキ属            | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| グミ属             | -         | - | - | - | -   | 1   | -   | -   | -   | -   | -   |
| ウコギ科            | -         | - | - | - | -   | -   | 2   | 1   | -   | -   | -   |
| カキ属             | -         | - | - | - | 1   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| イボタノキ属          | -         | - | - | - | -   | 2   | 6   | -   | -   | -   | -   |
| トネリコ属           | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| スイカズラ属          | -         | - | - | - | 2   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| 草本花粉            |           |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
| イネ属             | -         | - | - | - | 13  | 4   | 7   | -   | -   | -   | -   |
| イネ科             | -         | - | - | - | 69  | 36  | 56  | 5   | 1   | 3   | 3   |
| カヤツリゲサ科         | -         | - | - | - | 12  | 8   | 8   | 3   | -   | 2   | -   |
| クワ科             | -         | - | - | - | -   | -   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| ギシギシ属           | -         | - | - | - | 2   | -   | 1   | -   | -   | -   | -   |
| サナエタデ節-ウナギツカミ節  | -         | - | - | - | 1   | 1   | 2   | 1   | 4   | 5   | -   |
| ソバ属             | -         | - | - | - | 1   | 2   | 5   | -   | -   | -   | -   |
| アカザ科            | -         | - | - | - | -   | 3   | -   | -   | 1   | -   | -   |
| ナデシコ科           | -         | - | - | - | 1   | -   | 1   | -   | -   | -   | 2   |
| キンボウゲ属          | -         | - | - | - | -   | -   | 3   | -   | -   | -   | -   |
| トリカブト属          | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| キンボウゲ科          | -         | - | - | - | 1   | -   | 2   | 2   | -   | -   | -   |
| アブラナ科           | -         | - | - | - | -   | -   | 4   | -   | -   | -   | -   |
| バラ科             | -         | - | - | - | 3   | 3   | -   | -   | -   | -   | -   |
| マメ科             | -         | - | - | - | -   | -   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| トウダイグサ科         | -         | - | - | - | 4   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| フウロソウ属          | -         | - | - | - | -   | -   | 1   | 1   | -   | -   | -   |
| セリ科             | -         | - | - | - | -   | 3   | 5   | -   | -   | -   | -   |
| リンドウ属           | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| オオバコ属           | -         | - | - | - | -   | -   | 2   | -   | -   | -   | -   |
| ヨモギ属            | -         | - | - | - | 18  | 8   | 11  | 1   | -   | -   | -   |
| キク亜科            | -         | - | - | - | 3   | -   | 4   | 1   | -   | -   | -   |
| タンポポ亜科          | -         | - | - | - | 9   | 10  | 14  | 1   | 5   | -   | -   |
| 不明花粉            | -         | - | - | - | 1   | 6   | 4   | 1   | -   | -   | 2   |
| シダ類胞子           |           |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
| ゼンマイ属           | -         | - | - | - | 2   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |
| イノモトソウ属         | -         | - | - | - | -   | 2   | -   | 5   | -   | -   | 1   |
| ミズワラビ属          | -         | - | - | - | -   | -   | -   | -   | -   | -   | 1   |
| 他のシダ類胞子         | 9         | 1 | 9 | 1 | 202 | 276 | 288 | 425 | 173 | 278 | 15  |
| 合 計             |           |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
| 木本花粉            | 0         | 0 | 0 | 0 | 188 | 230 | 260 | 15  | 1   | 6   | 4   |
| 草本花粉            | 0         | 0 | 0 | 0 | 139 | 78  | 130 | 15  | 11  | 10  | 5   |
| 不明花粉            | 0         | 0 | 0 | 0 | 1   | 6   | 4   | 1   | 0   | 0   | 2   |
| シダ類胞子           | 9         | 1 | 9 | 1 | 204 | 278 | 288 | 430 | 173 | 278 | 17  |
| 総計(不明を除く)       | 9         | 1 | 9 | 1 | 531 | 586 | 678 | 460 | 185 | 294 | 26  |
| その他             |           |   |   |   |     |     |     |     |     |     |     |
| 鞭虫卵             | -         | - | - | - | 1   | -   | -   | -   | -   | -   | -   |

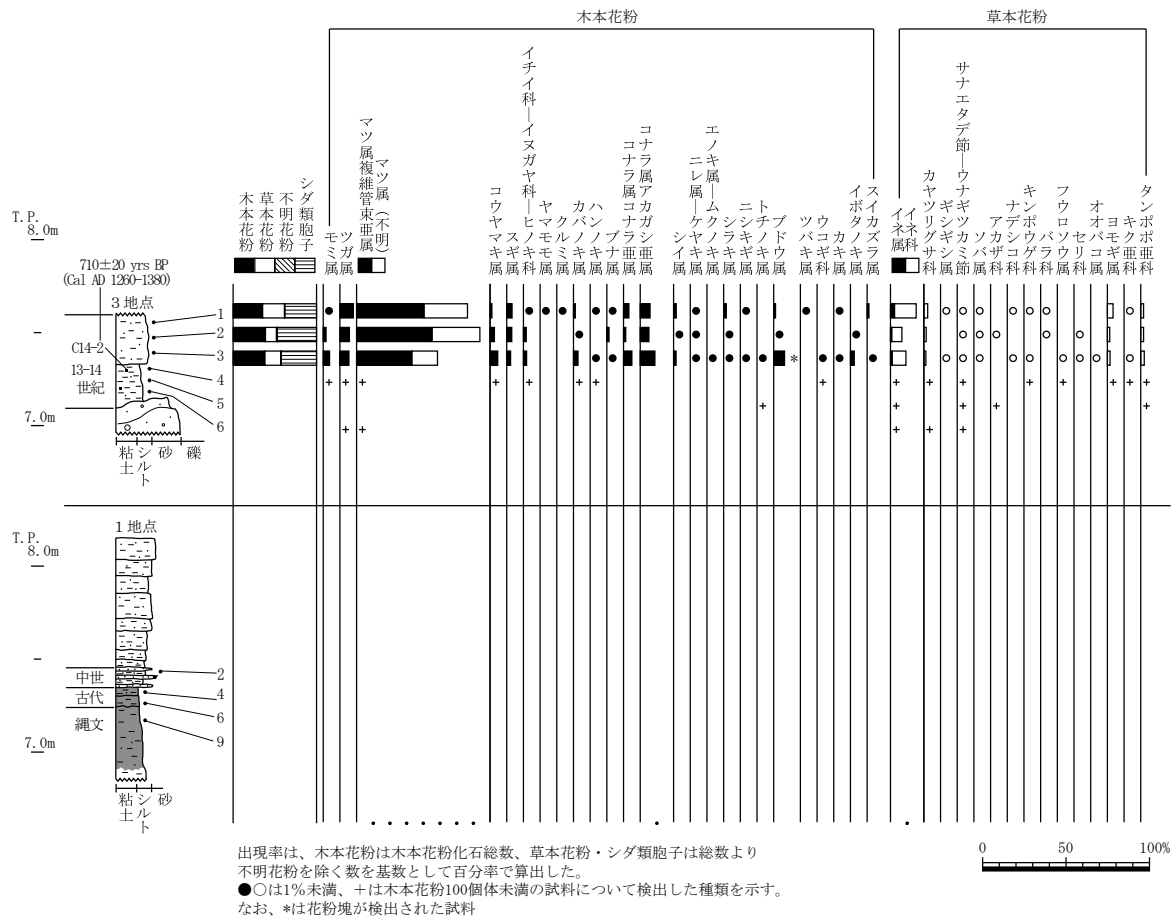


図93 花粉化石群集の層位分布

シダ類胞子が半数以上を占め、組成もほぼ類似する。花粉化石の保存状態は下位よりは良いが、風化の痕跡がある花粉化石も多数みられる。木本花粉ではマツ属の割合が高く、多い試料では70%を越える。その他モミ属、ツガ属、コナラ亜属、ブドウ属などが検出される。なお、3ではブドウ属は花粉塊で検出される。草本花粉はイネ科が多く、少量ではあるがイネ属の花粉も含まれる。その他の栽培植物としてソバ属を含む。他の種類は、カヤツリグサ科、ヨモギ属、タンポポ亜科等を含む。

8地点は、花粉化石が殆ど検出されない。僅かに検出された花粉化石・シダ類胞子は、いずれも保存状態が悪く、殆どの外膜が破損・溶解している状態である。木本花粉ではモミ属、マツ属、コナラ属アカガシ亜属が、草本花粉ではイネ科、ナデシコ科が、シダ類胞子ではイノモトソウ属、ミズワラビ属が、それぞれ1～3個体検出されるのみである。このため、本地点の分析結果は、ダイアグラムに示していない。

### (3)植物珪酸体分析

結果を表5、図94に示す。各試料からは植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

1地点では、5と6の間で植物珪酸体含量が大きく変化する。すなわち、6～10では4.5万～8.7万個

表5 植物珪酸体含量

(個/g)

| 種 類          | 分析地点・試料番号 |        |        |        |       |       |       |       |        |        |        |        |        |
|--------------|-----------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
|              | 7地点       |        |        | 1地点    |       |       |       |       |        |        |        |        |        |
|              | Ⅶ層(a)     | Ⅶ層(b)  | Ⅶ層(c)  | 1      | 2     | 3     | 4     | 5     | 6      | 7      | 8      | 9      | 10     |
| イネ科葉部短細胞珪酸体  |           |        |        |        |       |       |       |       |        |        |        |        |        |
| イネ族イネ属       | 300       | <100   | 500    | -      | -     | -     | -     | -     | -      | -      | -      | -      | -      |
| メダケ属メダケ節     | 1,100     | 1,000  | 1,100  | 600    | <100  | -     | 200   | -     | 2,900  | 3,400  | 4,200  | 6,400  | 2,900  |
| メダケ属ネザサ節     | 1,200     | 1,100  | 600    | 400    | 100   | -     | 100   | -     | 400    | 1,900  | 2,600  | 3,200  | 1,000  |
| クマザサ属        | 1,500     | 800    | 600    | <100   | -     | -     | 200   | -     | 300    | 200    | 300    | 500    | 500    |
| クマザサ属ミヤコザサ節  | 400       | 100    | -      | <100   | <100  | -     | 800   | -     | -      | -      | -      | -      | -      |
| タケ亜科         | 5,300     | 4,900  | 9,300  | 1,700  | 300   | 700   | 1,700 | 1,100 | 4,900  | 9,400  | 15,100 | 22,200 | 23,100 |
| ヨシ属          | 1,100     | 300    | 600    | 700    | -     | 300   | -     | 1,100 | 1,900  | 4,600  | 1,600  | 300    | 500    |
| ウシクサ族コブナグサ属  | <100      | <100   | -      | -      | -     | -     | -     | -     | -      | -      | -      | -      | -      |
| ウシクサ族ススキ属    | <100      | <100   | 200    | 300    | -     | -     | -     | -     | -      | -      | -      | 500    | 300    |
| イチゴツナギ亜科     | 300       | <100   | 700    | -      | -     | <100  | 100   | 100   | 100    | 500    | 300    | 1,100  | -      |
| 不明キビ型        | 1,800     | 900    | 1,200  | 400    | 200   | -     | 300   | 200   | 1,300  | 1,000  | 1,600  | 4,200  | 1,800  |
| 不明ヒゲシバ型      | 1,100     | 1,200  | 2,400  | 700    | 200   | 200   | 1,200 | 1,200 | 4,000  | 12,100 | 6,700  | 8,700  | 4,700  |
| 不明ダンチク型      | 1,800     | 1,300  | 1,700  | 600    | 200   | -     | 200   | 100   | 1,100  | 2,700  | 4,200  | 7,100  | 3,900  |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 |           |        |        |        |       |       |       |       |        |        |        |        |        |
| イネ族イネ属       | 200       | <100   | 400    | -      | -     | -     | -     | -     | -      | -      | -      | -      | -      |
| メダケ属メダケ節     | 1,300     | 200    | 1,800  | 400    | <100  | <100  | <100  | <100  | 4,700  | 5,600  | 6,200  | 4,800  | 2,900  |
| メダケ属ネザサ節     | 300       | 200    | 1,200  | 300    | -     | -     | 100   | -     | 1,500  | 2,200  | 3,600  | 300    | 1,300  |
| クマザサ属        | 800       | 300    | 300    | 300    | -     | <100  | <100  | -     | 1,000  | 1,000  | 500    | 500    | 300    |
| クマザサ属ミヤコザサ節  | 300       | 100    | -      | 200    | -     | <100  | <100  | -     | 400    | -      | -      | -      | -      |
| タケ亜科         | 6,100     | 3,500  | 14,200 | 1,800  | 500   | 200   | 2,200 | 1,000 | 10,900 | 11,100 | 17,900 | 20,900 | 16,800 |
| ヨシ属          | 800       | 200    | 1,100  | 700    | <100  | <100  | 1,400 | 1,100 | 5,200  | 4,400  | 2,900  | 1,900  | 1,000  |
| ウシクサ族        | <100      | <100   | 500    | 100    | -     | -     | -     | -     | 100    | -      | -      | -      | -      |
| 不明           | 2,800     | 1,100  | 2,400  | 2,000  | 300   | 200   | 1,400 | 800   | 4,500  | 8,700  | 6,200  | 4,500  | 7,100  |
| 合 計          |           |        |        |        |       |       |       |       |        |        |        |        |        |
| イネ科葉部短細胞珪酸体  | 16,200    | 11,900 | 19,000 | 5,500  | 1,200 | 1,400 | 4,700 | 3,800 | 16,900 | 35,800 | 36,300 | 54,300 | 38,800 |
| イネ科葉身機動細胞珪酸体 | 12,600    | 6,000  | 21,800 | 5,700  | 900   | 700   | 5,200 | 2,900 | 28,400 | 32,900 | 37,400 | 32,800 | 29,400 |
| 総 計          | 28,900    | 17,900 | 40,800 | 11,200 | 2,100 | 2,000 | 9,900 | 6,700 | 45,200 | 68,700 | 73,700 | 87,100 | 68,200 |

含量は、10の位で丸めている(100単位にする)

&lt;100: 100個/g未満

/gの範囲にあるのに対して、1～5では著しく減少し、4と5では1万個/g未満、2と3では2,000個/g程度、1では約1.1万個/gとなる。6～10ではタケ亜科の産出が目立つものの、上位に向けて減少する。この中にはメダケ属のメダケ節やネザサ節、ミヤコザサ節を含むクマザサ属がみられ、メダケ節やネザサ節が目立つ。この他に、ヨシ属やイチゴツナギ亜科などが認められる。ヨシ属は、上位に向けて増加傾向がみられる。1～5でも、概してタケ亜科の産出が目立つ。この中には下位と同様な分類群がみられるものの、その産出は僅かあるいは稀である。またヨシ属やイチゴツナギ亜科なども認められるが、2にかけて減少傾向がみられる。1では含量や分類群が再び増加する。なお、各試料からはイネ属などのイネ科作物に由来する植物珪酸体が全く検出されない。

7地点では、植物珪酸体含量がcで約4.1万個/g、bで約1.8万個/gに減少し、aで約2.9万個/gに増加する層位的変動を示す。これらの試料では、ネザサ節を含むタケ亜科の産出が目立ち、ヨシ属、コブナグサ属やススキ属を含むウシクサ族、イチゴツナギ亜科なども検出される。また、すべての試料でイネ属が検出されるが、その含量は少なく、cで短細胞珪酸体が約500個/g、機動細胞珪酸体が約400個/g、bで短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が100個/g未満、aで短細胞珪酸体が約300個/g、機動細胞珪酸体が約200個/gである。

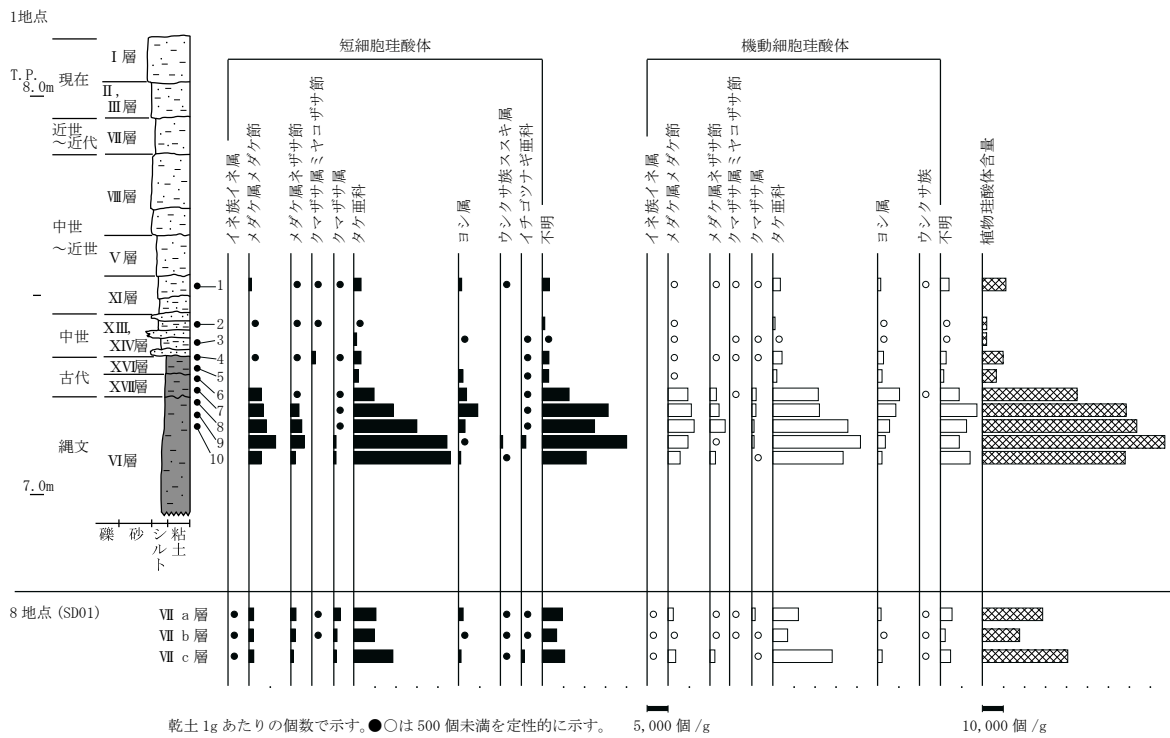


図94 植物珪酸体含量

(4)種実分析

結果を表6に示す。2地点は、試料200ccの殆どが0.5mmの篩を通り抜け、種実は検出されなかった。さらに1,200cc追加分析したところ、草本のカヤツリグサ科の果実が1個と、炭化材2個(0.01g未満)が検出された。8地点は、試料200ccから種実は検出されなかった。さらに400cc追加分析したが、種実は検出されず、木材(40個)、炭化材(0.01g未満)・高師小僧(1.24g)が回収されるのみであった。そこでさらに回収された木材試料について、同定を試みた。検出された木材試料のうち、木片と炭化材の各1片が組織観察可能であった。同定結果は、いずれも針葉樹と判断されたが、微細片で保存状態も悪いため、種類の特定には至らなかった。

表6 種実分析結果

| 種類名        | 遺構・地点、試料名         |                      |
|------------|-------------------|----------------------|
|            | 8地点               | 2地点                  |
|            | SD01              | Ⅶ層                   |
|            | -                 | a~c層                 |
| カヤツリグサ科 果実 | -                 | 1                    |
| 木材         | 40                | -                    |
| 炭化材        | <0.01g            | 2 (<0.01g)           |
| 高師小僧(褐鉄鉱)  | 1.24g             | -                    |
| 分析量        | 600cc<br>1,246.8g | 1,400cc<br>24,599.0g |

注) \* 4mm以上は1点のみ

4. 考察

(1)遺跡の層序と立地環境

①調査区に累重する堆積層の特徴

今回の調査区に累重する堆積層の柱状模式断面図を、図95に示す。これらの堆積層については、層相、堆積層の累重形態、放射性炭素年代値、包含される考古遺物の年代にもとづき、A~Eの5つの堆積ユニットによる層序区分を試みた。この層序区分にもとづき、以下に堆積層の特徴を記載する。

最下部に存在する堆積ユニットEは、礫層で構成される。1地点の深掘では、本ユニットの礫層





が、3m以上連続することが確認された。礫層は、最大礫径が大型の大礫(直径128mm～256mm)、細粒～粗粒の中礫(直径4mm～32mm)を主体とし、基質が粗粒砂～極粗粒砂で構成される。本ユニット堆積面の上面は、凹凸が激しい。上に凸型をなす部分では、遺構検出面上に礫層頂部が帯状に露出する。

なお、本礫層に対比される層準は、下田川を挟み西接する西野々遺跡においても確認されている。西野々遺跡では、連続的な深掘断面調査が実施されている。これらの調査では、遺構検出面下に存在する礫層が、トラフ型斜交層理をなし、流路状の堆積空間を再侵食しながら埋積され、側方へ広く連続することが確認される(廣田・小野編,2008・廣田編,2011a・2011b)。西野々遺跡においても礫層の堆積面には、凹凸をなし大きな起伏が認められている。上に凸型をなして堆積する礫層部分は、帯状の高まりをなしており、それらが調査区内に幾条も分布している。堆積状況、堆積面の高度分布から、関遺跡と西野々遺跡の遺構検出面基盤層をなす礫層は一連の堆積物と判断されるとともに、扇状地面上に形成された流路充填堆積物と解釈される。

堆積ユニットDは、シルト混じりの細粒砂～中粒砂や粘土質シルト層で構成される。堆積ユニットDは、上に凸型をなす帯状の堆積ユニットEの間に形成された凹地をなす堆積空間を埋積している。この特徴から本ユニットは、堆積ユニットEが充填した流路埋没後に、氾濫原に累重した洪水堆積物と解釈される。

堆積ユニットCは、堆積ユニットD・Eの最上部に形成された古土壌と、流路状の凹地を埋積する堆積層に相当する。このうち古土壌では、腐植質に富み塊状の層相をなし、砂質粘土質シルト～シルト質砂で構成される。古土壌では、09-2NS調査区のI・II区付近で発達する。流路状凹地の埋積層については、腐植質に富む泥層を主体としており、腐植含量の低い層準が部分的に挟在する。流路状凹地は、08-1NS調査区の現下田川沿いに分布する。この埋積層を構成する土壌腐植からは、 $3,480 \pm 30$  yrs BPの放射性炭素年代値が得られている。発掘調査では、堆積ユニットC以下を地山として、本ユニット上面で遺構検出を行っている。

堆積ユニットBは、砂質泥～泥質砂で構成される。本層は、人為的攪乱を強く受けており、初生の堆積構造がほとんど残存していない。出土遺物および層相から、堆積ユニットBは、古代末頃～近世にかけて形成された耕作土と判断される。

最上部に存在する堆積ユニットAは、表土をなす近世以降の耕作土である。下田川から離れた遺構検出面の標高の高い09-2NS区のIV区などでは、遺構検出面が本層によって直接覆われる。

## ②下田川と遺構検出面基盤層の形成過程

ここでは、遺構検出面の基盤層をなす層準の堆積環境と地形発達史について述べる。以下で示す放射性炭素年代値の暦年代(cal BP)は、 $2\sigma$ である。

関遺跡は、物部川西岸に発達する沖積扇状地の扇端部付近に立地する(図96)。上述のように、08-1NS調査区では、黒褐色の腐植湿泥層に充填される流路状凹地が、物部川の分流路である現下田川沿いに形成されている。空中写真の地形判読によると、この流路状凹地は、現下田川沿いに分布する旧流路に相当することが判る(図97)。関遺跡の08-1NS調査区では、旧流路の東肩部が検出されている。この旧流路の西肩部については、西野々遺跡のVIII区で検出されている(廣田編,2011b)。

物部川西岸の扇状地面やこれに隣接する沖積氾濫原上では、田村川、介良川など下田川と同様の流路規模をなす物部川の現分流路沿いにも、著しく蛇行する旧流路の発達が認められる。これらの

旧流路については、関遺跡および周辺遺跡の分析において、埋積層から放射性炭素年代値が得られてきている。今回の分析では、08-1NS調査区の5地点の堆積ユニットCを構成する腐植が、 $3,480 \pm 30$  yrs BP ( $3,600-3,800$  cal BP)の年代値を示す。既往の分析結果では、隣接する西野々遺跡において、堆積ユニットC最下部に相当する古土壌から、 $5,230 \pm 40$  yrs BP ( $4,230-3,970$  cal BP)の年代値が得られている(図98)。さらに、西野々遺跡では、堆積ユニットD・Eに対比される堆積ユニットⅢ上部の年代値が、 $5,510 \pm 40$  yrs BP、 $5,240 \pm 40$  yrs BP ( $6,400-6,220$  cal BP、 $6,180-5,920$  cal BP)を示す。また、小さな支谷状をなす凹地を埋積する、堆積ユニットCに対比される腐植質泥層からは、最下部で $2,790 \pm 40$  yrs BP ( $2,990-2,780$  cal BP)、最上部で $2,270 \pm 40$  yrs BP ( $2,160-2,350$  cal BP)の年代値が得られている(廣田・小野編,2008・廣田編,2011a・2011b)。

本遺跡の西方約2.5kmに位置する介良野遺跡では、扇状地面上に形成された旧流路の埋積過程に関する詳細な年代測定結果が得られている(久家編,2007)。本遺跡からは、堆積ユニットD・Eに対比される旧流路の基盤層と、堆積ユニットCに対比される旧流路埋積の層位的な年代値が示された。その結果は、旧流路の基盤層が $5,240 \pm 40$  yrs BP ( $6,180-5,920$  cal BP)、旧流路基底層が $4,790 \pm 40$  yrs BP ( $5,600-5,470$  cal BP)、旧流路中部が $3,070 \pm 30$  yrs BP ( $3,370-3,170$  cal BP)、旧流路上部が $2,090 \pm 30$  yrs BP ( $2,150-1,990$  cal BP)の年代値を示す(図99)。

これら年代値が得られた層準では、氾濫原の埋積パターンが旧流路の基盤層と旧流路で異なることが確認される。旧流路の基盤層では、堆積層の積層により氾濫原面が上方付加している。これに対し、旧流路では、流路内の堆積空間のみが充填され、周囲の氾濫原面での埋積が認められず、土壌発達が進捗する。このような堆積・土壌形成のパターンから、旧流路の基盤層上部の年代については、物部川扇状地扇端部とそれをとりまく氾濫原が発達時期の後期～末期を示すと理解される。旧流路の基底層の年代は、分流路が放棄流路化した、つまり活発な河川堆積作用を行う主流路と切り離された、扇状地とその周辺の氾濫原が離水傾向へ転じた時期を示していると解釈される。上記の堆積・土壌形成のパターンをふまえると、年代値については、旧流路の基盤層が $6,400-5,920$ 年前、旧流路基底層が $6,180-5,920$ 年前と $5,600-5,470$ 年前となる。これらの年代値は、ほぼ連続した年代値として推移しており、層序および地形発達史的に大きな矛盾がないことが確認される。

なお、08-1NS調査区の5地点の旧流路の年代測定層準は、堆積ユニットC中部付近に相当しており、縄文時代後期の年代値を示す。同様に縄文時代後期の範疇に含まれる年代は、介良野遺跡における旧流路中部においても確認される。旧流路上部については、西野々遺跡で弥生時代中期、介良野遺跡で弥生時代後期～終末期の年代値が得られている。08-1NS調査区では、堆積ユニットCの旧流路埋積層最上部のⅨ層から、弥生時代後期の土器が検出されている。Ⅸ層は腐植含量が多く、堆積ユニットC中において土壌発達が相対的に進行した層準である。同様の層相を示す介良野遺跡の旧流路埋積層最上部の年代値は、弥生時代後期の土器と調和的な年代値を示している。

以上のような層序・年代から、物部川西岸の扇状地扇端部およびその近傍の氾濫原は、およそ $6,200-6,000$ 年前の縄文時代前期後半に離水傾向へ転じ、それまでの主流路が放棄流路化し、現地表面上に残る旧流路痕跡を形成するとともに、その内部に名残川へと変化した物部川の分流路が流下するようになったと考えられる。これらの旧流路では、 $5,600-5,500$ 年前頃の縄文時代前期末期以降に、腐植質泥層が累積するような静穏な堆積環境となり、 $3,800-3,200$ 年前頃の縄文時代後期頃から埋積が進み、 $3,000-2,000$ 年前頃の縄文時代晩期～弥生時代終末期にかなり埋没した状態になっていたと考えられる。

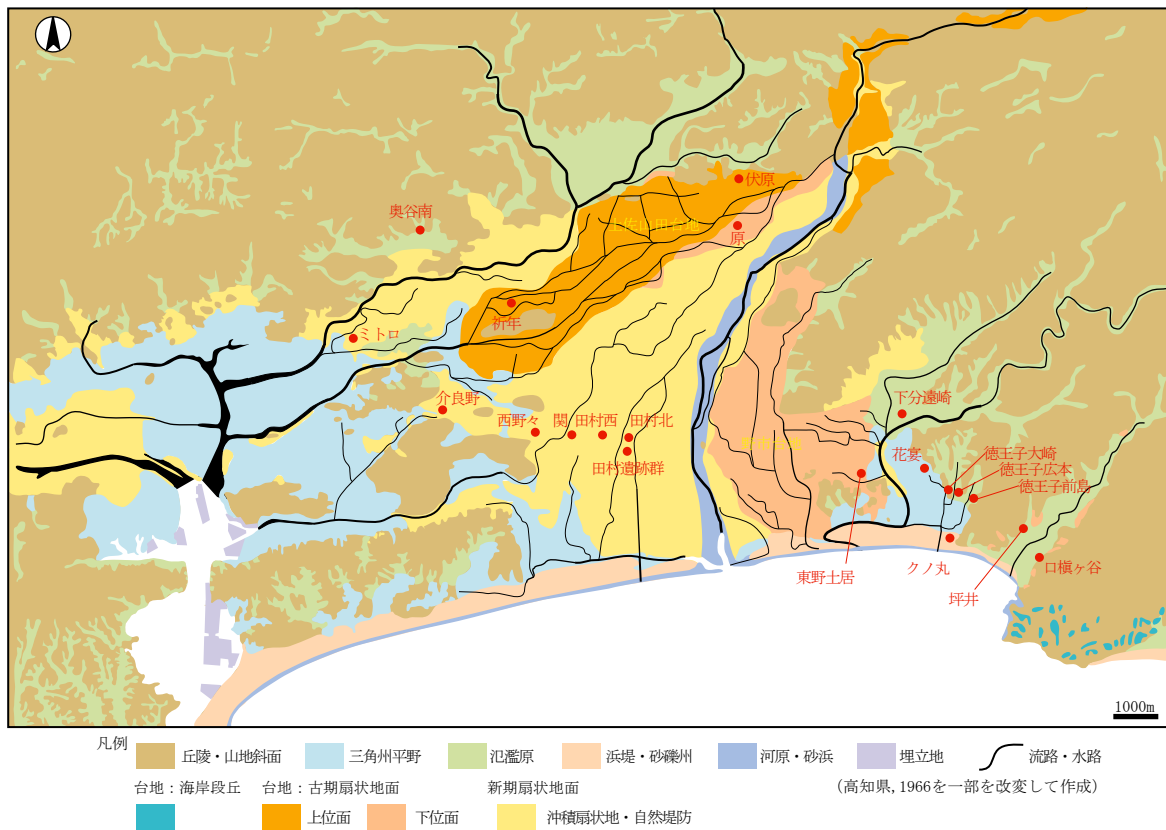


図96 遺跡の位置図と自然科学分析を実施した主要な周辺遺跡

### ③遺構検出面を覆う層準の形成過程

ここでは、遺構検出面を被覆する弥生時代以降に累重した層準の堆積環境と地形発達史について述べる。以下で示す放射性炭素年代値の暦年代(cal BC/AD)は、 $2\sigma$ である。

関遺跡の今回の調査範囲では、09-2NS調査区のIV区より西側において、下田川沿いに低地が形成されている(図95)。この領域では、下田川の旧流路が存在する。上述の堆積層の検討から、旧流路については、縄文時代後期頃以降から弥生時代頃にかけて、穏やかに埋積が進行するような堆積環境であったことが確認される。これに対し、旧流路内沿いの低地をなす氾濫原では、縄文時代前期後半に扇状地面が離水傾向へと転じた以降に、殆ど堆積物の供給されない状況であったことが指摘される。

この低地部分では、09-2NS調査区のI・II区において、SR01, SR02の流路が検出されている。このうちI区のSR01では、上に凸型をなしレンズ状に広がる泥混じり砂からなる洪水堆積物によって埋積される(写真1・2)。この洪水堆積物は、側方細粒化が認められるとともに、上部が人為的に擾乱され耕作土が形成されている。これらの洪水堆積物と耕作土の形成時期は、出土遺物がほとんど検出されず、古代末以降から近世以前までとしか言及できない。また、II区のSR02では、中世以降とされる礫層によって厚く埋積される(写真3)。この礫層は、トラフ型ないし平行葉理が発達する層相を示し、上に凸型をなす堆積形態をなす。II区は、現下田川の蛇行地点の攻撃斜面側に位置している。

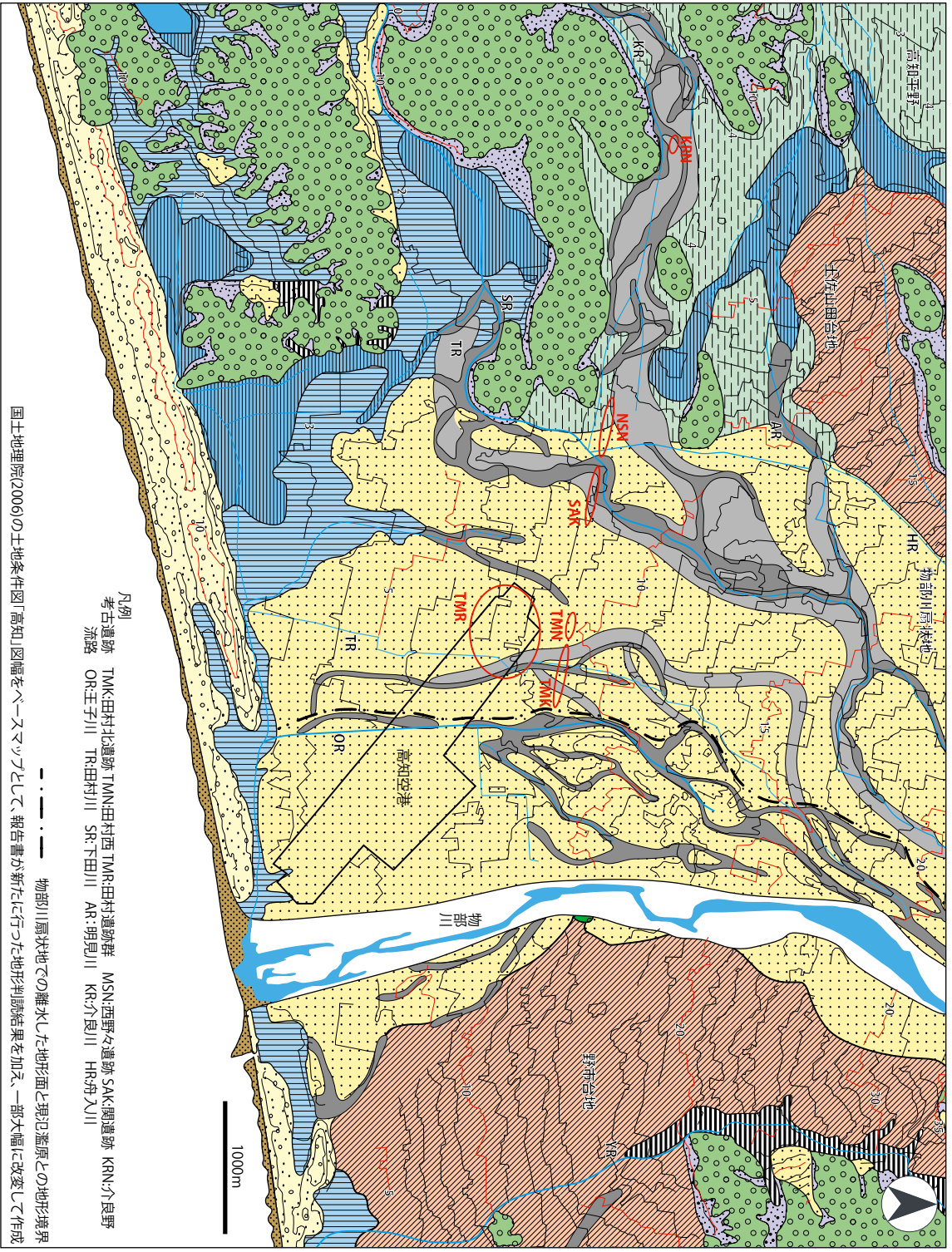


図 97 調査区周辺の地形分類図と自然科学分析を実施した考古遺跡の位置

国土地理院(2006)の土地条件図「高知」図幅をベースマップとして、報告書が新たにを行った地形判読結果を加え、一部大幅に変更して作成

--- 物部川扇状地での離水した地形面と現記濠原との地形境界

- 凡例
- 考古遺跡 TMK:田村北遺跡 TMM:田村西 TMR:田村遺跡群 MSN:西野々遺跡 SAK:関遺跡 KRN:介良野
  - 流路 OR:王子川 TR:田村川 SR:下田川 AR:明見川 KR:介良川 HR:舟入川

- 地形区分
- 丘陵
  - 後背湿地
  - 台地
  - 浜堤
  - 山麓堆積地形
  - 海浜
  - 扇状地
  - 堤外地
  - 谷底平野
  - 旧流路
  - 氾濫平野
  - 沖積リッジ
  - 海岸平野
  - 三角州平野
  - 流路・水路・水域

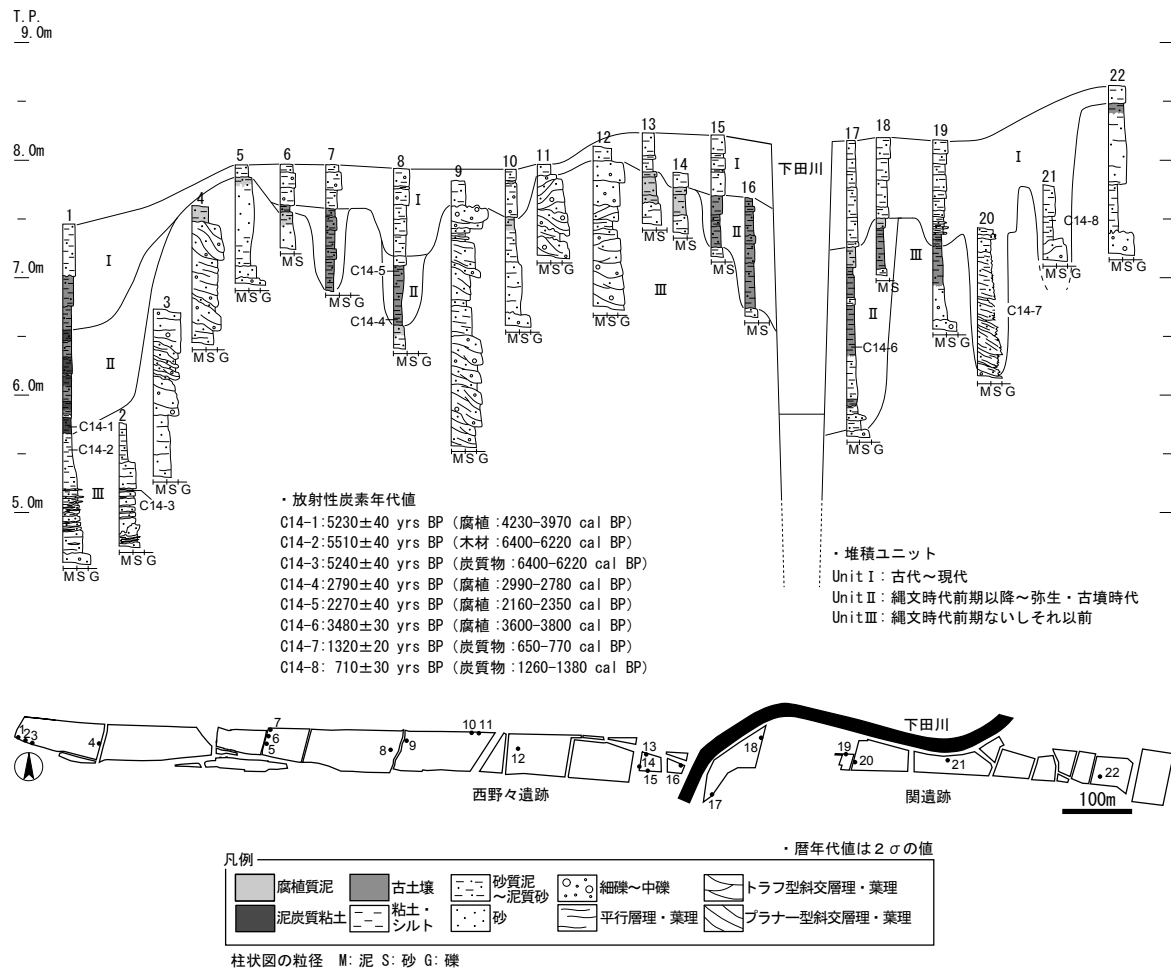


図98 西野々・関遺跡の堆積層の累重状況

礫層の特徴および地形的位置から、礫層は、下田川から流出したクレバススプレーなどの洪水堆積物と判断される。

さらにII区では深掘調査により、SR02として検出された流路状をなす凹地基盤において、現下田川と併行する砂礫からなる流路充填堆積物の分布が認められる。この砂礫層からは、年代値を得ることができなかったが、本層を再侵食して累重した流路堆積物の礫層上位に埋積する放棄流路堆積物と思われる泥層(3地点)において、710±20 yrs BP (cal AD 1,260-1,380)と、13～14世紀代の暦年代値を示す炭化材片が採取することができた(写真4・5・6)。

一方、I区のSR02については、流路充填堆積物中に挟在する炭化物から、1,320±20 yrs BP (cal AD 650-770)と、7世紀中頃～8世紀後半の暦年代値が得られ、出土遺物から12世紀代に最終的に埋没したとみられる。本流路では、周囲の氾濫原へほとんど堆積物を供給していないことが特徴として認識される。

上記の堆積状況をふまえると、下田川沿いの低地では、古代～中世前半頃に流路が形成されるものの、周囲の扇状地氾濫原への堆積物供給が不活発であったと判断される。そのような氾濫原では、SR02埋没後、13-14世紀頃以降のSR01の埋没過程において、埋積が進行したと考えられる。このよ

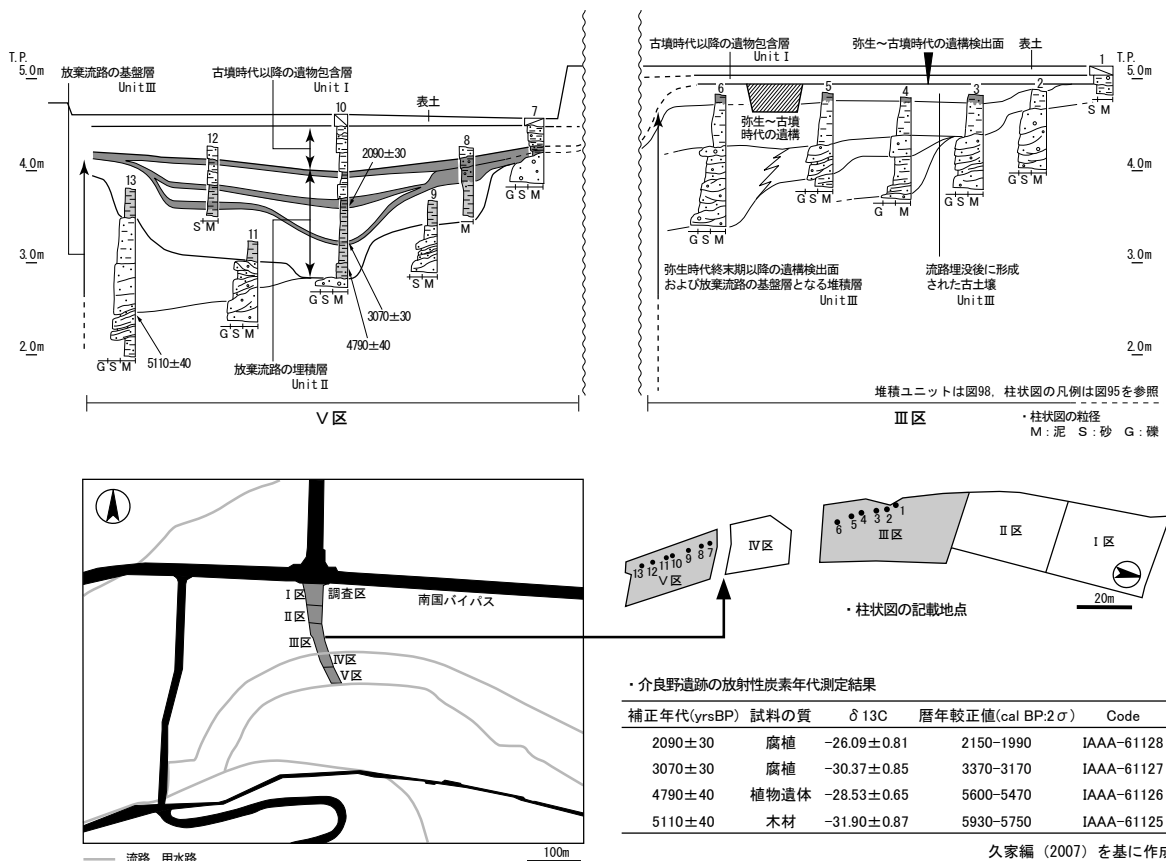


図99 介良野遺跡の層序と年代

うな堆積環境の変化の要因の1つとしては、中世前半以降とみられる流路埋積層の砂礫層が現下田川沿いのみ分布することから、流路の人為的固定によって生じた河床上昇にともなう可能性が想定される。この点については、今後のさらなる地質学的な知見を収集して、検証していく必要がある。

## (2)SD01の埋没過程

08-1NS調査区で検出された古代の大溝は、その走向方向から、南側へ伸びる旧流路内に形成されたことがうかがえる。この地点は、旧流路が西から南へ大きく屈曲する地点に相当する。08-1NS調査区は、この屈曲の東に位置しており、旧流路の滑走斜面側に立地する。対岸の西野々遺跡は、旧流路の攻撃斜面側となる。西野々遺跡では、弥生時代から古代の灌漑水路と考えられる溝群が検出されている(廣田編,2011a)。このような発掘結果から、古代には、下田川の屈曲地点において、攻撃および滑走斜面の双方へ分水されていたことが想定される。

これまでの関および西野々遺跡の発掘調査結果から、弥生時代以降から継続して本地点は、下田川からの灌漑水路の分水において重要な位置にあったことが指摘される。これは、遺跡基盤層の地質調査から明らかにされたように、名残川である下田川が縄文時代以降から比較的穏やかな堆積環境にあり、急速で営力の大きな河川地形変化が生じていなかったことに起因するものと思われる。名残川では、流路の堆積環境が穏やかで、大規模な洪水の頻度が少なく、かつある一定量の水量が見





写真1 I区SR01検出状況と東壁断面



写真2 I区SR01東壁断面（西側より撮影）



写真3 II区SR02北壁断面



写真4 II区SR02検出状況と3地点深掘トレンチの位置



写真5 3地点深掘トレンチ東壁断面



写真6 3地点深掘トレンチ試料採取状況

込まれるため、灌漑などに利用し易いとされる(鈴木,1998)。このことから、弥生時代以降、下田川は、灌漑などの利水にとって重要な役割を果たしていたことが認識される。また、弥生時代以降を通じて、今回の調査地点付近では、取水地点に大きな変動がないことにも着目される。このような土地利用からは、調査地点付近が、下田川からの取水と灌漑にとって要となる場所であったことが想定される。

### (3)古植生

#### ①分析概要

植物珪酸体分析で08-1NS調査区のSD01を覆う古代の層準の7地点,09-2NS区のI区の基盤層の古土壌とそれを覆う古代～近世の層準の1地点,花粉分析で09-2NS区のII区の年代値が13-14世紀代と推定される流路埋土の3地点では,古植生に関する有効な情報が得られた。これに対し,08-1NS調査区のSD01(8地点)の種実分析と花粉分析,09-2NS区のII区のSR02埋土(2地点)の花粉分析では,化石がほとんど産出せず,この層準での古植生の検討を行うことができなかった。以下では,1地点の09-2NS区のI区の基本層序の植物珪酸体群集の層位的変遷,3地点での13-14世紀代の流路埋土の花粉化石群集,08-1NS調査区のSD01とその被覆層の植物化石群集に分けて言及する。

#### ② I区(09-2NS区)の基本層序の植物珪酸体群集

堆積ユニットCに対比される基盤層の古土壌のVI層では,高燥で開けた場所を好むネザサ節を含むタケ亜科が優占する。VI層は,縄文期に沖積扇状地面が離水した後に表層部に形成された古土壌であり,上述してきた本層の形成過程や微地形と調和的な植物珪酸体群集を示す。

VI層直上のXVI・XVII層では,湿潤な場所を好むヨシ属が増加しており,局地的な相対的水位の上昇にともない,分析地点周辺の地表環境が湿潤化したことが示唆される。分析層準は,氾濫堆積物に厚く覆われる。このような堆積環境変化からは,古代のXVII層から中世のXIII層にかけて,流路河床が埋積傾向になり,周囲の氾濫原への洪水の頻度が上昇したことが示唆される。流路周辺の地下水位は,河床の相対的な上昇にともない高くなる。これらのことをふまえると,XVI・XVII層でのヨシ属の増加は,下田川の河床埋積にともなう地下水位の上昇や排水不良が原因と推測される。

洪水砂層と,それらを母材とする耕作土が積層するXVI層より上位では,植物珪酸体含量が急減する。花粉や植物珪酸体は,好氣的な土壌環境が維持される場所で保存状態が不良となる。上述の層相解析結果にもとづくと,この変化は,本地点における氾濫原の埋積にともなう堆積速度の上昇と,相対的水位低下により好氣的な土壌環境が維持されたことに起因すると判断される。植物珪酸体の産状と層相から,古代から中世のXVIII層～XI層の時期に調査区は,洪水の影響をたびたび受けるような不安定な氾濫原であったと考えられる。

栽培種であるイネ属については,古代の耕作土の可能性が想定されたXVI・XVII層,層相から人為的な擾乱を受けた可能性がうかがえる中世のXIII・XIV層のいずれからも産出しなかった。今回の分析地点は,間欠的に洪水砂の流入するSR01に近接しており,安定した耕作地が広がるような場所ではなかったと考えられる。

#### ③ II区(09-2NS区)の13-14世紀代の流路埋土の花粉化石群集

分析地点での3地点では,その上半部において統計的に扱える個数の化石が産出した。ただし,これらの試料でも,花粉化石の保存状態がやや悪く,シダ類胞子の割合が高い。シダ類胞子の多産は,周辺植生の中でシダ類が優勢だったのではなく,シダ類胞子が花粉化石に比べ風化に強いことから相対的に高くなったのが原因である。

3地点の上半部では,マツ属が優占する木本花粉化石群集を示す。関遺跡の周囲に位置する介良野遺跡や西野々遺跡で行われた既往の花粉分析結果(久家編,2007・廣田・小野編,2008)では,弥生時代



～古代の時期にアカガシ亜属が優占し、マツ属の多産が認められない。マツは瘦地でも育ち、成長が早いことから、伐採地等に先駆的に侵入し二次林を構成する。このようなマツの生態性と那須(1980)や波田(1987)の二次林化の植生史的考察にもとづくと、当該期のマツ属花粉の多産は、周辺の人為による森林破壊にともなうマツ二次林の増加に由来するとみられる。本時期の二次林化は、物部川扇状地面上でのさらなる耕作地の拡大や居住域の増加にともなう可能性が示唆され、今後の考古学的検討を併せて、より詳細な植生変遷を明らかにしていくことが重要と思われる。

マツ属以外の種類では、モミ属、ツガ属、コウヤマキ属などが温帯性の針葉樹林を構成する要素である。また、アカガシ亜属やシイノキ属は、常緑広葉樹林を構成する主要な要素である。これらは、二次林化が進んだ遺跡周囲の丘陵地や、それらを取りまく山地斜面に部分的に分布していたと考えられる。

この他、特徴的な木本花粉としては、カキ属とブドウ属があげられる。これらは、ともに可食植物である。両者は自生する野生種もあるが、栽培品種も多く、人里近くでよく見られる。ただし、花粉化石からは野生種と栽培種を区別できないため、栽培については言及できない。ブドウ属については、花粉塊が2～3個みつまっていることから、現地性が高く、近くに生育していた可能性が高い。

草本類については、イネ科が多く検出され、その中にはイネ属花粉も含まれる。シダ類胞子の多産により、相対的に少なくみえるものの、イネ属花粉が連続して産出することから、付近に水田が存在していたことがうかがえる。また、ソバ属が産出していることから、調査区近辺ではソバの栽培が行われていたことが確認される。

その他の草本類では、ギンギシ属、オオバコ属、ヨモギ属、キク亜科、タンポポ科といった明るく開けた場所を好む種類が多い。このことから13-14世紀代に調査区周辺では、開発が進行しており、草地を主体とする植生景観が広がっていたことが推定される。

#### ④ 08-1NS 調査区のSD01とその被覆層の植物化石群集

SD01は、埋土の層相から、人為的に埋め戻されていないことが読みとれる。出土遺物とをふまえると、SD01は、奈良時代後半(8世紀後半)から平安時代前半(10世紀頃)にかけて、周囲から土壌などの地表面物質が流れ込むような状況下において、段階的に埋没が進行したと推定される。10世紀以降には、SD01を覆って氾濫堆積物が累重しており、古代末期以降からある時期にかけて、洪水の影響を受けやすい堆積環境へと変化したことが認識される。

SD01埋土については、花粉・種実化石の保存状態が不良であった。埋土の層相と出土遺物から、SD01は、短期間で急激に埋没したことが否定される。花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合には、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村,1967;徳永・山内,1971;三宅・中越,1998など)。上記のことから、SD01埋土に含まれる植物化石は、溝内が好氣的な土壌環境で維持されるような状況により、分解・消失したと推察される。このような植物化石の産状から、古代に溝内は、基本的に乾燥した地表環境であったと考えられる。調査区では、地下水位が低く、溝内が常時水漬かりするような湿潤な状態が維持されることがなかったと推定される。下田川からの取水についても、通年にわたって溝内に常時水が存在するような状況ではなかったことも想定される。

SD01埋土最下部から僅かに得られた草本花粉では、イネ科、ナデシコ科等の開けた明るい場所を

好む種類が検出されている。また、SD01を被覆する古代のⅦ層からは、先述した生態性を示すネザサ節の産出が目立つ。これらの分析結果から、古代に調査区では、乾燥した土壌環境において、明るく開けた植生景観が展開していたと考えられる。

なお、Ⅶ層では水田の可能性もあることから、層内において細かな間隔で植物珪酸体分析を実施したが、栽培種であるイネ属の含量が数百個/g程度に留まっている。含量からは、分析地点での稲作を支持することが難しい。

## 参考文献

- 波田善夫,1987,花粉分析からみたマツ林の歴史.松くい虫被害対策として実施される特別防除が自然生態系に与える影響評価に関する研究-松くい虫等被害に伴うマツ林生態系の攪乱とその動態について-資料集,(財)日本自然保護協会,41-49.
- 廣田佳久・小野由香編,2008,西野々遺跡Ⅰ.高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,248p.
- 廣田佳久編,2011a,西野々遺跡Ⅱ.高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,312p.
- 廣田佳久編,2011b,西野々遺跡Ⅲ.高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,510p.
- 石川茂雄,1994,原色日本植物種子写真図鑑.石川茂雄図鑑刊行委員会,328p.
- 近藤鍊三,2004,植物ケイ酸体研究.ペドロジスト,48,46-64.
- 近藤鍊三・佐瀬隆,1986,植物珪酸体分析,その特性と応用.第四紀研究,25,31-64.
- 久家隆芳編,2007,介良野遺跡.(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター,200p.
- 三宅 尚・中越信和,1998,森林土壌に堆積した花粉・胞子の保存状態.植生史研究,6,15-30.
- 中村 純,1967,花粉分析.古今書院,232p.
- 那須孝悌,1980,花粉分析からみた二次林の出現.関西自然保護機構会報,4,3-9.
- 徳永重元・山内輝子,1971,花粉・胞子.化石の研究法,共立出版株式会社,50-73.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志,2000,日本植物種子図鑑.東北大学出版会,642p.
- 鈴木隆介,1998,建設技術者のための地形図読図入門 第2巻 低地.古今書院,554p.
- 谷口康浩,2001,縄文時代遺跡の年代.季刊考古学,77,17-21.

## 第V章 まとめ

関遺跡では弥生時代、古代、中世、近世の遺構・遺物を検出した。これらの遺構・遺物は、下田川を挟んで西側に隣接する西野々遺跡と密接に関連している。路線内では東へ約400mの田村西遺跡<sup>(1)</sup>まで明確な遺構・遺物は検出されておらず、この空白地域は生産域であったと推測される。

弥生時代では土坑、溝跡、土器集中を検出している。Ⅲ区では前期末～中期初頭の土坑(SK31・33)、後期末～古墳時代初頭の溝跡(SD15～17)、Ⅴ区では土器集中(SX3)を検出した。また、Ⅴ区の包含層からは打製石鏃が2点出土している。西野々遺跡の居住域、関遺跡の生産域、そして、関町田遺跡での銅鐸の埋納地点と大きくみることができる。

古代については、香長条里と同一方向の08区SD1の開削は条里制の施行時期を検討するための重要な資料である。西野々遺跡では約100棟の掘立柱建物が復元され、官衙関連の施設と考えられている。これらの建物跡は棟方向の違いから8時期に細分され、8世紀後半から9世紀に最盛期を迎える<sup>(2)</sup>。関遺跡08区SD1から出土した遺物も8世紀後半から9世紀のものが最も多い。香長平野全体でもこの時期に最盛期を迎える遺跡が多く、律令体制が最も充実していた時期である。

近世については、18世紀代の屋敷地を検出した。現況の宅地に重複しており、現風景の原型と考えられる。出土遺物のほとんどが当該期の陶磁器類である。図示した遺物を中心に用途別・器種別の組成比率表を作成した<sup>(3)</sup>。供膳具が78.6%、調理具が15.7%、貯蔵具が1.9%、焜炉が0.5%、

火鉢が3.3%である。供膳具が最も多く約8割を占める。供膳具の内訳は碗が58.8%、皿が33.9%、鉢が7.3%であり、碗が約6割を占める。漆器碗の出土にみられるように木製の碗等も考慮に入れるとさらに供膳具の占める割合は大きくなる。調理具の内訳は播鉢が72.7%、片口鉢が3.0%、鍋が18.2%、焙烙が6.1%であり、播鉢が約7割を占め、次いで鍋が約2割を占める。播鉢が突出しており、一般的な状況というよりはむしろ個別的な事情を反映していると考えられる。

表7 関遺跡出土近世遺物組成比率

| 用途  | 器種  | 磁器 | 陶器 | 計   | 比率    | 合計<br>(点) | 比率<br>(%) |
|-----|-----|----|----|-----|-------|-----------|-----------|
| 供膳具 | 碗   | 74 | 23 | 97  | 46.1  | 165       | 78.6      |
|     | 皿   | 30 | 26 | 56  | 26.7  |           |           |
|     | 鉢   | 6  | 6  | 12  | 5.7   |           |           |
| 調理具 | 播鉢  | —  | —  | 24  | 11.4  | 33        | 15.7      |
|     | 片口鉢 | —  | —  | 1   | 0.5   |           |           |
|     | 鍋   | —  | —  | 6   | 2.9   |           |           |
|     | 焙烙  | —  | —  | 2   | 1.0   |           |           |
| 貯蔵具 | 壺・甕 | —  | —  | 4   | 1.9   | 4         | 1.9       |
| 暖房具 | 焜炉  | —  | —  | 1   | 0.5   | 1         | 0.5       |
|     | 火鉢  | —  | —  | 7   | 3.3   | 7         | 3.3       |
| 計   |     |    |    | 210 | 100.0 | 210       | 100.0     |

### 註

(1)2013『田村西遺跡』高知県教育委員会・(公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

(2)廣田佳久2011「第V章 総括」『西野々遺跡Ⅲ』高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

(3)図示していない遺物も加えれば若干比率は変化するが、大まかな傾向は把握できると考える。

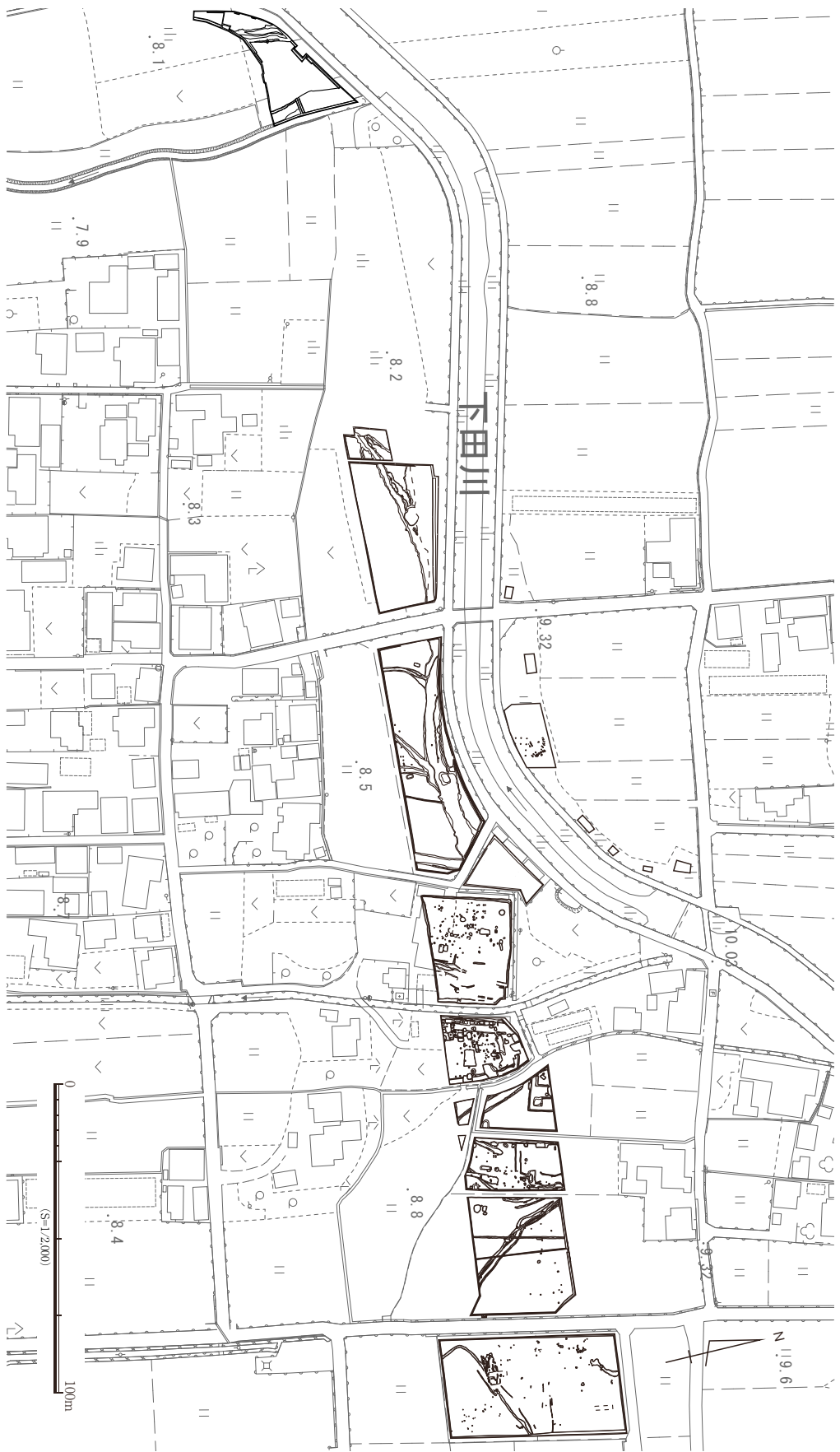


図100 遺構全体図(S=1/2,000)

# ピット計測表

凡例

長軸・短軸 m

深さ cm

| 調査区 | グリッド     | 遺構名 | 平面形 | 長軸    | 短軸    | 深さ | 主な埋土                    | 備考 |
|-----|----------|-----|-----|-------|-------|----|-------------------------|----|
| Ⅲ   | E29-2-7  | P1  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 8  | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.3   | 0.3   | 8  | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 10 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 6  | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P5  | 〃   | 0.4   | 0.4   | 45 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P6  | 〃   | 0.3   | 0.3   | 12 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P7  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 19 | 〃                       |    |
| 〃   | E29-2-8  | P1  | 〃   | 0.6   | 0.6   | 43 | 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト質砂    |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 19 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 12 | 〃                       |    |
| 〃   | E29-2-9  | P1  | 〃   | 0.4   | 0.4   | 9  | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 〃   | 0.5   | 0.5   | 12 | にぶい黄褐色 (10YR4/2) シルト質砂  |    |
| 〃   | E29-2-10 | P3  | 楕円形 | 0.5以上 | 0.5   | 10 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | E29-2-12 | P2  | 〃   | 0.3   | 0.2   | 13 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 〃   | 0.3   | 0.2   | 36 | 〃                       |    |
| 〃   | E29-2-13 | P1  | 〃   | 0.6   | 0.5   | 36 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.7   | 0.4   | 6  | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 2  | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 楕円形 | 0.5   | 0.5   | 30 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P5  | 円形  | 0.3   | 0.3   | 9  | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |    |
| 〃   | 〃        | P6  | 楕円形 | 1.2   | 1.0   | 16 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P8  | 〃   | 0.5   | 0.5   | 10 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P9  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 8  | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |    |
| 〃   | 〃        | P10 | 楕円形 | 0.4   | 0.3   | 32 | 暗褐色 (10YR3/3) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | E29-2-14 | P1  | 不整形 | 1.0   | 0.8   | 15 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 円形  | 0.4   | 0.4   | 11 | 黒褐色 (10YR3/4) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | E29-2-15 | P1  | 楕円形 | 0.3   | 0.2   | 2  | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |    |
| 〃   | E29-2-17 | P1  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 24 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 楕円形 | 0.3   | 0.2   | 29 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 21 | 暗灰黄色 (2.5Y4/2) シルト      |    |
| 〃   | E29-2-18 | P5  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 33 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P6  | 楕円形 | 0.3   | 0.2   | 9  | 黒褐色 (10YR3/2) シルト       |    |
| 〃   | E29-2-19 | P1  | 円形  | 0.3   | 0.3   | 27 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.3   | 0.3   | 28 | 暗灰黄色 (10YR4/2) シルト質砂    |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 〃   | 0.3   | 0.3   | 16 | 黒褐色 (10YR3/2) シルト       |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 楕円形 | 0.5以上 | 0.3以上 | 6  | 暗灰黄色 (10YR4/2) シルト質砂    |    |
| 〃   | E29-2-20 | P1  | 円形  | 0.3   | 0.3   | 24 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 16 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘土質シルト |    |
| 〃   | E29-2-21 | P1  | 楕円形 | 0.3   | 0.2   | 10 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | 〃        | P3  | 円形  | 0.2   | 0.2   | 9  | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P4  | 〃   | 0.3   | 0.3   | 17 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P5  | 楕円形 | 0.5   | 0.4   | 18 | 暗灰黄色 (10YR4/2) シルト質砂    |    |
| 〃   | 〃        | P6  | 円形  | 0.6   | 0.6   | 45 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |    |
| 〃   | E29-2-22 | P1  | 〃   | 0.1   | 0.1   | 15 | 〃                       |    |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.2   | 0.2   | 27 | 〃                       |    |

| 調査区 | グリッド     | 遺構名 | 平面形 | 長軸     | 短軸  | 深さ | 主な埋土                    | 備考           |
|-----|----------|-----|-----|--------|-----|----|-------------------------|--------------|
| Ⅲ   | E29-2-22 | P4  | 円形  | 0.1    | 0.1 | 10 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |              |
| 〃   | 〃        | P5  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 11 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-2-23 | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 9  | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土        |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 17 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P3  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 24 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P7  | 〃   | 0.1    | 0.1 | 14 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P8  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 18 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-2-24 | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 4  | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 楕円形 | 0.4    | 0.3 | 9  | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P3  | 円形  | 0.2    | 0.1 | 16 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P4  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 42 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P5  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 18 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |              |
| 〃   | E29-2-25 | P7  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 11 | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |              |
| 〃   | 〃        | P8  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 12 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-3-21 | P1  | 〃   | 0.3    | 0.2 | 6  | 黒褐色 (10YR3/2) シルト       |              |
| 〃   | E29-3-22 | P2  | 楕円形 | 0.4    | 0.3 | 19 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-3-23 | P2  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 11 | 黒褐色 (2.5Y3/2) シルト質砂     |              |
| 〃   | E29-4-17 | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 11 | 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質シルト    |              |
| 〃   | E29-4-18 | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 20 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 円形  | 0.2    | 0.2 | 12 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-4-22 | P1  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 40 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-7-3  | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 8  | 黒褐色 (10YR3/2) 粘土質シルト    |              |
| 〃   | E29-7-4  | P1  | 〃   | 0.5    | 0.5 | 18 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P5  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 13 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-8-1  | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 21 | にぶい黄褐色 (10YR4/3) シルト質砂  |              |
| 〃   | E29-9-1  | P1  | 楕円形 | 0.6    | 0.5 | 37 | 暗灰黄色 (2.5Y5/2) 砂質シルト    | SK24 を切る。    |
| 〃   | E29-9-2  | P1  | 〃   | 0.5    | 0.5 | 46 | 〃                       | SK20・31 を切る。 |
| 〃   | E29-9-3  | P1  | 円形  | 0.4    | 0.4 | 49 | 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト質砂    |              |
| 〃   | E29-9-4  | P1  | 〃   | 0.4    | 0.4 | 33 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.4    | 0.4 | 42 | 〃                       |              |
| 〃   | E29-9-7  | P1  | 〃   | 0.5    | 0.5 | 29 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.3    | 0.3 | 37 | 〃                       |              |
| Ⅳ   | E30-1-5  | P1  | 楕円形 | 0.4    | 0.3 | 17 | 灰黄褐色 (10YR5/1) シルト質砂    |              |
| 〃   | E30-1-10 | P1  | 〃   | 0.4    | 0.4 | 15 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 13 | 〃                       |              |
| 〃   | E30-1-22 | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 18 | 〃                       |              |
| 〃   | E30-1-23 | P1  | 〃   | 0.3    | 0.2 | 39 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P2  | 〃   | 0.4    | 0.3 | 48 | 〃                       |              |
| 〃   | 〃        | P3  | 円形  | 0.2    | 0.2 | 34 | 〃                       |              |
| 〃   | E30-2-13 | P1  | 楕円形 | 0.2    | 0.2 | 9  | 黄褐色 (2.5Y5/3) シルト質砂     |              |
| 〃   | E30-3-8  | P1  | 〃   | 0.2    | 0.2 | 17 | 暗灰黄色 (2.5Y5/2) シルト質砂    |              |
| Ⅴ   | E30-9-17 | P1  | 不整形 | 0.2 以上 | 0.2 | 4  | オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 粘土質シルト |              |
| 〃   | E30-9-18 | P1  | 楕円形 | 0.3 以上 | 0.2 | 4  | 黒褐色 (10YR3/2) シルト質極細粒砂  |              |
| 〃   | E30-9-23 | P1  | 円形  | 0.2    | 0.2 | 21 | 〃                       |              |



# 遺物觀察表

凡例

単位はcmである。

( ) 内は復元値

赤彩：赤色塗彩。

被熱：被熱変色部分有り。

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序   | 器種  | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |       |      | 特徴                                  |
|----------|----------|---------|---------------|-----|----|------------|------------|------------|------|-------|------|-------------------------------------|
|          |          |         |               |     |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径   |                                     |
| 図7       | 1        | 08      | SD1/VI層       | 須恵器 | 蓋  | 黄灰色        | 灰色         | -          | 14.2 | 2.7   | -    | 扁平な摘み。回転ナデ。焼成ムラ。ほぼ完存。               |
| 〃        | 2        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 14.0 | 2.6   | -    | 扁平な摘み。回転ナデ。天井部,ケズリ。                 |
| 〃        | 3        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰白色        | 黄灰色        | -          | 13.7 | 2.1   | -    | 扁平な摘み。回転ナデ。完存。自然釉付着。                |
| 〃        | 4        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰黄褐色       | 灰色         | 灰黄褐色       | 14.3 | 2.3   | -    | 扁平な摘み。回転ナデ。                         |
| 〃        | 5        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰黄色        | 灰黄色        | 灰黄色        | 14.2 | (2.1) | -    | 回転ナデ。天井部,回転ヘラケズリ。                   |
| 〃        | 6        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰黄褐色       | 黄灰色        | にぶい<br>黄橙色 | 13.1 | (1.9) | -    | 回転ナデ。                               |
| 〃        | 7        | 〃       | 〃             | 土師器 | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | 15.8 | 1.8   | -    | 摩耗,調整不明瞭。                           |
| 〃        | 8        | 〃       | 〃             | 須恵器 | 杯  | 灰白色        | 黄灰色        | 灰白色        | 13.0 | 4.1   | 8.3  | 貼付け高台。回転ナデ。ヘラ切り後ナデ。爪状圧痕。            |
| 〃        | 9        | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 14.4 | 3.9   | 11.5 | 貼付け高台。回転ナデ。ヘラ切り後ナデ。歪む。              |
| 〃        | 10       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 淡黄色        | 灰白色        | 淡黄色        | 14.9 | 3.6   | 10.4 | 貼付け高台。回転ナデ。                         |
| 〃        | 11       | 〃       | SD1/I層        | 土師器 | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | 12.3 | 4.2   | 7.5  | 貼付け高台。内外面,ミガキ。回転ヘラ切り後ナデ。            |
| 〃        | 12       | 〃       | SD1/VI層       | 須恵器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (2.5) | 9.0  | 貼付け高台。回転ナデ。ヘラ切り後ナデか。                |
| 〃        | 13       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰白色        | 灰色         | 灰白色        | -    | (1.4) | 10.0 | 摩耗,調整不明瞭。回転ヘラ切り後ナデ。                 |
| 〃        | 14       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰色         | 灰白色        | 灰白色        | 10.5 | 2.7   | 6.8  | 回転ナデ。回転ヘラ切り後ナデ。                     |
| 〃        | 15       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 浅黄色        | 灰黄色        | 浅黄色        | 14.0 | (3.1) | -    | 回転ナデ。                               |
| 〃        | 16       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 灰黄色        | 灰黄色        | 灰黄色        | 13.8 | 3.8   | 9.7  | 摩耗,調整不明瞭。ミガキか。歪む。                   |
| 〃        | 17       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>橙色  | -          | 13.9 | 3.7   | 9.5  | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。ほぼ完存。                |
| 〃        | 18       | 〃       | SD1/<br>I・V層  | 土師器 | 〃  | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 13.0 | 3.2   | 7.5  | やや摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。回転ヘラ切り後,ナデ。        |
| 〃        | 19       | 〃       | SD1/I層        | 〃   | 〃  | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | 浅黄橙色       | -    | -     | -    | ローリング。調整,不明瞭。                       |
| 〃        | 20       | 〃       | 〃             | 〃   | 〃  | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 11.9 | 3.4   | 7.5  | 回転ナデ。ヘラ切り後ナデか。                      |
| 〃        | 21       | 〃       | SD1/VI層       | 須恵器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 14.2 | 4.0   | 10.5 | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。                     |
| 〃        | 22       | 〃       | SD1/I層        | 土師器 | 皿  | 灰白色        | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | 16.5 | 2.6   | 13.4 | 口縁部折り込み,凹線状。回転ナデ・ミガキ。回転ヘラ切り後ナデ。     |
| 〃        | 23       | 〃       | SD1/VI層       | 〃   | 〃  | 橙色         | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | 16.4 | 2.4   | 12.0 | 口縁部折り込み。内面,ミガキ。外面,摩耗のため調整不明。        |
| 〃        | 24       | 〃       | SD1/<br>V・VI層 | 〃   | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | 14.6 | 2.5   | 10.5 | 口縁部折り込み,凹線状。摩耗,調整不明瞭。回転ヘラ切り後ナデ,ミガキ。 |
| 〃        | 25       | 〃       | SD1           | 〃   | 〃  | 明赤褐色       | 明赤褐色       | 明赤褐色       | 15.2 | 2.4   | 10.6 | 折り込み口縁。摩耗,調整不明瞭。回転ヘラ切り。             |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形      | 色調         |            |           | 法量   |       |     | 特徴   |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|---------|------------|------------|-----------|------|-------|-----|--|
|          |          |         |             |           |         | 内面         | 外面         | 断面        | 口径   | 器高    | 底径  |  |
| 図7       | 26       | 08      | SD1/VI層     | 須恵器       | 壺       | 灰色         | 灰色         | 灰色        | -    | -     | -   | 外面,回転ケズリ。内面,回転ナデ。                              |
| 〃        | 27       | 〃       | 〃           | 〃         | 甕       | 灰色         | 灰白色        | 灰白色       | 22.3 | (6.3) | -   | 回転ナデ。  |
| 〃        | 28       | 〃       | SD1/V層      | 〃         | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | -    | -     | -   | やや摩耗,調整不明瞭。外面,叩き。内面,当て具痕。                      |
| 〃        | 29       | 〃       | SD1/VI層     | 土師器       | 盤       | 橙色         | 橙色         | 褐灰色       | 16.9 | 1.8   | -   | 底部,回転ケズリ。ミガキ。赤彩。                               |
| 〃        | 30       | 〃       | 〃           | 須恵器       | 高杯      | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | -    | (8.0) | -   | 摩耗,調整不明瞭。                                      |
| 〃        | 31       | 〃       | 〃           | 土師器       | 甕       | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | 浅黄橙色      | 20.4 | (6.1) | -   | 外面,ナデ。内面,ケズリ後ナデ。煤付着。                           |
| 〃        | 32       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰黄褐色       | 黒褐色        | 明赤褐色      | -    | -     | -   | ハケメ。煤付着。                                       |
| 8        | 33       | 〃       | SD2/上層      | 陶器        | 皿       | 緑灰色        | にぶい<br>黄橙色 | 灰白色       | -    | (3.8) | 6.2 | 見込み蛇ノ目釉剥ぎ。内面,銅緑釉。見込み,明褐色釉。外面,灰黄色釉。高台,露胎。       |
| 〃        | 34       | 〃       | 〃           | 〃         | 灯明<br>皿 | 暗褐色        | 褐色         | 褐灰色       | -    | (3.7) | 3.2 | 台付灯明皿。鉄釉。回転糸切り。底部,露胎。                          |
| 9        | 35       | 〃       | 表採          | 須恵器       | 甕       | 黄灰色        | 黄灰色        | 褐灰色       | -    | (7.0) | -   | 回転ナデ。凹線・刻み目文。                                  |
| 〃        | 36       | 〃       | 攪乱          | 陶器        | 〃       | 褐灰色        | 灰褐色        | にぶい<br>橙色 | -    | -     | -   | 備前焼。ナデ/ハケメ。                                    |
| 26       | 37       | III     | SK3         | 磁器        | 皿       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 13.4 | 3.8   | 8.7 | 輪花形。蛇ノ目凹形高台。酸化コバルト。型紙摺り。見込み,松竹梅文。              |
| 〃        | 38       | 〃       | 〃           | 陶器        | 灯明<br>皿 | 黒褐色        | 黒褐色        | 灰白色       | 6.4  | 4.7   | 3.8 | 台付灯明皿。回転糸切り。底部,露胎。ほぼ完存。                        |
| 27       | 39       | 〃       | SK5         | 弥生<br>土器  | 底部      | 褐灰色        | 浅黄橙色       | 褐灰色       | -    | (2.7) | 5.0 | ナデか。   |
| 28       | 40       | 〃       | SK7         | 土師質<br>土器 | 小皿      | 浅黄橙色       | 橙色         | 浅黄橙色      | -    | (1.1) | 4.2 | ロクロナデ。回転糸切り。                                   |
| 29       | 41       | 〃       | SK11        | 磁器        | 碗       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | -    | (2.6) | 5.2 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。内外面,染付け。                           |
| 31       | 43       | 〃       | SK17        | 陶器        | 蓋       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 9.4  | 2.6   | 5.1 | 摘み径5.1<br>摘み端部,露胎。外面,唐草文・圏線。摘み内,唐草文。内面,唐草文・圏線。 |
| 34       | 44       | 〃       | SK25        | 磁器        | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 10.1 | 2.9   | 5.7 | 摘み径5.7<br>摘み端部,釉剥ぎ。内外面,染付け。                    |
| 35       | 46       | 〃       | SK26        | 〃         | 碗       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 8.6  | (4.8) | -   | 腰張り形。外面,楓文・圏線。内面,圏線。                           |
| 〃        | 47       | 〃       | 〃           | 陶器        | 香炉      | 灰褐色        | 灰白色        | 灰白色       | 7.4  | 6.6   | 7.6 | 腰輪高台。外面,灰白色の釉葉。口縁部,暗オリーブ色の釉葉。内面,露胎。            |
| 〃        | 48       | 〃       | 〃           | 磁器        | 灯明<br>皿 | 灰白色        | 灰黄色        | 灰白色       | 12.0 | 2.2   | 5.3 | 受付灯明皿。内面,灰釉。外面,露胎。ター<br>ル付着。                   |
| 37       | 50       | 〃       | SK31        | 弥生<br>土器  | 甕       | 橙色         | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄橙色      | -    | (8.6) | -   | 摩耗,調整不明瞭。微隆起突帯を貼付。                             |
| 〃        | 51       | 〃       | 〃           | 〃         | 底部      | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | 褐灰色       | -    | (3.3) | 8.0 | 外面,ハケメ。内面,ナデ。                                  |
| 〃        | 52       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰黄色        | にぶい<br>黄橙色 | 黄灰色       | -    | (4.0) | 9.0 | 外面,ミガキ。  |
| 38       | 53       | 〃       | SK33        | 〃         | 壺       | 灰黄色        | 橙色         | 灰黄色       | -    | (6.2) | -   | 外面,ミガキ。刻み目文。                                   |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形   | 色調         |            |            | 法量   |       |      | 特徴  |
|----------|----------|---------|-------------|----|------|------------|------------|------------|------|-------|------|---|
|          |          |         |             |    |      | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径   |   |
| 41       | 54       | IV      | SK39        | 磁器 | 蕎麦猪口 | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (4.6) | 5.8  | 蛇ノ目凹形高台。釉剥ぎ。外面、帆掛け舟・<br>圏線。内面、圏線。             |
| 〃        | 55       | 〃       | 〃           | 〃  | 碗    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 6.9  | (3.4) | 2.5  | 畳付け、釉剥ぎ。外面・見込み、染付け。口鏝。                        |
| 〃        | 56       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 明緑灰色       | 明緑灰色       | 灰白色        | 10.6 | 6.1   | 4.0  | 畳付け、釉剥ぎ。外面、草花文・圏線。内面、<br>雷文帯・圏線。見込み、松竹梅文。     |
| 〃        | 57       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 明緑灰色       | 明緑灰色       | 灰白色        | 9.9  | (4.7) | -    | 端反り形。外面、草花文・圏線。内面、多重<br>圏線。見込み、染付け。           |
| 〃        | 58       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (2.4) | 3.0  | 畳付け、釉剥ぎ。外面・見込み、染付け。                           |
| 〃        | 59       | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃    | にぶい<br>黄色  | にぶい<br>黄色  | 灰黄色        | -    | (4.5) | 5.6  | 外面下半、露胎。内面、ハマ跡有り。煤附着。                         |
| 〃        | 60       | 〃       | 〃           | 磁器 | 蓋    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.2  | 2.9   | 3.8  | 摘み端部、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、二重<br>圏線・雷文帯・二重圏線。見込み、染付け。 |
| 〃        | 61       | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (2.5) | 3.8  | 摘み端部、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、四方<br>襷文・圏線。見込み、松竹梅文。      |
| 〃        | 62       | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.0 | 2.9   | 5.4  | 摘み端部、釉剥ぎ。外面、染付け。摘み内、銘<br>有り。内面、圏線。見込み、染付け。    |
| 〃        | 63       | 〃       | 〃           | 〃  | 皿    | 明緑灰色       | 明緑灰色       | 灰白色        | 8.8  | 2.3   | 4.8  | 輪花形。畳付け、釉剥ぎ。内面、染付け。口鏝。                        |
| 〃        | 64       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.4  | 2.3   | 4.8  | 畳付け、釉剥ぎ。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ。内面、<br>二重格子文。              |
| 〃        | 65       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.7  | 2.8   | 4.0  | 畳付け、釉剥ぎ。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ後、<br>アルミナ砂塗布。内面、染付け。       |
| 〃        | 66       | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃    | 極暗<br>赤褐色  | 極暗<br>赤褐色  | にぶい<br>赤褐色 | -    | (1.7) | 5.2  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ。                    |
| 〃        | 67       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 12.5 | 3.5   | 7.2  | 輪花形。蛇ノ目凹型高台。釉剥ぎ。外面、染<br>付け。内面、舟。              |
| 〃        | 68       | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 13.8 | 4.2   | 8.2  | 輪花形。蛇ノ目凹型高台。釉剥ぎ。内外面、<br>染付け。見込み、松竹梅文。         |
| 〃        | 69       | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃    | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (2.2) | 11.4 | 畳付け、釉剥ぎ。内面、染付け。外底面、ハマ<br>跡か。                  |
| 42       | 70       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 黒色         | 黒色         | 赤色         | 12.2 | 4.9   | 4.9  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ後、アルミナ砂塗布。焼き継ぎ痕跡有り。  |
| 〃        | 71       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 黒色         | 黒褐色        | 褐灰色        | 12.3 | 4.8   | 4.5  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ後、アルミナ砂塗布。           |
| 〃        | 72       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 黒褐色        | 黒褐色        | 褐灰色        | 12.6 | 4.5   | 4.3  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ後、アルミナ砂塗布。           |
| 〃        | 73       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 黒褐色        | 黒褐色        | 褐灰色        | 12.0 | 4.5   | 4.3  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ後、アルミナ砂塗布。           |
| 〃        | 74       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 黒褐色        | 黒褐色        | 灰白色        | 13.2 | 4.7   | 5.0  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ。見込みに重ね焼きの痕跡有り。      |
| 〃        | 75       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 暗褐色        | 暗褐色        | 暗赤灰色       | 12.8 | 4.5   | 4.8  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥<br>ぎ後、アルミナ砂塗布。ほぼ完存。      |
| 〃        | 76       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 灰褐色        | 黒褐色        | 黒褐色        | -    | (3.9) | 5.3  | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、幅広の蛇ノ<br>目釉剥ぎ後、アルミナ砂塗布。        |
| 43       | 77       | 〃       | 〃           | 〃  | 播鉢   | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 明赤褐色       | 31.6 | 13.4  | 14.0 | 10条1単位のスリメを密に施す。スリメは<br>上下3回に分けて施す。           |
| 〃        | 78       | 〃       | 〃           | 〃  | 〃    | 赤褐色        | 赤褐色        | 灰色         | -    | (8.4) | 15.1 | 10条1単位のスリメを密に施す。外底面に<br>砂が多量に附着。              |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形       | 色調         |            |            | 法量     |        |            | 特徴  |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|----------|------------|------------|------------|--------|--------|------------|---|
|          |          |         |             |           |          | 内面         | 外面         | 断面         | 口径     | 器高     | 底径         |   |
| 図<br>43  | 79       | IV      | SK39        | 陶器        | 播鉢       | にぶい<br>橙色  | 灰褐色        | 黄灰色        | -      | (4.6)  | 15.2       | 高台付き。9条1単位のスリメを密に施す。                          |
| 44       | 80       | 〃       | 〃           | 〃         | 蓋        | 黒色         | にぶい<br>黄橙色 | 灰黄色        | 15.2   | 3.7    | -          | 外面,鉄絵。内面,鉄釉。                                  |
| 〃        | 81       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | オリーブ<br>黄色 | 淡黄色        | 淡黄色        | 19.5   | 4.6    | 摘み径<br>6.5 | 外面,鉄絵。内面,灰釉。ハマ跡有り。                            |
| 〃        | 82       | 〃       | 〃           | 〃         | 行平<br>鍋  | 暗赤色        | 暗赤灰色       | にぶい<br>赤褐色 | 13.2   | (5.8)  | -          | 鉄釉。外面,飛鈷。蓋受け部,露胎。                             |
| 〃        | 83       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 黒色         | 暗褐色        | にぶい<br>赤褐色 | 19.0   | (9.4)  | -          | 鉄泥。外面,飛鈷。煤付着。                                 |
| 〃        | 84       | 〃       | 〃           | 〃         | 蓋        | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | 11.4   | (1.9)  | -          | 焼締め陶器。指頭圧痕,顕著。                                |
| 〃        | 85       | 〃       | 〃           | 〃         | 急須<br>蓋  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.6    | (2.2)  | 笠径<br>7.3  | 外面,灰釉。内面,露胎。                                  |
| 〃        | 86       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰黄色        | 緑灰色        | 灰白色        | -      | 1.8    | 笠径<br>8.1  | 回転糸切り。下面,露胎。口鏝。穿孔。                            |
| 〃        | 87       | 〃       | 〃           | 〃         | 急須       | 灰黄色        | 緑灰色        | 灰黄色        | 9.1    | 9.9    | 8.9        | 外面下半・内面,露胎。把手有り。煤付着。                          |
| 45       | 88       | 〃       | 〃           | 〃         | 火鉢       | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>橙色  | (17.6) | (7.5)  | -          | 白化粧土で文様。内面,ヨコハケ。                              |
| 〃        | 89       | 〃       | 〃           | 〃         | 甕        | 暗赤褐色       | にぶい<br>赤褐色 | 灰白色        | -      | (28.2) | 13.1       | 鉄釉。外底面,露胎。                                    |
| 〃        | 90       | 〃       | 〃           | 磁器        | 瓶        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -      | (4.5)  | 6.6        | 畳付け,釉剥ぎ。内面,露胎。                                |
| 〃        | 91       | 〃       | 〃           | 陶器        | 〃        | 灰オリー<br>ブ色 | オリーブ<br>黄色 | 黄灰色        | -      | (15.9) | 7.4        | 内外面,灰釉。外底面,露胎。溶着痕有り。                          |
| 〃        | 92       | 〃       | 〃           | 〃         | 灯明<br>皿  | 灰白色        | 灰黄色        | 灰白色        | 11.0   | 2.0    | 4.0        | 受付灯明皿。内面,灰釉。外面,露胎。口縁部<br>外面,タール付着。            |
| 〃        | 95       | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 羽釜       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 褐灰色        | -      | 5.0    | -          | 鏝が付く。ナデ。                                      |
| 46       | 96       | 〃       | SK40        | 磁器        | 碗        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.2   | 5.9    | 3.8        | 丸形。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ。外面,菊花散<br>らし文・二重圏線。             |
| 〃        | 97       | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -      | (3.1)  | 6.6        | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,<br>圏線。見込み,染付け。         |
| 〃        | 98       | 〃       | 〃           | 陶器        | 播鉢       | 赤色         | にぶい<br>赤褐色 | 赤色         | -      | (5.2)  | 15.7       | 9条1単位のスリメを密に施す。内底面にも<br>スリメを施す。               |
| 48       | 99       | 〃       | SK41        | 〃         | 蓋        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -      | (3.0)  | 摘み径<br>4.5 | 摘み端部,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,四方<br>襷文・圏線。見込み,染付け。       |
| 〃        | 100      | 〃       | 〃           | 磁器        | 碗        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.3   | 6.9    | 4.8        | 端反り形。畳付け,釉剥ぎ。外面,寿文。高台<br>内,銘有り。内面,圏線。見込み,染付け。 |
| 〃        | 101      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.2   | 6.6    | 6.3        | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,<br>二重圏線。見込み,寿文。ほぼ完存。   |
| 〃        | 102      | 〃       | 〃           | 〃         | 鉢        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -      | (4.2)  | 8.0        | 角鉢。畳付け,釉剥ぎ。外面・見込み,染付け。                        |
| 〃        | 103      | 〃       | 〃           | 〃         | 蕎麦<br>猪口 | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 6.7    | 5.0    | 4.5        | 腰輪高台。畳付け,釉剥ぎ。外面,竹文。                           |
| 〃        | 104      | 〃       | 〃           | 陶器        | 火鉢       | 灰黄色        | 暗赤褐色       | 灰黄色        | 10.5   | 9.2    | 11.1       | 腰輪高台。外底面・内面,露胎。5カ所に目<br>跡有り。外面,風景を描く。ほぼ完存。    |
| 〃        | 105      | 〃       | 〃           | 〃         | 播鉢       | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>赤褐色 | 赤灰色        | 32.3   | (9.7)  | -          | 9条1単位のスリメを密に施す。                               |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形      | 色調         |            |            | 法量   |       |            | 特徴                                     |
|----------|----------|---------|-------------|----|---------|------------|------------|------------|------|-------|------------|--|
|          |          |         |             |    |         | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径         |  |
| 図<br>50  | 106      | IV      | SK42        | 磁器 | 碗       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.4  | 3.3   | 2.4        | 端反り形。壘付け、釉剥ぎ。口鏝。内面、染付け。                |
| 〃        | 107      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.2  | 3.6   | 2.8        | 端反り形。壘付け、釉剥ぎ。外面、源氏香文。見込み、染付け。口鏝。       |
| 〃        | 108      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.2  | 3.6   | 2.8        | 端反り形。内面、圏線。見込み、風景文。                    |
| 〃        | 109      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 明緑灰色       | 明緑灰色       | 灰白色        | 10.4 | 5.5   | 3.8        | 端反り形。壘付け、釉剥ぎ。内外面、染付け。                  |
| 〃        | 110      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.6 | 5.3   | 4.1        | 壘付け、釉剥ぎ。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ。外面、酸化コバルト染付け。内面、圏線。 |
| 〃        | 111      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.7  | 5.0   | 3.6        | 端反り形。壘付け、釉剥ぎ。内外面、染付け。                  |
| 〃        | 112      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 8.2  | 5.8   | 3.8        | 腰張り形。内外面、染付け。                          |
| 〃        | 113      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (2.9) | 3.9        | 壘付け、釉剥ぎ。外面、見込み、染付け。                    |
| 〃        | 114      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (4.2) | 5.9        | 広東形。壘付け、釉剥ぎ。外面、草花文・二重圏線。内面、圏線。         |
| 〃        | 115      | 〃       | 〃           | 陶器 | 皿       | 黒褐色        | 黒褐色        | 褐灰色        | 12.4 | 4.5   | 4.5        | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ。                 |
| 〃        | 116      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 黄褐色        | 黄褐色        | 黄灰色        | 11.8 | 5.2   | 4.6        | 灰釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ、アルミナ砂塗布。         |
| 〃        | 117      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 黒褐色        | 黒褐色        | 褐灰色        | 11.2 | (4.0) | -          | 鉄釉。外面下半、露胎。見込み、蛇ノ目釉剥ぎ。                 |
| 〃        | 118      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.5  | 2.0   | 5.3        | 端反り形。壘付け、釉剥ぎ。見込み、陰刻による文字文。             |
| 〃        | 119      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 8.0  | 2.4   | 3.8        | 隅入角皿。壘付け、釉剥ぎ。内面、花文・幾何学文。               |
| 〃        | 120      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 24.6 | 2.8   | 14.0       | 輪花形。壘付け、釉剥ぎ。内面、染付け。                    |
| 51       | 121      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 明緑灰色       | 灰白色        | 灰白色        | 28.8 | 4.4   | 15.8       | 輪花形。壘付け、釉剥ぎ。内面、山水文。外底面に5ヵ所のハマ跡有り。      |
| 52       | 122      | 〃       | 〃           | 〃  | 鉢       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 17.4 | 7.9   | 8.0        | 角鉢。蛇ノ目凹型高台。外底面、釉剥ぎ。内外面、染付け。焼き継ぎ痕跡有り。   |
| 〃        | 123      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (3.5) | -          | 角鉢。内外面、染付け。                            |
| 〃        | 124      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (5.2) | 6.6        | 角鉢。壘付け、釉剥ぎ。内外面、染付け。焼き継ぎ痕跡有り。           |
| 〃        | 125      | 〃       | 〃           | 陶器 | 播鉢      | 赤褐色        | 赤褐色        | 赤褐色        | 33.2 | (8.0) | -          | 8条1単位のスリメを施す。                          |
| 〃        | 126      | 〃       | 〃           | 〃  | 蓋       | 暗赤褐色       | 灰黄褐色       | 灰黄褐色       | 14.8 | 4.1   | 摘み径<br>4.7 | 外面の一部・内面、施釉。外面、飛鉋。                     |
| 〃        | 127      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 褐色         | 灰黄褐色       | にぶい<br>黄橙色 | 12.0 | (2.7) | -          | 外面、飛鉋・イッチン描き。                          |
| 〃        | 128      | 〃       | 〃           | 〃  | 行平<br>鍋 | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 灰黄褐色       | 16.4 | (7.7) | -          | 口唇部を屈曲させ、受け部とする。鉄釉。口唇部と外面下半、露胎。外面、飛鉋。  |
| 〃        | 129      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃       | 暗赤褐色       | 暗赤褐色       | 褐灰色        | 15.5 | (7.6) | -          | 鉄釉。口唇部・外面下半、露胎。外面、飛鉋。煤付着。              |
| 〃        | 130      | 〃       | 〃           | 〃  | 鉢       | にぶい<br>黄橙色 | 灰黄褐色       | 灰黄褐色       | 17.0 | (6.8) | -          | 鉄釉。内面、露胎。外面、梅・飛鉋。                      |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形      | 色調         |            |            | 法量         |        |              | 特徴                                      |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|---------|------------|------------|------------|------------|--------|--------------|---|
|          |          |         |             |           |         | 内面         | 外面         | 断面         | 口径         | 器高     | 底径           |   |
| 図<br>52  | 131      | Ⅳ       | SK42        | 陶器        | 甕       | 暗褐色        | 暗褐色        | 灰黄色        | 18.3       | (13.2) | —            | 鉄釉。外面,黒色釉で文様を描く。                        |
| 53       | 132      | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 火鉢      | 褐灰色        | 黒色         | にぶい<br>橙色  | 全幅<br>20.6 | 19.0   | 全厚<br>0.7    | 上面は円形に大きくあく。底面の四隅に低い脚。内面,ハケメ。外面,ミガキ。    |
| 〃        | 133      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | にぶい<br>褐色  | にぶい<br>褐色  | にぶい<br>褐色  | 17.2       | (7.6)  | —            | 体部に円孔有り。内面,ハケメか。口縁部内面,煤付着。              |
| 〃        | 134      | 〃       | 〃           | 磁器        | 瓶       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 1.3        | (11.3) | —            | 外面,蛸唐草文。内面,露胎。                          |
| 〃        | 135      | 〃       | 〃           | 陶器        | 〃       | にぶい<br>黄橙色 | 黒色         | にぶい<br>黄橙色 | —          | (3.3)  | 5.1          | 鉄釉。畳付け,釉剥ぎ。外底面・内面,露胎。畳付けに重ね焼きの痕跡有り。     |
| 〃        | 136      | 〃       | 〃           | 磁器        | 紅皿      | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.8        | 1.7    | 1.3          | 型押し成形。外面下半,露胎。完存。                       |
| 〃        | 139      | 〃       | 〃           | 陶器        | 灯明<br>皿 | 灰褐色        | 灰褐色        | 赤褐色        | 6.4        | 4.8    | 3.6          | 台付灯明皿。鉄釉。回転糸切り。外面下半,露胎。口縁部にタールが付着。ほぼ完存。 |
| 〃        | 140      | 〃       | 〃           | 〃         | 乗燭      | 暗赤灰色       | 暗赤灰色       | 暗赤灰色       | 4.5        | 4.3    | 2.9          | 鉄釉。外底面,露胎。糸切り。脚部,円錐状の孔有り。ほぼ完存。          |
| 54       | 142      | 〃       | SK44        | 〃         | 播鉢      | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 明赤褐色       | 32.4       | (10.8) | —            | 9条1単位のスリメを密に施す。スリメは分割して施す。              |
| 55       | 144      | 〃       | SK45        | 磁器        | 皿       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.0       | 2.1    | 6.6          | 畳付け,釉剥ぎ。内面,染付け。口錆。                      |
| 57       | 145      | 〃       | SK48        | 土師質<br>土器 | 焙烙      | にぶい<br>黄褐色 | 黒褐色        | 黄褐色        | 48.0       | 5.1    | —            | 御厩系。煤付着。                                |
| 58       | 146      | 〃       | SK53        | 磁器        | 蓋       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.1       | 2.6    | 摘み径<br>4.2   | 摘み端部,釉剥ぎ。内外面,染付け。摘み内,圏線・「福」文。見込み,松竹梅文。  |
| 〃        | 147      | 〃       | 〃           | 〃         | 皿       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.3       | 1.9    | 6.3          | 畳付け,釉剥ぎ。内面,染付け。                         |
| 〃        | 148      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 12.7       | 3.5    | 7.7          | 輪花形。蛇ノ目凹形高台,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,鶴文。口錆。        |
| 59       | 151      | 〃       | SK54        | 陶器        | 播鉢      | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 明赤褐色       | 29.2       | (5.9)  | —            | 11条1単位のスリメを密に施す。明石産。                    |
| 63       | 153      | Ⅱ       | SD3         | 土師質<br>土器 | 杯       | 灰白色        | 浅黄橙色       | 灰白色        | —          | (1.6)  | 6.1          | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                           |
| 64       | 154      | 〃       | SD4         | 弥生<br>土器  | 底部      | 橙色         | 橙色         | 褐灰色        | —          | (4.8)  | 5.8          | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                           |
| 65       | 155      | Ⅲ       | SD16        | 〃         | 体部      | 黄灰色        | にぶい<br>橙色  | 黄灰色        | —          | —      | —            | 外面,ハケメ。内面,ナデ。                           |
| 〃        | 156      | 〃       | SD17        | 〃         | 壺       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 褐灰色        | 16.2       | (7.5)  | —            | 二重口縁。ナデ。肩部内面,ケズリ。                       |
| 66       | 157      | 〃       | SD20        | 土師質<br>土器 | 小皿      | にぶい<br>橙色  | 橙色         | 橙色         | 6.1        | 1.1    | 4.3          | ロクロナデ。回転糸切り。                            |
| 〃        | 158      | 〃       | 〃           | 陶器        | 灯明<br>皿 | 灰褐色        | 灰褐色        | 灰色         | 5.9        | 4.5    | 3.8          | 台付灯明皿。鉄釉。外面,露胎。回転糸切り。                   |
| 68       | 159      | 〃       | SD22        | 磁器        | 蓋       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.9        | (2.8)  | 摘み径<br>(4.2) | 外面,「福寿」・染付け。内面,染付け。見込み,水に舟。             |
| 〃        | 160      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.0       | 3.2    | 摘み径<br>5.1   | 摘み端部,釉剥ぎ。外面,花・圏線。内面,蝶・圏線。               |
| 〃        | 161      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.9        | 3.2    | 摘み径<br>5.5   | 摘み端部,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,圏線。見込み,鷺文。           |
| 〃        | 162      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.7       | 3.3    | 摘み径<br>5.8   | 外面,花・蝶。内面,圏線。                           |



| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形 | 色調         |            |           | 法量   |       |     | 特徴   |
|----------|----------|---------|-------------|----|----|------------|------------|-----------|------|-------|-----|--|
|          |          |         |             |    |    | 内面         | 外面         | 断面        | 口径   | 器高    | 底径  |  |
| 図<br>68  | 163      | Ⅲ       | SD22        | 陶器 | 碗  | にぶい<br>黄色  | にぶい<br>黄色  | 灰黄色       | 6.2  | 3.3   | 3.0 | 外面下半,露胎。                                     |
| 〃        | 164      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 11.0 | 6.0   | 4.3 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,雷文帯・<br>圏線。                |
| 〃        | 165      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 10.6 | 5.8   | 4.3 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,丸文・圏線。内面,圏線。<br>見込み,染付け。          |
| 〃        | 166      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 11.6 | (5.5) | —   | 外面,染付け。内面,圏線。                                |
| 〃        | 167      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 12.4 | (5.0) | —   | 外面,山水文。内面,雷文帯。                               |
| 〃        | 168      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (2.5) | 3.7 | 畳付け,釉剥ぎ。高台内に砂付着。外面,二<br>重網目文。                |
| 〃        | 169      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (4.2) | 4.9 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。高台内に角<br>枠内「茶」。能茶山産。          |
| 〃        | 170      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 11.4 | 6.3   | 6.0 | 広東形。畳付け釉剥ぎ。外面,花・圏線。見<br>込み,染付け。高台内,「サ」。能茶山産。 |
| 〃        | 171      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 10.7 | 6.3   | 4.1 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。内外面,染付け。                         |
| 〃        | 172      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 11.3 | 6.5   | 5.6 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。内外面,染付け。高<br>台内,「サ」。能茶山産。        |
| 〃        | 173      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (6.4) | 5.8 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。内外面・見込み,<br>染付け。                 |
| 〃        | 174      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (5.5) | 6.5 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。内外面,染付け。                         |
| 〃        | 175      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (3.4) | 6.0 | 広東形。畳付け,釉剥ぎ。高台に砂付着。外<br>面・見込み,染付け。           |
| 〃        | 176      | 〃       | 〃           | 〃  | 皿  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 9.0  | 2.1   | 4.3 | 畳付け釉剥ぎ。見込み蛇ノ目釉剥ぎ,アル<br>ミナ砂塗布。内面・見込み,二重格子文。   |
| 〃        | 177      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 9.5  | 2.6   | 5.2 | 菊皿。型押し成形。畳付け,釉剥ぎ。                            |
| 〃        | 178      | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | —    | (1.8) | 5.1 | 畳付け,釉剥ぎ。内面,山水文。                              |
| 69       | 179      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰褐色        | 灰褐色        | 褐灰色       | 12.2 | 4.2   | 4.4 | 鉄釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。腰部以下,露胎。           |
| 〃        | 180      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | にぶい<br>黄色  | にぶい<br>黄色  | 橙色        | 12.9 | 4.9   | 5.0 | にぶい黄色の釉薬。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ。<br>腰部以下,露胎。             |
| 〃        | 181      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 浅黄色        | 浅黄色        | 灰黄色       | 12.6 | 4.9   | 4.9 | 灰釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。腰部以下,露胎。           |
| 〃        | 182      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 浅黄色        | 浅黄色        | 灰白色       | 12.5 | 4.2   | 4.8 | 灰釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。高台,露胎。             |
| 〃        | 183      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 黒褐色        | 黒褐色        | 褐灰色       | 13.0 | 3.8   | 4.5 | 鉄釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。腰部以下,露胎。           |
| 〃        | 184      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 淡黄色        | 淡黄色        | 淡黄色       | —    | (4.2) | 5.0 | 灰釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ。腰部以下,露<br>胎。                   |
| 〃        | 185      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色       | 12.9 | 4.4   | 5.3 | 灰釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。腰部以下,露胎。           |
| 〃        | 186      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>橙色 | 13.2 | 4.5   | 4.8 | 見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗布。腰<br>部以下,露胎。              |
| 〃        | 187      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 暗赤褐色       | 灰褐色        | 褐灰色       | —    | (3.4) | 4.9 | 鉄釉。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ,アルミナ砂塗<br>布。外面下半,露胎。           |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形       | 色調         |             |            | 法量           |              |             | 特徴  |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|----------|------------|-------------|------------|--------------|--------------|-------------|---|
|          |          |         |             |           |          | 内面         | 外面          | 断面         | 口径           | 器高           | 底径          |   |
| 図<br>69  | 188      | Ⅲ       | SD22        | 磁器        | 蕎麦<br>猪口 | 灰白色        | 灰白色         | 灰白色        | 8.1          | 6.1          | 6.0         | 蛇ノ目凹形高台。外面、染付け。内面、四方<br>禪文。見込み、昆虫文。         |
| 〃        | 189      | 〃       | 〃           | 陶器        | 播鉢       | 灰褐色        | にぶい<br>赤褐色  | 黒褐色        | 18.0         | (5.1)        | -           | 9条1単位のスリメを密に施す。                             |
| 〃        | 190      | 〃       | 〃           | 〃         | 片口<br>鉢  | 暗赤灰色       | オリーブ<br>黒色  | にぶい<br>黄橙色 | 22.0         | 11.7         | 10.6        | 鉄釉。外面下半・口縁端部、露胎。                            |
| 〃        | 191      | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 小皿       | 橙色         | 橙色          | 橙色         | 6.6          | 0.7          | 4.3         | 回転糸切り。灯芯油痕有り。                               |
| 〃        | 192      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 橙色         | 橙色          | 橙色         | 6.0          | 0.8          | 4.9         | 回転糸切り。                                      |
| 〃        | 193      | 〃       | 〃           | 陶器        | 灯明<br>皿  | 淡黄色        | 淡黄色         | 灰白色        | 10.6         | 2.3          | 3.8         | 灰釉。外面、露胎。内面、目跡有り。                           |
| 〃        | 194      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰オリー<br>ブ色 | 灰オリー<br>ブ色  | 灰白色        | 6.2          | (2.2)        | -           | 台付灯明皿。口鑄。灰オリーブ色の釉薬。                         |
| 〃        | 195      | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 鍋        | 灰白色        | 灰黄褐色        | 灰白色        | 13.1         | (3.6)        | -           | ロクロナデ。煤付着、特に内面は激しい。                         |
| 〃        | 196      | 〃       | 〃           | 〃         | 焙烙       | 橙色         | にぶい<br>褐色   | 橙色         | -            | (3.5)        | -           | ロクロナデ。外面、煤付着。                               |
| 70       | 197      | 〃       | 〃           | 〃         | 焜炉       | 暗灰色        | 黒色          | にぶい<br>黄橙色 | 全長<br>(13.6) | 全幅<br>(10.5) | 全厚<br>(7.3) | 外面、ミガキ。内面、ハケメ・ナデ。                           |
| 〃        | 198      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色  | にぶい<br>黄橙色 | -            | (10.2)       | 18.0        | 丸形。体部、円孔。ナデ。内面、煤付着。                         |
| 〃        | 199      | 〃       | 〃           | 磁器        | 紅皿       | 灰白色        | 灰白色         | 灰白色        | 4.8          | 1.5          | 1.3         | 型押し成形。外面下半、露胎。歪む。ほぼ完<br>存。                  |
| 71       | 200      | Ⅳ       | SD29        | 〃         | 皿        | 灰白色        | 明オリー<br>ブ灰色 | 灰白色        | 9.2          | 2.7          | 3.8         | 畳付け釉剥ぎ。外面、青磁釉。高台内、渦<br>「福」。内面、四方禪文。見込み、染付け。 |
| 〃        | 201      | 〃       | 〃           | 陶器        | 播鉢       | 灰赤色        | 灰赤色         | 赤褐色        | 32.0         | (6.9)        | -           | 8条1単位のスリメを密に施す。スリメの<br>間隔はややひろい。堺産。         |
| 〃        | 202      | 〃       | 〃           | 磁器        | 紅皿       | 灰白色        | 灰白色         | -          | 4.6          | 1.8          | 1.3         | 型押し成形。釉薬はやや黄色味がる。外<br>面はほぼ露胎。完存。            |
| 72       | 203      | 〃       | SD34        | 〃         | 碗        | 灰白色        | 灰白色         | 灰白色        | 10.6         | 5.4          | 3.6         | 端反り形。畳付け、釉剥ぎ。内外面、型紙摺<br>り。酸化コバルト。           |
| 74       | 205      | 〃       | SD42        | 弥生<br>土器  | 底部       | 黒褐色        | にぶい<br>橙色   | にぶい<br>橙色  | -            | (3.7)        | 7.4         | 摩耗、調整不明瞭。ナデか。                               |
| 〃        | 206      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 黄灰色        | にぶい<br>黄橙色  | 黄灰色        | -            | (12.5)       | 7.8         | 摩耗、調整不明瞭。                                   |
| 75       | 207      | 〃       | SD44        | 陶器        | 播鉢       | 赤褐色        | 赤褐色         | 赤色         | -            | (5.9)        | -           | 8条1単位のスリメを密に施す。                             |
| 77       | 208      | I       | SR1/3層      | 土師質<br>土器 | 杯        | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>黄橙色  | にぶい<br>黄橙色 | -            | (1.3)        | 6.2         | 摩耗、調整不明瞭。                                   |
| 〃        | 209      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄橙色        | 浅黄橙色       | -            | (2.6)        | 7.2         | 摩耗、調整不明瞭。回転ナデか。                             |
| 〃        | 210      | 〃       | SR1/2層      | 〃         | 〃        | にぶい<br>黄橙色 | 灰白色         | 灰白色        | -            | (2.0)        | 6.6         | 摩耗、調整不明瞭。回転ナデか。                             |
| 〃        | 211      | 〃       | SR1         | 〃         | 椀        | 浅黄橙色       | 浅黄橙色        | 黄灰色        | -            | (3.3)        | 5.8         | 摩耗、調整不明瞭。                                   |
| 〃        | 212      | 〃       | SR1/3層      | 須恵器       | 壺        | にぶい<br>褐色  | にぶい<br>褐色   | 灰色         | -            | (5.9)        | -           | 摩耗、調整不明瞭。回転ナデか。                             |
| 〃        | 213      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰色          | にぶい<br>黄橙色 | -            | (3.4)        | 11.8        | 摩耗、調整不明瞭。回転ナデか。                             |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序     | 器種        | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |       |            | 特徴                              |
|----------|----------|---------|-----------------|-----------|----|------------|------------|------------|------|-------|------------|---------------------------------|
|          |          |         |                 |           |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径         |                                 |
| 図<br>77  | 214      | I       | SR1/3層          | 須恵器       | 高杯 | 灰黄色        | 灰黄色        | 灰黄色        | -    | 6.6   | 6.2        | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。擬口縁。             |
| 〃        | 215      | 〃       | SR1/2層          | 青磁        | 碗  | 灰オリーブ<br>色 | 灰オリーブ<br>色 | 灰白色        | 14.4 | (2.6) | -          | 口縁端部,外反。光沢の無い灰オリーブ色<br>の釉薬。     |
| 〃        | 216      | 〃       | SR1             | 陶器        | 播鉢 | 灰黄褐色       | 灰黄色        | にぶい<br>黄橙色 | -    | (7.5) | -          | 1単位4条以上のスリメ。備前焼。                |
| 〃        | 217      | 〃       | SR1/3層          | 〃         | 〃  | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>橙色  | -    | 6.1   | -          | 4条1単位のスリメ。備前焼。                  |
| 〃        | 218      | 〃       | SR1/4層          | 〃         | 皿  | 灰白色        | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | -    | (3.2) | 3.9        | 低平な高台。内面,目跡。下半,露胎。二次<br>被熱。唐津焼。 |
| 79       | 219      | 〃       | SR2             | 弥生<br>土器  | 底部 | 橙色         | にぶい<br>橙色  | 褐灰色        | -    | (3.1) | 6.6        | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                   |
| 〃        | 220      | 〃       | SR2/下層          | 〃         | 〃  | 灰色         | にぶい<br>黄橙色 | 灰色         | -    | (1.6) | 9.2        | ナデ。                             |
| 〃        | 221      | II      | SR2/4層          | 〃         | 〃  | 灰黄褐色       | にぶい<br>褐色  | 橙色         | -    | (3.8) | 8.8        | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                   |
| 〃        | 222      | 〃       | SR2/2層          | 須恵器       | 杯  | 灰色         | 灰色         | 灰色         | -    | (1.8) | 9.4        | 貼付け高台。摩耗,調整不明瞭。回転ナデ<br>か。       |
| 〃        | 223      | I       | SR2/<br>最下層     | 〃         | 〃  | にぶい<br>黄色  | にぶい<br>黄色  | にぶい<br>黄色  | -    | (1.7) | 9.9        | 貼付け高台。摩耗,調整不明瞭。ヘラ切り<br>後ナデか。    |
| 〃        | 224      | 〃       | 〃               | 〃         | 〃  | 灰色         | 灰色         | 灰色         | -    | (2.2) | 10.8       | 貼付け高台。回転ナデ。爪状圧痕有り。              |
| 〃        | 225      | II      | SR2/2層          | 〃         | 壺  | 灰色         | 灰色         | 灰白色        | 6.8  | (4.0) | -          | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。                 |
| 〃        | 226      | I       | SR2/下層          | 〃         | 甕  | 灰色         | 灰色         | 灰色         | 24.6 | (8.7) | -          | 回転ナデ。                           |
| 〃        | 227      | II      | SR2/4層          | 土師質<br>土器 | 杯  | 浅黄色        | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄色        | -    | (3.0) | 4.2        | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                   |
| 〃        | 228      | 〃       | SR2             | 〃         | 碗  | 浅黄橙色       | にぶい<br>橙色  | 浅黄橙色       | 15.3 | 5.7   | 6.0        | 貼付け輪高台。回転ナデ。                    |
| 〃        | 229      | 〃       | 〃               | 〃         | 羽釜 | にぶい<br>褐色  | 黒褐色        | 灰黄褐色       | -    | (3.4) | -          | 外面,叩き。内面,ハケメ。外面,煤付着。            |
| 〃        | 230      | 〃       | 〃               | 瓦質<br>土器  | 〃  | 灰色         | 灰色         | 黄灰色        | -    | (4.9) | -          | 断面三角形の鑊が付く。摩耗,調整不明瞭。            |
| 〃        | 231      | 〃       | SR2/2層          | 〃         | 鍋  | 灰色         | 灰色         | 灰白色        | 20.8 | (3.0) | -          | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                   |
| 〃        | 232      | 〃       | SR2/1層          | 〃         | 播鉢 | 灰白色        | 灰白色        | 灰色         | -    | -     | -          | 摩耗,調整不明瞭。6条1単位のスリメ。             |
| 〃        | 233      | 〃       | SR2/2層          | 土師質<br>土器 | 茶釜 | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄橙色       | にぶい<br>黄橙色 | -    | -     | -          | 摩耗,調整不明瞭。ナデか。                   |
| 〃        | 234      | 〃       | 〃               | 〃         | 〃  | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄橙色       | -    | (5.7) | -          | 外面,叩き。内面,ハケメ。外面,煤付着。            |
| 〃        | 235      | 〃       | 〃               | 陶器        | 甕  | 褐灰色        | 灰褐色        | 灰褐色        | -    | (4.9) | 24.0       | 回転ナデ。                           |
| 〃        | 236      | 〃       | 〃               | 〃         | 皿  | 灰黄色        | 灰黄色        | にぶい<br>黄橙色 | -    | (1.7) | 5.1        | 灰釉。内面,砂目。高台内,砂付着。唐津焼。           |
| 81       | 241      | III     | SX1             | 〃         | 蓋  | 暗赤灰色       | 橙色         | 橙色         | -    | (2.7) | 摘み径<br>2.2 | 鉄釉。上部,帯状に露胎。                    |
| 83       | 243      | 〃       | E29-2-24_<br>P5 | 弥生<br>土器  | 体部 | 橙色         | にぶい<br>黄橙色 | オリーブ<br>黒色 | -    | (4.6) | -          | 外面,ハケメ。内面,ナデ。                   |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序     | 器種       | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |       |     | 特徴  |
|----------|----------|---------|-----------------|----------|----|------------|------------|------------|------|-------|-----|---|
|          |          |         |                 |          |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径  |   |
| 図<br>83  | 244      | Ⅳ       | E30-1-10_<br>P1 | 陶器       | 播鉢 | 赤褐色        | 赤色         | にぶい<br>赤褐色 | 28.0 | (7.6) | —   | 10条1単位のスリメを密に施す。                                  |
| 〃        | 245      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 暗赤灰色       | 紫黒色        | にぶい<br>赤褐色 | 31.6 | (5.3) | —   | 12条1単位のスリメを密に深く施す。堺産。                             |
| 〃        | 246      | 〃       | E30-1-10_<br>P2 | 磁器       | 碗  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.6 | 6.1   | 4.1 | 端反り形。畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。<br>内面,四方襷文。見込み,染付け。ほぼ完存。     |
| 〃        | 247      | V       | E30-9-23_<br>P1 | 弥生<br>土器 | 高杯 | にぶい<br>黄橙色 | 黒褐色        | 黒褐色        | —    | (4.6) | —   | ナデ。黒斑有り。  |
| 84       | 248      | Ⅳ       | 表採              | 磁器       | 碗  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 6.0  | 2.4   | 2.3 | 畳付け,釉剥ぎ。砂付着。外面,染付け。                               |
| 〃        | 249      | Ⅲ       | 包含層             | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 6.8  | 3.3   | 3.0 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,笹文。二次被熱か。                              |
| 〃        | 250      | 〃       | 攪乱              | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.1  | 3.5   | 2.8 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,見込み,染付け。                               |
| 〃        | 251      | Ⅳ       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.7  | 3.6   | 2.7 | 畳付け,釉剥ぎ。砂付着。外面,染付け。                               |
| 〃        | 252      | Ⅲ       | 表採              | 〃        | 〃  | 灰オリーブ<br>色 | 灰オリーブ<br>色 | 灰白色        | 7.7  | 4.0   | 3.0 | 畳付け,釉剥ぎ。砂付着。内面に3ヵ所の目<br>跡。外面,雨降り文。二次被熱か。          |
| 〃        | 253      | 〃       | 攪乱              | 統制<br>陶器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.8  | 4.7   | 3.2 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,駒・猫。高台内,「岐<br>435」                     |
| 〃        | 254      | 〃       | 表採              | 磁器       | 〃  | 灰白色        | オリーブ<br>灰色 | 灰白色        | 11.1 | 6.2   | 3.5 | 畳付け,釉剥ぎ。砂付着。高台内,染付け。<br>内面,四方襷文・圏線。               |
| 〃        | 255      | Ⅳ       | 攪乱              | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.5 | 4.6   | 3.7 | 丸形。畳付け,釉剥ぎ。型紙摺り。酸化コバ<br>ルト。外面,鳳凰。見込み,圏線・松竹梅文。     |
| 〃        | 256      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.0 | 5.9   | 4.2 | 畳付け,釉剥ぎ。型紙摺り。酸化コバルト。<br>内外面,染付け。口錆。               |
| 〃        | 257      | Ⅲ       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 8.5  | 5.7   | 3.3 | 腰張り形。畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。内<br>面,圏線。見込み,亀。高台内,「サ」。能茶山産。 |
| 〃        | 258      | 〃       | 表採              | 陶器       | 〃  | 灰オリーブ<br>色 | 灰オリーブ<br>色 | 灰白色        | 12.0 | 8.1   | 5.1 | 灰釉。高台,露胎。貫入有り。内面,目跡。                              |
| 〃        | 259      | 〃       | 攪乱              | 〃        | 〃  | 明褐色        | 明褐色        | 浅黄橙色       | 12.6 | (6.4) | —   | 灰釉。   |
| 〃        | 260      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | オリーブ<br>黄色 | オリーブ<br>黄色 | 灰白色        | 12.4 | (6.4) | —   | 灰釉。内面,目跡有り。                                       |
| 〃        | 261      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰黄色        | 12.8 | (5.8) | —   | 透明釉。  |
| 〃        | 262      | 〃       | 表採              | 磁器       | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.4 | 5.8   | 5.0 | 畳付け,釉剥ぎ。見込み,蛇ノ目釉剥ぎ。外<br>面,丸文。見込み,五弁花。高台内,銘有り。     |
| 〃        | 263      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.7 | 6.5   | 4.5 | 端反り形。畳付け,釉剥ぎ。型紙摺り。外面,<br>団扇・圏線。内面,染付け。            |
| 〃        | 264      | 〃       | 攪乱              | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.0 | 5.6   | 4.3 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。内面,圏線。                             |
| 〃        | 265      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 青灰色        | 灰白色        | 10.6 | 6.2   | 4.6 | 端反り形。口縁部・畳付け,釉剥ぎ。外面,波。<br>内面,雷文帯。見込み,染付け。         |
| 〃        | 266      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.7 | 5.6   | 4.6 | 端反り形。畳付け,釉剥ぎ。口錆。型紙摺り。<br>外面,「福寿」。内面,染付け。目跡有り。     |
| 〃        | 267      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 青色         | 灰白色        | —    | (2.4) | 3.4 | 畳付け,釉剥ぎ。外面,網目文・圏線。見込み,<br>染付け。                    |
| 85       | 268      | 〃       | 〃               | 〃        | 〃  | 灰白色        | 青灰色        | 灰白色        | 10.9 | (4.6) | —   | 端反り形。外面,染付け。内面,圏線。                                |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |       |     | 特徴  |
|----------|----------|---------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------|-------|-----|---|
|          |          |         |             |    |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径  |   |
| 図<br>85  | 269      | Ⅲ       | 攪乱          | 磁器 | 碗  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.0 | (4.5) | —   | 端反り形。内外面、染付け。                                     |
| 〃        | 270      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.3) | 2.9 | 畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、圏線。<br>見込み、蝶。                   |
| 〃        | 271      | Ⅳ       | 包含層         | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.1) | 4.0 | 畳付け、釉剥ぎ。型紙摺り。酸化コバルト。<br>外面、染付け。見込み、圏線・松竹梅文。       |
| 〃        | 272      | Ⅴ       | 表採          | 〃  | 〃  | 明緑灰色       | 明緑灰色       | 灰白色        | —    | (2.3) | 4.4 | 内面、二重圏線。見込み、染付け。高台内、銘<br>有り。                      |
| 〃        | 273      | Ⅲ       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.0) | 3.9 | 畳付け、釉剥ぎ。内外面、染付け。                                  |
| 〃        | 274      | 〃       | 攪乱          | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (2.6) | 2.9 | 畳付け、釉剥ぎ。砂付着。外面、染付け。                               |
| 〃        | 275      | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃  | にぶい<br>黄橙色 | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.3) | 4.6 | 灰釉。高台、露胎。   |
| 〃        | 276      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (4.5) | 7.4 | 灰釉。高台、露胎。内面、目跡有り。                                 |
| 〃        | 277      | 〃       | 包含層         | 〃  | 〃  | 灰黄色        | 灰黄色        | 灰白色        | —    | (5.1) | 5.1 | 高台、露胎。内面、目跡有り。煤付着。                                |
| 〃        | 278      | 〃       | 表採          | 〃  | 〃  | 黄褐色        | 黄褐色        | 灰黄褐色       | —    | (4.4) | 4.6 | 畳付け、釉剥ぎ。  |
| 〃        | 279      | 〃       | 攪乱          | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.0 | 6.4   | 6.5 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、蝶・笹。見込<br>み、染付け。                   |
| 〃        | 280      | 〃       | 包含層         | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.9 | 6.7   | 5.6 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、<br>圏線。見込み、五弁花。             |
| 〃        | 281      | 〃       | 攪乱          | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.6 | 6.8   | 5.2 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。高台内面、砂付着。<br>外面、松・圏線。内面、圏線。見込み、染付け。   |
| 〃        | 282      | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | にぶい<br>赤褐色 | 12.0 | 6.9   | 6.0 | 広東形。灰白色の釉薬。畳付け、釉剥ぎ。外<br>面、イッチン描きで文字か。             |
| 〃        | 283      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.8 | (5.5) | —   | 広東形。外面、染付け。                                       |
| 〃        | 284      | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | —    | (6.5) | 5.9 | 広東形。高台、露胎。内面、目跡有り。                                |
| 〃        | 285      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.5) | 5.2 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、<br>圏線。見込み、宝文。高台内、「サ」。能茶山産。 |
| 〃        | 286      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (5.2) | 6.6 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。見込<br>み、圏線・鷺。                  |
| 〃        | 287      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.7) | 6.6 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、<br>圏線。見込み、染付け。             |
| 〃        | 288      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (2.7) | —   | 丸形。内外面、染付け。                                       |
| 〃        | 289      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.4) | 6.1 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、圏線。見込み、<br>染付け。                    |
| 〃        | 290      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.1) | 6.2 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、松。内面、目<br>跡有り。                     |
| 〃        | 291      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (3.2) | 5.4 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。見込<br>み、五弁花。                   |
| 〃        | 292      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | —    | (2.8) | 5.7 | 広東形。畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。内面、<br>圏線。                     |
| 〃        | 293      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 11.2 | 5.1   | 4.0 | 畳付け、釉剥ぎ。外面、染付け。                                   |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形 | 色調          |             |            | 法量   |       |     | 特徴   |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|----|-------------|-------------|------------|------|-------|-----|--|
|          |          |         |             |           |    | 内面          | 外面          | 断面         | 口径   | 器高    | 底径  |  |
| 図<br>85  | 294      | Ⅲ       | 攪乱          | 磁器        | 碗  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | -    | (4.5) | 4.5 | 畳付け, 釉剥ぎ。外面, 染付け。                                  |
| 86       | 295      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 7.8  | (4.6) | -   | 筒形。外面, 菊花散らし文。内面, 四方襷文。                            |
| 〃        | 296      | Ⅳ       | 包含層         | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 6.7  | 6.8   | 3.9 | 畳付け釉剥ぎ。型紙摺り。酸化コバルト。<br>外面, 波・風景・圏線。内面, 染付け。        |
| 〃        | 297      | Ⅲ       | 攪乱          | 陶器        | 皿  | 灰オリーブ<br>色  | 灰オリーブ<br>色  | にぶい<br>黄橙色 | 13.1 | 4.9   | 5.2 | 外面下半, 露胎。蛇ノ目釉剥ぎ, アルミナ砂<br>塗布。重ね焼きの痕跡有り。            |
| 〃        | 298      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 灰黄色         | 灰黄色         | 灰黄褐色       | 13.8 | 4.1   | 5.5 | 灰釉。内面, 蛇ノ目釉剥ぎ。高台, 露胎。                              |
| 〃        | 299      | Ⅳ       | 包含層         | 〃         | 〃  | 黒褐色         | 黒褐色         | 褐灰色        | 12.8 | 4.6   | 4.8 | 鉄釉。外面下半, 露胎。見込み, 蛇ノ目釉剥<br>ぎ後, アルミナ砂塗布。             |
| 〃        | 300      | Ⅲ       | 攪乱          | 〃         | 〃  | にぶい<br>褐色   | にぶい<br>褐色   | 灰色         | 12.5 | 4.0   | 5.1 | 見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。外面下半, 露胎。                              |
| 〃        | 301      | 〃       | 表採          | 磁器        | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 10.0 | 2.5   | 4.4 | 畳付け, 釉剥ぎ。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。砂<br>付着。                      |
| 〃        | 302      | Ⅰ       | 包含層         | 陶器        | 〃  | 明オリーブ<br>灰色 | 明オリーブ<br>灰色 | にぶい<br>黄橙色 | -    | (1.9) | 4.6 | 見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。高台, 露胎。                                |
| 〃        | 303      | Ⅲ       | 攪乱          | 〃         | 〃  | にぶい<br>赤褐色  | にぶい<br>赤褐色  | 褐灰色        | 11.4 | 4.0   | 5.0 | 鉄釉。内面, 蛇ノ目釉剥ぎ。高台, 露胎。砂<br>付着, 重ね焼きの痕跡有り。見込み, 穿孔。   |
| 〃        | 304      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 9.4  | 2.4   | 4.8 | 輪花形。型押し成形。口鏝。畳付け, 釉剥ぎ。<br>内面, 山水文。                 |
| 〃        | 305      | Ⅳ       | 〃           | 磁器        | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 10.7 | 2.1   | 6.8 | 畳付け, 釉剥ぎ。口鏝。型紙摺り。酸化コバ<br>ルト。内面, 染付け。               |
| 〃        | 306      | Ⅲ       | 〃           | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 10.4 | 1.9   | 6.6 | 畳付け, 釉剥ぎ。内面, 染付け。                                  |
| 〃        | 307      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 12.2 | 3.5   | 7.8 | 蛇ノ目凹形高台。口鏝。型紙摺り。内外面,<br>染付け。見込み, 染付け。              |
| 〃        | 308      | 〃       | 表採          | 陶器        | 〃  | にぶい<br>褐色   | にぶい<br>褐色   | にぶい<br>橙色  | 12.9 | 4.1   | 5.2 | 高台, 露胎。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。                                |
| 〃        | 309      | 〃       | 攪乱          | 磁器        | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 14.2 | 4.2   | 9.2 | 外面, 唐草文・圏線。高台内, 渦「福」・圏線。<br>内面, 染付け。見込み, コンニャク五弁花。 |
| 87       | 310      | 〃       | 〃           | 陶器        | 〃  | にぶい<br>赤褐色  | にぶい<br>赤褐色  | 褐灰色        | 12.0 | 4.4   | 5.0 | 鉄釉。見込み, 蛇ノ目釉剥ぎ。高台, 露胎。<br>見込みに重ね焼きの痕跡有り。           |
| 〃        | 311      | Ⅳ       | 〃           | 磁器        | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 12.5 | 3.5   | 7.6 | 輪花形。蛇ノ目凹形高台, 釉剥ぎ。口鏝。型<br>紙摺り。酸化コバルト。内面, 目跡有り。      |
| 〃        | 312      | Ⅲ       | 〃           | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | -    | (3.1) | 5.3 | 畳付け, 釉剥ぎ。内面, 山水文。高台内「サ」。<br>能茶山産。                  |
| 〃        | 313      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | -    | (2.7) | 4.8 | 畳付け, 釉剥ぎ。砂付着。見込み, 蛇ノ目釉<br>剥ぎ。重ね焼きの痕跡有り。内面, 染付け。    |
| 〃        | 314      | 〃       | 攪乱          | 陶器        | 〃  | 灰オリーブ<br>色  | 浅黄色         | 浅黄色        | -    | (3.1) | 5.2 | 外面下半, 露胎。見込み5ヵ所に目跡。穿孔。<br>高台内, 墨書。                 |
| 〃        | 315      | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 〃  | 灰白色         | 灰白色         | 灰白色        | 11.8 | 2.1   | 8.0 | 白土器。内面, 陽刻の高砂文。                                    |
| 〃        | 316      | 〃       | 〃           | 〃         | 小皿 | にぶい<br>橙色   | にぶい<br>橙色   | にぶい<br>橙色  | 5.6  | 1.1   | 2.9 | 回転糸切り。   |
| 〃        | 317      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 橙色          | にぶい<br>橙色   | 橙色         | 6.4  | 1.0   | 4.2 | 回転糸切り。   |
| 〃        | 318      | 〃       | 〃           | 陶器        | 鉢  | にぶい<br>黄褐色  | にぶい<br>黄褐色  | 灰白色        | 13.3 | 6.2   | 4.4 | 折縁鉢。鉄釉。高台, 露胎。内面, 目跡有り。                            |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |        |      | 特徴                                    |
|----------|----------|---------|-------------|----|----|------------|------------|------------|------|--------|------|---------------------------------------|
|          |          |         |             |    |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高     | 底径   |                                       |
| 図<br>87  | 319      | Ⅲ       | 攪乱          | 陶器 | 鉢  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 15.6 | (6.0)  | -    | 折縁鉢。口縁部、青緑色の釉。体部、灰オリーブ色の釉薬。内面、目跡有り。   |
| 〃        | 320      | 〃       | 表採          | 〃  | 〃  | 灰黄色        | 灰黄色        | 灰黄色        | 10.6 | (4.1)  | -    | 内面、露胎。外面の釉薬、乱れる。                      |
| 〃        | 321      | 〃       | 攪乱          | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (6.8)  | 6.7  | 畳付け、釉剥ぎ。高台内、故意に打ち欠きか。外面、染付け。内面、目跡有り。  |
| 〃        | 322      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (4.3)  | 8.0  | 角鉢。畳付け、釉剥ぎ。内外面、染付け。                   |
| 〃        | 323      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (4.9)  | 5.7  | 角形。内外面、染付け。二次被熱。                      |
| 〃        | 324      | 〃       | 〃           | 陶器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (4.3)  | 4.8  | 内面、目跡有り。                              |
| 〃        | 325      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | 黒褐色        | 黒褐色        | 黄灰色        | -    | (6.4)  | 8.8  | 鉄釉。高台、露胎。                             |
| 88       | 326      | 〃       | 〃           | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 26.5 | 8.4    | 14.8 | 輪花形。蛇ノ目凹形高台。内外面、酸化コバルトによる染付け。         |
| 89       | 327      | Ⅳ       | 〃           | 陶器 | 播鉢 | 赤色         | 赤色         | 赤色         | 15.9 | 5.9    | 8.0  | 11条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメ。外底面、離れ砂付着。   |
| 〃        | 328      | Ⅲ       | 〃           | 〃  | 〃  | 黒褐色        | 黒褐色        | にぶい<br>赤褐色 | 21.4 | 10.1   | 10.0 | 高台。鉄釉。35条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメ。       |
| 〃        | 329      | 〃       | 包含層         | 〃  | 〃  | 褐灰色        | 褐灰色        | 褐灰色        | -    | (5.7)  | -    | 片口。内面のスリメは疎らに施す。備前焼。                  |
| 〃        | 330      | 〃       | 攪乱          | 〃  | 〃  | 明赤褐色       | 明赤褐色       | 明赤褐色       | 27.2 | (4.4)  | -    | 弱い注口。12条1単位のスリメを密に施す。                 |
| 〃        | 331      | 〃       | 〃           | 〃  | 〃  | にぶい<br>赤褐色 | 橙色         | 橙色         | 35.8 | (5.9)  | -    | 10条1単位のスリメを密に施す。                      |
| 〃        | 332      | 〃       | 表採          | 〃  | 〃  | 灰赤色        | 赤灰色        | 黄灰色        | -    | (3.7)  | 8.0  | 高台。鉄釉。外面下半、露胎。内面、9条1単位のスリメを密に施す。      |
| 〃        | 333      | Ⅳ       | 攪乱          | 〃  | 〃  | にぶい<br>橙色  | 暗赤褐色       | 黄灰色        | -    | (4.6)  | 14.4 | 外面、鉄釉。19条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメ。       |
| 〃        | 334      | Ⅲ       | 〃           | 〃  | 〃  | 灰褐色        | にぶい<br>黄橙色 | 灰褐色        | -    | (4.6)  | 12.8 | 8条1単位のスリメをやや疎らに施す。                    |
| 〃        | 335      | Ⅳ       | 〃           | 〃  | 〃  | にぶい<br>赤褐色 | 灰赤色        | 橙色         | -    | (7.3)  | 14.4 | 11条1単位のスリメを密に施す。内底面にもスリメ。外底面、離れ砂付着。   |
| 90       | 336      | Ⅲ       | 〃           | 〃  | 甕  | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 灰白色        | -    | (9.5)  | 17.4 | 鉄釉。外底面、露胎。焼き継ぎ痕有り。                    |
| 〃        | 337      | 〃       | 〃           | 〃  | 鍋  | にぶい<br>橙色  | 灰褐色        | にぶい<br>橙色  | -    | (1.7)  | 11.0 | 露胎。煤付着。                               |
| 〃        | 338      | 〃       | 〃           | 〃  | 土瓶 | 灰オリーブ色     | にぶい<br>黄色  | 灰色         | -    | (7.5)  | 6.0  | 外面上半、灰釉。下半、内面、露胎。鉄釉で文様。外底面、粘土塊貼付。煤付着。 |
| 〃        | 339      | 〃       | 〃           | 〃  | 瓶  | にぶい<br>黄橙色 | 浅黄色        | にぶい<br>黄橙色 | -    | (7.1)  | 7.2  | 灰釉。外面、底部付近、内面、露胎。                     |
| 〃        | 340      | 〃       | 包含層         | 磁器 | 〃  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (9.5)  | 3.2  | 畳付け、釉剥ぎ。内面、露胎。外面、染付け。高台内、砂付着。         |
| 〃        | 341      | 〃       | 攪乱          | 陶器 | 〃  | 暗褐色        | 黒褐色        | 灰黄褐色       | 2.2  | 12.7   | 7.2  | 鉄釉。外底面、露胎。底面に5ヵ所の目跡。                  |
| 〃        | 342      | 〃       | 〃           | 〃  | 徳利 | 浅黄色        | オリーブ<br>黄色 | 灰白色        | 3.8  | (12.4) | -    | 灰釉。内面、露胎。                             |
| 〃        | 343      | 〃       | 〃           | 〃  | 土瓶 | にぶい<br>橙色  | 灰オリーブ色     | 灰白色        | 5.8  | (9.1)  | -    | 口縁端部、釉剥ぎ。内面、露胎。外面、花文。                 |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形       | 色調         |            |            | 法量   |       |            | 特徴                                     |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|----------|------------|------------|------------|------|-------|------------|--|
|          |          |         |             |           |          | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径         |  |
| 図<br>90  | 344      | Ⅲ       | 攪乱          | 磁器        | 蓋        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.6  | (2.7) | -          | 外面,「福寿」。内面,雷文帯・圏線。見込み,文字有り。            |
| 〃        | 345      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.5 | 3.2   | 摘み径<br>5.7 | 摘み端部,露胎。内外面,染付け。                       |
| 〃        | 346      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 10.6 | 3.1   | 摘み径<br>5.8 | 摘み端部,露胎。外面,蝶・笹。摘み内,笹。見込み,染付け。          |
| 〃        | 347      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 9.9  | 3.1   | 摘み径<br>5.7 | 摘み端部,釉剥ぎ。内外面,染付け。                      |
| 〃        | 348      | 〃       | 攪乱          | 陶器        | 〃        | オリーブ<br>黄色 | にぶい<br>褐色  | 灰色         | 14.7 | 4.5   | 摘み径<br>3.8 | 外面,露胎。内面,灰釉。飛鉋。イッチン描き。                 |
| 〃        | 349      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃        | 橙色         | 赤褐色        | にぶい<br>橙色  | -    | 1.4   | -          | 回転糸切り。底面,露胎。                           |
| 〃        | 350      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 赤褐色        | 灰オリーブ<br>色 | 灰白色        | -    | -     | -          | 内面,露胎。オリーブ色の釉葉で文様。                     |
| 91       | 351      | Ⅳ       | 包含層         | 磁器        | 蕎麦<br>猪口 | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.6  | 5.9   | 5.0        | 外面,花。内面,二重圏線。見込み,圏線・文字。ほぼ完存。           |
| 〃        | 352      | Ⅲ       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.8  | 6.1   | 5.9        | 蛇ノ目凹形高台。外面,斜格子文・四方禪文。内面,四方禪文・圏線。       |
| 〃        | 353      | 〃       | 攪乱          | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 6.8  | 5.2   | 3.6        | 畳付け,釉剥ぎ。外面,染付け。                        |
| 〃        | 354      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 7.5  | 5.6   | 5.2        | 畳付け,釉剥ぎ。外面,二重格子文・圏線。内面,圏線。             |
| 〃        | 355      | 〃       | 包含層         | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | 4.1   | 5.3        | 蛇ノ目凹形高台。外面,綾杉文。見込み,圏線・昆虫文。外底面,「松」と釘描き。 |
| 〃        | 356      | 〃       | 攪乱          | 陶器        | 焜炉       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | -    | -     | -          | 五角形の低い脚が付く。                            |
| 〃        | 357      | 〃       | 〃           | 〃         | 香炉       | にぶい<br>褐色  | 灰褐色        | 灰色         | 10.6 | 7.3   | 4.7        | 口縁部,折り曲げ。外面,鉄泥。外面底部以下・内面,露胎。           |
| 〃        | 358      | 〃       | 〃           | 瓦質<br>土器  | 火鉢       | 黄灰色        | 黄灰色        | にぶい<br>黄橙色 | 17.0 | (6.6) | -          | 口縁部,折り曲げ。                              |
| 〃        | 359      | Ⅳ       | 〃           | 磁器        | 小皿<br>か  | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.9  | (1.2) | -          | 高台か,欠損。                                |
| 〃        | 360      | Ⅲ       | 〃           | 陶器        | 碗        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | -    | (1.7) | 2.1        | 灰釉。外面下半,露胎。                            |
| 〃        | 361      | 〃       | 〃           | 磁器        | 紅皿       | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.9  | 1.7   | 1.6        | 型押し成形。外面,露胎。                           |
| 〃        | 362      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.9  | 1.5   | 1.4        | 型押し成形。外面下半,露胎。                         |
| 〃        | 363      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰白色        | 灰白色        | 4.6  | 1.5   | 1.4        | 型押し成形。外面下半,露胎。                         |
| 〃        | 364      | 〃       | 表採          | 陶器        | 灯明<br>皿  | にぶい<br>赤褐色 | にぶい<br>赤褐色 | 灰黄色        | 6.9  | 4.4   | 4.8        | 台付灯明皿。鉄釉。外底面,露胎。回転糸切り。                 |
| 〃        | 365      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃        | 黒褐色        | にぶい<br>赤褐色 | 灰白色        | -    | (2.4) | 4.0        | 台付灯明皿。回転糸切り。鉄釉。下半,露胎。                  |
| 〃        | 366      | 〃       | 攪乱          | 〃         | 〃        | 灰白色        | 灰黄褐色       | 灰白色        | 10.8 | 1.9   | 4.5        | 受付灯明皿。灰釉。外面下半,露胎。外面,タールが付着。            |
| 〃        | 369      | 〃       | 〃           | 土師質<br>土器 | 小皿       | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | にぶい<br>橙色  | 9.9  | 1.6   | 7.2        | 回転糸切り。                                 |
| 〃        | 370      | Ⅰ       | 包含層         | 〃         | 椀        | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | -    | (1.7) | 5.8        | 貼付け輪高台。摩耗,調整不明瞭。                       |



| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種        | 器形 | 色調         |            |            | 法量   |       |     | 特徴                        |
|----------|----------|---------|-------------|-----------|----|------------|------------|------------|------|-------|-----|---------------------------|
|          |          |         |             |           |    | 内面         | 外面         | 断面         | 口径   | 器高    | 底径  |                           |
| 図<br>91  | 371      | I       | 表採          | 土師質<br>土器 | 椀  | 灰白色        | にぶい<br>橙色  | 褐灰色        | -    | 3.6   | 7.6 | 摩耗,調整不明瞭。                 |
| 〃        | 372      | III     | 〃           | 〃         | 杯  | 橙色         | 橙色         | 黒色         | -    | (3.6) | 4.0 | ロクロナデ。内面,ロクロ目有り。回転糸切り。    |
| 〃        | 373      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 橙色         | 橙色         | 暗灰黄色       | -    | (1.9) | 5.2 | ロクロナデ。回転糸切り。              |
| 〃        | 374      | 〃       | 攪乱          | 〃         | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | -    | (1.2) | 6.6 | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。回転糸切り。     |
| 〃        | 375      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | にぶい<br>褐色  | 灰褐色        | にぶい<br>橙色  | -    | (2.4) | 4.0 | ロクロナデ。内面,ロクロ目有り。回転糸切り。    |
| 〃        | 376      | 〃       | 表採          | 〃         | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | -    | (1.8) | 6.6 | ロクロナデ。回転糸切り。              |
| 〃        | 377      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 黄橙色        | 浅黄橙色       | オリーブ<br>黒色 | -    | (2.0) | 4.8 | ロクロナデ。内面,ロクロ目有り。回転糸切り。    |
| 〃        | 378      | 〃       | 攪乱          | 〃         | 〃  | 橙色         | 橙色         | 橙色         | -    | (1.4) | 8.9 | 摩耗,調整不明瞭。ロクロナデか。回転糸切り。    |
| 〃        | 379      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 浅黄橙色       | 浅黄橙色       | にぶい<br>橙色  | -    | (2.3) | 5.1 | 回転ナデ。回転糸切り。               |
| 〃        | 380      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | 明黄褐色       | 明黄褐色       | にぶい<br>黄橙色 | -    | (2.2) | 6.4 | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデか。内面,ロクロ目有り。 |
| 〃        | 381      | I       | 表採          | 〃         | 〃  | 浅黄橙色       | 灰白色        | 明黄褐色       | -    | (1.5) | 6.8 | 摩耗,調整不明瞭。回転ナデ。ヘラ切り後ナデか。   |
| 〃        | 382      | II      | 包含層         | 青磁        | 碗  | 灰オリーブ<br>色 | 灰オリーブ<br>色 | 灰白色        | 15.1 | (3.6) | -   | 鎬蓮弁文。                     |
| 〃        | 383      | 〃       | 〃           | 須恵器       | 高杯 | 灰色         | 灰色         | 灰色         | 12.8 | (3.3) | -   | 口唇部,丸くおさめる。1条の凹線。回転ナデ。    |
| 〃        | 384      | III     | 〃           | 弥生<br>土器  | 壺  | 橙色         | 橙色         | 黄橙色        | -    | (5.0) | -   | ナデ。頸部,8条のヘラ描き沈線文。口唇部,刻目文。 |
| 〃        | 385      | 〃       | 〃           | 〃         | 〃  | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | にぶい<br>黄橙色 | -    | (2.6) | -   | ハケメ。ヘラ描き沈線文。              |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種  | 器形 | 色調        |           |    | 法量〔cm, g〕 |     |     |        | 特徴                      |
|----------|----------|---------|-------------|-----|----|-----------|-----------|----|-----------|-----|-----|--------|-------------------------|
|          |          |         |             |     |    | 内面        | 外面        | 断面 | 全長        | 全幅  | 全厚  | 重量     |                         |
| 図<br>91  | 367      | III     | 表採          | 土製品 | 人形 | 橙色        | 橙色        | 橙色 | (8.5)     | 8.8 | 2.1 | (45.8) | 恵比寿様。型押し成形。内面,指頭<br>圧痕。 |
| 〃        | 368      | 〃       | 攪乱          | 〃   | 兜形 | にぶい<br>橙色 | にぶい<br>橙色 | -  | 2.5       | 2.0 | 1.2 | 3.9    | 型押し成形。完存。               |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 器形 | 法量  |     |            | 特徴                              |
|----------|----------|---------|-------------|----|----|-----|-----|------------|---------------------------------|
|          |          |         |             |    |    | 口径  | 器高  | 底径         |                                 |
| 図<br>53  | 137      | IV      | SK42        | 漆器 | 蓋  | 7.6 | 2.2 | 摘み径<br>3.7 | 外面,黒漆。金色で文様を描く。内面,赤漆。ハンノキ属。     |
| 〃        | 138      | 〃       | 〃           | 〃  | 椀  | -   | 5.3 | 5.0        | 外面,黒漆。家紋を3カ所に金色で施す。内面,赤漆。カバノキ属。 |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序  | 器種  | 石材    | 法量〔cm, g〕 |        |       |         | 特徴  |
|----------|----------|---------|--------------|-----|-------|-----------|--------|-------|---------|---|
|          |          |         |              |     |       | 全長        | 全幅     | 全厚    | 重量      |   |
| 図<br>29  | 42       | Ⅲ       | SK11         | 砥石  | 凝灰岩   | (11.6)    | (2.2)  | (1.8) | (48)    | 大部分が欠損。縦方向の線状の使用痕有り。                              |
| 34       | 45       | 〃       | SK25         | 〃   | 流紋岩か  | 18.5      | 5.5    | 3.9   | 640     | 4面を使用。ほぼ完存。                                       |
| 36       | 49       | 〃       | SK28         | 石臼  | 花崗岩   | 27.6      | 14.2   | 7.7   | (5,000) | 下臼。約半分が欠損。復元径約29cm。中央部の孔は上面より下面の方がひろい。厚みは一定ではない。  |
| 45       | 93       | Ⅳ       | SK39         | 砥石  | 流紋岩   | (8.8)     | 6.5    | 4.8   | (475)   | 4面を使用。  |
| 〃        | 94       | 〃       | 〃            | 〃   | 〃     | (9.5)     | 4.6    | 2.6   | (207)   | 4面を使用。  |
| 58       | 149      | 〃       | SK53         | 〃   | 流紋岩か  | 5.1       | 3.9    | 3.3   | 112     | 6面とも使用。   |
| 80       | 237      | Ⅱ       | SR2/4層       | 石臼  | 砂岩    | (13.3)    | (12.0) | (6.6) | (1,579) | 下臼。両面に溝有り。副溝3～4条。                                 |
| 〃        | 238      | 〃       | SR2/2層       | 五輪塔 | 〃     | 18.0      | 21.8   | 10.8  | (5,800) | 火輪。一部、欠損する。上面は直径約4cmの凹みを穿つ。底面の端部はわずかに反る。ノミの痕跡が有る。 |
| 〃        | 239      | 〃       | 〃            | 〃   | 〃     | 35.6      | 12.3   | -     | 8,800   | 一石五輪塔。空輪、風輪が欠損する。地輪は縦長。被熱。                        |
| 〃        | 240      | 〃       | SR2/1層       | 〃   | 花崗岩   | 33.2      | 33.7   | 27.2  | 42,800  | 水輪。大型。平面形はほぼ円形。側面は下膨れ。上面、下面とも平坦にカットされ、わずかに凹む。     |
| 83       | 242      | Ⅲ       | E29-2-19_ P2 | 砥石  | 粘板岩か  | (9.3)     | (5.9)  | (1.1) | (87)    | 扁平。6面使用。  |
| 92       | 394      | 〃       | 表採           | 石臼  | 砂岩    | 34.9      | 17.7   | 9.6   | (8,600) | 上臼。復元径約35cm。約半分が欠損。側面を側方打ち込み用に加工する。スリメは使用により摩滅する。 |
| 〃        | 395      | 〃       | 〃            | 〃   | 〃     | 18.7      | 17.0   | 9.0   | (3,200) | 上臼。大部分が欠損。復元径約32cm。                               |
| 〃        | 396      | 〃       | 攪乱           | 砥石  | 流紋岩   | (17.0)    | 4.7    | 3.2   | (461)   | 2面を使用。  |
| 〃        | 397      | Ⅴ       | 包含層          | 石鏝  | サヌカイト | (1.6)     | 1.3    | 0.3   | (0.4)   | 凹基式。縁辺部、調整剥離を施す。                                  |
| 〃        | 398      | 〃       | 〃            | 〃   | 〃     | (1.3)     | 1.2    | 0.2   | (0.2)   | 凹基式。一部、欠損。調整剥離を施す。                                |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 器種 | 法量〔cm, g〕 |     |     |       | 特徴                  |
|----------|----------|---------|-------------|----|-----------|-----|-----|-------|---------------------|
|          |          |         |             |    | 全長        | 全幅  | 全厚  | 重量    |                     |
| 図<br>53  | 141      | Ⅳ       | SK42        | 煙管 | 4.7       | 1.3 | 1.0 | (5.5) | 火皿が欠損する。ラウの一部が残存する。 |
| 92       | 391      | Ⅲ       | 攪乱          | 〃  | 5.8       | -   | -   | 5.9   | 7条の沈線。              |
| 〃        | 392      | 〃       | 〃           | 〃  | 7.5       | 1.1 | -   | 11.3  | 文様有り。               |
| 〃        | 393      | 〃       | 〃           | 〃  | 5.3       | -   | -   | 3.4   | 変形・破損している。          |

| 挿図<br>番号 | 図版<br>番号 | 調査<br>区 | 出土遺構/<br>層序 | 銭種   | 法量 [cm, g] |     |     |     | 特徴      |
|----------|----------|---------|-------------|------|------------|-----|-----|-----|---------|
|          |          |         |             |      | 銭径         | 内径  | 銭厚  | 量目  |         |
| 図<br>54  | 143      | Ⅳ       | SK44        | 銭種不明 | 2.5        | 2.1 | 0.2 | 3.6 |         |
| 58       | 150      | 〃       | SK53        | 寛永通宝 | 2.2        | 1.8 | 0.1 | 1.8 |         |
| 62       | 152      | Ⅲ       | SE2         | 〃    | 2.2        | 1.7 | 0.1 | 1.6 | 背に「元」か。 |
| 73       | 204      | Ⅳ       | SD36        | 〃    | 2.8        | 2.2 | 0.1 | 3.7 | 背に波文。   |
| 92       | 386      | Ⅲ       | 攪乱          | 銭種不明 | 2.4        | 1.8 | 0.1 | 3.2 |         |
| 〃        | 387      | 〃       | 包含層         | 寛永通宝 | 2.3        | 1.9 | 0.1 | 1.5 |         |
| 〃        | 388      | 〃       | 〃           | 〃    | 2.2        | 1.9 | 0.1 | 1.8 |         |
| 〃        | 389      | 〃       | 攪乱          | 〃    | 2.3        | 1.8 | 0.1 | 1.5 |         |
| 〃        | 390      | Ⅳ       | 〃           | 〃    | 2.8        | 2.1 | 0.1 | 3.5 | 背に波文。   |



# 写真図版





08 区空中写真

図版 2



08 区調査前風景



08 区完掘状態





08区調査区南壁



08区SD1 遺物出土状態

图版 4



08区SD1完掘状态



08区SD1断面





I 区調査前風景 1



I 区調査前風景 2

図版 6



I区調査区南壁



I区SR1完掘状態





I 区 SR1 断面 1



I 区 SR1 断面 2

図版 8



Ⅱ区西半部完掘状態



Ⅱ区東半部完掘状態





Ⅱ区南北バンク 1



Ⅱ区南北バンク 2

図版 10



Ⅲ区東半部完掘状態



Ⅲ区調査区南壁





Ⅲ区西半部完掘状態



Ⅲ区南北バンク



Ⅲ区 SK4·5 断面



Ⅲ区 SK4·5 完掘状态





Ⅲ区 SK10 断面



Ⅲ区 SK11 完掘状态

图版 14



Ⅲ区 SE2 断面



Ⅲ区 SE2 完掘状态





IV W 区完掘状態



IV E 区完掘状態



IV区 SK42 遺物出土状態



V区完掘状態





V区 SD47 完掘状態



V区 SD49・53 完掘状態



VI - ②区完掘状态



VI - ③区完掘状态





I 区 SR1 高杯出土状态



II 区 SK1 断面



II 区 SK2 断面



II 区 SK2 完掘状态



II 区 SD3 断面



II 区 SD5 断面



II 区 SD6 断面



II 区 SD6 完掘状态



II 区 SR2 五輪塔出土状态



II 区 SR2 五輪塔出土状态



III E 区 SK16 断面



III E 区 SK31 断面



III E 区 SK17 断面



III E 区 SK18 断面



III E 区 SK19 断面



III E 区 SK21 断面





III E 区 SK22 断面



III E 区 SK24 断面



III E 区 SK25 陶磁器出土状态



III E 区 SK25 砧石出土状态



III E 区 SK33 断面



III E 区 SK34 断面



III W 区 SD17 弥生土器出土状态



III E 区 SD19 断面



III E 区 SD20 遺物出土狀態



III E 区 SD22 断面



III E 区 SD22 陶磁器出土狀態



III E 区 SD22 陶磁器出土狀態



III E 区 SD22 陶磁器出土狀態



III W 区 E29-2-17\_P4 完掘狀態



III W 区 E29-2-19\_P1 断面



III W 区 E29-2-19\_P2 完掘狀態





Ⅲ W 区 E29-2-19\_P3 完掘状态



Ⅲ W 区 E29-2-21\_P5 完掘状态



Ⅳ W 区 SK39 陶磁器出土状态



Ⅳ W 区 SK42 完掘状态



Ⅳ W 区 SK42 陶磁器出土状态



Ⅳ W 区 SK42 陶磁器出土状态



Ⅳ W 区 SK42 陶磁器出土状态



Ⅳ W 区 SK42 漆器出土状态

图版 24



IV W 区 SD29 陶磁器出土状态



IV E 区 SD41 断面



IV E 区 SD42 断面



IV E 区 SD43 断面



V 区 SD47 断面



V 区 SD47 断面



V 区 SD50 · 51 断面



V 区 E30-4-17\_P1 断面















图版 30





图版 32





同内面



图版 34



同内面









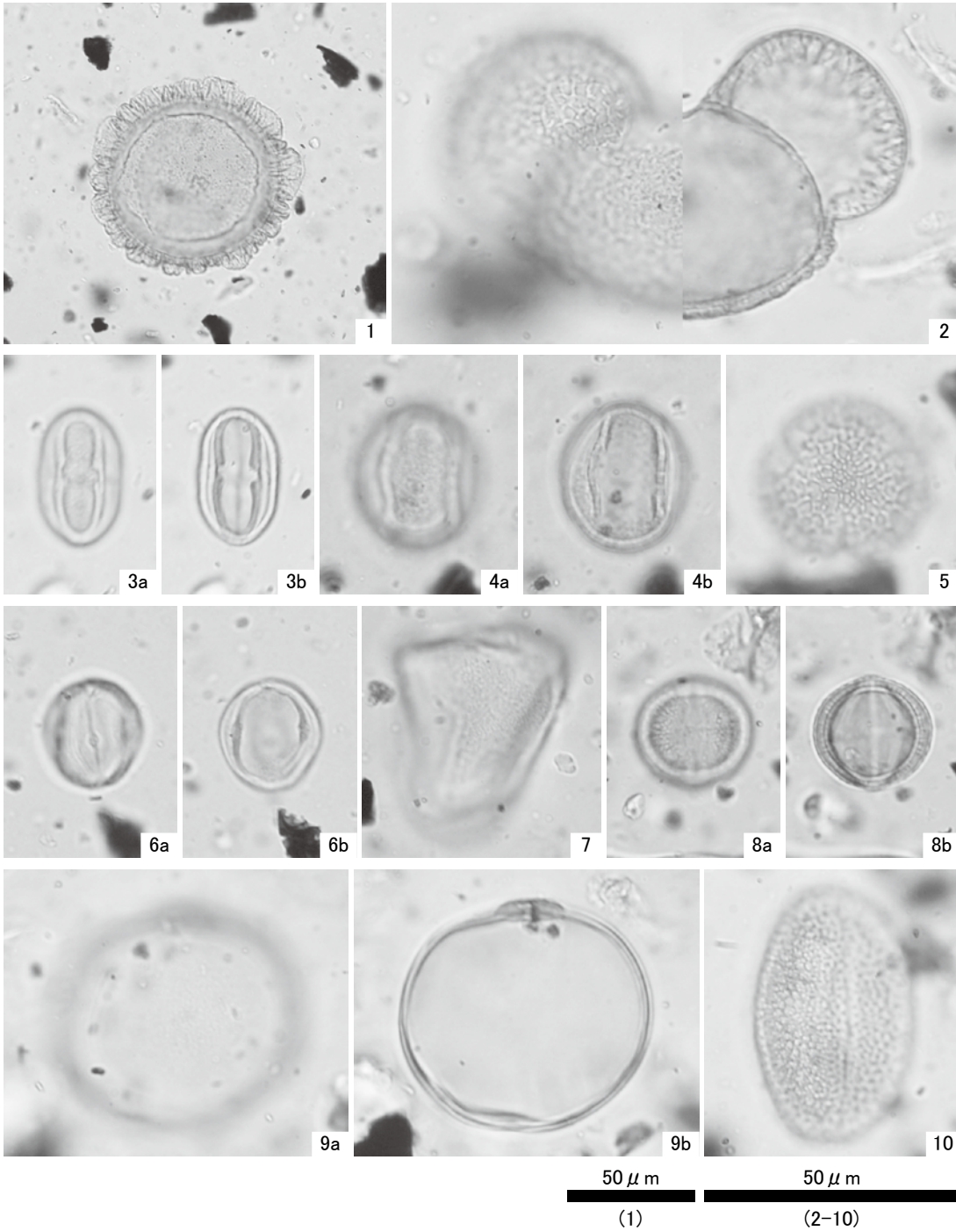






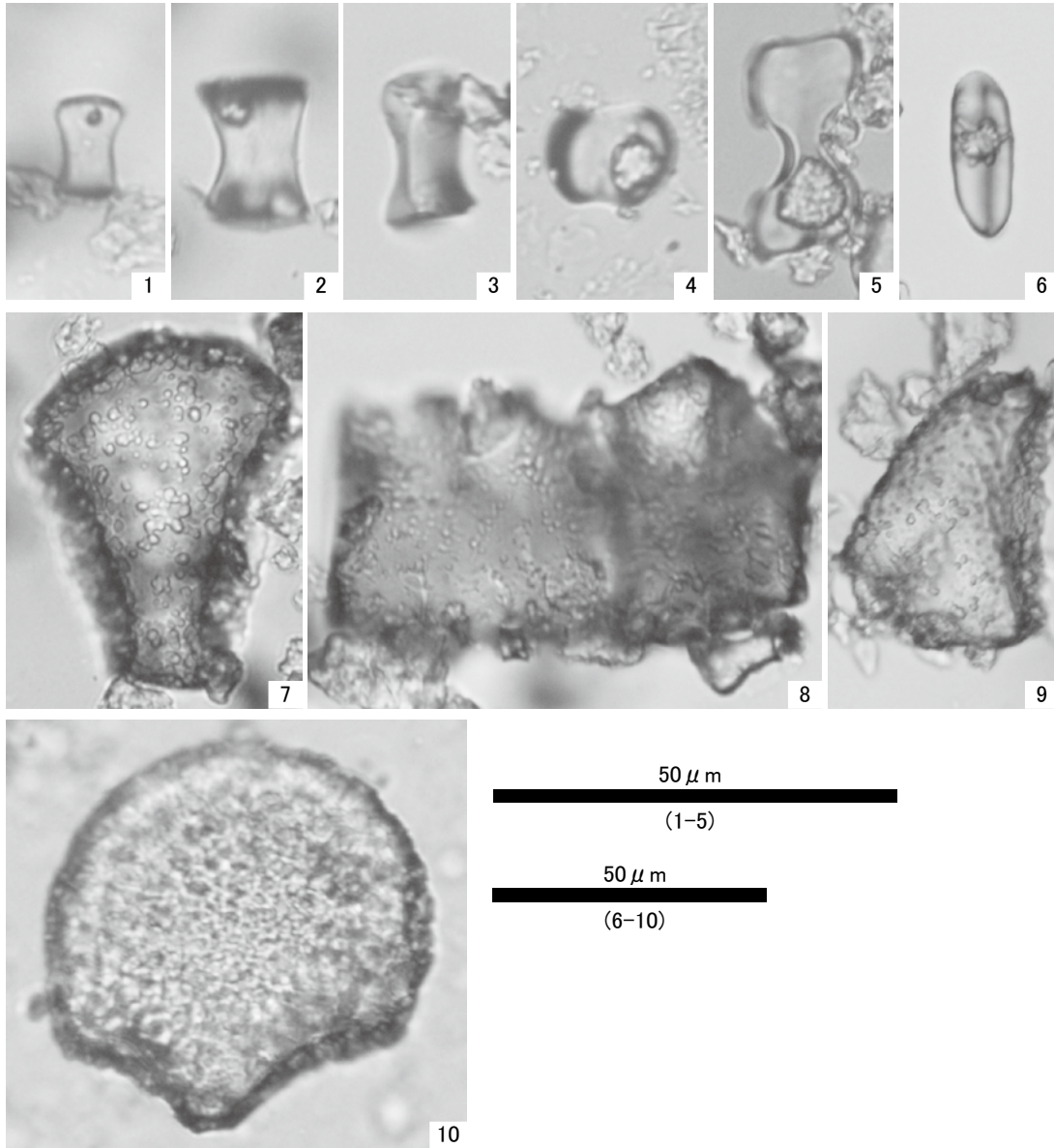


花粉化石



- |                   |                  |
|-------------------|------------------|
| 1. ツガ属(3地点;1)     | 2. マツ属(3地点;1)    |
| 3. シイ属(3地点;3)     | 4. アカガシ亜属(3地点;3) |
| 5. イボタノキ属(3地点;3)  | 6. ブドウ属(3地点;3)   |
| 7. カヤツリグサ科(3地点;3) | 8. ヨモギ属(3地点;3)   |
| 9. イネ属(3地点;1)     | 10. ソバ属(3地点;3)   |

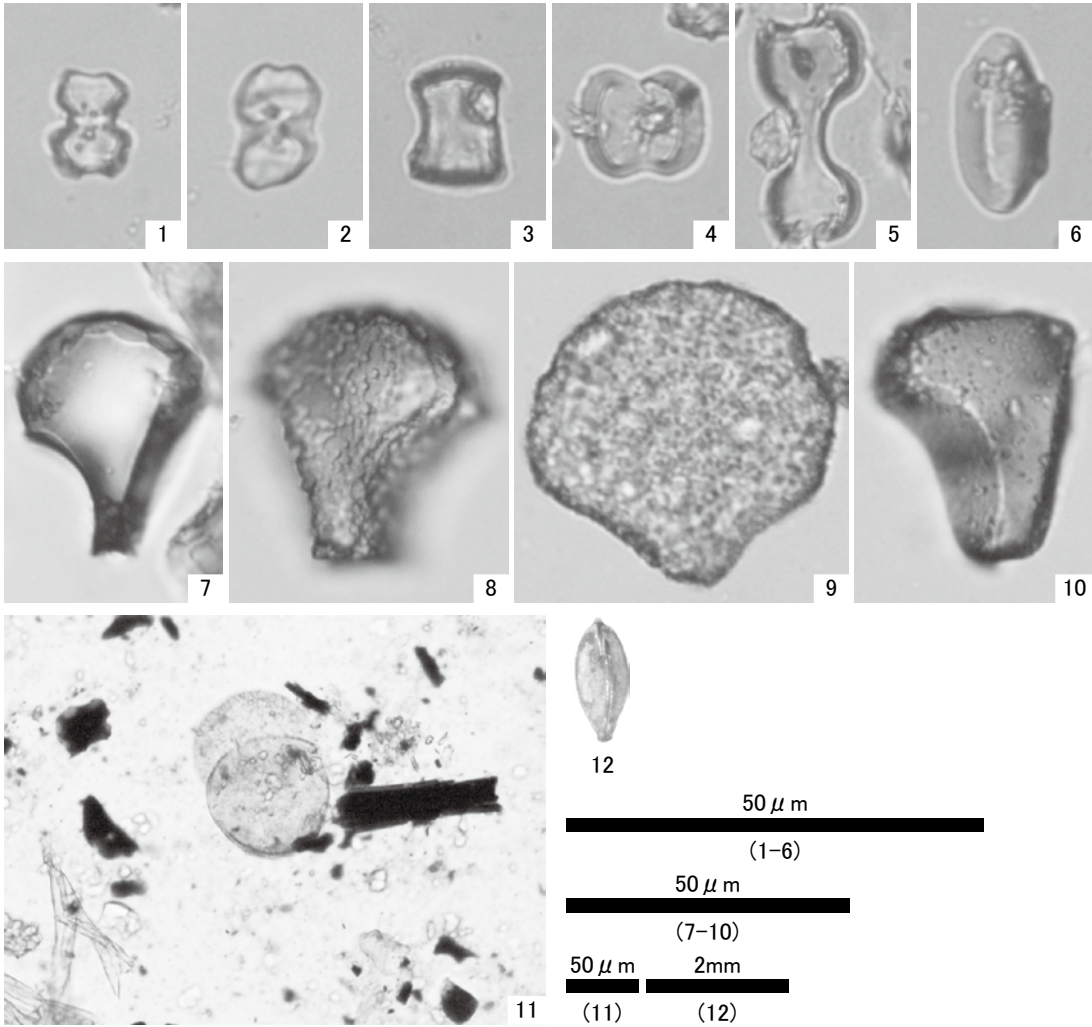
植物珪酸体



- 1. メダケ節短細胞珪酸体(1地点;6)
- 3. クマザサ属短細胞珪酸体(1地点;9)
- 5. ススキ属短細胞珪酸体(1地点;9)
- 7. メダケ節機動細胞珪酸体(1地点;6)
- 9. クマザサ属機動細胞珪酸体(1地点;9)

- 2. ネザサ節短細胞珪酸体(1地点;8)
- 4. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点;1)
- 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(1地点;9)
- 8. ネザサ節機動細胞珪酸体(1地点;8)
- 10. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;1)

植物珪酸体・花粉化石・種実遺体



- |                             |                           |
|-----------------------------|---------------------------|
| 1. イネ属短細胞珪酸体(1地点;1)         | 2. イネ属短細胞珪酸体(1地点;3)       |
| 3. ネザサ節短細胞珪酸体(1地点;1)        | 4. ヨシ属短細胞珪酸体(1地点;3)       |
| 5. ススキ属短細胞珪酸体(1地点;3)        | 6. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(1地点;3)  |
| 7. イネ属機動細胞珪酸体(1地点;3)        | 8. ネザサ節機動細胞珪酸体(1地点;1)     |
| 9. ヨシ属機動細胞珪酸体(1地点;3)        | 10. ウシクサ族機動細胞珪酸体(1地点;3)   |
| 11. 花粉分析 プレパラート内の状況(SD01;1) | 12. カヤツリグサ科果実(調査区南壁;VII層) |



## 報告書抄録

| ふりがな         |   | せきいせき                          |  |   |   |   |        |        |
|--------------|---|--------------------------------|--|---|---|---|--------|--------|
| 書名           |   | 関遺跡                            |  |   |   |   |        |        |
| 副書名          |   | 高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書Ⅵ          |  |   |   |   |        |        |
| シリーズ名        |   | 高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書            |  |   |   |   |        |        |
| シリーズ番号       |   | 第138集                          |  |   |   |   |        |        |
| 編著者名         |   | 下村裕, 島内洋二, 久家隆芳, パリノ・サーヴェイ株式会社 |  |   |   |   |        |        |
| 編集機関         |   | (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター           |  |   |   |   |        |        |
| 所在地          |   | 高知県南国市篠原1437-1                 |  |   |   |   |        |        |
| 発行年月日        |   | 2014年3月20日                     |  |   |   |   |        |        |
| ふりがな<br>所収遺跡 | ふりがな<br>所在地   | コード                            |  | 北緯  | 東経  | 調査期間  | 調査面積   | 調査原因   |
|              |   | 市町村                            | 遺跡番号   |   |   |   |        |        |
| せきいせき<br>関遺跡 | 〒783-0005<br>高知県<br>南国市<br>大埔乙  | 39204                          | 040287   | 33°<br>33′<br>35″                         | 133°<br>38′<br>55″  | 2008.7.1<br>～<br>2008.9.4<br><br>2009.8.11<br>～<br>2010.2.19<br><br>2010.9.28<br>～<br>2010.10.7 | 9,957㎡ | 記録保存調査 |
| 所収遺跡         | 種別  | 主な時代                           | 主な遺構   |   | 主な遺物  |   | 特記事項   |        |
| 関遺跡          | 集落跡   | 弥生時代<br>古<br>中<br>近            | 掘立柱建物跡<br>土坑<br>井戸跡<br>溝跡<br>自然流路跡<br>性格不明遺構<br>ピット・柱穴 | 1棟<br>59基<br>2基<br>53条<br>2条<br>3基<br>89基 | 弥生土器<br>石器<br>土師器<br>須恵器<br>土師質土器<br>陶器<br>磁器<br>漆器<br>古銭 | 弥生時代, 古代,<br>中世, 近世の遺構・<br>遺物を検出した。   |        |        |
| 要約           | <p>弥生時代, 古代, 中世, 近世の遺構・遺物を検出した。弥生時代では土坑, 溝跡が散発的に検出された。</p> <p>古代では香長条里と同じ方向の溝跡を検出した。比較的規模の大きな溝であり, 条里制施行時期を検討する上で重要な遺構と考えられる。自然流路跡は現在の下田川の旧流路と考えられる。当地域の開発の歴史において下田川は重要な川である。</p> <p>近世では屋敷跡を検出した。現在の宅地と重複しており, 近世段階に現景観の原型となる村落ができたと考えられる。</p> |                                |  |   |   |   |        |        |



高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第138集

## 関 遺 跡

高知南国道路建設工事に伴う発掘調査報告書VI

(高知東部自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書XIII)

2014年3月20日

発行 (公財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

高知県南国市篠原1437-1

Tel. 088-864-0671

印刷 株式会社 飛 鳥



